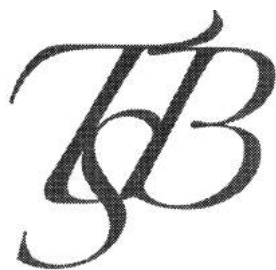


平成 29 年 度
授 業 概 要
(シラバス)

家政学部家政学科



東北生活文化大学

シラバス項目の内容

項 目	内 容
授業の概要	授業全体の内容を記載しています。
授業の目的(到達目標)	カリキュラム全体における当該科目の位置づけと、授業の到達目標、授業のねらいは何で、受講生が何を修得し何ができるようになることを目指しているのかを示しています。
授業計画	到達目標を達成するために、具体的に何を学ぶのか、受講生が事前に内容を把握して授業に臨めるように、毎回の授業内容を記載しています。
事前学習	授業時間外の予習について記載しています。
事後学習	授業時間外の復習について記載しています。
履修上の注意	事前に獲得しておくべき知識・技能、履修したほうがよい関係科目、或いは求められる受講姿勢について記載しています。
成績評価の方法・基準	最終的に成績評価がどのような形で行われるか、加味される要素を具体的に記載しています。 ただし、総授業回数の1／3をこえて欠席した場合はその時点で不合格となりますので、注意してください。
教科書	授業で使用する、受講生が必ず購入しなければならないものを記載しています。
参考書	参考書籍がある場合記載しています。

ナンバリング：各科目の学問上の分類やその科目が位置する学修の段階、順序等をあらわします。



大分類：学科をあらわします。

- A・・・服飾文化専攻
- B・・・健康栄養学専攻
- C・・・生活美術学科
- K・・・学部共通

中分類：科目の区分

- 1・・・学部共通教養科目
- 2・・・基幹科目
- 3・・・学科専攻科目
- 4・・・教職に関する科目
- 5・・・博物館に関する科目

小分類：科目群

目 次

家政学部共通 教養科目

ナンバリング	科 目 名	開講期	対象学科・専攻・年	担 当 者	頁
K-1-a-01-1	化学Ⅰ	前期	服・美1	菅野 修一	1
B-1-a-01-1	化学Ⅰ	前期	健1	鈴木 裕行	2
K-1-a-02-2	化学Ⅱ	後期	服・美1	菅野 修一	3
B-1-a-02-2	化学Ⅱ	前期	健1	鈴木 裕行	4
K-1-a-03-1	有機化学Ⅰ	後期	服・美1	菅野 修一	5
B-1-a-03-1	有機化学Ⅰ	後期	健1	菅野 修一	6
K-1-a-04-2	有機化学Ⅱ	前期	服・美2	菅野 修一	7
B-1-a-04-2	有機化学Ⅱ	前期	健2	菅野 修一	8
K-1-a-05-1	生物学Ⅰ	前期	服・健・美1	堀江 佐知子	9
K-1-a-06-2	生物学Ⅱ	後期	健・美1・服4	堀江 佐知子	10
K-1-a-07-1	地球環境学Ⅰ	前期	服・美2	池田 展敏	11
K-1-a-08-2	地球環境学Ⅱ	後期	服・美2	池田 展敏	12
K-1-a-09-1	統計学	後期	服・健・美1	池田 展敏	13
K-1-a-10-2	数学	前期	服・健・美1	池田 展敏	14
K-1-b-01-1	経済学	前期	服・美1	星 雅博	15
	経済学Ⅰ	前期	健4	星 雅博	16
	経済学Ⅱ	後期	服・健4	星 雅博	17
K-1-b-02-1	社会学Ⅰ	前期	服・美1・健4	庄司 一平	18
K-1-b-03-2	社会学Ⅱ	後期	服・美1・健4	庄司 一平	19
K-1-b-04-1	歴史Ⅰ	前期	服・健・美1	栗原 伸一郎	20
K-1-b-05-2	歴史Ⅱ	後期	服・健・美1	栗原 伸一郎	21
K-1-b-06-1	日本国憲法	前期	服・健・美1	横田 尚昌	22
K-1-b-07-2	法学概説	後期	服・健・美1	横田 尚昌	23
K-1-c-01-1	哲学Ⅰ	前期	服・健・美1	徳田 幸雄	24
K-1-c-02-2	哲学Ⅱ	後期	服・健・美1	徳田 幸雄	25
K-1-c-03-2	心理学Ⅰ	前期	服・健・美1	植松 公威	26
K-1-c-04-2	心理学Ⅱ	後期	服・健・美1	植松 公威	27
K-1-c-05-1	美術	後期	服・美1	北折 整	28
K-1-c-06-2	美術史Ⅰ	前期	服・美1	瀬戸 典彦	29
K-1-c-07-3	美術史Ⅱ	後期	服・美1	瀬戸 典彦	30
K-1-c-08-1	生活文化論	前期	服・美1	大山 芳宏	31
K-1-d-01-1	英語Ⅰ	前期	服・健・美1	佐藤 恵	32
K-1-d-02-2	英語Ⅱ	後期	服・健・美1	佐藤 恵	33
K-1-d-03-1	英会話Ⅰ	前期	服・健・美1	上之原 博子	34
K-1-d-04-2	英会話Ⅱ	後期	服・健・美1	上之原 博子	35
K-1-d-05-1	仏語Ⅰ	前期	服・健・美1	村山 茂	36
K-1-d-06-2	仏語Ⅱ	後期	服・健・美1	村山 茂	37
K-1-d-07-1	中国語	前期	服・健・美1	高橋 亨	38
K-1-d-08-1	日本語基礎	前期	服・健・美1	清水 浩一郎	39
K-1-d-09-2	国語表現法	後期	服・健・美1	清水 浩一郎	40
K-1-d-10-1	情報基礎学	前期	服・健・美2	松尾 広	41
K-1-e-01-2	スポーツ身体科学	後期	服・美1	土井 豊	42
K-1-e-02-2	スポーツ	通年	服・健・美1	土井 豊	43
K-1-e-03-3	武道	前期	服・健・美1	佐藤 淳一	44
A-1-f-01-1	スタディスキルズ	前期	服1	大学教職員	45
B-1-f-01-1	スタディスキルズ	前期	健1	大学教職員	46
C-1-f-01-1	スタディスキルズ	前期	美1	大学教職員	47
K-1-f-02-2	ライフデザイン	後期	服・健・美1	佐々木 晃	48
A-1-f-03-1	キャリア開発Ⅰ	後期	服2	井上 美紀	49
B-1-f-03-1	キャリア開発Ⅰ	前期	健1	鈴木 裕行	50
C-1-f-03-1	キャリア開発Ⅰ	通年	美2	2年次担任	51
A-1-f-04-2	キャリア開発Ⅱ (集中講義)	前期	服2	小野寺 美和	52
B-1-f-04-2	キャリア開発Ⅱ	前期	健2	川俣 幸一	53
C-1-f-04-2	キャリア開発Ⅱ	通年	美2	2年次担任	54
A-1-f-05-3	キャリア開発Ⅲ	後期	服3	小野寺 美和	55
B-1-f-05-3	キャリア開発Ⅲ	前期	健3	健康栄養学専攻全教員	56
C-1-f-05-3	キャリア開発Ⅲ (集中講義)	後期	美2	工藤 稜	57
A-1-f-06-4	キャリア開発Ⅳ	後期	服3	服飾文化専攻全教員	58
B-1-f-06-4	キャリア開発Ⅳ	前期	健4	健康栄養学専攻全教員	59
C-1-f-06-4	キャリア開発Ⅳ		美3	今年度開講せず	—
K-1-f-07-1	キャリアサポートⅠ	通年	服・健・美3	大学教職員	60
K-1-f-08-2	キャリアサポートⅡ	前期	服・健・美4	大学教職員	61

家政学部基幹科目

ナンバリング	科 目 名	開講期	対象学科・専攻・年	担 当 者	頁
K-2-a-01-1	家政学原論	前期	服・健・美1	八巻 美智子	62
K-2-a-02-1	家族関係学	後期	服・健・美1	和泉 安希子	63
K-2-a-03-1	家庭経営学(家庭経済学を含む)	前期	服・健・美1	前田 修也	64

服飾文化専攻科目

ナンバリング	科 目 名	学年	開講期	担 当 者	頁
A-3-a-01-1	消費生活論	2	前期	舩谷 謙二	65
A-3-a-02-1	社会福祉論	2	後期	伊藤 常久	66
A-3-a-03-1	地域文化論	1	後期	栗原 伸一郎	67
A-3-b-01-1	服飾文化論	2	後期	小野寺 美和	68
A-3-b-02-1	被服学	1	前期	小野寺 美和	69
A-3-b-03-1	色彩学	2	前期	小野寺 美和	70
A-3-b-04-1	服飾史Ⅰ	2	前期	小野寺 美和	71
A-3-b-05-2	服飾史Ⅱ	2	後期	川又 勝子	72
A-3-c-01-1	被服機構・衛生学	1	後期	水野 一枝	73
A-3-c-02-1	スタートアップソーイング	1	前期	川又 勝子・井上 美紀	74
A-3-c-03-1	被服造形基礎・パターンメイキングⅠ	1	前期	藤川 幸子	75
A-3-c-04-2	被服造形基礎・パターンメイキングⅡ	1	後期	藤川 幸子	76
A-3-c-05-2	被服造形実習Ⅰ	2	前期	藤川 幸子	77
A-3-c-06-3	被服造形実習Ⅱ	2	後期	藤川 幸子	78
A-3-c-07-4	被服造形実習Ⅲ	3	通年	藤川 幸子	79
A-3-c-08-3	ドレーピング	3	後期	小野寺 美和 (集中講義)	80
A-3-c-09-1	被服平面造形学	1	後期	川又 勝子	81
A-3-c-10-2	被服平面造形実習Ⅰ	2	前期	川又 勝子	82
A-3-c-11-3	被服平面造形実習Ⅱ	2	後期	川又 勝子	83
A-3-c-12-1	ファッションデザイン	1	後期	岡本 はるみ	84
A-3-c-13-2	ファッションデザイン画	3	前期	岡本 はるみ	85
A-3-c-14-2	アパレル設計・生産論	2	前期	小野寺 美和	86
A-3-c-15-3	アパレル生産実習	3	前期	小野寺 美和	87
A-3-c-16-1	アパレル企画設計演習	4	通年	小野寺 美和	88
A-3-c-17-2	アパレルCADⅠ	2	前期	小野寺 美和 (集中講義)	89
A-3-c-18-3	アパレルCADⅡ	3	後期	小野寺 美和	90
A-3-c-19-3	服飾工芸・造形(服飾手芸)Ⅰ	2	前期	黒澤 宣子	91
A-3-c-20-3	服飾工芸・造形(服飾手芸)Ⅱ	2	後期	黒澤 宣子	92
A-3-c-21-3	服飾工芸・造形(織物)Ⅲ	4	後期	三浦 輝子	93
A-3-d-01-1	被服繊維学	1	前期	菅野 修一	94
A-3-d-02-2	被服材料学	1	後期	菅野 修一	95
A-3-d-03-1	被服繊維学実験	1	後期	井上 美紀	96
A-3-d-04-2	被服材料学実験	2	前期	井上 美紀	97
A-3-d-05-2	被服整理学	2	前期	井上 美紀	98
A-3-d-06-3	被服整理学実験	2	後期	井上 美紀	99
A-3-d-07-2	染色加工学	2	後期	川又 勝子	100
A-3-d-08-3	染色加工学実験	3	前期	井上 美紀	101
A-3-d-09-3	染色学実習	3	通年	川又 勝子	102
A-3-d-10-2	テキスタイルデザインⅠ	3	後期	川又 勝子・三浦 輝子	103
A-3-d-11-3	テキスタイルデザインⅡ	4	前期	川又 勝子	104
A-3-e-01-1	ファッションビジネス論	2	前期	内海 陽子	105
A-3-e-02-4	ケーススタディ	3	前期	井上 美紀 (集中講義)	106
A-3-e-03-1	ファッション販売論	2	後期	内海 陽子	107
A-3-e-04-2	コーディネート論	3	前期	内海 陽子	108
A-3-e-05-1	ファッションビジネス実務実習	1	通年	井上 美紀・川又 勝子・小野寺 美和	109
A-3-e-06-2	マーケティング論	3	前期	井上 美紀	110
A-3-e-07-1	被服心理学	2	後期	水野 一枝	111
A-3-e-08-3	アパレル感性工学	3	後期	小野寺 美和	112
A-3-e-09-2	情報処理Ⅰ	3	前期	鶴巻 史子	113
A-3-e-10-3	情報処理Ⅱ	3	後期	鶴巻 史子	114
A-3-f-01-2	食品学総論	2	前期	伊澤 華子	115
A-3-f-02-2	食品学各論	3	前期	佐藤 靖子	116
A-3-f-03-1	基礎栄養学	2	後期	鈴木 裕行	117
A-3-f-04-1	栄養生化学	3	後期	鈴木 裕行	118
A-3-f-05-1	調理科学論	4	前期	佐藤 靖子	119

ナンバリング	科 目 名	学年	開講期	担 当 者	頁
A-3-f-06-1	基礎調理学実習Ⅰ	1	前期	深澤 律子	120
A-3-f-07-1	基礎調理学実習Ⅱ	1	後期	深澤 律子	121
A-3-f-08-2	食文化論	4	後期	深澤 律子	122
A-3-f-09-1	食生活論	2	後期	伊澤 華子	123
A-3-f-10-1	住居学(製図を含む)	3	前期	永井 康雄	124
A-3-f-11-1	住居デザイン	4	後期	山本 佳美	125
A-3-f-12-1	住文化論	4	前期	永井 康雄	126
A-3-f-13-1	保育学(実習及び家庭看護を含む)	3	後期	鈴木 行子	127
A-3-f-14-1	家庭電気・機械	3	後期	草野 清信	128
A-3-f-15-2	衛生学	2	前期	土井 豊	129
A-3-f-16-2	学校保健(学校安全及び救急処置を含む)	2	前期	土井 豊	130
A-3-f-17-3	小児保健	3	通年	佐藤 とよ子	131
A-3-g-01-1	家政特別講義Ⅰ	2	通年	服飾文化専攻教員 (集中講義)	132
A-3-g-02-2	家政特別講義Ⅱ	2	通年	井上 美紀 (集中講義)	133
A-3-g-03-3	家政特別講義Ⅲ(ブランド‘マネシメント’演習)	3	通年	井上 美紀・川又 勝子 (集中講義)	134
A-3-g-04-4	家政特別講義Ⅳ	4	通年	服飾文化専攻教員	135
A-3-g-05-4	課題研究Ⅰ	3	後期	菅並 茂樹	136
A-3-g-05-4	課題研究Ⅰ	3	後期	植松 公威	137
A-3-g-05-4	課題研究Ⅰ	3	後期	井上 美紀	138
A-3-g-05-4	課題研究Ⅰ	3	後期	川又 勝子	139
A-3-g-05-4	課題研究Ⅰ	3	後期	小野寺 美和	140
A-3-g-06-5	課題研究Ⅱ	4	通年	植松 公威	141
A-3-g-06-5	課題研究Ⅱ	4	通年	井上 美紀	142
A-3-g-06-5	課題研究Ⅱ	4	通年	川又 勝子	143
A-3-g-06-5	課題研究Ⅱ	4	通年	小野寺 美和	144

健康栄養学専攻科目

ナンバリング	科 目 名	学年	開講期	担 当 者	頁
B-3-a-01-1	社会福祉論	1	後期	伊藤 常久	145
B-3-a-02-2	公衆衛生学Ⅰ	3	前期	伊藤 常久	146
B-3-a-03-3	公衆衛生学Ⅱ	3	後期	伊藤 常久	147
B-3-a-04-2	健康管理概論	1	後期	土井 豊	148
B-3-b-01-3	解剖生理学Ⅰ	1	後期	曾根 正彦	149
B-3-b-02-3	解剖生理学Ⅱ	2	前期	曾根 正彦	150
B-3-b-03-3	運動生理学	2	前期	土井 豊	151
B-3-b-04-1	微生物学	2	前期	齋藤 紀行	152
B-3-b-05-1	生化学Ⅰ	1	後期	鈴木 裕行	153
B-3-b-06-2	生化学Ⅱ	2	前期	鈴木 裕行	154
B-3-b-07-3	病理学	2	後期	曾根 正彦	155
B-3-b-08-3	解剖生理学実験	3	後期	後藤 知子・駒井 三千夫	156
B-3-b-09-3	生化学実験	3	前期	鈴木 裕行	157
B-3-b-10-3	臨床医学概論Ⅰ	3	前期	曾根 正彦	158
B-3-b-11-3	臨床医学概論Ⅱ	3	後期	曾根 正彦	159
B-3-c-01-2	食品学総論	2	前期	伊澤 華子	160
B-3-c-02-2	食品学各論	2	後期	佐藤 靖子	161
B-3-c-03-1	食品学実験Ⅰ	1	前期	八巻 美智子	162
B-3-c-04-2	食品学実験Ⅱ	1	後期	八巻 美智子	163
B-3-c-05-3	食品機能学	3	後期		164
B-3-c-06-3	食品加工学	3	後期	佐藤 靖子	165
B-3-c-07-3	食品加工実習	3	後期	佐藤 靖子	166
B-3-c-08-1	食品衛生学	3	前期	齋藤 紀行	167
B-3-c-09-2	食品衛生学実験	3	後期	鈴木 裕行	168
B-3-c-10-2	調理科学論	2	後期	佐藤 靖子	169
B-3-c-11-2	調理科学実験	3	前期	佐藤 靖子	170
B-3-c-12-1	基礎調理学実習Ⅰ	1	前期	深澤 律子	171
B-3-c-13-2	基礎調理学実習Ⅱ	1	後期	深澤 律子	172
B-3-c-14-3	応用調理学実習Ⅰ	2	前期	深澤 律子	173
B-3-c-15-4	応用調理学実習Ⅱ	2	後期	深澤 律子	174
B-3-c-16-3	食文化論	2	後期	深澤 律子	175
B-3-d-01-1	基礎栄養学	1	後期	鈴木 裕行	176
B-3-d-02-1	栄養生化学	2	後期	鈴木 裕行	177
B-3-d-03-1	栄養学実験	2	前期	鈴木 裕行	178
B-3-e-01-2	応用栄養学Ⅰ	2	前期	川俣 幸一	179

ナンバリング	科 目 名	学年	開講期	担 当 者	頁
B-3-e-02-2	応用栄養学Ⅱ	2	後期	川俣 幸一	180
B-3-e-03-2	栄養管理論	2	前期	川俣 幸一	181
B-3-e-04-2	応用栄養学実習Ⅰ	2	前期	川俣 幸一	182
B-3-e-05-2	応用栄養学実習Ⅱ	2	後期	川俣 幸一	183
B-3-f-01-1	食生活論	1	後期	伊澤 華子	184
B-3-f-02-2	栄養教育論	2	前期	伊澤 華子	185
B-3-f-03-2	栄養指導論	2	後期	伊澤 華子	186
B-3-f-04-1	保健栄養学	3	前期	栗山 孝雄	187
B-3-f-05-3	栄養情報処理演習	2	後期	伊澤 華子・松尾 広	188
B-3-f-06-3	栄養指導論実習	3	前期	伊澤 華子	189
B-3-g-01-3	臨床栄養学Ⅰ	2	前期	福岡 敦子	190
B-3-g-02-3	臨床栄養学Ⅱ	2	後期	福岡 敦子	191
B-3-g-03-3	臨床栄養指導論Ⅰ	3	前期	福岡 敦子	192
B-3-g-04-4	臨床栄養指導論Ⅱ	3	後期	福岡 敦子	193
B-3-g-05-1	臨床栄養学実習Ⅰ	3	前期	福岡 敦子	194
B-3-g-06-2	臨床栄養学実習Ⅱ	3	後期	福岡 敦子	195
B-3-h-01-2	公衆栄養学	3	前期	栗山 孝雄	196
B-3-h-02-2	公衆栄養学実習	3	後期	栗山 孝雄	197
B-3-h-03-3	地域栄養活動演習	4	通年	栗山 孝雄	198
B-3-i-01-1	給食管理学	2	前期	半澤 真喜子	199
B-3-i-02-1	給食経営学	4	前期	半澤 真喜子	200
B-3-i-03-2	給食管理実習Ⅰ	2	後期	半澤 真喜子	201
B-3-i-04-3	給食管理実習Ⅱ	2	後期	半澤 真喜子	202
B-3-j-01-1	健康栄養学総合演習Ⅰ	3	前期	栗山孝雄・半澤真喜子・福岡敦子	203
B-3-j-02-2	健康栄養学総合演習Ⅱ	3	後期	栗山孝雄・半澤真喜子・福岡敦子・伊澤華子・川俣幸一	204
B-3-k-01-5	給食管理臨地実習Ⅰ	3	前期	半澤 真喜子 (臨地実習)	205
B-3-k-02-5	給食管理臨地実習Ⅱ	3	後期	半澤 真喜子 (臨地実習)	206
B-3-k-03-5	臨床栄養学実習Ⅱ	4	通年	福岡 敦子 (臨地実習)	207
B-3-k-05-5	公衆栄養学実習Ⅱ	4	通年	栗山 孝雄 (臨地実習)	208
B-3-l-01-1	被服学	1	前期	小野寺 美和	209
B-3-l-02-1	被服造形実習Ⅰ	2	前期	藤川 幸子	210
B-3-l-03-2	被服造形実習Ⅱ	2	後期	藤川 幸子	211
B-3-l-04-1	住居学(製図を含む)	3	前期	永井 康雄	212
B-3-l-05-1	保育学(実習及び家庭看護を含む)	3	後期	鈴木 行子	213
B-3-l-06-1	家庭電気・機械	1	後期	草野 清信	214
B-3-l-07-2	情報処理Ⅰ	3	前期	鶴巻 史子	215
B-3-l-08-1	消費生活論	2	前期	舩谷 謙二	216
B-3-l-09-4	学校栄養指導論	3	後期	伊澤 華子	217
B-3-l-10-1	学校食育概論	3	前期	大槻 友子	218
B-3-m-01-3	セミナーⅠ	3	後期	健康栄養学専攻教員6名	219
B-3-m-02-4	セミナーⅡ	4	後期	健康栄養学専攻教員11名	220
B-3-m-03-1	家政特別講義Ⅰ	1	前・後	伊澤 華子・深澤 律子 (集中講義)	221
B-3-m-04-2	家政特別講義Ⅱ	2	後期	川俣 幸一・福岡 敦子・伊澤華子・深澤律子	222
B-3-m-05-3	家政特別講義Ⅲ(臨地栄養学演習)	3	後期	栗山孝雄・半澤真喜子・福岡敦子	223
B-3-m-06-4	家政特別講義Ⅳ(臨地栄養学演習)	4	前期	栗山 孝雄・福岡 敦子	224
B-3-m-07-5	課題研究 平成26年度入学生	3年後期～4年通年		鈴木 裕行	225
B-3-m-07-5	課題研究 平成26年度入学生	3年後期～4年通年		土井 豊	226
B-3-m-07-5	課題研究 平成26年度入学生	3年後期～4年通年		佐藤 靖子	227
B-3-m-07-5	課題研究 平成26年度入学生	3年後期～4年通年		伊澤 華子	228
B-3-m-07-5	課題研究 平成26年度入学生	3年後期～4年通年		福岡 敦子	229
B-3-m-07-5	課題研究 平成26年度入学生	3年後期～4年通年		栗山 孝雄	230
B-3-m-07-5	課題研究 平成26年度入学生	3年後期～4年通年		半澤 真喜子	231
B-3-m-07-5	課題研究 平成26年度入学生	3年後期～4年通年		川俣 幸一	232

教職に関する科目

ナンバリング	科 目 名	開講期	対象学科・専攻	担 当 者	頁
K-4-a-01-1	教職概論	前期	家・美1	佐々木 晃	233
K-4-b-01-2	教育原理	前期	家・美2	菅並 茂樹	234
K-4-b-02-2	教育心理学	前期	家・美2	植松 公威	235
K-4-b-03-3	教育制度論	前期	家・美3	菅並 茂樹	236
K-4-c-01-2	教育課程論	後期	家・美2	菅並 茂樹	237
K-4-c-02-3	家庭科教育法Ⅰ	通年	家・健3	鈴木 行子	238
K-4-c-03-4	家庭科教育法Ⅱ	通年	家・健4	鈴木 行子	239
C-4-b-01-2	美術科教育法Ⅰ	通年	美3	加美山 裕子	240
K-4-b-01-2	美術科教育法Ⅱ	通年	美4	加美山 裕子	241
K-4-b-01-2	工芸科教育法	通年	美3	瀬戸 典彦	242
K-4-c-04-2	道徳教育の指導法	前期	家・美3	加美山 裕子	243
K-4-c-05-2	特別活動の指導法	前期	家・美2	大山 芳宏	244
K-4-c-06-3	教育方法論	後期	家・美2	植松公威・松尾 広	245
K-4-d-01-3	生徒指導の理論と方法A	後期	家・美3	大山 芳宏	246
B-4-d-02-3	生徒指導の理論と方法B	前期	健3	大山 芳宏	247
K-4-d-02-2	教育相談	後期	家・美3	植松 公威	248
K-4-f-01-5	教職実践演習(中・高)	後期	家・美4	菅並 茂樹・植松 公威	249
B-4-f-02-5	教職実践演習(栄養教諭)	後期	健4	菅並 茂樹・植松 公威	250

博物館に関する科目

ナンバリング	科 目 名	開講期	対象学科・専攻	担 当 者	頁
K-5-a-01-2	生涯学習概論	後期	服・美1	大山 芳宏	251
K-5-a-02-2	博物館概論	前期	服・美1	近江 恵美子	252
K-5-a-03-4	博物館経営論	前期	服・美3	笠原 信男	253
K-5-a-04-3	博物館資料論	後期	服・美2	近江 恵美子	254
K-5-a-05-3	博物館資料保存論	前期	服・美2	手塚 均	255
K-5-a-06-4	博物館展示論	後期	服・美3	田中 則和	256
K-5-a-07-3	博物館情報・メディア論	後期	服・美2	佐藤 泰	257
K-5-a-08-2	博物館教育論	後期	服・美1	伊藤 優	258
K-5-a-09-5	博物館実習Ⅰ(学内・見学実習含む)	通年(前)	服・美3	小谷 竜介	259
	博物館実習Ⅰ(学内・見学実習含む)	通年(後)	服・美3	三上 秀夫	260

家政学部共通教養科目

1. 家政学部共通教養科目

授業科目		化学 I				担当者		菅野 修一	
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・美1年
授業の概要 私たちの衣・食・住すべてに化学物質が関与しており、化学の知識なくしては衣食住の快適な生活はあり得ない。化学 I では、食事や代謝、健康や病気など、直接それらに結びつく化学の基礎を述べると共に、身の回りを化学の目で見える習慣が身につくよう、合わせて、最新の化学技術の発展を講義する。									
授業の目標(到達目標) 我々の生活のまわりにあるすべての「もの」は物質であり、それらの物質はごく小さな粒子である分子、原子でできており、化学の基本構造であることが理解できるようになる。また、身の回りを見渡すと空気や水など、また、燃焼や呼吸などは化学物質そのものの現象であったり、それらを利用していることが理解できるようになる。									
授業計画及び内容									
1. 化学の基礎									
2. 物質とは何か、物質を粒子としてみる									
3. 身の回りの物質、無機物と有機物									
4. 物質を特徴づけるもの、物質の性質、混合物と化合物の区別									
5. 物質の状態と温度、状態変化とエネルギー									
6. 多様な原子の結合、周期律表									
7. 化学結合と物質									
8. イオン結合									
9. 金属の結合と性質									
10. 身の回りの塩素化合物と環境									
11. プラスチックの構造と性質									
12. 水の性質、電子レンジの機能、ローソクの化学									
13. 鉄の酸化、さび、脱酸素材、懐炉									
14. 燃焼（酸化）と化学反応									
15. まとめ									
事前学習		教科書の指定ページの熟読。							
事後学習		小テストの準備。							
履修上の注意		欠席せず、予習・復習をしっかり行うこと。							
成績評価の方法・基準		毎回行う小テスト 30%、課題レポート 30%、期末プレゼンテーション 40%を総合的に評価する。							
教科書		[教養としての化学入門] [Kimberley Waldron] [化学同人] [3,000 円]							
参考書		必要に応じて個別に紹介する。							

授業科目	化学 I					担当者	鈴木 裕行		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専 1 年
授業の概要 健康栄養学専攻で履修する栄養学・生化学・食品学分野の専門科目の理解には化学の基礎知識が不可欠である。各受講者の化学の理解度に合わせてごく基礎的な事項の復習から講義し、説明と問題演習を繰り返して基礎力の向上を図る。									
授業の目標(到達目標) 今後履修する栄養学・生化学・食品学分野の専門科目の理解に必要な十分な化学一般の基礎的な知識・考え方を身につけ、関連する練習問題を解答できるようになることを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. 健康・栄養・食品と化学									
2. 物質を構成する粒子									
3. 元素の周期律と周期表									
4. 原子の構造									
5. イオンと分子									
6. イオン性化合物～化学式の書き方									
7. 物質質量：原子量・分子量・モルとは									
8. 物質質量：原子量・分子量・モルの計算									
9. 中間試験、原子価と電子式									
10. 化学反応と反応式のつくり方									
11. 化学反応式を用いた計算									
12. 化学結合と分子構造： 共有結合・イオン結合・水素結合									
13. 化学結合と電気陰性度									
14. 酸と塩基									
15. 中和反応と塩									
16. 試験									
事前学習	各時間の授業範囲に該当する教科書の記述を熟読すること。								
事後学習	板書ノートを見直し、授業で取り扱った問題の解法をよく復習すること。								
履修上の注意	今後の専門科目学修の一番の基礎なので、理解不十分なところをそのままにしないこと。								
成績評価の方法・基準	中間試験：30%、期末試験：60%、平常点（提出物等）：10%								
教科書	〔ゼロからはじめる化学〕〔立屋敷哲〕〔丸善(株)出版事業部〕〔2,376 円〕								
参考書	無し								

授業科目		化学Ⅱ				担当者	菅野 修一		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美1年
授業の概要									
化学Ⅰで学んだ基礎をもとに、我々の生活を支える多くの化学物質、生命を支える食料としての物質、エネルギーに関する物質、さらに地球のこれまでの進化と環境に関連する大気や水や土壌に関連する化学について述べ、その反応と諸現象との関連を講義する。合わせて、暮らしを豊かにしてくれる化学について概観する。									
授業の目標(到達目標)									
自然の現象の中で我々が日常的に目にし、手に触れている事が化学反応に基づいている事を理解できるようになる。熱気球が大気中に上昇すること、カイロが暖まるわけ、脱酸素剤の原理、豆腐ができる現象、花の色が変化する現象、化学電池や燃料電池の原理などがすべて身近にある化学反応であることが理解できるようになる									
授業計画及び内容									
1. 気体の圧力と沸騰									
2. 蒸発と沸騰、気化熱									
3. 水に溶けるものと油に溶けるものの違い									
4. 過冷却、融解熱の実験									
5. 化学反応熱などの熱とエネルギー									
6. 塩析と生体の機能									
7. 酸と塩基、水素イオン濃度、酸塩基の強さ、中和反応									
8. 酸化数、身の回りの酸化剤、還元剤									
9. 角砂糖の燃焼と生体エネルギー									
10. 酸化と還元、活性酸素									
11. 電子の移動と電池、燃料電池など各種電池									
12. 太陽エネルギーと光合成									
13. 光、波と粒子としての性質、電波と光									
14. 物質の色、炎色反応									
15. 高分子化合物、酸素の性質									
事前学習		教科書の指定ページの熟読。							
事後学習		小テストの準備。							
履修上の注意		欠席せず、予習・復習をしっかり行うこと。							
成績評価の方法・基準		毎回行う小テスト 30%、課題レポート 30%、期末プレゼンテーション 40%を総合的に評価する。							
教科書	[教養としての化学入門] [Kimberley Waldron] [化学同人] [3,000 円]								
参考書	必要に応じて個別に紹介する。								

授業科目	化学Ⅱ					担当者	鈴木 裕行		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専1年
授業の概要 健康栄養学専攻で履修する栄養学・生化学・食品学分野の専門科目の理解には化学の基礎知識が不可欠である。各受講者の化学の理解度に合わせてごく基礎的な事項の復習から講義し、説明と問題演習を繰り返して基礎力の向上を図る。									
授業の目標(到達目標) 今後履修する栄養学・生化学・食品学分野の専門科目の理解に必要な十分な化学一般の基礎的な知識・考え方を身につけ、関連する練習問題を解答できるようになることを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. 中和反応と濃度計算									
2. 水素イオン濃度とpH									
3. 酸化と還元									
4. 酸化数と酸化還元反応									
5. 酸化剤・還元剤									
6. 金属元素のイオン化列と電池									
7. 物質の三態、気体の性質、気体の法則									
8. 気体の状態方程式									
9. 中間試験、溶液の性質									
10. 浸透圧									
11. 化学反応と熱・熱化学方程式									
12. 熱量変化の計算									
13. 有機化合物の基礎：構造式の書き方									
14. 有機化合物の基礎：有機化合物の種類									
15. 有機化合物の基礎：有機化合物の反応									
16. 期末試験									
事前学習	各時間の授業範囲に該当する教科書の記述を熟読すること。								
事後学習	板書ノートを見直し、授業で取り扱った問題の解法をよく復習すること。								
履修上の注意	今後の専門科目学修の一番の基礎なので、理解不十分なところをそのままにしないこと。								
成績評価の方法・基準	中間試験：30%、期末試験：60%、平常点（提出物等）：10%								
教科書	〔ゼロからはじめる化学〕〔立屋敷哲〕〔丸善(株)出版事業部〕〔2,376円〕								
参考書	無し								

授業科目		有機化学 I				担当者名	菅野 修一		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美1年
授業の概要 有機化学の基礎として、各原子の電子配置から解説する。特に炭素原子の $sp \cdot sp^2 \cdot sp^3$ の各混成軌道をはじめとする電子軌道の形が、分子の形に直接影響することを認識させ、それをベースに様々な基本となる有機化合物を紹介する。									
授業の目標(到達目標) 主要な原子について理解し、それをベースとした主要な有機化合物の分子レベルでの理解すること。									
授業計画及び内容									
1. 日常生活における有機化学の重要性の認識について									
2. 元素の周期表、元素記号、必須元素、同族元素									
3. アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン元素、希ガス									
4. 分子模型を用いての立体化学、炭素の結合手									
5. 原子番号と電子の配列、イオン結合の復習									
6. 原子の構造、同位体、放射性同位元素の生化学における利用									
7. 分子式、組成式、示性式、有機化合物の異性体									
8. 分子量、式量、構造式、炭素の正四面体構造									
9. 炭素の二重結合、三重結合、分かち書きの分子式									
10. 飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質									
11. 不飽和炭化水素、共有結合（電子対結合）、電子対									
12. 非共有電子対、配合結合、金属結合、不対電子									
13. メタン分子、軌道電子の昇位、混成軌道、 δ 結合、 π 結合									
14. 直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基									
15. 分岐炭化水素とその命名法、慣用名									
16. 試験									
事前学習		教科書の指定ページの熟読。							
事後学習		小テストの準備。							
履修上の注意		出席し、予習・復習をしっかりと行うこと。							
成績評価の方法・基準		毎回行う小テスト 30%、レポート 30%、中間試験等 40%を基準として総合的に評価する。							
教科書		[有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]							
参考書		必要に応じて個別に紹介する。							

授業科目		有機化学Ⅰ				担当者	菅野 修一		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専1年
授業の概要									
生命現象を分子レベルで理解するため、生体を構成している物質の分子構造、およびそれを組み立てている結合のしくみを知る事は必須である。化学Ⅰ・Ⅱで学んだことをもとに有機化学の基本概念を述べ、それらの分子の反応性を化学結合、とりわけ共有結合の電子の配置から説明し、それをもとに官能基の性質について講義する。									
授業の目標(到達目標)									
これまで学んできた化学反応の知識をもとに、生体構成物質の構造を理解し、その生体内での機能を化学物質の反応性、つまり電子の片寄り、移動で理解できるようになるための基礎が分るようにする。そのため、炭素化合物の共有結合、炭素の正四面体構造など、生体を構成する物質の基礎が理解できるようにする。									
授業計画及び内容									
1. 健康栄養学における有機化学の重要性の認識について									
2. 元素の周期表、元素記号、必須元素、同族元素									
3. アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン元素、希ガス									
4. 分子模型を用いての立体化学、炭素の結合手									
5. 原子番号と電子の配列、イオン結合の復習									
6. 原子の構造、同位体、放射性同位元素の生化学における利用									
7. 分子式、組成式、示性式、有機化合物の異性体									
8. 分子量、式量、構造式、炭素の正四面体構造									
9. 炭素の二重結合、三重結合、分かち書きの分子式									
10. 飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質									
11. 不飽和炭化水素、共有結合（電子対結合）、電子対									
12. 非共有電子対、配合結合、金属結合、不対電子									
13. メタン分子、軌道電子の昇位、混成軌道、 δ 結合、 π 結合									
14. 直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基									
15. 分岐炭化水素とその命名法、慣用名									
16. 試験									
事前学習		教科書の指定ページの熟読。							
事後学習		小テストの準備。							
履修上の注意		出席し、予習・復習をしっかりと行うこと。							
成績評価の方法・基準		毎回行う小テスト 30%、レポート 30%、中間試験等 40%を基準として総合的に評価する。							
教科書	[有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]								
参考書	必要に応じて個別に紹介する。								

授業科目		有機化学Ⅱ				担当者名	菅野 修一		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・美2年
授業の概要									
有機化学の基礎として知っておく必要のある典型的な有機化合物を個別に解説していく。									
授業の目標(到達目標)									
衣食住の様々な分野で、有機化合物はなくてはならない化合物であることが理解できる。さらには、有機合成反応と化合物の構造の基礎的な関係がわかるようになる。									
授業計画及び内容									
1. 有機化合物の官能基、化合物の名称									
2. アルコール、エーテル、エステルの一般的性質									
3. アンモニア、アミン、アミノ酸の構造と性質									
4. ケトン、カルボン酸の構造と性質、その関連性									
5. アルデヒドの構造、還元性としての性質、アルコールとの関係									
6. 生体内のケトン体としての構造とその存在の意味付け									
7. 芳香族炭化水素、アロマの語源、ナフタリン									
8. アルカンの誘導体、ハロアルカン、トリハロメタン									
9. 共有結合の分極、フロンガスとオゾン層の破壊									
10. 求核的置換反応、脱離反応									
11. アミンの分類と性質、アンモニアの塩基性の意味									
12. 第二級アミンと亜硝酸からニトロソアミンの生成およびその意味									
13. アルコールの構造、多価アルコール、トリアシングリセロール									
14. 不飽和有機化合物の性質と反応性									
15. 共鳴と共鳴構造、酸の強弱との関係									
16. 試験									
事前学習		教科書の指定ページの熟読。							
事後学習		小テストの準備。							
履修上の注意		欠席せず、予習・復習をしっかりと行うこと。							
成績評価の方法・基準		毎回行う小テスト 30%、レポート 30%、中間試験等 40%を基準として総合的に評価する。							
教科書	[有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]								
参考書	必要に応じて個別に紹介する。								

授業科目		有機化学Ⅱ			担当者名		菅野 修一		
単位数	2	必・選	管栄 (必)	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健2年
授業の概要 食事や代謝、健康や病気に関連する現象は体内のタンパク質・糖質・脂質などの化学変化によりもたらされる。生体構成物質の化学構造と有機化合物としての反応、その機能を説明し、遺伝情報物質である遺伝子の構造と機能についても述べ、あわせて、身近な天然有機化合物の構造と役割についても講義する。									
授業の目標(到達目標) 食事として摂取した物質が多くの化学変化を受けて我々の生体を構成する物質を合成し、エネルギーを生み出しているが、そのもとになる物質は主として有機化合物であることが理解でき、ビタミンや補酵素などはその有機化学反応がスムーズに進行する手助けをしていることなどが理解できる。									
授業計画及び内容									
1. 有機化合物の官能基、化合物の名称									
2. アルコール、エーテル、エステル的一般性									
3. アンモニア、アミン、アミノ酸の構造と性質									
4. ケトン、カルボン酸の構造と性質、その関連性									
5. アルデヒドの構造、還元性としての性質、アルコールとの関係									
6. 生体内のケトン体としての構造とその存在の意味付け									
7. 芳香族炭化水素、アロマの語源、ナフタリン									
8. アルカンの誘導体、ハロアルカン、トリハロメタン									
9. 共有結合の分極、フロンガスとオゾン層の破壊									
10. 求核的置換反応、脱離反応									
11. アミンの分類と性質、アンモニアの塩基性の意味									
12. 第二級アミンと亜硝酸からニトロソアミンの生成およびその意味									
13. アルコールの構造、多価アルコール、トリアシングリセロール									
14. 不飽和有機化合物の性質と反応性									
15. 共鳴と共鳴構造、酸の強弱との関係									
16. 試験									
事前学習		教科書の指定ページの熟読。							
事後学習		小テストの準備。							
履修上の注意		欠席せず、予習・復習をしっかりと行うこと。							
成績評価の方法・基準		毎回行う小テスト 30%、レポート 30%、中間試験等 40%を基準として総合的に評価する。							
教科書		[有機化学基礎の基礎] [立屋敷哲] [丸善株式会社] [2,700 円]							
参考書		必要に応じて個別に紹介する。							

授業科目		生物学 I			担当者		堀江 佐知子		
単位数	2	必・選	必(健) 選(服)・(美)	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要 本講義は、生き物の不思議さがなぜ進化したのか、その理由を探る講義である。生き物の不思議さは、長い進化の歴史を経て生まれた。そして、その不思議さが進化した背景には、きっと何らかの合理的な理由があると考えられる。本講義では、地球が誕生し、その地球上で生命が受け継がれてきた道筋を学ぶことで、生き物の不思議さが進化してきた理由を探る講義である。									
授業の目標(到達目標) 今までと違う新たな視点で生き物の不思議さを見ることができるようになること。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. 地球と生命の誕生と進化									
3. 原始地球の誕生									
4. 魚の進化									
5. 植物の進化 (植物の誕生)									
6. 植物の進化 (裸子植物の進化)									
7. 植物の進化 (被子植物の進化)									
8. 哺乳類の誕生									
9. 哺乳類の進化									
10. 鳥の進化									
11. 昆虫の進化 (昆虫の誕生)									
12. 昆虫の進化 (昆虫の情報戦略)									
13. 昆虫の進化 (昆虫の共進化)									
14. 人類の進化									
15. 講義のまとめ									
16. 試験									
事前学習		生物に関する話題を新聞や書籍などから見つけておくこと。							
事後学習		講義では疑問や興味を持ったことは、自ら調べたり、質問をして理解に努めること。							
履修上の注意		特にテキストは使わず、プリントなどで進める。復習を行い、理解に努めること。							
成績評価の方法・基準		受講態度 (50%)、レポートおよび期末試験 (50%) により評価する。							
教科書		授業前にプリントを配布する							
参考書		授業前にプリントを配布する							

授業科目		生物学Ⅱ				担当者	堀江 佐知子			
単位数	2	必・選	必(健) 選(美)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健・美1年 服4年	
授業の概要										
生物学は生物や生命現象を学ぶ自然科学である。扱う対象は細胞内の分子のようなミクロレベルから生物圏の現象のようなマクロレベルまで幅広い。生物の一種として、ヒトの生物学的特徴の分子遺伝学や生理学、生態学などさまざまな視点から学んでいく講義である。										
授業の目標(到達目標)										
生物の一種として、ヒトの普遍性と特殊性を学び、我々ヒトの生物学的特徴の理解を通じて、生物学を多様な視点から捉え、「生物」や「環境」などを総合的に考えられるようになること。										
授業計画及び内容										
1. ガイダンス										
2. 生命誕生										
3. ヒトの設計図、遺伝子										
4. 骨・筋肉										
5. 肝臓										
6. 胃・腸										
7. 心臓・血管										
8. 免疫										
9. 脳と心 (知覚)										
10. 脳と心 (記憶)										
11. 脳と心 (こころの進化)										
12. 遺伝子 (日本人のルーツ)										
13. 遺伝子 (精神の設計図)										
14. 生物多様性と保全										
15. 講義のまとめ										
16. 試験										
事前学習		生物に関する話題を新聞や書籍などから見つけておくこと。								
事後学習		講義では疑問や興味を持ったことは、自ら調べたり、質問をして理解に努めること。								
履修上の注意		特にテキストは使わず、プリントなどで進める。復習を行い、理解に努めること。								
成績評価の方法・基準		受講態度 (50%)、レポートおよび期末試験 (50%) により評価する。								
教科書	授業前にプリントを配布する									
参考書	授業前にプリントを配布する									

授業科目		地球環境学Ⅰ				担当者	池田 展敏			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・美2年	
授業の概要										
私たち人間を含む生物が生存できる環境は、どのように作られ、どのように守られているのか、自然科学的な立場から考察する。特に、生物の生存に有利な環境が生物自身によって生み出されたことを強調し、人はその環境を急速に破壊しうる能力を持つにいたったこと、それゆえ人には地球環境を維持する責務があることを説明する。										
授業の目標(到達目標)										
重力、電磁場、電磁波、放射線、元素、エネルギーなど、物理の基本的事項に慣れる。「地球の誕生」「生物の誕生」の謎について理解する。生物が地球環境に与える影響を理解する。環境問題を取り上げることができる。										
授業計画及び内容										
1. ガイダンス：地球環境学で何を学ぶのか。										
2. 太陽系形成の謎：太陽系の始まり、重力と惑星の形成、生物が生存できる範囲										
3. 地球の形成：初期の地球についてどこまでわかっているのか										
4. 地球の特徴：生物が生存できる環境とは？										
5. 地球の持つ環境維持システム(1)：太陽と磁気圏、電磁波、放射線										
6. 地球の持つ環境維持システム(2)：大気と海流、エネルギー収支										
7. 地球の持つ環境維持システム(3)：地球の自転、月の影響、宇宙船地球号										
8. なぜ、金星や火星は地球になれなかったのか。テラフォーミングの試み										
9. 生物と地球環境の相互作用(1)：生物誕生の謎、生物最初の 30 億年と環境への影響										
10. 生物と地球環境の相互作用(2)：多細胞生物の誕生・進化と環境への影響										
11. 生物と地球環境の相互作用(3)：生物の大絶滅に見る地球環境の変動										
12. 生物と地球環境の相互作用(4)：人間の登場と環境への影響										
13. 地球環境問題：地球温暖化の現状と取り組み、再生エネルギー、持続可能性社会										
14. 地球環境問題：さまざまな環境汚染										
15. 生物多様性の危機と環境への影響と小テスト										
事前学習		前回までのストーリーを、プリント・ノートを見て復習しておくこと。								
事後学習		プリント等の宿題を出すので取り組むこと。								
履修上の注意		教科書はないが、資料と自分自身のメモが教科書となる。資料の整理と、授業中の書き込みを怠らないこと。								
成績評価の方法・基準		提出物（60%）。小テスト(40%)。								
教科書	適時、資料を配布する。									
参考書	なし									

授業科目		地球環境学Ⅱ				担当者	池田 展敏			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美2年	
授業の概要										
生物が生存できる環境に関して、太陽や地球など宇宙的な観点から考察した後、人間の活動が地球環境に与える影響について授業を行う。授業の後半は、人間の活動と環境への影響に焦点を当てる。アクティブラーニングによるチーム学習を通じて、地球環境問題とその解決に向けた取り組みについて、調査と発表を行うよう授業を行う。										
授業の目標(到達目標)										
地球や生物の時空間のスケールについて理解する。環境問題について具体的に説明することができる。環境問題の解決に向けた取り組みについて自ら調べ、発表・説明ができる。チーム学習において互いに協力できる。										
授業計画及び内容										
1. ガイダンス：地球環境学Ⅱで何を学ぶか。授業の概要と進め方										
2. 宇宙と生物の空間スケールとタイムスケール、地球の環境維持システム										
3. 地球環境と生物の相互作用										
4. 地球環境問題の概要：問題提起										
5. 地球温暖化への対応：調査										
6. 地球温暖化への対応：発表準備										
7. 地球温暖化への対応：発表										
8. 環境汚染にはどのようなものがあるか：調査										
9. 環境汚染にはどのようなものがあるか：発表準備										
10. 環境汚染にはどのようなものがあるか：発表										
11. 生物多様性の危機にはどんなものがあるか：調査										
12. 生物多様性の危機にはどんなものがあるか：発表準備										
13. 生物多様性の危機にはどんなものがあるか：発表										
14. 発表を受けて：環境問題への取り組みのまとめ										
15. 持続可能性社会の実現へ向けて私たちは何をすべきか。および、小テスト										
事前学習		地球環境学Ⅰの復習。発表のテーマについてインターネット等で調べる。								
事後学習		発表がスケジュール通りにできるよう調査・準備を行うこと。								
履修上の注意		地球環境学Ⅰを履修していなくても受講できるが、深い理解のためには履修していることが望ましい。発表準備に向けチームで協力してください。								
成績評価の方法・基準		調査と発表への取り組み方（60%）。小テスト（40%）。								
教科書	資料を適時配布する。									
参考書	なし									

授業科目		統計学			担当者		池田 展敏		
単位数	2	必・選	必(健) 選(服)・(美)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
統計学で扱う基礎的な概念（平均、標準偏差、相関など）の理解と、統計的資料のまとめ方について理解を深める。次に、確率や確率分布（特に2項分布と正規分布）について学び、それが統計的な推測や検定などで、どのように応用されるのか講義する。									
授業の目標(到達目標)									
平均、標準偏差、相関係数、相関表などの意味と定義を理解し、計算ができるようになること。簡単な確率の問題が解けるようになること。2項分布や正規分布がどんな分布か理解し、数表の使い方、応用の仕方がわかるようになること。推定と検定の基本概念を理解すること。									
授業計画及び内容									
1. 序章：ガイダンス、統計学のイメージと概要（記述と推測）									
2. 1章：資料の整理（データと度数分布）									
3. 1章：資料の整理（ヒストグラム、データの代表値）									
4. 1章：資料の整理（散布度、偏差、分散、標準偏差、データの標準化）									
5. 1章：資料の整理（散布図、共分散、相関係数）									
6. 2章：確率（統計的確率と数学的確率、コイン投げ）									
7. 2章：確率（順列や組み合わせなどの場合の数と確率）									
8. 2章：確率（確率に関する演習）									
9. 2章：確率（確率変数、確率分布、離散型の場合の平均値の定義）									
10. 2章：確率（確率変数、連続型の場合の平均値の定義、分布表の使い方、%点）									
11. 3章：なぜ正規分布が必要か。2項分布									
12. 4章：平均値の区間推定（分散既知の場合とそうでない場合）									
13. 4章：区間推定の演習問題									
14. 5章：検定とはどんなものか									
15. 5章：検定の具体例									
16. 試験									
事前学習		授業は教科書に沿って行われるので、次回の授業範囲の予測は容易である。その内容を完全に理解する必要はないが、キーワード（各節の題に出てくる言葉など）は何なのかをおさえておくといよい。							
事後学習		授業は教科書に沿って行われるので、授業で進んだ分をよく読んで復習すること。授業内で配布する資料や練習問題等を解くこと。							
履修上の注意		電卓が必要になることがある。							
成績評価の方法・基準		期末テスト（50%）。レポート（50%）							
教科書	〔中学数学でわかる統計授業〕〔涌井良幸・他〕〔日本実業出版〕〔1,800円〕								
参考書	なし								

授業科目	数学					担当者	池田 展敏			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・健・美1年	
授業の概要										
数学は自然科学だけでなく、文系の分野でも幅広く利用される道具としての意味もある。授業では、集合論、代数学、解析学、幾何学など数学の体系を説明しながら、中学・高校で教えられる基礎的数学との関連性を、演習問題を通じ学習するようにする。										
授業の目標(到達目標)										
数学の歴史や体系、現代における応用のされ方など、数学とはどんな学問なのかを理解し、数学に関する教養を修得すること。就職試験などで出題されるレベルの数学の問題に慣れ、実際にとけること。										
授業計画及び内容										
1. 集合と写像：集合の元の個数を比べるために集合から集合への写像を考える。										
2. 無限集合の元の個数を比べること。										
3. 集合に関する記法等の基礎事項。										
4. 数と数直線。整数、有理数、無理数、実数。										
5. 移動と回転で幾何学模様を分類する。										
6. 回転操作と演算表。群の定義。										
7. 2項演算と代数学。方程式が解けるために必要なこと。										
8. 一次方程式を作ったり解いたりする演習。										
9. 速さと時間、距離。グラフを書く練習。										
10. 微分の定義。										
11. 数列と簡単な関数（一次関数、2次関数）の演習										
12. 積分の意味。										
13. 図形の面積、立体の体積。										
14. いろいろな幾何学。同じ図形とは何なのか考える。ユークリッド幾何、射影幾何、トポロジー										
15. 順列と組み合わせの演習										
事前学習	宿題と合わせ、高校レベルの教科書や e-learning を活用し、高校以前の数学を復習しておくこと。									
事後学習	各回、進度分の資料はよく読んで復習してください。わからない点は積極的に質問してください。宿題で間違った箇所は、正解が導けるよう練習してください。									
履修上の注意	細かく課題を出すのでコツコツ勉強してほしい。プリントはファイルに閉じて毎回持ってくること。									
成績評価の方法・基準	テーマごとに出す宿題の提出（50%）。レポート（50%）。									
教科書	学習内容のプリントを配布する。									
参考書	なし									

授業科目		経済学				担当者		星 雅博	
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・美1年
授業の概要									
日本は経済大国となったが、まだまだ貧しい人々もいる。それはなぜであろうか。日本 はまた世界の中で最も早く高齢化が進んでいる国でもある。それは日本経済の将来にどの ような問題をもたらすのか。この講義では一国経済と国民の日常生活との関わりについて、 経済学の基礎知識をもとに解説する。									
授業の目標(到達目標)									
今、国内、国外の経済が多様化している中で、基礎の経済理論を学ぶことによって経済 を分析する「道具」を得ることにより、現実の経済社会を自分なりの「視点」で幅広く概 観し、理解する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス（経済学とはなにか。）									
2. 社会の変容と経済理論の変遷、需要と供給									
3. 消費者の選択									
4. 消費需要の決定、企業の生産行動									
5. 損益分岐点と操業停止点、余剰、企業の集中									
6. 市場の失敗、国際経済									
7. 貿易に関する基礎理論、国際経済機構と地域経済連携									
8. E P AとO D A、国民所得の決定									
9. 乗数理論、景気									
10. 財政									
11. 金融									
12. 財政・金融政策									
13. 戦後の国際経済制度、終戦直後の日本経済、高度経済成長期									
14. バブルと日本経済									
15. まとめ									
16. 試験									
事 前 学 習		事前に配布するプリントの経済用語を調べてみる。							
事 後 学 習		講義で知った知識が現実の経済のどの場面のものか考えてみる。							
履修上の注意		常に、新聞（経済・社会）に目を通し、現実の社会動向を見てみる。							
成績評価の 方法・基準		試験（80％）、提出課題（10％）、事前、事後学習を含む授業姿勢（10％）							
教科書	適宜プリントを配布します。								
参考書	なし								

授業科目		経済学Ⅰ				担当者	星 雅博		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健4年
授業の概要									
日本は経済大国となったが、まだまだ貧しい人々もいる。それはなぜであろうか。日本 はまた世界の中で最も早く高齢化が進んでいる国でもある。それは日本経済の将来にどの ような問題をもたらすのか。この講義では一国経済と国民の日常生活との関わりについて、 経済学の基礎知識をもとに解説する。									
授業の目標(到達目標)									
今、国内、国外の経済が多様化している中で、基礎の経済理論を学ぶことによって経済 を分析する「道具」を得ることにより、現実の経済社会を自分なりの「視点」で幅広く概 観し、理解する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス（経済学とはなにか。）									
2. 社会の変容と経済理論の変遷、需要と供給									
3. 消費者の選択									
4. 消費需要の決定、企業の生産行動									
5. 損益分岐点と操業停止点、余剰、企業の集中									
6. 市場の失敗、国際経済									
7. 貿易に関する基礎理論、国際経済機構と地域経済連携									
8. E P AとO D A、国民所得の決定									
9. 乗数理論、景気									
10. 財政									
11. 金融									
12. 財政・金融政策									
13. 戦後の国際経済制度、終戦直後の日本経済、高度経済成長期									
14. バブルと日本経済									
15. まとめ									
16. 試験									
事 前 学 習		事前に配布するプリントの経済用語を調べてみる。							
事 後 学 習		講義で知った知識が現実の経済のどの場面のものか考えてみる。							
履修上の注意		常に、新聞（経済・社会）に目を通し、現実の社会動向を見てみる。							
成績評価の 方法・基準		試験（80％）、提出課題（10％）、事前、事後学習を含む授業姿勢（10％）							
教科書	適宜プリントを配布します。								
参考書	なし								

授業科目		経済学Ⅱ				担当者	星 雅博		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・健4年
授業の概要									
日本は経済大国となったが、まだまだ貧しい人々もいる。それはなぜであろうか。日本 はまた世界の中で最も早く高齢化が進んでいる国でもある。それは日本経済の将来にど のような問題をもたらすのか。この講義では一国経済と国民の日常生活との関わりについて、 経済学の基礎知識をもとに解説する。									
授業の目標(到達目標)									
今、国内、国外の経済が多様化している中で、基礎の経済理論を学ぶことによって経済 を分析する「道具」を得ることにより、現実の経済社会を自分なりの「視点」で幅広く概 観し、理解する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス（経済学とはなにか。）									
2. 社会の変容と経済理論の変遷、需要と供給									
3. 消費者の選択									
4. 消費需要の決定、企業の生産行動									
5. 損益分岐点と操業停止点、余剰、企業の集中									
6. 市場の失敗、国際経済									
7. 貿易に関する基礎理論、国際経済機構と地域経済連携									
8. E P AとO D A、国民所得の決定									
9. 乗数理論、景気									
10. 財政									
11. 金融									
12. 財政・金融政策									
13. 戦後の国際経済制度、終戦直後の日本経済、高度経済成長期									
14. バブルと日本経済									
15. まとめ									
16. 試験									
事 前 学 習		事前に配布するプリントの経済用語を調べてみる。							
事 後 学 習		講義で知った知識が現実の経済のどの場面のものか考えてみる。							
履修上の注意		常に、新聞（経済・社会）に目を通し、現実の社会動向を見てみる。							
成績評価の 方法・基準		試験（80%）、提出課題（10%）、事前、事後学習を含む授業姿勢（10%）							
教科書	適宜プリントを配布します。								
参考書	なし								

授業科目		社会学Ⅰ				担当者	庄司 一平		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・美1・健4年
授業の概要									
社会とは何か、個人とは何か、そして自分とは何かを考えるための様々なきっかけを提供する。社会学に関する基礎知識を習得するだけでなく、自己と現代社会を批判的に見つめる視角を自律的に獲得することを目指す。									
授業の目標(到達目標)									
私たちか「あたりまえ」と思っている常識や価値観の問題を社会的に考える。家族・不安・つながりといった身近なトピックを検討しながら、社会的に考えることの意義について理解する。									
授業計画及び内容									
1. イントロダクション：「社会」ということば									
2. 「社会」の誕生									
3. 社会学の見方（1）：自殺の社会学									
4. 社会学の見方（2）：資本主義の社会学									
5. 社会の「きまりごと」：知識社会学の考え方（1）									
6. 「きまりごと」と個人：知識社会学の考え方（2）									
7. アイデンティティ：自己と他者									
8. 家族の社会学（1）：家族の諸問題									
9. 家族の社会学（2）：日本の家族、アメリカの家族									
10. 不安の社会学(1)：不安と恐怖									
11. 不安の社会学(2)：社会不安の諸相									
12. つながりの社会学（1）：社会的ネットワーク論									
13. つながりの社会学（2）：ソーシャル・キャピタル論									
14. つながりの社会学（3）：日本とアメリカのソーシャル・キャピタル									
15. まとめ									
事前学習		各テーマのキーワードの意味を調べ、関連する時事問題の情報収集を行うこと。							
事後学習		配布資料を見直すこと。							
履修上の注意		社会学Ⅱとの通年履修が望ましい。							
成績評価の方法・基準		受講態度(ミニットペーパー)（30％）および期末レポート（70％）により総合的に評価する。							
教科書	プリントを配布する。								
参考書	授業中に適宜紹介する。								

授業科目		社会学Ⅱ				担当者		庄司 一平	
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美1・健4年
授業の概要									
時間と人生について社会学的に考える。人の生と死に対する関心を高め、個人と社会という二つの視点から、自己の生と死、他者の生と死の問題を主体的に考える態度を身につける。									
授業の目標(到達目標)									
人間として避け得ない「死」という問題、そしてそれを踏まえた「生」という問題について社会学的に考える。民俗社会と現代社会における人の一生のあり方を見比べつつ、私たちの時間や人生をめぐる価値観を客観的に検討し、現代社会における生と死をめぐる諸問題について考える能力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. イントロダクション：時間と人生									
2. さまざまな時間の考え方									
3. 時間を超えて									
4. 暦：一日と一年									
5. 年齢と人の一生									
6. 子供の社会学：誕生と成長									
7. 若者の社会学：一人前と結婚									
8. 老いの社会学（1）：老いとは何か									
9. 老いの社会学（2）：超高齢社会の諸問題									
10. 病気の社会学：病気と社会									
11. 医療の社会学：医療と社会									
12. 死の社会学（1）：死と社会									
13. 死の社会学（2）：死と文化									
14. 死生学の諸問題									
15. まとめ									
事前学習		各回のキーワードの意味を調べ、関連する時事問題の情報収集を行うこと。							
事後学習		配布資料を見直すこと。							
履修上の注意		社会学Ⅰとの通年履修が望ましい。							
成績評価の方法・基準		受講態度(ミニットペーパー) (30%) および期末レポート (70%) により総合的に評価する。							
教科書	プリントを配布する。								
参考書	授業中に適宜紹介する。								

授業科目		歴史Ⅰ				担当者	栗原 伸一郎		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
日本の歴史を取り上げ、過去を知る材料(歴史資料)の性格やその利用方法など、歴史を考察する上での基礎を紹介する。その際、仙台・東北に関わる歴史資料や歴史上の人物に注目し、資料から読み取ることができる内容やその限界について考える。									
授業の目標(到達目標)									
① 歴史に親しみ、歴史資料の内容を理解する。 ② 歴史資料の生格を考え、歴史事象を知るための方法を理解する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス～講義の概要～									
2. 歴史資料に親しむ①手紙									
3. 歴史資料に親しむ②記録									
4. 歴史資料に親しむ③地図・絵図									
5. 歴史資料に親しむ④公文書									
6. 歴史資料を読み解く①日記									
7. 歴史資料を読み解く②石碑									
8. 歴史資料を読み解く③新聞									
9. 歴史資料を読み解く④実物を見る									
10. 資料と人物①伊達正宗と伝記									
11. 資料と人物②伊達正宗と神社									
12. 資料と人物③伊達正宗と位									
13. 資料と人物④伊達正宗と祭									
14. 資料と人物⑤伊達正宗と現代									
15. 補論と総括～歴史資料を考える～									
16. 試験									
事前学習		各自、関心がある歴史に関する書籍に目を通しておくこと。							
事後学習		配布した資料を再読し、講義で紹介した参考書を読むこと。							
履修上の注意		博物館の展示見学を予定している。歴史Ⅱを受講する場合は、この講義を受講することが望ましい。地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展にろつては、内容を一部変更する場合である。							
成績評価の方法・基準		平常点（授業への参加状況、毎回記入するコメントペーパーの内容）30% 小レポート20% 定期試験（論述形式、課題は事前に公表する）50%							
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	講義中に紹介する。								

授業科目		歴史Ⅱ				担当者	栗原 伸一郎		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
日本における変革期である幕末維新期に注目して、それが明治時代から現代までどのように認識され、語られえきたのかを考える。その際、地域の視点でも歴史を捉えることで、多様な歴史像について検討する。									
授業の目標(到達目標)									
① 歴史事象は多様な解釈ができることを理解する。 ② 歴史観が形成される過程や背景を理解する。 ③ 歴史事象を多角的に捉え、考える能力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス～講義の内容～									
2. 幕末維新のイメージ①教科書									
3. 幕末維新のイメージ②メディア									
4. 歴史観の形成①明治時代									
5. 歴史観の形成②昭和戦前戦後									
6. 歴史観の形成③各地域の履歴書									
7. 幕末維新の人物①井伊直弼									
8. 幕末維新の人物②新撰組									
9. 幕末維新の人物③坂本龍馬									
10. 幕末維新の人物④玉虫左太夫									
11. 東北地方と幕末維新①幕末の政争									
12. 東北地方と幕末維新②戊辰戦争									
13. 東北地方と幕末維新③奥州越列藩同盟									
14. 東北地方と幕末維新④東日本と西日本									
15. 補論と総括～さまざまな歴史像									
16. 試験									
事前学習		高校で日本史を学んでいる場合は、教科書を再読しておくこと。また、幕末維新期に関する書籍等に目を通しておくことが望ましい。							
事後学習		配布した資料を再読し、講義で紹介した参考書を読むこと。							
履修上の注意		受講する場合は、歴史Ⅰを受講することが望ましい。また、地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展によっては、内容を一部変更する場合がある。							
成績評価の方法・基準		平常点（授業への参加状況、毎回記入するコメントペーパーの内容）30％ 定期試験（論述形式で、課題は事前に公表する）70％							
教科書		授業前にプリントを配布する。							
参考書		講義中に紹介する。							

授業科目		日本国憲法				担当者	横田 尚昌		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
憲法という言葉は、よく耳にするけれども、いったい何だろう？という問いに答えられるように講義します。そこでは、憲法の各条文が定めていることの要点・枠組みを、生活の中で起こり得る事例を掲げながら解説していきます。									
授業の目標(到達目標)									
「一人ひとりの人間を個人として尊重する」という憲法の基本理念の意味が理解できる。									
授業計画及び内容									
1. 憲法とは何か									
2. 国民主権と象徴天皇制そして平和主義									
3. 選挙制度と政党									
4. 国会のしくみ									
5. 内閣の役割									
6. 裁判所の機能									
7. 地方自治とは何か									
8. 人権とは何か									
9. 人権の分類と適用範囲									
10. 幸福追求権、法の下での平等									
11. 内心の自由（思想及び良心の自由、信教の自由、政教分離原則）									
12. 表現の自由									
13. 経済的自由権									
14. 社会権									
15. 参政権、国務請求権									
16. 試験									
事前学習		新聞で憲法に関わる記事に触れたら、これを熟読し論点を整理しておく。							
事後学習		基本的な用語の定義や概念を、説明できるようにする。							
履修上の注意		今どのようなことが我が国で問題になっているのかを把握しておくこと。							
成績評価の方法・基準		定期試験（1回）70％、不定期に実施するレポート（3回）30％							
教科書		とくに教科書は指定せず、少し詳しいレジュメを配布して授業を行います。							
参考書		〔いちばんやさしい憲法入門 第4版補訂版〕〔初宿正典ほか〕〔有斐閣〕〔1,728円〕							

授業科目		法学概説				担当者	横田 尚昌		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
身近な法律問題について、まず説例を掲げて、そこで当事者は何に困っているのか、何を怒っているのか等を明らかにし、いかに法規を解釈適用して解決するのかを考えます。									
授業の目標(到達目標)									
一見不合理と思える法律の解釈適用であっても、それにはそれなりの理由があることがわかったと言うことができる。様々な法解釈それぞれに、合理性があることが理解できる。									
授業計画及び内容									
1. みんなの法とわたしの法？									
2. どうして約束は守らないといけないの？									
3. 電車が遅れても切符の料金は戻ってこないの？									
4. どうして事故を起こしたら責任を負わされるの？									
5. 子供のしつけと虐待はどこが違うの？									
6. 校長先生の決定には従わないといけないの？									
7. 漫画やアニメを規制してもいいの？									
8. どうして悪いことをした人にも権利があるの？									
9. ギャンブルってやっちゃいけないの？									
10. 仕事ができないとクビにされるの？									
11. 手でつかめないものにも権利があるの？									
12. 敵対的企業買収って何？									
13. 保険とギャンブルって違うの？									
14. 自動車保険について									
15. 傷害疾病保険について									
16. 試験									
事前学習		各回ごとに、そのテーマに即して、身近な法律問題を探して考えてみる。							
事後学習		法規の適用・不適用の在り方について、その基本的な考え方を定着させる。							
履修上の注意		毎回学んだ法律概念や用語を忘れないように覚えこむこと。そして、そのことをベースに、日々の生活の中で触れる法律問題に関心を寄せること。							
成績評価の方法・基準		定期試験（1回）70％、不定期に実施するレポート（3回）30％							
教科書	〔カリンと学ぶ法学入門〕〔林誠司編〕〔法律文化社、2015年〕〔2,376円〕								
参考書	特になし。								

授業科目	哲学Ⅰ					担当者	徳田 幸雄		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
人は何のために生き、死んだらどうなるのか？本講義では、この死生観に関わる問いを軸として、古代ギリシャ哲学における諸議論を解説する。									
授業の目標(到達目標)									
「生きる目的とは？」「死とは？」「愛とは？」「幸福とは？」といった諸問題を、ギリシャ哲学を通して考えることによって、自身の生き方を見直すための知識を習得する。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション									
2. 古代ギリシャの時代背景－アテネとスパルター									
3. ソクラテス①『ソクラテスの弁明』より									
4. ソクラテス②『クリトン』より									
5. ソクラテス③『パイドン』より									
6. プラトン① プラトンの生涯									
7. プラトン② イデア論									
8. プラトン③ 想起説									
9. プラトン④ 愛と美について									
10. プラトン⑤ 徳と善について									
11. アリストテレス① アリストテレスの生涯									
12. アリストテレス② 三原理と四原因説									
13. アリストテレス③ 自然観、神観									
14. アリストテレス④ 霊魂観、倫理観									
15. まとめ									
16. 試験									
事前学習	プラトンあるいはアリストテレスの著作を少なくとも一冊は読んでおくこと。								
事後学習	配布資料を整理しておくこと。								
履修上の注意	私語を慎み、遅刻をしないこと。								
成績評価の方法・基準	授業時に課す小課題（50%）、テスト（50%）								
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	なし								

授業科目		哲学Ⅱ				担当者	徳田 幸雄		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
「人間とは何か？」この問いは、20世紀になって改めて問い直されるようになった根本的な問いである。本授業では、この問いを哲学史をはじめ様々な観点から検討する。									
授業の目標(到達目標)									
哲学や思想の歴史を、「人間とは何か？」という問いを軸に学ぶことによってより深く、かつより広い人間理解を身につける。それとともに、この時代、今の自分に求められる人間理解も合わせて習得する。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション									
2. ヘレニズムの人間理解									
3. ヘブライズム（ユダヤ教）の人間理解									
4. キリスト教の人間理解									
5. イスラームの人間理解									
6. 仏教の人間理解									
7. 合理論の人間理解　ーデカルトー									
8. 経験論の人間理解　ーロックとヒュームー									
9. 心理学の人間理解　ー精神分析学を手がかりにー									
10. 〃　ー交流分析を手がかりにー									
11. 〃　ーライフサイクル理論を手がかりとしてー									
12. 宗教学の人間理解　ーエリアーデの近代批判ー									
13. 脳死・臓器移植の問題について									
14. 人口妊娠中絶の問題について									
15. まとめ									
事前学習		授業予定のテーマ、もしくは思想家・哲学者に関する著作を少なくとも一冊は読んでおくこと。							
事後学習		配布資料を整理しておくこと。							
履修上の注意		私語を慎み、遅刻をしないこと。							
成績評価の方法・基準		授業時に課す小課題（50%）、レポート（50%）							
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	なし								

授業科目		心理学Ⅰ				担当者	植松 公威		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
心理学では条件操作的な実験によって仮説の検証を行い、心のメカニズムを明らかにしようとしている。講義の前半では心理学における条件操作的な実験の意義について述べる。後半では現代の心理学の背景として行動主義心理学や社会的学習理論、精神分析学などを取り上げ説明する。また、記憶の実験を通して記憶のメカニズムを考える。									
授業の目標(到達目標)									
1「条件操作的な実験による仮説検証」がこころの理解にとって不可欠であることを説明できるようにする。									
2 行動主義心理学、社会的学習理論、精神分析の各理論の人物名とキーワードを理解する。									
3 自我防衛のメカニズムの具体例から種類の名称を答えられるようになる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス（教授内容と教育目標）									
2. 心理学における条件操作的な実験の重要性について－「利口な馬ハンス」の話などを通して－									
3. 心理学の目標と研究のプロセス									
4. 心理学実験の一例－説得における「一面（片面）提示」と「二面（両面）提示」の効果－									
5. 実験心理学の始まり									
6. 現代の心理学の背景① 行動主義心理学（ワトソンの理論）									
7. 現代の心理学の背景② 行動主義心理学（スキナーの理論）									
8. スモールステップの事例									
9. 現代の心理学の背景③ 社会的学習理論（バンデュラの理論）									
10. 現代の心理学の背景④ 精神分析（フロイトの理論）									
11. 抑圧による心身への影響									
12. 精神分析における自我防衛のメカニズム									
13. 記憶の実験 ー系列位置曲線と系列位置効果ー									
14. 記憶のしくみ ー感覚的記憶・短期記憶・長期記憶ー									
15. エビングハウスの忘却曲線									
16. 学期末試験									
事前学習		シラバスをよく読み、キーワードの意味を事前に調べ、疑問をあらかじめ明らかにしておくことよい。							
事後学習		作成したノート、配られたプリントをもう一度見直し、わかったところ、わからないところを明らかにしておく。ノートは後で見てわかるように補足のコメントなどを加筆しておくことよい。							
履修上の注意		私毎回コメントペーパーに感想などを書いて提出すること。							
成績評価の方法・基準		試験の成績 90%、受講態度 10%							
教科書	授業の中でプリントを配布する								
参考書	授業の中で適宜、紹介する								

授業科目	心理学Ⅱ					担当者	植松 公威		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
性格検査の種類について実習をとりいれながら講義する。また、性格を表現し記述する方法、他者の性格を推測するときに注意すべきことを解説する。認知療法や交流分析といった心理療法についても実習形式で学べるようにする。講義を通して心理学には性格に関する様々な理論や方法があることを学ぶ。									
授業の目標(到達目標)									
1 質問紙法、作業検査表、投影法それぞれの長所と短所を理解する。 2 認知療法による「7つのコラム法」が気分の改善に効果があるのはなぜか、考察ができるようになる。 3 交流分析における「エゴグラム」を作成し、その意味について理解し、自己の性格の改善に向けて動機づけを高める。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス（教授内容と教育目標）									
2. 質問紙法の性格検査（YG 性格検査）の実施方法と判定方法									
3. 質問紙法の性格検査（YG 性格検査）の判定方法と長所・短所									
4. 質問紙法の性格検査の問題点－質問項目における具体的状況の欠如と行動の一貫性について－									
5. 作業検査法（内田クレペリン精神検査）の実施方法									
6. 作業検査法（内田クレペリン精神検査）の判定方法と長所・短所									
7. 投影法の種類と長所・短所									
8. 他者の性格を推論するときに注意すべきこと－認知のゆがみなど－									
9. 認知療法の基本的な考え方									
10. 認知療法（7つのコラム法）の作成方法についての解説									
11. 交流分析における基本的な考え方とエゴグラムの作成									
12. 交流分析におけるエゴグラムの理解とストロークの種類									
13. 交流分析における幼児決断と人生脚本									
14. 性格の分類、記述方法－類型論、特性論の違いについて－									
15. まとめの講義									
16. 学期末試験									
事前学習	シラバスをよく読み、キーワードの意味やテーマについて事前に調べ、疑問をあらかじめ明らかにしておくことよい。								
事後学習	作成したノート、配られたプリントをもう一度見直し、わかったところ、わからなかったところを明らかにしておく。ノートは後で見えてわかるように補足のコメントなど加筆しておくことよい。								
履修上の注意	毎回コメントペーパーに感想などを書いて提出すること。								
成績評価の方法・基準	試験の成績 90%、受講態度 10%								
教科書	授業の前に配布する								
参考書	講義の中で適宜、紹介する								

授業科目	美術					担当者	北折 整		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美1年
授業の概要 広範な美術作品(含む大衆美術)の鑑賞や、それに付随する簡単な演習を行い、美術の基礎的な考え方や、表現として扱う内容および問題などを平易に教授する。									
授業の目標(到達目標) 美術を生活文化の重要な構成要素として自覚し、日常目にするありふれたものや事柄に対して、美術的視座を獲得すると共に、新たな価値観の構築を可能にすること。また、基礎的な美術表現の知識や方法論を得ること。									
授業計画及び内容									
1. 導入：科目の説明、授業の方針など									
2. 「扉」：出入り口をテーマに扱った美術									
3. 「壁」：壁を意識した美術									
4. 「西瓜割」：視覚化に関わる美術表現									
5. 「ジプシーの荷物」：〃									
6. 「詰め込む」：日常の作業感覚を取り入れた美術									
7. 「蛇口から出るもの」：〃									
8. 「つなぐ」：〃									
9. 「夢の世界」：深層心理を顕在化した美術									
10. 「ダヴィデ」：環境との関係によって創出される物の意味									
11. 「動物を描く」：個人的キャラクターの創造									
12. 「空」：空の表現に見る美術史									
13. 「リレー絵本」：コラボレーション制作における誤解と可能性									
14. 「リレー絵本」：〃									
15. 総括：授業のまとめ									
事前学習	毎時、次回授業についての簡単な説明を行い、その内容についてなすべき事前学習を指示する。								
事後学習	各回で扱った美術の諸要素に関連する作品及び事柄について各自考察しまとめを行う。								
履修上の注意	主に西洋美術史や美術鑑賞に関連する科目を履修し、本授業で得た知見と関連付けて美術全般をとらえていくことが望ましい。								
成績評価の方法・基準	各回の課題(創意、表現力等)70%平常点(授業態度、取り組みの姿勢等)30%								
教科書	授業時にプリント配布								
参考書	特になし								

授業科目	美術史Ⅰ					担当者	瀬戸 典彦		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・美1年
授業の概要 ウエルンドルフのビーナスから近代に至る過程について説明し、社会的背景及び作品間の関連性に関する示唆を提供する。(パワーポイント使用)									
授業の目標(到達目標) ・19世紀までの西洋美術史の脈絡について説明できる。 ・作品とその作品がつくられた社会的背景の関係について説明できる。									
授業画及び内容									
1. 美術史における個人の役割について									
2. メソポタミア文明以前の美術									
3. エジプト文明の美術									
4. ギリシャ文明化～ヘレニズム時代の美術									
5. 初期キリスト教美術									
6. ビザンティン美術									
7. 初期中世美術									
8. 中間テスト									
9. ロマネスク・ゴシックの美術									
10. ルネッサンス									
11. ルネッサンスとベネチア派									
12. マニエリスム～北方ルネッサンス									
13. バロック・ロココ									
14. 新古典主義・ロマン主義・写実主義の美術									
15. 象徴主義の美術									
16. 試験									
事前学習	配布資料を確認する。								
事後学習	クイズで答えられなかった問題について調査する。								
履修上の注意	毎回、クイズを行います。中間テスト、期末試験を行います。								
成績評価の方法・基準	中間テスト:20% 期末試験:70%、クイズ提出:10% 期末試験では資料の参照を認めます。但し、その場合は、満点を90点とします。(参照なしで提出されたものについては、満点を110点とします)								
教科書	〔つくる美術史のテキスト〕〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕								
参考書	〔美術史脳を刺激する曖昧な絵-クイズ集〕〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕 〔美術史脳を刺激する曖昧な絵-解答・解説〕〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕								

授業科目	美術史Ⅱ					担当者	瀬戸 典彦		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美1年
授業の概要 縄文土器から浮世絵に至る過程について、個々の作品とその社会背景、さらには作品間の関係性にふれつつ、理解を促す。(パワーポイント使用)									
授業の目標(到達目標) ・日本美術史の流れについて説明できる。 ・作品とその作品がつくられた社会的背景の関係について説明できる。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション									
2. 縄文時代									
3. 弥生時代・古墳時代の美術									
4. 仏教、仏像について									
5. 飛鳥時代の美術									
6. 奈良(白鳳)時代の美術									
7. 奈良(天平)時代の美術1(塑像等)									
8. 中間テスト									
9. 奈良(天平)時代の美術2(乾漆像等)									
10. 奈良(天平)時代の美術3(平面)									
11. 平安時代の美術1(密教美術)									
12. 平安時代の美術2(立体)									
13. 平安時代の美術3(平面)									
14. 鎌倉時代・南北朝時代・室町時代の美術									
15. 桃山・江戸時代以降の美術									
16. 試験									
事前学習	配布資料を確認する。								
事後学習	クイズで答えられなかった問題について調査する。								
履修上の注意	毎回、クイズを行います。中間テスト、期末試験を行います。								
成績評価の方法・基準	中間テスト:20% 期末試験:70%、クイズ提出:10% 期末試験では資料の参照を認めます。但し、その場合は、満点を90点とします。(参照なしで提出されたものについては、満点を110点とします)								
教科書	その都度、資料を配布する。								
参考書	その都度、参考資料を配布する。								

授業科目	生活文化論					担当者	大山 芳宏		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・美1年
授業の概要 生活文化について、「衣」「食」「住」に焦点をあて、文献資料、スライド資料、DVD 資料等をとおして具体的に理解させるとともに、歴史的背景や社会的背景を踏まえ体系的に学ばせる。 双方向の授業や記述課題をとおして生活文化の諸相についての考察や感想を述べさせ、主体的な学びが身につくようにする。									
授業の目標(到達目標) 世界の諸地域における生活文化との比較をとおして、日本の生活文化の特質を「衣」「食」「住」を中心に理解できる。また、生活文化の背景にある気候や風土、歴史的・社会的な変遷、先人の思考や感性及び技能をとおして創造され、人々の努力によって維持・保存されてきたことなどを理解し、今後の生活文化の動向や課題について考察できるようになる。									
授業計画及び内容									
1. 生活文化とは何か									
2. 風土と世界の住居									
3. 衣服と世界の民族服									
4. 食生活と世界の食文化									
5. 日本の生活文化の背景(1) 縄文時代～弥生時代									
6. 日本の生活文化の背景(2) 古墳時代～奈良時代									
7. 日本の生活文化の背景(3) 平安時代～鎌倉時代									
8. 日本の生活文化の背景(4) 室町時代～安土・桃山時代									
9. 日本の生活文化の背景(5) 江戸時代									
10. 日本の生活文化の背景(6) 洋風化のもととなるヨーロッパの生活文化									
11. 日本の生活文化の背景(7) 明治時代									
12. 日本の生活文化の背景(8) 大正時代～昭和時代									
13. 現代日本の生活文化の背景(1) 戦後の生活の変化と大衆変化									
14. 現代日本の生活文化の背景(2) 生活の多様化とライフスタイルの変化									
15. 現代日本の生活文化の背景(3) 今後の生活文化の動向と課題									
16. 試験									
事前学習	世界や日本の生活文化について興味・関心を持ち、文献等で調べる。								
事後学習	課題について考察し、自分の考えや感想をまとめ提出する。								
履修上の注意	毎回の課題が成績評価に大きく影響するので、欠席をしないように。								
成績評価の方法・基準	毎回の課題（60点）と試験（40点）による総合評価（100点）								
教科書	毎回レジュメプリントを配布する								
参考書	必要に応じ資料プリント配布する								

授業科目		英語 I			担当者	佐藤 恵			
単位数	2	必・選	必(服・健) 選(美)	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
イギリスの伝統と文化を扱ったテキストを用い、その歴史的・文化的背景を学習することによって、異文化理解と英語力の向上を図る。英語 I では食文化を中心に上げる。									
授業の目標(到達目標)									
英語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につけながら、異文化理解を深めることができる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. The Worst Food in the World? (the British Attitude to Food)									
3. " (the Foreign Influence)									
4. " (Exercises)									
5. “Time, Please!” (the Public House)									
6. " (Pub Grub, Games)									
7. " (Exercises)									
8. Review 1									
9. Four into One (Three Countries from Great Britain)									
10. " (Northern Ireland)									
11. " (Exercises)									
12. Tea—the National Drink (Green Tea, Black Tea)									
13. " (Afternoon Tea, High Tea)									
14. " (Exercises)									
15. Review 2									
16. 試験									
事前学習		わからない語を辞書でひいてノートを作りながら、予め自分なりに解いてくこと。							
事後学習		学習内容を振り返り、特に事前にわからなかった箇所や間違えた問題を中心に復習を行うこと。							
履修上の注意		予習した上で、必ず辞書を持参して授業に臨むこと。							
成績評価の方法・基準		平常点 40%（授業への参加状況および毎時の小テストで総合的に判断する）、学期末試験 60%							
教科書	〔A Background of British Culture〕〔石黒昭博 他〕〔英宝社〕〔1,400 円〕								
参考書	なし								

授業科目		英語Ⅱ			担当者	佐藤 恵			
単位数	2	必・選	必（健） 選（服・美）	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・健・美１年
授業の概要									
イギリスの伝統と文化を扱ったテキストを用い、その歴史的・文化的背景を学習することによって、異文化理解と英語力の向上を図る。英語Ⅱでは住文化と歳時記を中心に取り上げる。									
授業の目標(到達目標)									
英語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につけながら、異文化理解を深めることができる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. Stately Homes (Architecture)									
3. " (The National Trust)									
4. " (Exercises)									
5. Bath, Britain's Only Hot Spring (Roman Bath)									
6. " (Bath Bun, Sally Lunn)									
7. " (Exercises)									
8. Review 1									
9. "Penny for the Guy" (Guy Fawkes Night)									
10. " (Gunpowder Plot)									
11. " (Exercises)									
12. British Xmas (Twelve Days of Christmas)									
13. " (Christmas Feast)									
14. " (Exercises)									
15. Review 2									
16. 試験									
事前学習		わからない語を辞書でひいてノートを作りながら、予め自分なりに解いてくこと。							
事後学習		学習内容を振り返り、特に事前にわからなかった箇所や間違えた問題を中心に復習を行うこと。							
履修上の注意		予習した上で、必ず辞書を持参して授業に臨むこと。							
成績評価の方法・基準		平常点（平常点は、授業への参加状況および毎時の小テストで総合的に判断する）40%、学期末試験 60%							
教科書		〔A Background of British Culture〕〔石黒昭博 他〕〔英宝社〕〔1,400 円〕							
参考書		なし							

授業科目		英会話 I				担当者	上之原 博子			
単位数	1	必・選	必(服・健) 選(美)	授業形式	演習	開講期	前期	対象	服・健・美1年	
授業の概要										
テキストを用い、やさしい英語での会話を学ばせる。また、グループワークとして英和文を作りながら、実際に会話文を作る演習を行い様々な英語活動を通して学生が向上していけるよう指導する。										
授業の目標(到達目標)										
1.自分自身に関する事柄について説明できる。 2.他者に対して、いくつかの方法で質問できる。 3.日常生活レベルの基礎的な会話ができる。 4.基本表現を使用できる。										
授業計画及び内容										
1. ガイダンス 自分の好きな事を話す。(不定詞と動名詞)										
2. 定期的にすることや、行動の様子を質問したり答えたりする。(頻度の副詞)										
3. これからの予定について、短いやり取りができる。(going to～)										
4. これからの予定について、詳しいやり取りができる。(be + ～ing)										
5. 情報を求められたり、相談を受けた時、適切な表現をもちいて伝える。(will)										
6. 様々な表現を使い、友人を誘う。(提案の基本形)										
7. 様々な表現で、友人にアドバイスをする。(アドバイスの基本形)										
8. 適切な表現を使って、忠告や規則を伝えることができる。(許可の基本形)										
9. 普段する事や過去にした事について、簡単な質問や答えることができる。(was/were)										
10. 童話を英語で楽しむ。(過去形1)										
11. 過去の出来事を話す事ができる。(過去形2)										
12. 日常生活で起きた事と、行動の様子を描写できる。(過去形3)										
13. 自分の経歴や興味があった事を説明できる。(used to)										
14. 自分に直接関わる活動や、毎日の生活に関連する事を説明できる (過去進行形)										
15. 物事を複数の観点から検討し、理由や考えを表現できる (形容詞 ed と～ing)										
16. 試験										
事前学習		予習は必要ないが、課題は必ず行うこと。								
事後学習		学習内容を振り返り、本文の音読をすること。								
履修上の注意		積極的に授業に参加すること。								
成績評価の方法・基準		授業態度 30% 毎日の課題 30% 学期末の試験 40%(筆記テストは行わない。)								
教科書	[PEGASUS][Steven Mitchell] [CHEERS] [2,500 円]									
参考書	特になし									

授業科目	英会話Ⅱ				担当者	上之原 博子			
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	服・健・美1年
授業の概要 テキストとプリントを用い、会話の続け方、発展のさせ方を学ばせる。また、自分の意見の述べ方も指導する。									
授業の目標(到達目標) 前期で学んだ事を、日常生活のあらゆる場面で実際に使えるようになることを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス。自分の好きな事を伝える。									
2. 高校生活や大学生活について話す。日本事象の説明1. “花見”を説明しよう									
3. 週末の予定について友達と話す。友人のイベントに誘う。									
4. 大学祭の準備の手順について話し合う。外国の文化を学ぶ1 ハロウィンについて									
5. 大学や店、レストランなどで、自分の望みや意見を伝え丁寧に説明する。									
6. 疑問文を作る練習をし、様々な状況を設定し使ってみる。									
7. 自分の大学や生活する場所、行きたい場所などについて、簡単な説明の練習。 There is a～. There are～.									
8.好きな事について友達と情報交換する。外国の文化を学ぶ2 Christmasについて									
9. 団体旅行と個人旅行の選択について意見をのべあう。									
10. 自分のホームタウンを紹介する。									
11. 留学生を招くイベントでやりたい事について話す。日本事象の説明3 お正月を説明しよう									
12. 料理やレシピについて話す。日本事象の説明4 お節料理を説明しよう									
13. 自分自身のことについてはなす。									
14. 自分が直接関わる活動や将来の抱負などについて、簡単に説明ができる。									
15. 学期を振り返り、したことやできるようになった事について、話し合う。									
16. 試験									
事前学習	予習は必要ないが、課題は必ず行うこと。								
事後学習	学習内容を振り返り、音読すること。								
履修上の注意	積極的に授業に参加すること。								
成績評価の方法・基準	授業態度 30% 毎日の課題暗記 30% 学期末の試験 40%(筆記テストは行わない。)								
教科書	授業前にプリントを配布します。								
参考書	特になし								

授業科目		仏語 I				担当者	村山 茂		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
発音の基礎から始め、簡単なあいさつや自己紹介はもちろん、初級文法に則った読み、書き、聞き、話す能力が身につくよう指導する。さらにフランスにまつわる様々な情報を盛り込み、多方面からのフランス語理解に努める。受講生全体のレベルに合わせて進行する。									
授業の目標(到達目標)									
初級フランス語入門レベルの修得を目標とし、あわせて、ヨーロッパの中心的存在であるフランスの文化にも触れ、国際的視野を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 授業方針。アルファベ。									
2. アルファベ復習。発音の規則 1。									
3. 発音の規則 2。									
4. 発音の規則小テスト。フランスについて。数字 1。									
5. 数字 2。簡単なあいさつの表現。									
6. パリに着いた！（空港）1. 解説と会話文。									
7. パリに着いた！（空港）2. 文法。									
8. パリに着いた！（空港）3. 練習問題。									
9. ホテルにて（フロント）1. 解説と会話文。									
10. ホテルにて（フロント）2. 文法。									
11. ホテルにて（フロント）3. 練習問題。									
12. アロー，アロー（郵便，電話）1. 解説と会話文。									
13. アロー，アロー（郵便，電話）2. 文法。									
14. アロー，アロー（郵便，電話）3. 練習問題。									
15. まとめの講義									
16. 試験									
事前学習		宿題を忘れないこと。							
事後学習		学習したことに目を通し、疑問点を明確にしておくこと。							
履修上の注意		私語を慎み、積極的に授業に参加すること。辞書については初回、教室にて指示する。							
成績評価の方法・基準		最終回に行なう確認のための筆記試験(70%～80%)に、20～30%程度の平常点（積極性など）を加えて算出し、評価する。							
教科書	〔はじめてのパリー新・改訂版－〕〔大津、瀧川、藤井共著〕〔朝日出版社〕〔2,400 円〕								
参考書	特になし								

授業科目		仏語Ⅱ				担当者	村山 茂		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
初級文法に則った読み、書き、聞き、話す能力が身につくよう指導する。フランスにまつわる様々な情報を盛り込み、フランス映画などをも教材に取り入れて、多方面からのフランス語理解に努める。 仏語Ⅰを引き継ぐ形で進めてゆく。									
授業の目標(到達目標)									
仏語Ⅰ履修者を対象とし、引き続き初級フランス語の修得を目標として、フランスの文化にも触れながら、国際的視野を身につける。									
授業計画及び内容									
1. テラスでお茶を (カフェ) 1. 解説と会話文。									
2. テラスでお茶を (カフェ) 2. 文法。									
3. テラスでお茶を (カフェ) 3. 練習問題。									
4. メトロに乗ろう (地下鉄) 1. 解説と会話文。									
5. メトロに乗ろう (地下鉄) 2. 文法。									
6. メトロに乗ろう (地下鉄) 3. 練習問題。									
7. 名所を廻ろう (観光バス) 1. 解説と会話文。									
8. 名所を廻ろう (観光バス) 2. 文法。									
9. 名所を廻ろう (観光バス) 3. 練習問題。									
10. ビデオによる学習。									
11. 水を買う (食料品店) 1. 解説と会話文。									
12. 水を買う (食料品店) 2. 文法。									
13. 水を買う (食料品店) 3. 練習問題。									
14. まとめの講義1									
15. まとめの講義2 (補足を含む)									
16. 試験									
事前学習		宿題を忘れないこと。							
事後学習		学習したことに目を通し、疑問点を明確にしておくこと。							
履修上の注意		初心を忘れず、根気よく継続すること。							
成績評価の方法・基準		最終回に行なう確認のための筆記試験(70%～80%)に、20～30%程度の平常点(積極性など)を加えて算出し、評価する。							
教科書	〔はじめてのパリー新・改訂版―〕〔大津、瀧川、藤井共著〕〔朝日出版社〕〔2,400 円〕								
参考書	特になし								

授業科目	中国語				担当者	高橋 亨			
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要 中国語には、日本語にない母音・子音が多く、「声調」という音声の抑揚があるため、まずはこれらの正確な習得を目指します。発音の練習を終えると、教科書の例文の読解や、受講者相互の会話練習を通して、中国語会話の基礎的な知識を身につけていきます。									
授業の目標(到達目標) この授業では、中国語の正確な発音を習得した上で、中国語で自己紹介やあいさつ、簡単な会話ができるようになります。加えて、中国の文化・習慣や旅行で役立つ情報なども紹介するので、中国に対する理解も深めていくことができます。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：中国語を学ぶために。									
2. 第一課：声調と単母音の発音。									
3. 第一・二課：複母音と子音(声母)の発音。									
4. 第二・三課：鼻音と子音(声母)の発音。									
5. 第四課：注意すべき発音とこれまでの復習。									
6. 第五課：“是”を用いた文章など。発音練習・例文読解・練習問題									
7. 第六課：自己紹介の仕方など。発音練習・例文読解									
8. 第六課：自己紹介の仕方など。発音練習・練習問題									
9. 第七課：代名詞“这”“那”等を用いた文章など。発音練習・例文読解									
10. 第七課：代名詞“这”“那”等を用いた文章など。発音練習・練習問題									
11. 第八課：疑問詞“什么”“哪个”等を用いた文章など。発音練習・例文読解									
12. 第八課：疑問詞“什么”“哪个”等を用いた文章など。発音練習・練習問題									
13. 第九課：数の数え方・年齢の言い方など。発音練習・例文読解									
14. 第九課：数の数え方・年齢の言い方など。発音練習・練習問題									
15. 発音・文法のまとめ。発音テスト									
16. 文法テスト									
事前学習	教科書の例文の中国語とピンインを自分で書き、日本語訳してみる。								
事後学習	例文の中国語とピンインを自分で書き、例文の発音を復習する。								
履修上の注意	日本語と異なる発音を身につけるため、発音練習ではしっかり声を出しましょう。また、進行状況により、授業計画が前後する場合があります。								
成績評価の方法・基準	平常点 30% 発音テスト 20% 文法テスト 50%								
教科書	[日中いぶこみ交差点][相原茂 等][朝日出版社][2,500 円]								
参考書	なし								

授業科目	日本語基礎				担当者	清水 浩一郎			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要 前半は日本語能力の基礎となることから問題を演習を通じて学習する授業をおこなう。後半では日本語の特性や実践的な用法について講義をおこないます。									
授業の目標(到達目標) まず日常的に使用する言葉や文法を習得します。その上で、日本語に関する基礎的な知識の講義を通じて、学生或いは社会人として要求される日本語能力を学習します。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：履修上の注意・講義の目的と概要についての説明									
2. 日本語能力の基礎①：漢字と慣用句									
3. 日本語能力の基礎②：文法と表記									
4. 日本語能力の基礎③：敬語									
5. 日本語能力の基礎④：敬語の練習問題									
6. 日本語能力の基礎⑤：文章作法									
7. 日本語の特徴①：漢字・ひらがな・カタカナのなりたちや役割									
8. 日本語の特徴②：鎌倉時代までの日本語とその特徴									
9. 日本語の特徴③：室町時代までの日本語とその特徴									
10. 日本語の特徴④：江戸時代までの日本語とその特徴									
11. 日本語の特徴⑤：過去から現代に至る日本語の連続性									
12. 「国語に関する世論調査」①：文化庁が実施した日本語意識調査について紹介									
13. 「国語に関する世論調査」②：平成 22～23 年度調査についての分析									
14. 「国語に関する世論調査」③：平成 24～25 年度調査についての分析									
15. 講義のまとめ									
16. 試験									
事前学習	配布資料に目を通しておいってください。								
事後学習	講義と配布資料の内容をまとめ、授業内容に対する理解を深めるよう努めてください。								
履修上の注意	講義の始めに小テストを実施しますので（2 回目以降）、遅刻しないようにしてください。								
成績評価の方法・基準	期末試験（50%）と受講態度（50%）で評価します。特に受講態度を重要視しますので、初回のガイダンスで説明する履修上の注意を厳守してください。								
教科書	講義前にプリントを配付します								
参考書	授業中適宜紹介します								

授業科目	国語表現法					担当者	清水 浩一郎		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
自己紹介文や手紙文、論作文の書き方や文章の要約、履歴書やエントリーシートなど、各種の文書を書く上での要点を講義します。									
授業の目標(到達目標)									
日本語を「読み」・「書き」・「話す」ための要点を理解し、各種文章・文書を実際に作成することで、実践的な日本語表現能力の習得を目標とします。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：授業の概要と履修上の注意について説明します									
2. スピーチ①：人前で話をする際の方法や留意事項について学びます									
3. スピーチ②：自己紹介のスピーチ原稿を作成します									
4. 文書作成①：履歴書や履歴書に添付する文書の書き方を学びます									
5. 文書作成②：履歴書を作成します									
6. 文書作成③：エントリーシートの書き方を学びます									
7. 文書作成④：エントリーシートを作成します									
8. 文書作成⑤：履歴書・エントリーシートを完成させます									
9. 論作文①：論作文の書き方を学びます									
10. 論作文②：出題されたテーマについて論作文を作成します									
11. 論作文③：前回に引き続き、論作文の作成をおこないます									
12. 文章の要約①：文章の要点を簡潔にまとめる方法を学びます									
13. 文章の要約②：文章を読んで要約文を作成します									
14. 手紙・案内文①：手紙や案内文の書き方を学びます									
15. 手紙・案内文②：手紙や案内文を作成します									
事前学習		配付された資料を予め読んでおいてください。							
事後学習		学習した内容は必ず復習し、課題作成に活かしてください。 課題作成が遅れている場合、次の講義までに進捗させること。							
履修上の注意		授業への積極的な参加を希望します。 実際に文書を作成し、課題として提出してもらいます。							
成績評価の方法・基準		試験は実施しません。課題提出（50％）と受講態度・授業への参加状況（50％）で評価します。なお、課題は必ず提出してください。未提出のものがある場合には評価の対象としないことがあります。							
教科書		プリントを配付します							
参考書		無し							

授業科目		情報基礎学				担当者	松尾 広		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・健・美2年
授業の概要									
文書作成、表計算、プレゼンテーション、簡単な画像処理などのコンピュータリテラシーを身につける。									
授業の目標(到達目標)									
データの集計・加工、グラフ作成、写真の加工を行い、それらを組み合わせて体裁の整った文書を作成したり、プレゼンテーションをしたりできるようになる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. Word による文書作成（ビジネス文書作成、表の作成）									
3. Word による文書作成（図形の扱い、クリップアートの利用）									
4. Word による文書作成（課題制作）									
5. Excel による表計算（表の作成）									
6. Excel による表計算（グラフの作成）									
7. Excel による表計算（統計データの加工）									
8. Excel による表計算（課題作成）									
9. Photoshop による画像処理（色調補正、選択範囲の設定、レイヤー機能）									
10. Photoshop による画像処理（調整レイヤー、レイヤーマスクの利用）									
11. Photoshop による画像処理（修復ツールによる画像加工）									
12. Photoshop による画像処理（課題制作）									
13. Powerpoint によるプレゼンテーション（シンプルなスライドの作成）									
14. Powerpoint によるプレゼンテーション（アニメーションの利用）									
15. Powerpoint によるプレゼンテーション（課題制作）									
事前学習		前回の内容にもう一度目を通しておくこと							
事後学習		もし、つまづいたところがあったら、くりかえしてみること							
履修上の注意		ある場所で使える操作が他の場所でも応用できることが多い。自力で解決しようとする手間を惜しまないこと							
成績評価の方法・基準		受講態度 40%、課題等提出物 60%							
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	使用せず								

授業科目		スポーツ身体科学				担当者	土井 豊		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美1年
授業の概要									
本授業では、日本における疾病構造の今昔（かつての感染症中心から現代の生活習慣病中心へ）を踏まえ、今後はいかなる健康対策が必要であるのかについて、運動・栄養・休養を中心に解説する。									
授業の目標(到達目標)									
本授業では、運動と健康・体力との関連性についての認識を深めるべく、現代人の多くが自覚あるいは罹患している愁訴ないし各種症候群・疾病と運動不足との関連、及び運動による治療効果等に関する学習を通して、今後の健康・体力の維持増進への意欲と実践力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 「スポーツ身体科学」概説（ガイダンス）									
2. 「健康の定義」及び「現在の日本における健康の姿」等について									
3. 「日本における平均寿命延長の主な要因」について									
4. 「現在の日本人に多い疾病及び死因等」について									
5. 「ライフサイクルにおける健康上の問題及び課題」について									
6. 「ライフスタイル（生活習慣）の現状と課題」について									
7. 健康的痩身方法に関する理論と実践Ⅰ：「身体組成」及び「肥瘦度判定」について									
8. 健康的痩身方法に関する理論と実践Ⅱ：「誤った減量法」等について									
9. BMI・体脂肪率・基礎代謝量・超音波骨密度等の測定実習（体験）									
10. 「メタボリックシンドロームとその予防」について									
11. 「ロコモティブシンドロームとその予防」について									
12. 「骨粗鬆症とその予防」について									
13. 「運動習慣の必要性」及び「運動処方の考え方」等について									
14. 「性と健康」（STD 及び HIV／AIDS 等を含む）について									
15. まとめ及び総括（健康増進における栄養・運動・休養の役割について）									
事前学習		教員の指示に従い、授業内容に関する事柄を予習する。							
事後学習		復習を通じて、授業内容の確認、不明な点の発見と解決を行う。							
履修上の注意		正当な理由無き「欠席」は厳禁とする。							
成績評価の方法・基準		出席状況と随時課すレポートを基に総合的に評価する。 その内訳は、受講態度（熱心さ）50%、レポート50%。							
教科書		使用しない。授業前に資料を配布する。							
参考書		適宜紹介する。							

授業科目		スポーツ				担当者	土井 豊		
単位数	2	必・選	選	授業形式	実技	開講期	通年	対象	服・健・美1年
授業の概要									
複数のスポーツ・運動を実施する。毎回出席者を戦力がほぼ均等になるよう複数チームに班分けした上で、リーグ戦等を行う。そして、勝利チームには勝ち点等を加点し奮起を促す。一方、個人種目の場合には、個人の勝敗あるいは達成度等により評価は異なる。									
授業の目標(到達目標)									
色々なスポーツ・運動実践を通し、各人が“健康・体力づくりの重要性”に気づくと共に、今後さらに適度なスポーツや運動を実践・継続していけるだけの人材に成長すること。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス（個人票作成等）					16. ラジオ体操の練習成果発表				
2. 身体計測（体位・体格等診断）					17. バスケットボールⅠ（班編成、練習試合）				
3. 体力測定Ⅰ（体力診断テスト）					18. 同上Ⅱ（基礎的技術の練習、試合）				
4. 同上Ⅱ（運動能力テスト）					19. 同上Ⅲ（基礎的技術の強化、試合）				
5. ソフトボールⅠ（班編成、練習試合）					20. ターゲットバードゴルフⅠ（基礎的練習）				
6. 同上Ⅱ（基礎的技術の練習、試合）					21. 同上Ⅱ（技術向上練習）				
7. 同上Ⅲ（基礎的技術の強化、試合）					22. 卓球Ⅰ（基礎的技術の練習、試合）				
8. バレーボールⅠ（班編成、練習試合）					23. 同上Ⅱ（技術向上練習 試合）				
9. 同上Ⅱ（基礎的技術の練習、試合）					24. バドミントンⅠ（基礎的練習、試合）				
10. 同上Ⅲ（基礎的技術の強化、試合）					25. 同上Ⅱ（技術向上練習 試合）				
11. フットサルⅠ（班編成、練習試合）					26. 身体計測（前期との比較）				
12. 同上Ⅱ（基礎的技術の練習、試合）					27. 体力診断テスト（前期との比較）				
13. 同上Ⅲ（基礎的技術の強化、試合）					28. 運動能力テスト（前期との比較）				
14. ラジオ体操第1＆第2の練習					29. 基礎的実技テスト				
15. 前期の総括					30. まとめ及び総評				
事前学習		次回授業でのスポーツ種目におけるルール等を予習しておく。							
事後学習		授業中の成功や失敗等を自己評価しつつ、次回の課題を明確にしておく。							
履修上の注意		毎回、運動のできる服装（ウェア）とシューズ等を完備した上で授業に臨むこと。							
成績評価の方法・基準		個人の技術や能力、並びに授業に取り組む姿勢等を総合的に評価する。 その内訳については、授業態度（熱心さ）50%、技術や能力50%。							
教科書	使用しない								
参考書	特になし								

授業科目		武道				担当者	佐藤 淳一		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
現代武道のひとつで世界 36 カ国に普及し世界統一組織でもある少林寺拳法の技法の基礎を講話と実技で指導します。護身の技術を指導するなかで、同時に呼吸法や座禅を通じて心身の調整法を教えます。 お互いが協力して上達する少林寺拳法の教育システムを有効に活用して、楽しく自己確立に努めます。財団法人少林寺拳法連盟に所属して、緑帯取得を目標に指導します。									
授業の目標(到達目標)									
武士の文化であった武芸は現在武道となり、世界の武道人口は数千万人といわれます。日本の伝統文化の中で、これほど世界中の人々に受け入れられた文化はほかに見当たりません。 自分をほんとうに頼りに出来る「自信」、そのことを通じての周囲への「感謝」。武道の修練を通じて、主体性に自己確立する意欲と他と学びあう協調性を身につけます。									
授業計画及び内容									
1. 「武道」について（現代武道と少林寺拳法）									
2. 少林寺拳法を学ぶ心構え									
3. 礼法、座法、調息法、立ち方、体構え									
4. 目配り、残心、足位法、運歩法、布陣法									
5. 裏拳打ち、金的蹴り、振り子突き、蹴り上げ、胴突き、蹴り									
6. 上段突き、流水受け、流水蹴り、天地拳第一									
7. 受身（前、後ろ）									
8. 小手抜き、竜王拳第一									
9. 受身（大車輪、横転起き上がり）									
10. 受け（上受け、内受け、下受け）									
11. 上段突き、中段突き、内受け、内受け突き									
12. 移動修練、前進単突き、蹴り、全転換、半転換									
13. 手刀打ち、上受け突き									
14. 上段突き、轉身蹴り									
15. 腕十字、昇級試験、レポート作成									
事前学習		図書館にある「はじめよう少林寺拳法」を読むこと							
事後学習		修得した技、動きを反復練習すること、レポート作成準備							
履修上の注意		財団法人少林寺拳法連盟に所属して学びます。							
成績評価の方法・基準		関心・態度 50%、技術修得度 30%、レポート 20%							
教科書	[少林寺拳法副読本] [少林寺拳法連盟][500 円]								
参考書	[はじめよう少林寺拳法][BB マガジン][1,728 円]								

授業科目		スタディスキルズ				担当者	大学教職員		
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	服専1年
授業の概要									
本学の歴史や教育内容、大学での学びの基本的なノウハウを知るとともに、各自学習目標を考える。さらに、入学前に取り組んだ e-learning を復習し、また理解度をチェックし、さらなる理解の向上を目指し演習を行う。									
授業の目標(到達目標)									
大学生活へスムーズに移行できるように大学の様々な授業で必要とされる、一般的な学習方法について学び、大学生として身につけておきたい基礎知識を習得すること。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス、ポートフォリオについて									
2. 大学で学ぶということ（山田学長）									
3. 大学での学び、ノート等の学び方、研究倫理（鈴木学科長、八巻）									
4. 図書館の活用 1（村山）									
5. 基礎学力向上 1（e-learning の事後指導）（国語）①菅並									
6. 基礎学力向上 2（e-learning の事後指導）（国語）②菅並									
7. 情報処理教育センターの活用（OA 室）（松尾）									
8. 基礎学力向上 e-learning を使った学習（1）（OA 室）（菅野）									
9. 基礎学力向上 e-learning を使った学習（2）（OA 室）（植松）									
10. 図書館の活用 2（OA 室）（村山）									
11. 基礎学力向上 3（e-learning の事後指導）（英語）①植松									
12. 基礎学力向上 4（e-learning の事後指導）（英語）②植松									
13. 基礎学力向上 5（e-learning の事後指導）（数学）①菅野									
14. 基礎学力向上 6（e-learning の事後指導）（数学）②菅野									
15. 基礎学力向上 e-learning を使った学習（3）（OA 室）（植松）									
事前学習		入学前課題の e-learning の学習をしてくること。							
事後学習		e-learning で不得意分野を見つけ、復習しておくこと。							
履修上の注意		毎回、積極的に出席しなければ、授業内容は身につかないので、必ず初回の授業から出席すること。							
成績評価の方法・基準		授業の取り組みに対する意欲と姿勢（50%）、課題の成果や提出物（50%）							
教科書	e-learning の教材								
参考書	授業の中で各担当の教員が指示する								

授業科目		スタディスキルズ				担当者	大学教職員		
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	健専1年
授業の概要									
本学の歴史や教育内容、大学での学びの基本的なノウハウを知るとともに、各自学習目標を考える。さらに、入学前に取り組んだ e-learning を復習し、また理解度をチェックし、さらなる理解の向上を目指し演習を行う。									
授業の目標(到達目標)									
大学生活へスムーズに移行できるように大学の様々な授業で必要とされる、一般的な学習方法について学び、大学生として身につけておきたい基礎知識の習得すること。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス、ポートフォリオについて									
2. 大学で学ぶということ						学長			
3. 大学での学び、ノート等の学び方、研究倫理						学科長、八巻			
4. 図書館の活用 1						村山			
5. 情報処理教育センターの活用（新 OA 室）						担当者	松尾		
6. 基礎学力向上 1（入学前課題の事後指導）						英語	①植松		
7. 基礎学力向上 2（入学前課題の事後指導）						英語	②植松		
8. 基礎学力向上 e-learning(1)（新 OA 室）						植松			
9. 基礎学力向上 3（入学前課題の事後指導）						国語①	菅並		
10. 基礎学力向上 e-learning(2)（新 OA 室）						植松			
11. 基礎学力向上 4（入学前課題の事後指導）						国語②	菅並		
12. 図書館の活用 2（新 OA 室）						村山			
13. 基礎学力向上 5（入学前課題の事後指導）						数学	①菅野		
14. 基礎学力向上 6（入学前課題の事後指導）						数学	②菅野		
15. 基礎学力向上 e-learning(3)（新 OA 室）						八巻			
事前学習		入学前課題の学習をしてくること。							
事後学習		e-learning で不得意分野を見つけ、復習しておくこと。							
履修上の注意		毎回、積極的に出席しなければこの授業の課題は作成できないし授業内容も身に付かないので、必ず初回の授業から出席すること。							
成績評価の方法・基準		授業の取り組みに対する意欲と姿勢（50%）提出物（50%）により評価する。							
教科書	e-learning の教材								
参考書	なし								

授業科目		スタディスキルズ				担当者	大学教職員		
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	美1年
授業の概要									
本学の歴史や教育内容、大学での学びの基本的なノウハウを知るとともに、各自学習目標を考える。さらに、入学前に取り組んだ e-learning を復習し、また理解度をチェックし、さらなる理解の向上を目指し演習を行う。									
授業の目標(到達目標)									
大学生活へスムーズに移行できるように大学の様々な授業で必要とされる、一般的な学習方法について学び、大学生として身につけておきたい基礎知識が習得できる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス、学修ポートフォリオについて									
2. 大学で学ぶということ（学長）									
3. 大学での学び（生活美術学科長）									
4. 図書館の活用 1（村山）									
5. 履修の方法等(授業の受け方、試験に関する心得)（北折）									
6. 情報処理教育センターの活用（松尾）									
7. 基礎学力向 1（入学前課題の事後指導） e-learning （三上）									
8. 研究倫理について（森）									
9. 基礎学力向 2（入学前課題の事後指導） e-learning （立花）									
10. 基礎学力向上 3 国語（三浦）									
11. 図書館の活用 2（村山）									
12. 基礎学力向上 4 国語（大堀）									
13. ポートフォリオ制作について（鶴巻）									
14. ノートの取り方・レポートの書き方（瀬戸）									
15. まとめ（1年担任）									
事前学習		入学前課題の学習をしてくること。							
事後学習		TSB e-learning で正解率が低かったところを、復習しておくこと。							
履修上の注意		毎回、積極的に出席しなければこの授業の課題は作成できないし授業内容も身に付かないので、必ず初回の授業から出席すること。							
成績評価の方法・基準		提出物（50%）、授業の取り組みに対する意欲と姿勢（50%）により評価する。							
教科書	e-learning の教材（他、授業時にプリントを配布する）								
参考書	適宜、配布、指示する								

授業科目		ライフデザイン				担当者	佐々木 晃		
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
レポートの作成・発表、小論文の作成等の学習活動を通して実社会で求められる基礎的な能力等を習得させるための授業を行う。									
授業の目標(到達目標)									
自分の今後の将来設計を描くにあたって、確かな勤労観を持ち、有為な社会人として活躍できる基本的な能力・技能・資質を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス、 ライフデザインを学ぶ意義									
2. 自分史作成 ～自己を知る～									
3. 自己分析・自己理解・自己管理									
4. 学生生活のデザイン									
5. 時事問題理解力、思考力、表現力									
6. 社会人に求められるもの									
7. 社会で働くための資質・能力									
8. 業界・企業研究									
9. 課題発見能力・協調性・提案力									
10. ライフデザインとライフプラン（ライフステージとライフイベント）									
11. ビジョン構築力									
12. ライフプランの作成									
13. ライフデザインの作成									
14. ライフデザインの発表									
15. キャリア開発に向けて									
事前学習		今後、取得したい資格や身につけたい資質・能力について具体的に考えておくこと。							
事後学習		授業で紹介した書籍等を読み、識見を広げること。							
履修上の注意		本学キャリア教育の1年次としての自覚を持ち受講すること。							
成績評価の方法・基準		小論文・レポート・課題（70%）（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としない場合がある。）授業の参加状況等の平常点（30%）							
教科書	〔シンプルリスト〕〔ドミニック・ローホー〕〔講談社〕〔630 円〕								
参考書	なし								

授業科目		キャリア開発 I				担当者	井上 美紀		
単位数	1	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専 2 年
授業の概要 消費者力を高め、充実した生活を送ることができるように、消費生活に関わる各分野の基礎を解説する。検定受験を目標とするため、各分野の要点解説と検定対策が中心の講義となる。									
授業の目標(到達目標) 消費生活に関する正しい知識を身につけ、消費者力を高めることができるようにする。また、消費者力検定の受験も目標とし、級取得レベルの知識を身につける。									
授業計画及び内容									
1. はじめに：消費者力とは、 検定の概要、衣生活									
2. 食生活									
3. 住生活									
4. 契約・悪質商法 1 契約									
5. 契約・悪質商法 2 悪質商法の事例と対策									
6. 環 境									
7. サービス									
8. 検定試験									
9. おわりに：セミナーのまとめ、検定の振り返り									
事 前 学 習		前時の振り返りと次時の内容を確認すること。							
事 後 学 習		ワークブックで反復練習すること。授業内容を振り返り臨むこと。							
履修上の注意		消費者力検定を受験するため、検定申込（掲示で指示）が必要となる。							
成績評価の方法・基準		検定結果 50%、ミニットペーパーと受講態度に対し 50%							
教科書	消費者力検定ワークブック，日本消費者協会，630 円								
参考書	必要に応じてプリントを配布								

授業科目		キャリア開発Ⅰ				担当者	鈴木 裕行		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	健専1年
授業の概要									
化学Ⅰ・Ⅱで扱った内容に関連する基礎的な問題の演習を主とし、個々の学生の理解度に合わせて、教員および学修支援員により個別に指導する。また授業で提示された練習問題の解説を行う。さらに管理栄養士の業務の実際と国家試験についても説明する。									
授業の目標(到達目標)									
健康栄養学専攻の栄養学・食品学関連の多くの専門科目では化学を必須基礎知識とするが、化学の学力が十分でない学生にとってはその授業の理解にしばしば困難をきたす。そこで問題演習・個別指導により化学Ⅰ・Ⅱの授業の内容をより深く理解できるようになること、また、管理栄養士の業務の実際と国家試験についてもその概要と化学の学習とのつながりを理解できるようになることを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. 物質の構成に関連する問題演習と解説									
2. 周期表に関連する問題演習と解説									
3. 原子・イオン・分子に関連する問題演習と解説									
4. 化学式に関連する問題演習と解説									
5. 物質質量：原子量・分子量の計算に関連する問題演習と解説									
6. 管理栄養士の仕事について、モルの計算に関連する問題演習と解説									
7. 化学反応式に関連する問題演習と解説									
8. 化学結合に関連する問題演習と解説									
9. 酸・塩基、中和に関連する問題演習と解説									
10. 水素イオン濃度と pH に関連する問題演習と解説									
11. 管理栄養士国家試験について、酸化と還元に関連する問題演習と解説									
12. 酸化数と酸化還元反応に関連する問題演習と解説									
13. 気体の性質に関連する問題演習と解説									
14. 溶液の性質に関連する問題演習と解説									
15. 化学反応と熱に関連する問題演習と解説									
事前学習		各時間の授業範囲に該当する教科書の記述を熟読すること。							
事後学習		板書ノートを見直し、授業で取り扱った問題の解法をよく復習すること。							
履修上の注意		今後の専門科目学修の一番の基礎なので、理解不十分なところをそのままにしないこと。							
成績評価の方法・基準		課題：50%、平常点（提出物等）：50%							
教科書	〔ゼロからはじめる化学〕〔立屋敷哲〕〔丸善(株)出版事業部〕〔2,376円〕								
参考書	無し								

授業科目		キャリア開発Ⅰ				担当者	2年次担任（瀬戸典彦・三浦輝子）		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	通年	対象	美2年
授業の概要									
各コースによる外部講師の講義と現場見学で構成する。講師は各コースの専門分野で活躍する人物（卒業生他）を予定し、仕事のノウハウを実体験させることにより仕事に対する実践的な方法論を理解させる。									
授業の目標(到達目標)									
具体的な就業体験の話しと現場見学股は体験を通して、キャリアに対する意識が高まること、主体的に自身の進路を選択・決定できる能力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. 外部講師による講義（デザイナー）									
3. 外部講師の現場見学（デザイナー）									
4. 外部講師による講義（漫画家）									
5. 外部講師の現場見学（漫画家）									
6. 外部講師による講義（工芸家）									
7. 外部講師の現場見学（工芸家）									
8. 外部講師による講義（ギャラリー経営）									
9. 外部講師の現場見学（ギャラリー経営）									
10. 外部講師による講義（教員）									
11. 外部講師の現場見学（教員）									
12. 外部講師による講義（画家）									
13. 外部講師の現場見学（画家）									
14. 外部講師による講義（クラフト作家）									
15. 外部講師の現場見学（クラフト作家）									
事前学習		事前に外部講師の紹介を指示するので、関係する仕事について調べておくこと。							
事後学習		レポート作成のため毎回講義ノート等、内容をまとめておくこと。							
履修上の注意		外部講師との日程調整のため授業計画にある順番は前後する場合もある。開講日と内容の詳細は掲示で指示する。							
成績評価の方法・基準		授業参加状況 50% レポート等提出物の内容 50%							
教科書	資料等を配布								
参考書	適宜指示する								

授業科目		キャリア開発Ⅱ				担当者	小野寺 美和		
単位数	1	必・選	選	授業形式	集中講義	開講期	前期	対象	服専2年
授業の概要									
色彩技能パーソナルカラーの理論的部分を講義する。									
授業の目標(到達目標)									
パーソナルカラーの基礎理論として、色の属性（性質）の違いにより顔の見え方は理論的(客観的)に変化することについて理解する。日本パーソナルカラー協会・アシスタントアドバイザーの資格取得をすることで、客観的な根拠に基づき、固有感情（属性の反応による色白効果、血色効果、小顔効果、つや出し効果）を実践する力をみにつける。									
授業計画及び内容									
1. パーソナルカラー理論①・・・カラー戦略と演出法を学ぶ									
2. パーソナルカラー理論②・・・フォーシーズンとベストカラー診断									
3. パーソナルカラー理論③・・・外見心理学・色彩心理学									
4. パーソナルカラー理論④・・・カラー読心術									
5. パーソナルカラー理論⑤・・・色彩理論									
6. パーソナルカラー理論⑥・・・固有感情・表現感情									
7. パーソナルカラー理論⑦・・・パーソナルカラーのコーディネート術									
8. パーソナルカラー理論⑧・・・モジュール1の過去問対策									
9.									
10.									
11.									
12.									
13.									
14.									
15.									
事前学習		色彩学の基礎である AFT 3 級の内容を十分に復習しておくこと。							
事後学習		毎回配布するプリント課題をしてくること。							
履修上の注意		初回の講義で説明する履修上の注意を厳守すること。							
成績評価の方法・基準		検定試験の結果（50％）レポート（50％）							
教科書	〔「色彩技能パーソナルカラー検定公式テキスト／モジュール1・モジュール2」役に立つ色彩理論〕〔青娥書房〕〔4,200 円〕								
参考書	使用せず								

授業科目		キャリア開発Ⅱ				担当者	川俣 幸一		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	健専2年
授業の概要									
応用栄養学実習Ⅰと連動して、栄養士・管理栄養士としての必要な知識の取得を目指す									
授業の目標(到達目標)									
1) 自分の食生活の現状についてアセスメントを行う能力を身につける									
2) 自分の身体に合う食事についての栄養管理法を総合的に理解できるようになる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. 食事調査法①（実施方法の練習）									
3. 食事調査法②（栄養価計算の練習）									
4. 身体活動量を求める実習（24時間タイムスタディ法）									
5. 3日間の食物摂取状況の把握（栄養価計算）									
6. アセスメント（前半まとめ①、説明）									
7. 〃 （前半まとめ②、演習）									
8. 食事計画①（加重平均食品群別栄養成分表の作成、説明）									
9. 食事計画②（加重平均食品群別栄養成分表の作成、演習）									
10. 食事計画③（食品構成表の作成、説明）									
11. 食事計画④（食品構成表の作成、演習）									
12. 食事計画⑤（献立の作成、説明）									
13. 食事計画⑥（献立の作成、演習）									
14. 食事計画⑦（献立の栄養価計算）									
15. まとめ									
事前学習		事前に配布する予習プリントを熟読すること							
事後学習		板書やノート、配布資料を見直して復習する事							
履修上の注意		応用栄養学・基礎栄養学・栄養教育論・臨床栄養学・公衆栄養学等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。							
成績評価の方法・基準		課題レポート・・・90% 受講状況・・・10%							
教科書		[すぐわかる栄養指導実習][萌文書林][1,680円] [エネルギー早わかり][女子栄養大学出版部][1,460円] [調理のためのベーシックデータ][女子栄養大学出版部][1,890円]							
参考書		[食品成分表] [女子栄養大学出版部] [1,512円]							

授業科目	キャリア開発Ⅱ（インターンシップ）				担当者	2年次担任（瀬戸典彦・三浦輝子）			
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	通年	対象	美2年
授業の概要									
インターンシップの事前調査／準備を支援し、履修者が希望する職種での就業をコーディネートする。									
授業の目標(到達目標)									
・就業体験をとおり、責任感、コミュニケーション力の必要性を理解する。 ・職業意識を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス「なぜ人は働くのか」									
2. 職業調査1（一般）									
3. 職業調査2（美術系）									
4. 職場調査（一般）									
5. 職場調査（美術系）									
6. インターンシップ用エントリーシート（記入）									
7. インターンシップ用エントリーシート（校正）									
8. インターンシップ用エントリーシート（修正）									
9. 職場体験（導入）									
10. 職場体験（まとめ）									
11. レポート作成（アウトライン）									
12. レポート作成（トピック）									
13. レポート作成（ボディー）									
14. レポート作成（考察）									
15. まとめ									
事前学習		職業調査、職場調査							
事後学習		就業体験に関するレポート作成							
履修上の注意		開講日等の詳細については、掲示にて通知する。							
成績評価の方法・基準		授業参加状況（20％） 受入れ機関から提出される所見書（60％） レポート（20％）							
教科書	資料を配布								
参考書	使用しない								

授業科目		キャリア開発Ⅲ				担当者	小野寺 美和		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	服専3年
授業の概要									
AFT 色彩検定 2 級試験の対策講座と AFT 色彩検定 1 級実技試験の対策講座を行う。									
授業の目標(到達目標)									
インテリアやファッション業界、また、グラフィックや企業のデザイン・宣伝部門など、幅広い分野で活用される「色」に関する専門知識を学ぶ。本授業では、AFT 色彩検定 2 級取得に合格できる色の知識と、色の活用方法について実践する力を身に着ける。									
授業計画及び内容									
1. AFT 色彩検定 3 級復習テスト・生活と色 1（身の回りの見え方）・配色カードの扱い方									
2. 光と色 1（光の性質と色・視覚系の構造と色）・光と色 2（照明）									
3. マンセル表色系 1（色相・色相環・明度・彩度・色の表示方法） マンセル表色系 2（色立体・マンセル表色系の色票集・色名）									
4. 色彩調和・配色イメージ									
5. ビジュアルデザインと色彩・プロダクトデザインと色彩									
6. インテリアデザインと色彩 1（インテリアデザインと色彩・インテリアの配色） インテリアデザインと色彩 2（インテリアスタイルと配色・インテリアの素材,照明）									
7. エクステリアデザインと色彩 1（環境と色彩・カラーコーディネーション） エクステリアデザインと色彩 2（環境配色・材料・照明・色彩計画の手順）									
8. AFT 色彩検定 1 級・2 級試験の試験対策									
9.									
10.									
11.									
12.									
13.									
14.									
15.									
事前学習		色彩学の基礎である AFT 3 級の内容を十分に復習しておくこと。							
事後学習		毎回配布するプリント課題をしてくること。							
履修上の注意		履修者は,AFT2 級受験を前提とする。							
成績評価の方法・基準		レポート（10%） 課題（20%） 検定結果（70%）							
教科書	〔AFT 色彩能力検定対策テキスト 2 級編〕〔(社) 全国服飾教育連合会〕〔3,150 円〕								
参考書	使用せず								

授業科目		キャリア開発Ⅲ				担当者	健康栄養学専攻全教員 7 名		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	健専 3 年
授業の概要									
管理栄養士国家試験の問題を解きながら、国家試験に向けて修得しておかなければならない事柄を中心に講義を行う。出題範囲の理解、頻出事項を理解できるようにする。									
授業の目標(到達目標)									
管理栄養士の国家試験の問題を解きながら、国家試験受験に向けて必要な知識を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 問題集配布 ガイダンス（教科ごとの解説）（担当：鈴木・栗山・半澤・伊澤）									
2. 栄養教育論（担当：伊澤）									
3. 栄養教育論（担当：伊澤）									
4. 栄養教育論（担当：伊澤）									
5. 食べ物と健康（担当：佐藤(靖)・ ）									
6. 食べ物と健康（担当：佐藤(靖)・ ）									
7. 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（担当：鈴木・ ）									
8. 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（担当：鈴木・ ）									
9. 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（担当：鈴木・ ）									
10. 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（担当：鈴木・ ）									
11. 基礎栄養学（担当：鈴木）									
12. 基礎栄養学（担当：鈴木）									
13. 基礎栄養学（担当：鈴木）									
14. 基礎栄養学（担当：鈴木）									
15. ミニテスト（担当：伊澤）									
16. ミニテスト返却とガイダンス（担当：伊澤）									
事前学習		該当科目受講前に、配布された問題集の問題を解いてくること。事前学習のチェックも行う。							
事後学習		解説をもとに、テキストを見ながら復習し、知識をまとめておくこと。							
履修上の注意		管理栄養士国家試験受験希望者は履修すること。遅刻、欠席をしないこと。各教員から使用するテキストについて指示が出るので注意すること。各自問題集を予習すること。クエスチョンバンクの発売は 7 月(仮)。							
成績評価の方法・基準		平常点 80%（平常点は、感想用紙の提出および問題集の進行度合いなどを総合的に判断する。）とミニテスト 20%の結果で評価する。							
教科書		〔問題集 2017 年版〕〔大学作成〕 〔クエスチョンバンク 2018〕〔クイックメディア〕〔未定〕							
参考書		各授業で使用したテキスト、プリントなど							

授業科目		キャリア開発Ⅲ				担当者	工藤 稜		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	美2年
授業の概要									
授業前半は講義と鑑賞を通じてイラスト・漫画における表現の多様性を理解させる。 後半は実技演習を行い、より高度な技術を身につけさせる。									
授業の目標(到達目標)									
キャラクターイラストの表現方法の多様性を理解できるようになる。キャラクターの様々な表情やポーズ、状況を描けるように、描写力が向上する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. イラストとは									
3. 日本キャラクターイラスト史									
4. 〃 江戸時代～大正									
5. 〃 昭和～現代									
6. キャラクター作画演習①スタンプキャラ作画									
7. 〃 ②躍動感等の追加									
8. アートアニメーションについて①海外作品鑑賞									
9. 〃 ②日本作品鑑賞、解説									
10. キャラクター作画演習③模擬試験									
11. 〃 ④作品発表、講評									
12. ヒーローデザイン史 ①東洋と西洋のマスクデザインについて									
13. 〃 ②アートからの引用 商業デザインとしてのメカ									
14. 作品鑑賞 学生映画と現代のクリエイタの関係									
15. まとめ									
事前学習		掲示にて指示。							
事後学習		講義内で指示。							
履修上の注意		課題には積極的に取り組むこと。							
成績評価の方法・基準		授業参加状況 50%、実技 50%							
教科書	プリント配布、プロジェクター使用								
参考書	なし								

授業科目		キャリア開発Ⅳ				担当者	服飾文化専攻全教員		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	服専3年
授業の概要 進路決定や就職活動の準備や対策を行う。本学では本授業以外に就活支援の授業を開講しているが、本授業では就活で必要となる履歴書やエントリーシートの作成のための支援、SPI 対策を主に行う。さらに、服飾文化専攻学生が多く希望するアパレル業界特有の活動対策、その他の業界対策、家庭科教員の試験対策等、個別の希望に応じたバックアップを行う。									
授業の目標(到達目標) キャリア開発Ⅳでの準備や対策を通して各自が希望する進路を考察し、就職活動に必要なスキルとビジネススキルを身につけ、卒業後の進路に向かって活動をスタートできるようにすること。									
授業計画及び内容									
1. 進路を考える（植松先生）、SPI 対策（菅野、植松）									
2. 業界研究、情報収集の方法（図書館で行う：菅野）									
3. 履歴書ポイント説明（菅野）と個別指導（菅並、植松、井上、川又、小野寺）									
4. 履歴書・エントリーシートの主な項目の作成（菅野）									
5. 校正の個別指導（菅並、植松、井上、川又、小野寺）、添え状、封書作成（菅野）									
6. 希望の進路に応じたグループ指導（服飾：井上、一般：菅野、教職：菅並）									
7. 就職活動時の着装・メイク（小野寺）									
8. 面談練習（菅並、植松、井上、川又、小野寺、菅野）、SPI 試験（菅野、植松）									
事前学習		それぞれの講義で課された課題を各自行うこと。							
事後学習		各自の就職活動に向けて、学習したことを踏まえ、さらに必要な準備を行いスタートする。							
履修上の注意		欠席せず、積極性に取り組むこと。 自分なりの課題を明確にして講義に臨むこと。							
成績評価の方法・基準		総合的受講状況 50% 課題の取り組み（履歴書・ES など） 50%							
教科書	必要に応じて紹介する。								
参考書	必要に応じて紹介する。								

授業科目		キャリア開発Ⅳ				担当者	健康栄養学専攻教員 11 名			
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	健専 4 年	
授業の概要										
管理栄養士国家試験の問題や模擬試験を解きながら、国家試験に向けて修得しておかなければならない事柄を中心に講義を行う。模擬試験を中心に頻出事項、法改正等の講義を行う。										
授業の目標(到達目標)										
管理栄養士の国家試験の模擬試験を解き、各自の勉強の進行度合い、苦手分野を確認する。また、問題を解きながら、必要な知識を身につける。										
授業計画及び内容										
1. ガイダンス					16. 問題解説					
2. 模擬試験 1					17. 問題解説					
3. 問題解説					18. 模擬試験 3					
4. 問題解説					19. 問題解説					
5. 問題解説					20. 問題解説					
6. 問題解説					21. 問題解説					
7. 問題解説					22. 問題解説					
8. 問題解説					23. 問題解説					
9. 問題解説					24. 問題解説					
10. 問題解説					25. 問題解説					
11. 模擬試験 2					26. 問題解説					
12. 問題解説					27. 問題解説					
13. 問題解説					28. 模擬試験 4					
14. 問題解説					29. 問題解説					
15. 問題解説					30. 問題解説					
事前学習		配布された問題集の問題を 8 月までに計画的に進めること。模擬試験終了後は、模擬試験直しを毎回見直すこと。								
事後学習		解説をもとに、テキストを見ながら復習し、知識をまとめておくこと。模擬試験の直しを行うこと。								
履修上の注意		管理栄養士国家試験受験希望者は履修すること。遅刻、欠席をしない。各教員から使用するテキストについて指示が出るので注意すること。問題集は各自で行うこと。								
成績評価の方法・基準		平常点 80%（平常点は、感想用紙の提出および問題集の進行度合いなどを総合的に判断する。）と模擬試験 20%の結果で評価する。								
教科書		〔問題集 2017 年版〕〔大学作成〕 〔クエスチョンバンク 2017〕〔クイックメディア〕								
参考書		各授業で使用したテキスト、プリントなど								

授業科目		キャリアサポートⅠ				担当者	大学教職員		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	通年	対象	服・健・美3年
授業の概要									
様々な外部講師の講話、ワークシートの作成、グループワーク、模擬試験等を通じ、自己理解、職業・業界・企業理解、基礎学力養成等を具体的に指導し、就職内定に至る現実的方法を学ぶ。									
授業の目標(到達目標)									
① 広い視野で考え、将来の進路を選択・決定する力を身につける。									
② 書類選考、SPI、面接等の就職選考試験に合格する力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 人生の楽しみ方（働くことの意義）					16. 第2回SPI模擬試験				
2. アンガーマネジメント（感情のコントロール）					17. ビジネスマナーセミナー（マナーの基本）				
3. 就活スタートアップ（就活の現状・基礎知識）					18. プレゼンテーションセミナー（魅力的な表現法）				
4. 第1回SPI模擬試験					19. SPI模擬試験解説会（非言語編）				
5. 公務員試験・教員採用試験ガイダンス					20. SPI模擬試験解説会（言語編）				
6. 自己理解Ⅰ（自分から見た自分）					21. ES・履歴書セミナーⅠ（ES・履歴書の意味）				
7. 自己理解Ⅱ（他者から見た自分）					22. ES・履歴書セミナーⅡ（自己PR）				
8. 職業理解Ⅰ（世の中の流れ・仕組み・働く意味）					23. ES・履歴書セミナーⅢ（志望動機）				
9. 進路を考えるセミナー（幅広い視野で進路を考える）					24. 面接対策セミナーⅠ（面接の基本）				
10. 職業理解Ⅱ（業種・職種・様々な働き方）					25. 面接対策セミナーⅡ（ロールプレイ）				
11. 職業理解Ⅲ（他者の力を借りた職業理解）					26. ワークルールセミナー（労働法の基礎知識）				
12. SPIセミナーⅠ（損益算、仕事算、割合）					27. 産学連携協議会セミナー（求める人材像）				
13. SPIセミナーⅡ（速さ、集合）					28. 総括セミナー（この1年の振り返り）				
14. SPIセミナーⅢ（組合せ、確率、グラフの領域）					29. 人事採用担当者セミナー（求める人材像）				
15. SPIセミナーⅣ（同義語・反義語・文章理解）					30. 内定者による就活報告会（内定者から学ぶ）				
事前学習		授業の際に次回の内容を予告するので、そのことについて予習すること。							
事後学習		・自分の強みと弱みを把握して強みは一層強化し、弱みは克服するよう意識すること。 ・授業中に指導された内容を必ず次回の授業までに復習して、確実に身につけておくこと。							
履修上の注意		この授業は、就職活動に必要な要素を盛り込んでいる。授業に集中し、就職決定力向上に努めること。授業中のおしゃべり、居眠り、無断欠席は厳禁である。							
成績評価の方法・基準		授業態度（50%）、課題提出（50%）							
教科書		授業時にプリントを配布する							
参考書		〔内定のツボ〕〔佐川泰宏〕〔東京アカデミー〕〔1,000円〕							

授業科目		キャリアサポートⅡ				担当者	大学教職員		
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	服・健・美４年
授業の概要									
具体的な就職活動を通して、就職内定が得られるように、実践的な体験型学習など各種集団指導や個別指導を行う。									
授業の目標(到達目標)									
① グループディスカッション試験、小論文試験に対応出来る基礎力を身につける。 ② 就職活動中及び将来働く上で必要な労働法の基礎知識を身につける。 ③ 現在の就職環境を理解する									
授業計画及び内容									
１．一歩踏み出す勇氣（就活生へのエール）									
２．グループディスカッション（GD）セミナーⅠ（GDとは、自由討論型GD体験）									
３．グループディスカッション（GD）セミナーⅡ（ディベート型GD・企画型GD体験）									
４．グループディスカッション（GD）セミナーⅢ（課題解決型GD体験、全体振り返り）									
５．小論文セミナーⅠ（小論文の基本、課題取組み）									
６．小論文セミナーⅡ（課題取組み、全体振り返り）									
７．ワークルールセミナー（労働法の基礎知識）									
８．これからの就職活動（就職環境、今後の見通し）									
９．学内単独会社説明会Ⅰ（会社名後日発表 任意参加）									
10．学内単独会社説明会Ⅱ（ 〃 ）									
11．学内単独会社説明会Ⅲ（ 〃 ）									
12．学内単独会社説明会Ⅳ（ 〃 ）									
13．学内単独会社説明会Ⅴ（ 〃 ）									
14．学内単独会社説明会Ⅵ（ 〃 ）									
15．学内単独会社説明会Ⅶ（ 〃 ）									
事前学習		自宅で履歴書・ESや論作文を書いた上で授業を受講し、改善すべき課題を把握できるようにすること。また、筆記試験対策を怠らないこと。							
事後学習		授業で把握した改善すべき課題の解決に取り組み、就職支援センターの添削、模擬面接等のサポートを受けること。							
履修上の注意		毎回定められた授業に出席すること。指示された課題に誠実に取り組むこと。							
成績評価の方法・基準		授業態度（50%）、課題提出（50%）							
教科書	なし								
参考書	授業中に指示								

家 政 学 部 基 幹 科 目

2. 家政学部基幹科目

授業科目		家政学原論				担当者	八巻 美智子		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
「家政学とは何か」について学ぶ。近代以降家政学がどのように扱われてきたか、また現在、私たちが抱えている生活の問題点について概説する。									
授業の目標(到達目標)									
家政学部で各自が所属する学科で専攻科目を学びながら人間生活と生活に関わる家政学の独自性に気づき、その根本について理解する事。さらに、実際に生活する上でいかに家政学が重要かを理解するとともに、各自が自立しよりよく生きるための力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. 家政学とは									
3. 家政学をなぜ学ぶのか									
4. 家政学の特質、対象									
5. 本学の歴史について									
6. 我が国の家政学史(1) 学制以前～									
7. 〃 (2) 昭和時代～									
8. 諸外国の家政学について (ヨーロッパ)									
9. 〃 (アメリカ)									
10. 生活上の諸問題 (家庭、衣生活)									
11. 〃 (食生活)									
12. 〃 (住生活環境、消費生活)									
13. 〃 (福祉、高齢化社会)									
14. 今後の家政学									
15. まとめの講義									
16. 試験									
事前学習		日頃から生活の諸問題に対し自分の意見を持ち行動する事。							
事後学習		講義で学んだことを実生活に生かしレポートする事。							
履修上の注意		出席を重視。私語は厳禁。							
成績評価の方法・基準		テスト 40%、レポート・発表 30%、授業態度(提出物やその内容、教員の指示に対応しているか)30%							
教科書	プリント配布								
参考書	〔家政学原論〕〔朝倉書店〕〔3,132 円〕								

授業科目		家族関係学				担当者	和泉 安希子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
「家族」は誰にとっても身近な存在であるが、それゆえに客観的に、また科学的に考察される機会が少ないともいえる。本講義では、「家族」をめぐる諸問題やその背後にある社会の変化について、様々な統計データも取り入れ、概説する。									
授業の目標(到達目標)									
多様な様相を呈する現代の家族現象を考察し、講義を通じて、「家族」を取り巻く諸問題について理解を深め、多様化した家族形態別に問題点を改善していく能力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス 講義の進め方 テキストについて 評価について									
2. テーマ1 人間にとって家族とは (1) 家族とは何か									
3. 〃 (2) 家族と文化									
4. テーマ2 日本における家族の変化 (1) 家族はどのように変化したか									
5. 〃 (2) 男女関係・夫婦関係の変化									
6. 〃 (3) 新しい家族									
7. テーマ3 結婚と家族 (1) 配偶者の選択									
8. 〃 (2) 夫婦の成立									
9. 〃 (3) 離婚問題と結婚の未来									
10. テーマ4 家族と子ども (1) 新しい生命の誕生と家族									
11. 〃 (2) 子どもの成長発達と親子関係									
12. 〃 (3) 社会的養護の中の子ども									
13. テーマ5 高齢化社会における家族 (1) 高齢期の生活と自立									
14. 〃 (2) 高齢期の自立を支える社会制度と家族関係									
15. 総 括 家族をめぐる新たな現象									
16. 試験									
事前学習		新聞・書籍等「現代の家族」について常に関心を持ち、視野を広めておく事。							
事後学習		講義で学んだ内容について、各自、自分の意見を持ち、将来について考える事。							
履修上の注意		欠席時数が 1/3 を越えた場合、及びレポート未提出の場合は放棄とみなします。							
成績評価の方法・基準		授業参加状況（小レポート含む）(40%)、学期末の試験(40%)、レポート課題(20%)							
教科書	講義時に指示する								
参考書	講義時に指示する								

授業科目		家庭経営学（家庭経済学を含む）				担当者		前田 修也	
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・健・美1年
授業の概要									
家庭生活を取り巻く環境は大きく変化しつつある。社会のあらゆる面における国際化、少子・高齢化、情報化などである。本講義では、このような変化に対応した家庭経営のあり方を、「家計」という視点から解説する。									
授業の目標(到達目標)									
現代の日本経済が直面している社会保障制度を中心とした諸問題を、家政学の視点から分析する力を獲得することができる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：講義内容についての説明									
2. 家庭経済とは何か：①家庭の経済活動									
3. " ：②家庭経済の特質									
4. 国民経済の中の家庭経済：①家庭経済と国民経済との関連									
5. " ：②国民経済計算における家庭経済の収支									
6. " ：③家庭経済の経済活動と国民経済									
7. 家庭経済の基礎としての世帯：①世帯規模と世帯構造の変動									
8. " ：②核家族化、少子高齢化									
9. 収支と支出：①世帯の所得									
10. " ：②所得の分布と格差									
11. " ：③家庭の消費構造									
12. " ：④消費支出に影響を与える要因									
13. 物 価：①物価とは何か									
14. " ：②消費者物価指数の作り方									
15. 振り返り									
事前学習		事前にテキストのテーマに関連する参考文献を、図書館等で検索し、読んでおくことが望ましい。							
事後学習		新たな授業で指示された参考文献を、図書館等で検索し、ノートを充実させることが望ましい。							
履修上の注意		私語を慎み授業へ積極的な参加を望みます。							
成績評価の方法・基準		概ね振り返り(40%)、ノートの内容(30%)とレポートの内容(30%)等で評価します。							
教科書	〔増補改訂よくわかる日本経済入門〕〔塚崎公義〕〔朝日新聞出版〕〔820 円〕								
参考書	無し								

服飾文化專攻專攻科目

3. 服飾文化専攻専攻科目

授業科目		消費生活論				担当者		舛谷 謙二		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服専2年	
授業の概要										
経済活動の変化とともに消費生活は大きく変容してきたが、安全・安心でゆたかな消費生活を脅かす消費者問題もまた様々な様相を呈してきた。この講義では消費者問題の歴史的変遷に留意しつつ、消費者・行政・事業者それぞれの対応の理念と現実とを教授する。										
授業の目標(到達目標)										
(1) 消費生活の原理を理解できる。										
(2) 自分自身の消費生活を顧みて、その中で具体的な課題を見つけ出し、その課題を客観的に把握できる。										
授業計画及び内容										
1. ガイダンス										
2. 消費生活論の範囲と方法（概要）										
3. 経済学における消費論の位置（経済秩序と経済問題）										
4. 経済学における消費者の位置（消費者概念の理論と現実）										
5. 消費者問題の変遷（1960年代～1980年代）										
6. 消費者問題の変遷（1990年代～2000年代）										
7. 消費者問題と消費者政策（理念の変容）										
8. 消費者問題と消費者政策（消費者行政組織）										
9. 消費者政策の展開（消費者基本法・消費者基本法・被害救済）										
10. 企業の消費者対策（コンプライアンス経営）										
11. 企業の消費者対策（企業の社会的責任）										
12. 消費者教育（消費者の権利・環境問題）										
13. 消費生活情報（広告・宣伝）										
14. 最近の消費者問題（事例研究）										
15. まとめ										
事前学習		テレビや新聞等で経済問題や消費者問題に関するニュースを継続的にチェックしておくこと。								
事後学習		授業で学習した事項や用語について事典（辞典）等で確認し整理しておくこと。								
履修上の注意		特になし。								
成績評価の方法・基準		授業中の小テスト（75％）提出課題（25％）で評価します。								
教科書	『消費生活論』（社）日本衣料管理協会）〔1,600円〕									
参考書	適宜指示する。									

授業科目	社会福祉論					担当者	伊藤 常久		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専2年
授業の概要									
日本や諸外国における社会福祉の歴史や発展について触れながら、少子高齢化の進む日本における高齢者や児童、障害者等に対する社会福祉のあり方と課題について解説する。									
授業の目標(到達目標)									
日本における社会福祉の概念や制度、歴史について知ると共に社会福祉と個人並びに社会生活との関連について理解する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：授業の説明、アンケート、社会福祉とは									
2. 日本における社会福祉の歴史と発展									
3. 諸外国における社会福祉の歴史									
4. 社会福祉のニーズとは									
5. 社会福祉に携わる専門職									
6. 社会福祉援助技術									
7. 諸外国における社会福祉の現状とその制度（VTR）									
8. 障害者福祉・身体障害者補助犬法									
9. 高齢者福祉									
10. 児童福祉									
11. 子どもの権利条約									
12. 貧困問題と社会福祉									
13. ボランティア									
14. これからの社会福祉									
15. まとめ									
16. 試験									
事前学習		該当する内容あるいはキーワードについて、関連する書籍や資料をもとに予め調べておくこと。							
事後学習		講義で扱った内容は必ず復習し、配布プリントを中心に理解を深めること。							
履修上の注意		講義毎のテーマに関連した文献や資料を熟読し、参考にする。							
成績評価の方法・基準		受講態度：ミニットペーパー等への記入・提出（50%）、筆記試験（50%）。原則として追・再試験は行わない。							
教科書		授業前にプリントを配布する。							
参考書		なし							

式業科目		地域文化論				担当者		栗原 伸一郎	
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専1年
授業の概要									
現在私たちが生活している仙台や東北といった地域の形成過程や、江戸時代の仙台人が認識した「日本」内外の政治・社会・文化について検討する。また、地域歴史・文化を次代に継承していく方法について考える。									
授業の目標(到達目標)									
① 地域の歴史・に文化ついて関心を持ち、理解を深める。									
② 地域の歴史・文化を次代に継承していく活動について関心を持ち、理解を深める。									
③ 自己や他者が立脚する地域の有り様を再発見する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス～講義の概要～									
2. 仙台の歴史・文化①伊達正宗と仙台城									
3. 仙台の歴史・文化②城下町・仙台									
4. 仙台の歴史・文化③杜の都・仙台									
5. 仙台藩士の異文化体験①江戸～蝦夷地									
6. 仙台藩士の異文化体験②蝦夷地～アメリカ									
7. 仙台藩士の異文化体験③アメリカ～中国									
8. 仙台藩士の異文化体験④アメリカと日本									
9. 可変的な地域①仙台									
10. 可変的な地域②東北									
11. 地域の歴史・文化を伝える①歴史・文化を伝えるもの									
12. 地域の歴史・文化を仕える②NPOと資料保存									
13. 地域の歴史・文化を伝える③災害と資料保存									
14. 地域の歴史・文化を伝える④公文書と資料保存									
15. 地域と総括～地域の歴史・文化を考える～									
16. 試験									
事前学習		関心がある仙台や東北の歴史に関する書籍に目を通しておくこと。							
事後学習		配布した資料を再読し、講義で紹介した参考書を読むこと。							
履修上の注意		歴史Ⅰと歴史Ⅱは、この講義と関連し、理解する上で参考になる。講義の進展によっては、内容を一部変更する場合がある。							
成績評価の方法・基準		平常点（授業への参加状況、毎回記入するコメントペーパーの内容）30％ 定期試験（論述形式、課題は事前に公表する）70％							
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	講義中に紹介する。								

授業科目	服飾文化論					担当者	小野寺 美和		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専2年
授業の概要									
古代から現代の西洋の服飾の歴史について図像史料を中心に説明する。歴史的な美術工芸品や、そこに描かれた人物描写を観察し、過去の人々が造形した装いの成り立ちについて説明する。									
授業の目標(到達目標)									
西洋世界における文化と衣服の歴史を学ぶ。世界で活躍しているデザイナーとその作品を知る。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション, 衣服の起源									
2. 古代 (オリエント・ギリシャ・ローマ)									
3. 中世 (5世紀～10世紀の服飾・11世紀～12世紀の服飾・13世紀～15世紀の服飾)									
4. 16世紀の服飾 (スペインの服飾・フランスの服飾・イギリスの服飾)									
5. 17世紀 (前半と後半の服飾), 18世紀 (ルイ 15 世・ルイ 16 世の服飾)									
6. フランス革命後から第一帝政時代の服飾 (1789 年～1814 年)									
7. フランス王政復古から七月王制, 第二帝政時代とクリノリンスタイル									
8. 第三共和制時代とバウンススタイル, ベル・エポック, アール・ヌーボーと S 字形シルエット									
9. 19 世紀中期以降の男性服, ヘアファッション									
10. 20 世紀の服飾 (アール・ヌーボーとジャポニスム・ポール・ボワレ・オートクチュール)									
11. 第一次世界大戦後の欧米諸国 (1914 年～1920 年代) と第二次世界大戦突入 (1930 年～1945 年)									
12. 第二次世界大戦後 (戦後復興と大量消費時代 1945 年～1950 年), 若者の時代 (1960 年代)									
13. ヴェトナム戦争後・中東危機 (1970 年代), バブル経済・ベルリンの壁崩壊 (1980 年代)									
14. 20 世紀末の服飾 (1990 年代)									
15. 21 世紀の服飾 (2000 年代)									
事前学習		授業で学習する範囲について教科書を読んで予習しておくこと。							
事後学習		毎回,講義のはじめと終わりに簡単な小テストを行うので十分に復習しておくこと。							
履修上の注意		2 回に 1 回は課題を作成 (計 7 回) する。							
成績評価の方法・基準		小テスト (60%) レポート (20%) ノート提出 (20%) (必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としない。)							
教科書	〔文化ファッション体系服飾関連講座⑩改訂版・西洋服装史〕〔文化出版局〕〔2,550 円〕								
参考書	使用せず								

授業科目	被服学					担当者	小野寺 美和		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服専1年
授業の概要									
我々にとって日常生活で着用する衣服は,最も身近な環境であり,人間の「第二の皮膚」とも言われている。衣服の着心地や快適性は,着衣したときにはじめて評価される。環境に配慮した望ましい衣生活の在り方について説明する。									
授業の目標(到達目標)									
衣服の構造原理を学び,衣服の機能・素材・管理・消費などについて理解する。 本授業で習得した知識について実践する力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション・・・人はなぜ衣服を着用するのか									
2. 衣服と生活の関係・・・被服の起源,着装の形態									
3. 衣服の素材・・・天然繊維									
4. 衣服の素材・・・化学繊維									
5. 衣服の素材・・・新素材の性能・繊維の加工技術									
6. 着衣する人体①・・・着心地と快適性									
7. 着衣する人体②・・・衣服による皮膚障害と安全性									
8. 衣服の管理①・・・洗濯と洗剤・漂白剤									
9. 衣服の管理②・・・衣類の整理・保管									
10. 衣服と消費①・・・アパレル製品の選択と表示									
11. 衣服と消費②・・・衣服製造・消費行動の実態									
12. 衣服と環境①・・・衣生活の現状と環境保全									
13. 衣服と環境②・・・ユニバーサルデザイン・省エネ・災害への対策									
14. 被服の生産・・・衣服のリユースとリサイクル									
15. 最新の技術・・・衣服における最先端の技術の紹介									
事前学習		予め教科書を読んでおくこと。							
事後学習		学んだことを日常生活の中で生かし実践する。							
履修上の注意		講義には教科書を使用する他、適宜プリントを配布する。 理解を深めるため,レポートを課す。							
成績評価の方法・基準		小テスト（60％）レポート（20％）ノート提出（20％） （必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としない。）							
教科書	〔消費者の視点からの衣生活概論〕〔井上書院〕〔1,800 円〕								
参考書	使用せず								

授業科目	色彩学					担当者	小野寺 美和		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服専2年
授業の概要 色彩の基本的な理論を講義する。									
授業の目標(到達目標) 6月に行われる AFT 色彩能力検定3級合格の実力をつけることを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. 光と色・色彩心理									
2. 色の表示①（色の分類と三属性）（PCCS）言葉による色表示）									
3. 色彩効果と生活・ファッションと色彩									
4. インテリアと色彩・色の見え方と色覚の仕組み									
5. 色彩調和①（理論編：配色の基本的な考え方：色相から配色を考える）									
6. 色彩調和②（理論編：トーンから配色を考える, 配色の基本的な技法）									
7. AFT の色彩能力検定3級の試験対策（配色問題の対策）									
8. AFT の色彩能力検定3級の試験対策（色彩理論問題の対策）									
9. さまざまな色覚タイプや高齢者の色の見え方									
10. 色彩調和③（配色カード演習：PCCS 色相環）									
11. 色彩調和④（配色カード演習：色相から配色を考える）									
12. 色彩調和⑤（配色カード演習：トーンから配色を考える）									
13. 色彩調和⑥（配色カード演習：配色の基本的な技法）									
14. 色彩の効果									
15. 色彩の応用									
事前学習	毎回講義の前に教科書を熟読してくる。								
事後学習	毎回配布する練習問題のプリントを十分に学習してくる。								
履修上の注意	6月に行われる AFT の色彩能力検定3級を必ず受験すること。 準備として, 配色カードを購入する。								
成績評価の方法・基準	色彩能力検定試験の結果（80%）ノート提出（20%） （必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としない。）								
教科書	〔色彩能力検定対策テキスト3級編〕〔(社) 全国服飾教育連合会〕〔2,835 円〕								
参考書	使用せず								

授業科目	服飾史 I					担当者	小野寺 美和		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服専 2 年
授業の概要									
古代から現代の西洋の服飾の歴史について図像史料を中心に説明する。歴史的な美術工芸品や、そこに描かれた人物描写を観察し、過去の人々が造形した装いの成り立ちについて説明する。									
授業の目標(到達目標)									
衣服は,社会・経済・伝統・科学技術・環境など多面的な要素に影響されている。 服飾変遷の様相を実物遺品、図像、文献資料などを検討しながら考えられるようにする。									
授業計画及び内容									
1. 衣服の起源と衣服の基本形態とエジプト・クレタの服飾形態									
2. 古代メソポタミア・古代ローマの服飾形態と,ビザンチン帝国と服飾形態 ビザンチン美術									
3. 中世西ヨーロッパと服飾形態 (1) ロマネスク時代 (2) ゴシック時代									
4. 男性の衣服の成立と発展 二部式衣服の成立 男性の背広の携帯									
5. 盛期ルネサンス時代 スペインモードの特色とバロック・ロココ様式 宮廷衣装									
6. フランス革命期の服飾 マリーアントワネット ナポレオンの戴冠式									
7. モードのジャポニズムと,西洋ヘアファッションの流れ									
8. バスルと腰枠 クリノリンドレス									
9. 近代の服飾 イギリス服飾とダンディズム									
10. 近代の服飾 オートクチュールとデザイナー・プレタポルテ									
11. 第一次世界大戦の服飾形態 ココ・シャネル ポール・ポワレ, ヴィオネ									
12. 第二次世界大戦後から現代までの服飾形態									
13. 21 世紀（現代を彩るファッション） 新世紀の服飾とファストファッションの誕生									
14. 21 世紀（現代を彩るファッション） 現在活躍しているデザイナー									
15. 21 世紀（現代を彩るファッション） 世界が注目する日本									
事前学習		授業で学習する範囲について教科書を読んで予習しておくこと。							
事後学習		毎回,講義のはじめと終わりに簡単な小テストを行うので十分に復習しておくこと。							
履修上の注意		2 回に一回は課題を作成（計 7 回）する。 出欠状況などが悪い場合はマイナスの評価をする。							
成績評価の方法・基準		小テスト（60％）レポート（20％）ノート提出（20％） （必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としない。）							
教科書	〔世界服飾史のすべてがわかる本〕〔ナツメ社〕〔2,000 円〕								
参考書	〔カラー版 世界服飾史〕〔美術出版社〕〔価格〕								

授業科目		服飾史Ⅱ				担当者		川又 勝子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専2年	
授業の概要										
縄文時代から現代までの日本人の生活と服飾の変遷について、服飾関連資料だけでなく、絵画・彫刻・文学・法令等と関連付けて読み取りながら、それぞれの時代の日本人の装いについて概説する。また、歴史資料や服飾関連資料を目にするために、博物館・美術館・図書館における研修を随時取り入れる。										
授業の目標(到達目標)										
日本人の生活と服飾の変遷について学ぶことで、日本文化について理解を深める。また、服飾にかかわる図像資料や文字資料について考察できる能力を身につける。										
授業計画及び内容										
1. オリエンテーション										
2. 縄文～弥生時代の服飾										
3. 古墳～飛鳥時代の服飾										
4. 学外研修：博物館・美術館等での研修										
5. 奈良時代の服飾										
6. 平安時代の服飾										
7. 中世の服飾1：小袖の変遷										
8. 中世の服飾2：加飾技法（図書館での研修を含む）										
9. 学外研修：博物館・美術館等での研修										
10. 近世の服飾1：安土桃山時代～江戸初期まで										
11. 近世の服飾2：町人の服飾										
12. 近世の服飾3：身分と美意識										
13. 近世の服飾4：加飾技法と文様の変遷（図書館での研修を含む）										
14. 本学資料室での研修										
15. 近代の服飾：きものの移り変わりと女性の洋装化										
事前学習		高校までに学んだ日本史の知識を復習しておくとう理解しやすいと思われます。また、普段からテレビや雑誌などを通して、日本人の装いに興味を持ってください。								
事後学習		本講義の理解を深めるために、文献やwebサイトを参考にしながら、その都度ノート整理することをお勧めします。学外研修や課題調査のレポートも同様です。								
履修上の注意		遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。学外研修の費用は各自で負担していただきます。								
成績評価の方法・基準		提出物による評価を55%、受講状況(ミニットペーパー)を45%として評価します。								
教科書	〔図説着物の歴史〕〔橋本澄子〕〔河出書房新社〕〔1,944円〕									
参考書	その都度指示します									

授業科目		被服機構・衛生学				担当者		水野 一枝		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専1年	
授業の概要										
最も身近である衣服は、人間の健康と深く関わっていることを理解させ、安全で快適・機能的な衣服の条件や特性、健康な衣生活のあり方について教授する。										
授業の目標(到達目標)										
人間本来の生理機能、形態、運動機能を理解し、健康という視点から衣服を捉えることをねらいとする。また、健康的な衣服の選択や着用方法に関する知識を習得し、実生活においても実践できることを目標とする。										
授業計画及び内容										
1. ヒトと環境を結ぶ衣服										
2. 環境に関わる条件とその測定方法										
3. ヒトの体温調節										
4. 衣環境の調節に関わる素材										
5. 着衣を通しての熱や水分の移動										
6. 寒冷・暑熱環境と衣服										
7. 衣服を着るヒトの構造と動き										
8. 衣服の運動快適性										
9. 身体に影響を及ぼす衣服圧										
10. 皮膚の機能と衣服										
11. 乳幼児の衣服										
12. 学童の衣服										
13. 高齢者の衣服										
14. 睡眠環境と衣服										
15. まとめの講義										
16. 試験										
事前学習		前回までの講義内容を復習しておく。教科書を事前に読んでおく。								
事後学習		講義資料に記載されている用語、内容を講義ノート、教科書、参考書を参照してまとめ、確認する。								
履修上の注意		出席すること。私語厳禁。配布された講義資料を毎回持参すること。								
成績評価の方法・基準		講義の節目に小課題を提出し、試験を行う予定である。試験結果 70%、小課題 10%、事前・事後学習を含む授業姿勢 20%で評価する。								
教科書	〔快適服の時代〕〔編著斉藤秀子、呑山委佐子〕〔おうふう〕〔2,600 円〕									
参考書	〔アパレルと健康〕〔日本家政学会被服衛生学部会(編集)〕〔井上書院〕〔2,400 円〕									

授業科目	スタートアップソーイング				担当者	川又 勝子・井上 美紀				
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	前期	対象	服専1年	
授業の概要										
これから4年間かけて学ぶ服飾文化に関する学習や、各自の自主的製作に役立つ基礎的事項について教授する。手縫いとミシン縫いの基礎、布地や糸の性質等について取り上げる。										
授業の目標(到達目標)										
服飾文化専攻での学習に不可欠な基本的な技術を身に付けることができ、さらに今後の学習や自主的な被服製作に役立てられるようにする。										
授業計画及び内容										
1. オリエンテーション：被服製作の基礎知識（川又・井上）										
2. 手縫いの基礎：糸の種類縫い合わせ方（川又）										
3. 〃 ：縫い代の始末（川又）										
4. 〃 ：留め具の付け方（川又）										
5. ミシン縫いの基礎：直線ミシンの使い方（川又）										
6. 〃 ：ロックミシンの使い方（川又）										
7. 布地の選び方：学外研修を含む（川又・井上）										
8. 課題制作：地直し、標付けと裁断（川又）										
9. 〃 ：手縫いの基礎を応用した製作（川又）										
10. 〃 ：ミシン縫いの基礎を応用した製作1（川又）										
11. 〃 ：ミシン縫いの基礎を応用した製作1（川又）										
12. 〃 ：バイアステープの使い方、仕上げ（川又）										
13. 被服製作と被服材料：衣服に使われる材料について（井上）										
14. 〃 ：被服材料の性質を比較する方法（井上）										
15. 授業のまとめ（川又・井上）										
事前学習	高校までの家庭科教科書の被服分野を見返しておくこと、理解しやすくなります。									
事後学習	基礎を習得するためには、反復練習が必要です。遅れが生じた場合は、各自次回までに追いついておくこと。									
履修上の注意	遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。実習費500円。									
成績評価の方法・基準	提出物40%、小テスト10%、受講状況(ミニットペーパー)を50%として評価します。									
教科書	〔服飾造形の基礎〕〔文化服装学院 編〕〔文化学園教科書出版部〕〔2,754円〕									
参考書	〔FASHION DESIGN BASICS〕〔R. Sorger & J. Udale〕〔ピー・エヌ・エヌ新社〕〔3,990円〕									

授業科目	被服造形基礎・パターンメイキングⅠ					担当者	藤川 幸子		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服専1年
授業の概要 目的とする服作りのため基礎となる原型作図。作図方法、パターンを教授する。									
授業の目標(到達目標) 身体各部の寸法を基に、作図の基礎となる原型、各種パターンの基礎作成を学び目的とする服作りのための基礎知識を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 基礎用具としてのミシンの取り扱いと調整（家庭用・職業用・ロックミシン）									
2. 文化服装学院女子学生参考寸法（計測項目・標準値）原型について、各部の名称									
3. 衣服製作の人体計測（計測項目・標準値） 1・計測姿勢 2・計測の着衣 3・計測方法									
4. 原型平面作図（9AR 女子原型）パターン作図 1・基礎線の引き方 後ろ身頃									
5. 2・ 〃 前身頃・袖									
6. 3・輪郭線									
7. 原型平面作図（各自原型）パターン作図 後ろ身頃									
8. 〃 前身頃・袖									
9. 輪郭線									
10. 文化服装学院男子学生参考寸法 各部の名称 男子原型作図（各寸法の早見表・参考）									
11. 1. 男子原型作図 基礎線の引き方 後ろ身頃									
12. 前身頃・輪郭線									
13. ファスナーの部分縫い フラットファスナー									
14. コンシールファスナー （部分縫い提出）									
15. 後期に向けて講義									
事前学習	日頃から服装に関する身近な作品に関心を持つ。								
事後学習	配布された資料を理解し、次回の授業に役立つ用に目を通しておく。								
履修上の注意	解らない点は積極的に質問し、各自取り込む。								
成績評価の方法・基準	課題作品（70%） 出席を含む日常の課題に対する取り組み方（30%）								
教科書	〔文化ファッション大系改訂版・服飾造形講座①服飾造形基礎〕〔文化服装学院編〕〔学校法人文化学園 文化出版局〕〔2,010 円〕 〔文化ファッション大系改訂版・服飾造形講座⑨メンズウェアⅠ〕〔文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔2,010 円〕								
参考書	授業前プリントを配布								

授業科目	被服造形基礎・パターンメイキングⅡ					担当者	藤川 幸子		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専1年
授業の概要									
パターンメイキングとその基礎となる方法と、縫製の実習を通し技術を教授する。									
授業の目標(到達目標)									
日常の衣服に感心を持ち、衣服の基本的な造形を知り、製作出来る能力・専門的知識を学び技術を身につける。									
授業計画及び内容									
1. スカートパターン作図 基本型 タイтスカート・セミタイトスカート									
2. 基本線の引き方 3点パターンを作引く。ゴアードスカート									
3. 後ろ身頃・前身頃・ベルト									
4. 用布の見積もり方 素材について									
5. 裁断 地直し・パターンの配列・裁断(裁ち合わせ)・縫い代の付け方									
6. 印付け									
7. 組立 仮縫い合わせ・試着(補正)									
8. 本縫い ダーツ(パーツの縫い合わせ)・ロックミシン									
9. 左脇(ファスナー付け)・ロックミシン									
10. 右脇を縫う・ロックミシン・裾ロックミシン									
11. ウエストベルトの準備									
12. 部分縫い ウエスト・裾まつり・ホック付け									
13. まつり 裾・ベルト・ホック付け									
14. まとめ仕上げ									
15. 仕上げアイロン 完成 提出									
事前学習		日頃から服装に関する身近な作品の素材・柄にと仕上がり方に感心を持つ。							
事後学習		疑問点は解決するように心がける。							
履修上の注意		解らない点は積極的に質問し、各自取り込む。							
成績評価の方法・基準		課題作品 (70%) 出席を含む日常の課題に対する取り組み方 (30%)							
教科書		〔文化ファッション大系改訂版・服飾造形講座②スカート・パンツ〕〔文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔1,362 円〕							
参考書		授業前プリントを配布							

授業科目	被服造形実習Ⅰ					担当者	藤川 幸子		
単位数	1	必・選	選	授業形式	実習	開講期	前期	対象	服専2年
授業の概要									
平面による作図、縫製の実習を通して衣服製作をし、副素材の扱い方を教授し、立体的に作り出す、総合的な知識と縫製技術の扱い方を習得させる。									
授業の目標(到達目標)									
衣服を製作する上で、技術の習得を目的とし、立体的に作り出す技術を深く理解し、製作出来る基礎を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ブラウスアイテム（講義）ブラウスパターンの書き方									
2. 原型のダーツ操作により展開									
3. パターン作図 前身頃・後身頃作図									
4. " 袖作図 布地の見積もり説明									
5. 裁断 地直し・パターンの配列・裁断(裁ち合わせ)・縫い代の付け方(実習と共に講義)									
6. 付属の説明及び扱い方 接着芯の扱い									
7. 印付き説明・組み立て・補正									
8. 縫製工程 ダーツを縫う・ポケット作る・(ポケットを付ける)肩縫い合わせ									
9. 衿作る									
10. 衿付け									
11. 左・右・脇を縫い合わせ									
12. 裾上げ									
13. 袖作り・袖付け									
14. ボタンホール部分縫い ボタンホール・ボタン付け									
15. 仕上げ、提出									
事前学習	日頃から服装に関する身近な作品に関心を持つ。								
事後学習	配布された資料を理解し、次回の授業に役立つように目を通しておく。								
履修上の注意	積極的に質問し、疑問点は解決するよう心がける。								
成績評価の方法・基準	課題作品（70％） 日常の課題に対する取り組み方（30％）								
教科書	〔文化ファッション大系改訂版・服飾造形講座③ブラウス・ワンピース〕〔文化服装学院編〕〔学校法人文化学園 文化出版局〕〔1,362 円〕								
参考書	プリント参考								

授業科目	被服造形実習Ⅱ					担当者	藤川 幸子		
単位数	1	必・選	選	授業形式	実習	開講期	後期	対象	服専2年
授業の概要 被服製作をする上で、副素材（裏地）の扱い方を教授する。また、パンツとスカートの作図の違いを学び、割り出し方、作図法が異なる学習させる。									
授業の目標(到達目標) 縫製の実習と被服に関する総合的な知識向上を目的とする。より良い製作を目的とし、自ら正しい衣服を選ぶことが出来るようにする。									
授業計画及び内容									
1. スカート	各自パターン作図・用布の見積もり方								
2. 裁断	地直し・パターンの配列・縫い代の説明								
3. 組立	印付け・組立・補正								
4. //	仮縫い・試着・(補正)								
5. 本縫い	ダーツ・パーツの縫い合わせ・ロックミシン								
6.	右脇ミシン・ファスナー付け・左脇ミシン・裾上げ								
7. 裏地の裁断	地直し・パターンの配列・縫い代の説明・印付け								
8.	ダーツ・パーツの縫い合わせる、両脇ロックミシン・裾上げ								
9.	表地・裏地を合わせる、ファスナー部分の始末								
10.	ベルト付け(ウェスト。裾の始末)								
11. 仕上げ、提出	スナップ(板金製ホック)付け								
12.	パンツのパターン作図の説明								
13. パンツの作図	パンツのパターンの引き方講義								
14.	前身頃パターン作図								
15.	後ろ身頃パターン作図・ベルトの作図								
事前学習	日頃から服装に関する身近な作品に関心を持つ。								
事後学習	配布された資料を理解し、次回の授業に役立つように目を通しておく。								
履修上の注意	積極的に質問し、疑問点は解決するよう心がける。								
成績評価の方法・基準	課題作品（70％） 日常の課題に対する取り組み方（30％）								
教科書	〔文化ファッション大系改訂版・服飾造形講座②スカート・パンツ〕〔文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔1,362 円〕								
参考書	プリント参考								

授業科目		被服造形実習Ⅲ				担当者		藤川 幸子	
単位数	2	必・選	選	授業形式	実習	開講期	通年	対象	服専3年
授業の概要									
体型の特徴や動きを知り、平面の布で形（シルエット）が作られる過程を教授する。布の特徴を実習を通し服作りを学び習得させる。									
授業の目標(到達目標)									
日常生活で常に着用する衣服製作を目的とする。着心地のよい服作りを目的とし、平面の布を立体的に体に合わせ作り上げる。作品の着用目的と縫製の実習を通し、技術を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ジャケットのアイテム					16. ポケットを前身頃につける				
2. ジャケットのデザインと作図					17. 裏地の裁断(7と同じ)				
3. 実寸 パターン作図(後・前)					18. 見返し・裏の縫い合わせ				
4. パターン作図(衿・袖)					19. 表・裏・肩合わせ				
5. パターン作図(輪郭線)					20. 衿付け・表地、裏地につける				
6. 布地の見積もり ジャケットに適する素材					21. 衿外回り・前端を縫う				
7. 地直し・パターンの配列・縫い代・裁断					22. 衿の中とじ・脇縫い・脇中とじ				
8. 芯裁断・芯地張り					23. 裾上げ・裏地のしまつ				
9. 印付け・組立					24. 袖・袖裏中とじ・袖口始末				
10. 試着・補正					25. 袖付け				
11. 本縫い（縫い方の、手順の説明）					26. 袖山布肩パット付け				
12. パーツの縫い合わせ（後ろ・前）					27. 裏袖ぐし、袖ぐり始末				
13. ポケット部分縫い3点 パッチポケット					28. ステッチミシン(布ホール部分縫い)				
14. 箱ポケット					29. ボタンホール・ボタン付け				
15. フラップポケット					30. 完成 仕上げ・提出				
事前学習		日常生活の洋服に関心を持ち、いろいろの面で意識的に観察をする。							
事後学習		進路に遅れがある場合は、遅れを取り戻すように努力する。							
履修上の注意		積極的に質問し、疑問点は解決するよう心がける。							
成績評価の方法・基準		課題作品（70%） 日常の課題に対する取り組み方（30%）							
教科書	〔文化ファッション大系改訂版・服飾造形講座④ジャケット・ベスト〕〔学校法人文化学園 文化出版局〕〔1,836 円〕								
参考書	文化学園大学講座服装造形学技術編Ⅱ								

授業科目	ドレーピング				担当者	小野寺 美和			
単位数	1	必・選	選	授業形式	集中講義	開講期	後期	対象	服専3年
授業の概要									
ドレーピング（立体裁断）は,人体模型であるボディーに直接生地を沿わせることで,衣服をデザインします。本講座は,生地の特性と身体の形状を把握し,ドレーピングの基本技術を身に付け,衣服造形を行います。									
授業の目標(到達目標)									
ドレーピングの基礎の技術を修得する。 運動量とバランスの関係を理解し,パターンメイキングに繋がられるようにする。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション（持ち物・授業の進め方・授業の目標・評価方法）									
2. 身頃原型のドレーピング									
3. 身頃原型（シーチングのトレースと組み直し,原型完成）									
4. スカート原型のドレーピング（前身頃と後身頃）									
5. スカート原型（シーチングのトレースと組み直し,原型完成）									
6. フレアースカートのドレーピング（前後見頃）									
7. 袖（平面で作成して見頃に付ける）と衿（フラットカラー・スタンドカラー）									
8. 自由課題作成									
9.									
10.									
11.									
12.									
13.									
事前学習	身の周りにある物体の形を意識的に観察し,写真や画像収集を行うこと。								
事後学習	一人一台,裁断用ボディー1/2 を与え,立体裁断を行うので各自で何回も練習しておくこと。								
履修上の注意	初回の講義で説明する履修上の注意を厳守すること。								
成績評価の方法・基準	レポート（50%） 課題（50%）〔必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としない〕								
教科書	〔文化ファッション体系アパレル生産講座 3/立体裁断/基礎編〕〔文化出版局〕〔2,754 円〕								
参考書	使用せず								

授業科目	被服平面造形学					担当者	川又 勝子		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専1年
授業の概要 日本人の服装の変遷や和服にはどのような種類があるのかなど、和服の基本的な知識について概説する。さらに、小裁単衣長着(産着仕立て)の制作を通して、和服縫製の基礎技術を教授する。									
授業の目標(到達目標) 江戸時代に完成され、現代に受け継がれ着用されている和服について理解を深める。①和服の歴史と現状、②和服構成の基本、③和裁用具と布地、④基本的な縫製技術等、和服の知識と縫製技術の初歩を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：授業の進め方について、手縫い服の特徴と運針について									
2. 和服の基礎知識：日本人の服装の変遷と和服の分類									
3. " ：伝統的な和服地とその産地、着装と季節									
4. 和服の構成と製作の基礎：運針、構成・材料・採寸 裁ち切り平面図・折り積り図 地直し									
5. " ：子供の和服の種類と特徴（折り積り、裁断）									
6. " ：和服の袖各種（袖標、袖縫い）									
7. " ：身頃の特徴と肩当て・居敷当ての役割（身頃標、肩当て・居敷当て）									
8. " ：衽の役割（衽標、衽下始末）									
9. " ：衽の構成（衽付け、衽縫い代の始末）									
10. " ：衿の種類各種と共衿の役割（衿・共衿、衿先）									
11. " ：紵けることの利点（衿本紵け、脇縫いと耳紵け）									
12. " ：単衣物の構成と縫い代の始末 1（脇縫い代始末）									
13. " ： " 2（裾揚げ、裓角）									
14. " ： " 3（袖付け 袖縫い代）									
15. " ：新生児用の産着の特徴（紐作り、紐付け）									
事前学習		日常生活で和服を目にする機会があった時には、形や模様などに興味を持ってよくご覧になってください。							
事後学習		宿題がある場合や、時間内に進められなかった箇所は必ず次回までに行ってください。配布プリントもきちんとまとめてください。							
履修上の注意		遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。実習費として3,000円程度を徴収します。							
成績評価の方法・基準		提出物(55%)、受講状況(ミニットペーパー 45%)で評価します。							
教科書	〔和裁〕〔斎藤輝子・細目しげ子・大塚静子共著〕〔東北生活文化大学三島学園女子短期大学和裁研究室〕								
参考書	なし								

授業科目		被服平面造形実習Ⅰ				担当者		川又 勝子		
単位数	1	必・選	選	授業形式	実習	開講期	前期	対象	服専2年	
授業の概要										
被服平面造形学で学んだ和服についての知識(各部の名称、和服の種類等)と手縫いの基礎技術を発展させて、大裁女子単衣長着の製作方法を指導する。また、最終回には着装実習を行う。										
授業の目標(到達目標)										
大裁女子単衣長着(ゆかた)製作実習を通して、①和服の基本的な知識、②女子用和服の構成、③和服裁縫などの基礎知識・技術を身に付け、日本の伝統的衣服「きもの」についての理解を深める。										
授業計画及び内容										
1. 大裁女子単衣長着：基礎学習（構成・材料・採寸）										
2. " : 裁ち切り平面図・折り積り図の作成、丸み型紙作り										
3. " : 柄合わせ、折り積り、裁断										
4. " : 袖の標付け、袖縫い、袖口留め										
5. " : 袂丸み、袖の始末と飾り襷										
6. " : 身頃の標付け、背縫い、肩当て作り										
7. " : 衽の標付け、衿下三つ折り紵付け、肩当て付け、居敷当て作り										
8. " : 居敷当て付け、衽付け、衽縫い代の始末										
9. " : 衿・共衿付け準備、衿付け										
10. " : 三つ衿芯、衿先、衿紵付け										
11. " : 共衿掛け、脇縫い										
12. " : 脇縫い代始末、袷角作り										
13. " : 裾の始末、袖付け										
14. " : 袖縫い代の始末、肩当ての始末										
15. " : 仕上げと着装										
事前学習		受講生の進度によりシラバス内容が前後する事がありますが、毎回事前に被服平面造形学(1 年次)のノートで類似箇所を復習しておくと思えます。								
事後学習		宿題がある場合や、時間内に進められなかった箇所は必ず次回までに行ってください。配布プリントもきちんとまとめてください。								
履修上の注意		遅反物・糸・針等については、初回に説明するので従ってください。								
成績評価の方法・基準		提出物(55%)、受講状況(ミニットペーパー 45%)で評価します。								
教科書	〔和裁〕〔斎藤輝子・細目しげ子・大塚静子共著〕〔東北生活文化大学三島学園女子短期大学和裁研究室〕									
参考書	なし									

授業科目	被服平面造形実習Ⅱ				担当者	川又 勝子			
単位数	1	必・選	選	授業形式	実習	開講期	後期	対象	服専2年
授業の概要 前期に習得した基礎技術をもとに、大裁男子単衣長着の製作を指導する。男子用和服の知識(各部の名称、女子用との相違点等)について実習を通して理解させる。									
授業の目標(到達目標) 大裁男子単衣長着を製作することで、①男子用和服の構成、②素材に適した仕立て方の違いなどについて学び、「きもの」に関する知識と技術を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 大裁男子単衣長着：基礎学習(構成・材料・採寸)、裁ち切り平面図・折り積り図の作成									
2. " : 裁ち切り平面図・折り積り図の作成、裁断									
3. " : 袖の標付け、袖縫い、袖口留め									
4. " : 袂丸み、人形、袖口の始末									
5. " : 後身頃・内揚げの標付け									
6. " : 前身頃・衽の標付け、衿下三つ折り紵け									
7. " : 背縫い、内揚げ縫い									
8. " : 肩当て作り、肩当て付け、居敷当て付け									
9. " : 衽付け、衽縫い代の始末									
10. " : 衿・共衿付け準備、衿付け、衿先布付け									
11. " : 三つ衿芯、衿先、衿紵け									
12. " : 共衿掛け、脇縫い									
13. " : 脇縫い代始末、裓角作り									
14. " : 裾の始末、袖付け留め、袖付け									
15. " : 袖縫い代の始末、仕上げ									
事前学習	受講生の進度によりシラバス内容が前後する事がありますが、毎回事前に被服平面造形実習Ⅰのノートで類似箇所を復習しておくと、内容を理解しやすくなると思います。								
事後学習	宿題がある場合や、時間内に進められなかった箇所は必ず次回までに行ってください。配布プリントもきちんとまとめてください。								
履修上の注意	被服平面造形実習Ⅰの単位を取得していること。反物・糸・針等については、初回に説明するので従ってください。								
成績評価の方法・基準	提出物(55%)、受講状況(ミニットペーパー 45%)で評価します。								
教科書	〔和裁〕〔斎藤輝子・細目しげ子・大塚静子共著〕〔東北生活文化大学三島学園女子短期大学和裁研究室〕								
参考書	なし								

授業科目	ファッションデザイン					担当者	岡本 はるみ		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専1年
授業の概要									
衣服の必要性和ファッションが果す役割、服飾用語等を教授しアパレルとして生産される為に必要なデザイン画の役割と描き方を指導する。									
授業の目標(到達目標)									
ファッション、おしゃれに関心を持てるようになり、ベーシックプロポーションに衣服を着装させたデザイン画を描く事が出来る。									
授業計画及び内容									
1. ファッションとは?～シャネルからファーストファッションまで～									
2. ベーシックプロポーションの説明<プリント参照>									
3. 〃 レッスン（Ⅰ）									
4. 〃 レッスン（Ⅱ）									
5. 重身移動による軸足について<プリント参照>									
6. シルエットを学ぶ 6体<プリント参照>									
7. 上衣と下衣の考え方とそのデザイン名称<プリント参照>									
8. スカートの描き方 レッスン									
9. デザイン画 <上衣とスカートのデザイン画>イメージマップの作成									
10. プロポーション下描き									
11. 上衣とスカートを着装させる									
12. アウトライン・細部ディテール書き込む									
13. デザイン画完成→作品発表									
14. 服飾デザイン造形の三要素について									
15. ディテール・デザインの名称									
16. 試験									
事前学習		常に衣服のデザインや素材に関心を持つ。							
事後学習		服飾用語を忘れぬようノートをチェックして覚えておく。							
履修上の注意		ノート・作図用具他指示された用具を持参の事。							
成績評価の方法・基準		筆記試験（50%）と提出作品（50%）							
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	なし。								

授業科目	ファッションデザイン画				担当者	岡本 はるみ			
単位数	1	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	服専３年
授業の概要									
シルエット、ディテール、素材、カラーなどのデザイン要素を学び、「今」を表現するのがファッションであり、その手段としてデザイン画がある事を教授し、メッセージ性のあるデザイン画表現を指導する。									
授業の目標(到達目標)									
基本のモデルプロポーションを習得し、インスピレーションを自由に展開してイメージマップ作りからマインドコンセプトを絞り、デザイン画にする行程を習得する。									
授業計画及び内容									
１． プロポーション・ベーシック（Ⅰ）									
２．									

授業科目	アパレル設計・生産論				担当者	小野寺 美和			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服専2年
授業の概要 アパレル設計・生産の基礎的事項,すなわち,衣服の生産工程,衣服設計と人体の構造・機能との関わりなどを教授する。									
授業の目標(到達目標) 衣服の2つの生産工程(注文服と既製服)について,特徴と違いを理解する。また,衣服設計(必要な男女の身体計測・JIS サイズの規格・基礎的な型紙)についても理解し既製服を評価するための知識を得る。									
授業計画及び内容									
1. アパレルの分類と機能・・・機能性・審美性									
2. 人体形態の把握・・・人体の構造・人体計測・人体形態の特徴とアパレル									
3. 人体形態とアパレル設計・・・人体形態と原型・動作と身体状況とアパレル設計									
4. 人体形態とアパレル設計・・・デザインとパターンへの展開									
5. アパレル設計と素材・・・主素材と選定・副資材の選定									
6. アパレルの縫製・・・布地の造形性と可縫製・立体化技法									
7. アパレルの縫製・・・縫い糸と針の関係・手縫いとミシン縫い									
8. アパレルの評価・・・アパレルの評価									
9. アパレルの生産システム・・・全体の流れをDVDで説明									
10. アパレルの生産システム・・・生産の仕組み・生産の流れ・既製衣料サイズ									
11. アパレル設計・・・プロダクトパターン・縫製仕様書									
12. アパレル生産・・・前処理・裁断および裁断パーツ処理・芯貼り									
13. アパレル生産・・・縫い目の種類と用途・縫い合わせの種類と用途									
14. アパレル生産・・・縫製機器と縫製上の問題点・アイロンプレス									
15. アパレル生産の効率化と評価・・・縫製の管理と能率化・製品の評価									
事前学習	授業で学習する範囲について教科書を読んで予習しておくこと。								
事後学習	毎回,講義のはじめと終わりに簡単な小テストを行うので十分に復習しておくこと。								
履修上の注意	講義には教科書を使用する.また適宜プリントを配布する. 理解を深めるため,レポート課題を課す。								
成績評価の方法・基準	小テスト(60%)レポート(20%)ノート提出(20%)(必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としない。)								
教科書	〔アパレル設計・生産論〕〔衣料管理協会〕〔2,300円〕								
参考書	使用せず								

授業科目	アパレル生産実習				担当者	小野寺 美和			
単位数	1	必・選	選	授業形式	実習	開講期	前期	対象	服専3年
授業の概要									
衣服を効率よく生産するには,その製品の生産過程を理解することが必要である。 その概要を説明し,実習を行う。									
授業の目標(到達目標)									
繊維産業の一連の流れを理解し,特に縫製工程と企画設計,アパレル産業について理解を深める。									
授業計画及び内容									
1. 繊維工業の流れ (1) 川上,川中,川下論									
2. 繊維工業の流れ (2) 縫製工程の特色,衣服デザイナーの重要性とその意義									
3. 縫製準備工程 (1) アイロンの温度設定,スチームアイロン,蒸気と適正温度 (二次転移温度)									
4. 縫製工程と仕上げ工程 (1) ミシンの機構									
5. 縫製工程と仕上げ工程 (2) ミシンの機構と様々な縫製方法									
6. 縫製工程と仕上げ工程 (3) ミシンの上糸消費量の設定と適正值,最新式ミシン									
7. 縫製品の欠点の原因と防止 (1) シームカップリング,縫いずれと”笑い”,その他									
8. 企画設計 (1) 衣服のための人体計測 (マルチン法) とゆとり量の計測									
9. 企画設計 (2) タイトスローパーの製作・・・立体的裁断									
10. 企画設計 (3) ドラフティングと型紙補正									
11. 企画設計 (4) 身頃の原型製作・・・立体的裁断									
12. 企画設計 (5) ドラフティングと型紙補正									
13. 企画設計 (6) デザインパターン (身頃のダーツの移動からデザイン展開)									
14. 企画設計 (7) 縫製仕様書の作製方法									
15. 企画設計 (8) 縫製仕様書の作製方法 (グレーディングの方法)									
事前学習	アパレル設計・生産論とアパレル製作入門のテキストを読んでおくこと。								
事後学習	実験・実習ノートを準備し,授業内容をまとめておくこと。								
履修上の注意	実習で使う道具は忘れないこと。								
成績評価の方法・基準	小テスト (60%) レポート (20%) ノート提出 (20%) (必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としない。)								
教科書	〔繊維製品の基礎知識 第2・3部〕〔衣料管理協会〕〔2,300円〕								
参考書	使用せず								

授業科目		アパレル企画設計演習			担当者		小野寺 美和		
単位数	2	必・選	選	授業形式	演習	開講期	通年	対象	服専４年
授業の概要									
アパレルに必要とされるのは、現在の衣生活の中の問題点を見つけ解決方法を探り、再びアパレルとして還元する企画能力である。演習では、企画と設計による被服造形を行う。									
授業の目標(到達目標)									
現代衣生活の問題点を把握し、解決できる能力を身につける。									
授業計画及び内容									
１．オリエンテーション					16. パネルを用いたプレゼンテーション				
２．衣生活の問題点と把握					17. 相互評価				
３．ディスカッション					18. 新たに表出した問題の把握				
４．問題点の整理					19. まとめ				
５．現状調査					20. ユニフォームの企画				
６．問題解決のためのテーマ決定					21. 目的				
７．問題解決のための情報収集					22. 対 象				
８．問題解決の検討					23. 調 査				
９．問題解決に向けた被服製作①目的設定					24. 分 析				
10.									

授業科目	アパレルCAD I				担当者	小野寺 美和			
単位数	1	必・選	必	授業形式	集中講義	開講期	前期	対象	服専2年
授業の概要 多くの企業では、設計や生産工程の効率化を計るために、コンピューター（Computer Aided Design：CAD）を取り入れている。CAD でパターンを作成すると短時間で仕上がる。また以前使用したパターンに必要な情報を加えることで、新たなパターンを簡単に作成することも可能である。そこで CAD ソフトの基本操作を説明する。									
授業の目標(到達目標) CAD ソフトの基本操作を学ぶ。スカートと身頃の原型を短時間で作成するための技術を修得する。									
授業計画及び内容 1. オリエンテーション 2. 基本操作①（パターンマジックの開始・終了、直線、曲線） 3. 基本操作②（コピー・移動、ファイルに保存、印刷） 4. 作図①（身頃の原型作成：新文化式） 5. 作図②（身頃の原型から工業用パターンへと展開する為に必要な情報を加える） 6. 作図③（スカートの原型作成：新文化式） 7. 作図④（スカートの原型から工業用パターンへと展開する為に必要な情報を加える） 8. マーキングについて									
事前学習		各自、原型の書き方を理解しておくこと。							
事後学習		プリントを毎回配布するので、そこに記載されている単語を覚えること。							
履修上の注意		初回の講義で説明する履修上の注意を厳守すること。							
成績評価の方法・基準		小テスト（60％）レポート（20％）課題（20％）（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としない。）							
教科書	使用せず								
参考書	〔CAD Pattern Making1〕〔山本 高美〕〔家政教育社〕〔3,699 円〕								

授業科目		アパレルCADⅡ				担当者		小野寺 美和		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専3年	
授業の概要										
CADソフトの基本操作から応用への活用方法を説明する。身頃原型とスカート原型から（ブラウスやシャツ・ジャケット・スカート・パンツ・ベスト・コート・ドレス）を、さらに帽子・カバン等を、自由に作図する方法を説明する。										
授業の目標(到達目標)										
CADソフトの基本操作を学ぶ。スカートと身頃の原型を短時間で作成するための技術を修得する。様々な形態の型紙を自由自在に作図する為の知識を修得する。										
授業計画及び内容										
1. オリエンテーション										
2. 基本操作の復習（開始・終了, 直線, 曲線, コピー・移動, ファイルに保存, 印刷）										
3. 作図①（身頃の原型作成：新文化式）										
4. 作図②（身頃の原型から工業用パターンへと展開する為に必要な情報を加える）										
5. 作図③（身頃のダーツの展開）										
6. 作図④（身頃のダーツの分散とデザイン展開①）										
7. 作図⑤（身頃のダーツの分散とデザイン展開②）										
8. 作図⑥（身頃の原型からブラウスのパターンへ展開：原型操作と身頃の作図）										
9. 作図⑦（身頃の原型からブラウスのパターンへ展開：身頃の作図）										
10. 作図⑧（ブラウスのパターンから工業用パターンへと展開する為に必要な情報を加える）										
11. 作図⑨（スカートの原型作成と工業用パターンへと展開する為に必要な情報を加える）										
12. 作図⑩（ダーツの展開：原型からフレアスカートとマーメイドスカートのパターンへ）										
13. 作図⑪（自由作図）身頃, スカート, パンツ, コート, 帽子, カバンなどを作図する										
14. 作図⑫（自由作図）⑪で作図した型紙を用いて縫製仕様書を作製する										
15. 作図⑬（自由作図）作図した型紙を 1/2 サイズと実寸で印刷										
事前学習		各自, 原型の書き方を理解しておくこと。								
事後学習		プリントを毎回配布するので, そこに記載されている単語を覚えること。								
履修上の注意		初回の講義で説明する履修上の注意を厳守すること。								
成績評価の方法・基準		小テスト（60％）レポート（20％）課題（20％）（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としない。）								
教科書		使用せず								
参考書		〔CAD Pattern Making1〕〔山本 高美〕〔家政教育社〕〔3,699 円〕								

授業科目		服飾工芸・造形（服飾手芸）Ⅰ				担当者		黒澤 宜子	
単位数	1	必・選	選	授業形式	実習	開講期	前期	対象	服専2年
授業の概要									
基本ステッチで装飾し、ドイリー（敷物）の製作方法を教授する。基本ステッチを活用し、応用作品の製作方法を教授する。									
授業の目標(到達目標)									
刺繍は図案・色彩・材料も異なり、さまざまな手法がある。製作を通して基本ステッチを修得し、活用できるようになる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス、用具と材料、クロスステッチ									
2.	基本ステッチ	①布端の裁ち目かがり、図案を写す/デコパージュ							
3.		②基本ステッチ（8種）							
4.		③基本ステッチ（2種、花2ヶ）							
5.		④基本ステッチ（花4ヶ）							
6.		ドイリー製作	⑤基本ステッチ（花2ヶ）						
7.	ドイリー製作	⑥ヘムステッチ							
8.		⑦ヘムステッチ、応用作品の選定							
9.		⑧かがりステッチ（2種）、アイロン、仕上げ							
10.	応用作品製作	①各自の題材により製作を進める。図案を写す							
11.		②図案をステッチ							
12.		③図案をステッチ							
13.		④図案をステッチ							
14.		⑤図案をステッチ							
15.		⑥アイロン、仕上げ							
事前学習		製作に必要な用具を準備し、進度を確認する。							
事後学習		進度に差が出ないように確認し、取り組む。							
履修上の注意		製作は個人作業となるので、時間外で取り組み作品を完成させる。 材料費 500 円							
成績評価の方法・基準		課題作品（60％）事前・事後学習を含む授業姿勢（40％）							
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	なし								

授業科目	服飾工芸・造形（服飾手芸）Ⅱ					担当者	黒澤 宜子		
単位数	1	必・選	選	授業形式	実習	開講期	後期	対象	服専2年
授業の概要									
ハーダンガーワークで Doyley（敷物）と、かぎ針編みで、コースターの製作方法を教授する。									
授業の目的(到達目標)									
ドローンワーク（糸を引き抜く）と区限刺繍（幾何学的な模様）をミックスしたハーダンガーワークのステッチや技術を習得する。かぎ針編みの製作を通して基本的な編み目記号と編み方を習得し活用できるようになる。									
授業計画及び内容									
1.	ガイダンス、用具と材料、布端の裁ち目かがり、縦横の中心に案内線を入れる								
2.	①クロスターブロックをステッチ（基礎）								
3.	②クロスターブロックをステッチ（短編）								
4.	③クロスターブロックをステッチ（長編）								
5.	④クロスターブロック内側の織糸を切り格子状に抜く								
6.	ハーダンガーワーク⑤ウーブンバーかがり（基礎）								
7.	Doyley製作 ⑥ウーブンバーかがり（短編）								
8.	⑦ウーブンバーかがり（長編）								
9.	⑧縁の仕末（ブランケットステッチ：基礎）								
10.	⑨縁の仕末（ブランケットステッチ：応用）								
11.	⑩外回りの布を切る、アイロン、仕上げ								
12.	①編み目記号と編み方(作り方、鎖編み、引き抜き編み、長編み)								
13.	かぎ針編み ②かぎ針編み（1～4段）								
14.	コースター制作 ③かぎ針編み（5～6段）、糸の始末								
15.	④アイロン、仕上げ								
事前学習	製作に必要な用具を準備し、進度を確認する。								
事後学習	進度に差が出ないように確認し、取り組む。								
履修上の注意	製作は個人作業となるので、時間外で取り組み作品を完成させる。								
成績評価の方法・基準	課題作品（60％）事前・事後学習を含む授業姿勢（40％）								
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	なし								

授業科目		服飾工芸・造形（織物）Ⅲ				担当者	三浦 輝子		
単位数	1	必・選	選	授業形式	実習	開講期	後期	対象	服専4年
授業の概要									
卓上機を使用し、平織、綾織の技法を用いた織物の制作方法を教授する。各自の織計画に基づき、色糸効果を応用した織物を制作する。									
授業の目的(到達目標)									
卓上機の構造と織行程を理解し、色糸を組み合わせ、平織・綾織の技法を用いた織物を制作することができる。									
授業計画及び内容									
1. 授業概要について									
2. 課題1. 色糸効果について 織計画									
3. デザイン設計 色糸の選択 糸量の計算									
4. 整経									
5. 箆通し（順通し・山道通し）									
6. 綜統通し									
7. 織り（下部）									
8. 織り（上部） 仕上げ									
9. 課題2. 応用作品制作 下図作成 色糸の選択									
10. 整経									
11. 箆通し									
12. 綜統通し 張力調整									
13. 織り（下部）									
14. 織り（上部）									
15. 仕上げ									
事前学習		制作に必要な用具を準備する。							
事後学習		授業毎に作業内容を記録しておくこと。							
履修上の注意		織機・道具は丁寧に扱うこと。							
成績評価の方法・基準		提出課題 80%、出席を含む平常点 20%（平常点は制作への取り組み等総合的に判断する。）							
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	〔テキスタイル 表現と技法〕〔田中秀穂〕〔武蔵野美術大学出版局〕〔3,400 円〕								

授業科目	被服繊維学					担当者	菅野 修一		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服専1年
授業の概要									
被服繊維の観点から高分子化学について講述する。繊維の性質や製造法について理解を深めることをとおして、高分子化学に関する学問体系全体の概念に接することに主眼をおく。									
授業の目標(到達目標)									
繊維の分子構造に由来する繊維特性について理解出来るようにする。									
授業計画及び内容									
1. 高分子とは何か：高分子の特徴と分子量									
2. " ：環境と高分子									
3. 高分子鎖のかたち：コンホメーションとコンフィグレーション									
4. 繊維としての高分子化合物									
5. 天然繊維：植物繊維（種子毛繊維）									
6. " ： " （靱皮繊維と葉脈繊維）									
7. " ：動物繊維（繭繊維）									
8. " ： " （獣毛繊維）									
9. 化学繊維：再生繊維・半合成繊維									
10. " ：合成繊維									
11. " ：最新の合成繊維									
12. 高分子の合成：付加重合									
13. " ：重縮合									
14. 高分子の合成反応速度論									
15. 機能性ポリマー：様々な最新のポリマー									
16. 試験									
事前学習		配布プリントに準じて指示する。							
事後学習		小テストの準備。							
履修上の注意		欠席せず、予習・復習をしっかりと行うこと。							
成績評価の方法・基準		毎回行う小テスト 30%・課題レポート 30%・中間試験 40%を総合的に評価する。							
教科書	[繊維製品の基礎知識シリーズ第1部][日本衣料管理協会刊行委員会][日本衣料管理協会][1,800円]								
参考書	適宜紹介する								

授業科目		被服材料学				担当者		菅野 修一		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専1年	
授業の概要										
主にケミストリーの観点から被服材料について論述する。被服材料について科学的に理解を深めることをとおして、科学に関する学問体系全体の概念に接することに主眼をおく。										
授業の目標(到達目標)										
科学、特にケミストリーと被服材料の深いかわりについて認識を深める。具体的には関連する被服材料及び関連物質を化学式で理解し、その特性との因果関係を理解出来るようにする。										
授業計画及び内容										
1. 被服材料としての繊維の歴史										
2. 被服材料としての繊維とは何か										
3. セルロースと植物繊維										
4. タンパク質と動物繊維										
5. 原油と合成繊維										
6. 糸の分類										
7. 糸の製造プロセス										
8. 糸の構造と性質										
9. 織物の分類と製造法										
10. 織物の組織										
11. 織物の構造と性質										
12. 編物の分類と製造法										
13. 編物の組織										
14. 編物の構造と性質										
15. 環境保全の観点からの繊維のリサイクルについて										
16. 試験										
事前学習		配布プリントに準じて指示する。								
事後学習		小テストの準備。								
履修上の注意		一部アクティブラーニングを行うのでグループ内の円滑なコミュニケーションが大切。								
成績評価の方法・基準		毎回行う小テスト 30%・課題レポート 30%・中間試験 40%を総合的に評価する。								
教科書	[繊維製品の基礎知識シリーズ第1部][日本衣料管理協会刊行委員会][日本衣料管理協会][1,800円]									
参考書	必要に応じて紹介									

授業科目		被服繊維学実験				担当者		井上 美紀		
単位数	1	必・選	必	授業形式	実験	開講期	後期	対象	服専1年	
授業の概要										
被服繊維学で学んだ知識について実験を通してさらに理解を深められるように、繊維の鑑別実験や、繊維の製造実験、繊維から織物の制作実験、糸の性能測定を主に教授する。										
授業の目標(到達目標)										
繊維及び高分子の基礎を理解し、主な繊維の鑑別ができるようにする。さらに、繊維の製造方法や測定方法の基本、繊維から織物に至る課程と糸の性質を把握できるようにする。										
授業計画及び内容										
1. はじめに：本実験の概要、実験の進め方、グループ構成、器具の使い方										
2. 溶液調整の練習、安全上の注意、実験レポートの書き方、鑑別実験 1 外観・手触り										
3. 鑑別実験 2 各種試薬に対する溶解性										
4. 鑑別実験 3 顕微鏡による形態観察										
5. 鑑別実験 4 燃焼特性										
6. 鑑別実験 5 染色性・呈色反応										
7. 鑑別実験 6 赤外線吸収スペクトル、鑑別実験のまとめ										
8. ステープルダイヤグラム、繊維の太さの測定										
9. 繊維の製造 1 合成繊維										
10. 繊維の製造 2 天然繊維の取り出し										
11. 糸の製造										
12. 糸の番手・撚り・表示										
13. 織布の制作 1（手織）										
14. 織布の制作 2（織機）										
15. おわりに：実験のまとめ、レポートの整理										
事前学習		次時項目についてテキストと被服繊維学の授業ノートを読み返すこと。								
事後学習		得られた結果をレポートにまとめる。（指定のノートとファイルを使用）								
履修上の注意		安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねる。								
成績評価の方法・基準		実験が終了する毎に提出するレポートを適切にまとめ、考察することに対し50%、事前準備をし、グループで協力しながら実験結果を出すことにに対し50%								
教科書	繊維製品の基礎知識シリーズ 日本衣料管理協会 入学時に購入済み									
参考書	必要に応じて紹介する									

授業科目		被服材料学実験				担当者		井上 美紀		
単位数	1	必・選	必	授業形式	実験	開講期	前期	対象	服専2年	
授業の概要										
被服材料学で学んだ知識について、実験を通してさらに理解を深められるように、繊維の鑑別分析や、被服材料の性能に関わる消費性能試験を主に教授する。外部研修も行う。										
授業の目標(到達目標)										
実験を通して被服材料の性能を十分理解できるようにする。被服材料の種々の性能を把握し、企画設計、縫製や染色加工等の生産、被服整理等の分野に応用できるようにする。										
授業計画及び内容										
1. はじめに：本実験の概要、進め方、グループ構成 織物の基本構造と展開										
2. 織物と編物の基本構造と展開、織機での様々な織布の作製										
3. 織物・編物の構造分析 厚さ・平面重・糸密度・含気率・カバーファクター等										
4. 布の消費性能試験 1 進め方、引張強度・引張伸度										
5. 2 摩擦・破裂強度・引裂強度 消費試験 1～7 は機械の都合上										
6. 3 剪断特性・曲げ剛性 班ごとに試験と進度は異なる。										
7. 4 防しわ性										
8. 5 剛軟性・ドレープ性										
9. 6 通気性・保温性										
10. 7 吸水性・透湿性										
11. 8 データの整理と解析										
12. 布の消費性能と造形 1 試料作成										
13. 2 性能測定、データ解析										
14. テキスタイル工場または研究所での研修 都合で実施できない場合実験に変える										
15. おわりに：本実験のまとめ、レポートの整理										
事前学習		次時の項目についてテキストと被服材料学の授業ノートを見返すこと。								
事後学習		得られた結果をレポートにまとめる。(指定のノートとファイルを使用)								
履修上の注意		安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねる。								
成績評価の方法・基準		実験が終了する毎に提出するレポートを適切にまとめ、考察することに対し 50%、事前準備をし、グループで協力しながら実験結果を出すことにに対し 50%								
教科書	繊維製品の基礎知識シリーズ 日本衣料管理協会 入学時に購入済み									
参考書	必要に応じて紹介する									

授業科目	被服整理学					担当者	井上 美紀		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服専2年
授業の概要									
界面活性剤やビルダーの作用、洗浄理論、洗濯方法、保管について主に教授する。さらに被服の適切な取扱い方法や被服整理の環境との関連性についても触れる。									
授業の目標(到達目標)									
被服の消費段階に行われる被服整理について学び、洗剤の成分と作用についての基礎知識を身に付ける。被服材料の性質を考慮した適切な被服の取扱いを理解できるようにする。									
授業計画及び内容									
1. はじめに：被服整理とは、被服整理の意義、被服の汚れ									
2. 汚れの付着機構、洗浄の型									
3. 洗剤の種類と成分、用途									
4. 界面活性剤の分類、各界面活性剤の製法と作用									
5. ビルダー・添加物の機能									
6. 洗濯用水と影響									
7. 洗浄の理論									
8. 洗浄方式、洗濯機									
9. 漂白・増白									
10. 柔軟加工・糊加工・仕上げ加工									
11. 家庭洗濯の実際									
12. 商業洗濯の分類と方法									
13. 表示									
14. 保存と管理									
15. 被服整理と環境問題、おわりに：本講義のまとめ									
16. 試験									
事前学習		次時の学習範囲に沿って、テキストをよく読んでくること。							
事後学習		ノート、テキスト、プリント、毎時間行う小テストの内容を復習すること。							
履修上の注意		小テストを授業最初と最後・単元毎に行うので振返りを大切にする。							
成績評価の方法・基準		ミニットペーパーと受講態度に対し 50%、試験 50%（持ち込み不可）							
教科書	被服整理学 日本衣料管理協会 1,200 円								
参考書	繊維製品の基礎知識シリーズ 日本衣料管理協会 入学時に購入済み								

授業科目		被服整理学実験				担当者		井上 美紀		
単位数	1	必・選	必	授業形式	実験	開講期	後期	対象	服専2年	
授業の概要										
被服整理学で学んだ理論について実験を通して理解を深められるように、洗剤の主成分である界面活性剤に関する実験、洗浄実験、仕上げ加工実験を主に行う。企業研修も行う。										
授業の目標(到達目標)										
実験を通し、被服の洗浄に関わる理論を理解し、有効な取扱い方法と仕上げ方法を把握して実践できるようにする。さらに、製品に適した取扱い方法を選択し表示に活かすことができるようにする。										
授業計画及び内容										
1. はじめに：本実験の概要、実験上の注意、器具の使い方、汚れの定量										
2. 界面活性剤の製造 1 陰イオン系合成界面活性剤										
3. 界面活性剤の製造 2 石けん洗剤										
4. 界面活性剤の分類と用途										
5. 界面活性剤の性質と汚れの除去作用										
6. 臨界ミセル濃度と表面張力の測定										
7. 洗濯用水の硬度										
8. 洗浄実験 1 洗浄準備、洗浄										
9. 洗浄実験 2 洗浄力の測定、データの整理										
10. 洗浄実験 3 データの解析 漂白実験 1 漂白剤の型の分類										
11. 漂白実験 2 漂白剤の分類と用途、漂白力の測定										
12. 漂白実験 3 漂白と増白の比較 しみ抜き										
13. 商業洗濯 クリーニング工場での研修(仙台市内工場にて) 都合により実施できない場合は実験に変える										
14. 仕上げ加工 糊加工、アイロン仕上げ										
15. おわりに：本実験のまとめ、レポートの整理										
事前学習		次時の項目についてテキストと被服整理学の授業ノートを見返すこと。								
事後学習		得られた結果をレポートにまとめる。(指定のノートとファイルを使用)								
履修上の注意		安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねる。								
成績評価の方法・基準		実験が終了する毎に提出するレポートを適切にまとめ、考察することに対し50%、事前準備をし、グループで協力しながら実験結果を出すことに対し50%								
教科書	被服整理学 日本衣料管理協会 2年前期に購入済み									
参考書	繊維製品の基礎知識シリーズ 日本衣料管理協会 入学時に購入済み									

授業科目		染色加工学				担当者	川又 勝子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専 2 年
授業の概要 殆どの繊維製品には、各種の染色加工が施されているため、染色を中心とした染色加工についての知識が不可欠である。そのため本講義では、染色の理論、染色法、各種仕上げ加工、堅牢性と安全・環境との関わりについて概説する。									
授業の目標(到達目標) 繊維製品に施されている染色を中心とした染色加工についての基礎的な知識(①染色の理論、②染色法、③各種仕上げ加工など)を身につける。さらに、染色物の堅牢度や、染色加工と安全性、環境問題との関連性についても考察できるようにする。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：本講義の概要、染色加工の歴史									
2. 染料とその性質：染料の種類									
3. 〃 ：合成染料の部属とその性質									
4. 〃 ：染料の色と化学構造									
5. 染 色 理 論：染料と繊維の関係									
6. 〃 ：染浴中の各種相互作用									
7. 〃 ：染着機構									
8. 染 色 法：染色の準備工程									
9. 〃 ：浸染法									
10. 〃 ：捺染法									
11. 〃 ：特殊染色法									
12. 各 種 加 工 法：仕上げ加工									
13. 〃 ：特殊加工									
14. 染 色 堅 牢 度：染料・染色物の堅牢性，染色堅牢度試験項目と試験法									
15. 染色加工の安全性：染色排水，加工及び加工品の安全性									
16. 試験									
事前学習	日頃より、身近な衣服や服飾雑貨などの「色」や「感触」に興味を持ってください。毎回、次回予告をしますので、テキストを一読して授業に臨むことをお勧めします。								
事後学習	本講義の理解を深めるために、配布プリントを基に、文献や web サイトを参考にしながら、その都度ノート整理することをお勧めします。								
履修上の注意	遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけること。								
成績評価の方法・基準	期末試験による評価を 55%、受講状況(ミニットペーパー)を 45%として評価します。								
教科書	〔繊維製品の基礎知識①・②〕〔日本衣料管理協会〕〔5,600 円〕								
参考書	〔繊維製品の苦情処理(色に関する苦情)〕〔日本衣料管理協会〕〔2,040 円〕								

授業科目		染色加工学実験				担当者		井上 美紀	
単位数	1	必・選	選	授業形式	実験	開講期	前期	対象	服専3年
授業の概要									
染色加工学で学んだ知識をさらに理解を深められるように、染色実験、加工実験、染色堅牢度試験を主に行う。特に工業的な量産の視点で実験をし、捺染工場での企業研修も行う。									
授業の目標(到達目標)									
染色加工方法と染色堅牢度について実験を通して学び、被服材料に適した染料と染色加工方法を把握できるようにする。消費性能や問題点を理解し、他分野に応用できるようにする。									
授業計画及び内容									
1. はじめに：本実験の概要、進め方、グループ構成染料の合成実験 合成染料									
2. 天然染料による染色 1染料の抽出と染色①									
3 天然染料による染色 2 染色②と媒染									
4. 合成染料による染色 1 各種繊維の染色性、染色条件の影響									
5. 合成染料による染色 2 代表的な染料と染色方法、染色見本の作成								作業の都合上、 同時進行	
6. 合成染料による染色 3 測色									
7. 合成染料による染色 4 染料の分析 染色堅牢度試験 1 試料の準備									
8. 染色堅牢度試験 2 試験の概要、染色堅牢度の測定と評価									
9. 捺染実験 1 染色と捺染の比較、製版とプリント									
10. 捺染実験 2 プリント、製品への展開									
11. 染色加工工場での研修（山形市の工場にて）都合により実施できない場合は実験に変える									
12. 加工実験 1 繊維の溶解性を利用した加工									
13. 〃 2 繊維の特性や加工剤を利用した加工									
14. 加工実験 3 染色加工の製品への応用実験									
15. おわりに：本実験のまとめ、レポートの整理									
事前学習		次時の項目についてテキストと染色加工学等の授業ノートを見返すこと。							
事後学習		得られた結果をレポートにまとめる。（指定のノートとファイルを使用）							
履修上の注意		安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねる。							
成績評価の方法・基準		実験が終了する毎に提出するレポートを適切にまとめ、考察することに対し 50%、事前準備をし、グループで協力しながら実験結果を出すことにに対し 50%							
教科書	繊維製品の基礎知識シリーズ 日本衣料管理協会 入学時に購入済み								
参考書	必要に応じて紹介する								

授業科目		染色学実習				担当者		川又 勝子	
単位数	2	必・選	選	授業形式	実習	開講期	通年	対象	服専3年
授業の概要									
各種の工芸染色の中から、絞り染・ろうけつ染・友禅染・型染・描き更紗・藍染等の技法を取り上げ、指導する。前期は主に浸染の技法、後期は捺染による技法を行う。									
授業の目標(到達目標)									
工芸染色の基礎的技法による作品の制作を行うことにより、伝統的染色法について理解を深めるとともに、繊維製品の取り扱いについて理解する。									
授業計画及び内容									
1.①実習のガイダンス、②染色の歴史					16.工芸染色③捺染—友禅染の基礎				
2.①伝統的染色技法、②染色用具・染料・助剤					17.手描き友禅・作品制作(下絵・糸目糊)				
3.工芸染色①浸染—絞り染の基礎(縫い絞り)					18. " (彩色)				
4. " " (浸染)					19. " (引き染)				
5.絞り染応用作品制作(縫う)					20.手描き友禅・仕上げ(蒸し・水元)				
6. " (絞る)					21.工芸染色④捺染—型染の基礎				
7. " (浸染)					22.型染・作品制作 (型彫り)				
8.絞り染・仕上げ					23. " (型置き)				
9.工芸染色②浸染—ろうけつ染の基礎(防染)					24. " (彩色)				
10. " " (浸染)					25. " (引き染)				
11.ろうけつ染・応用作品制作(ろう描き)					26.型染・仕上げ(蒸し・水元)				
12. " (彩色)					27.工芸染色⑤捺染—描き更紗・作品制作(彩色)				
13. " (浸染)					28.描き更紗・仕上げ(蒸し・水元)				
14. " (脱ろう)					29.工芸染色⑥—藍の浸染(折り紙絞り)				
15.ろうけつ染・仕上げ					30.各種染色技法と繊維製品の取り扱いについて				
事前学習		各課題制作は、各自が考案した図案を基に行います。その都度指示しますので、注意事項に留意した上で、事前に図案を作成してください。							
事後学習		指定する用紙に染色工程をまとめ、作品についての考察も記してください。それらは作品とともにファイリングして期日までに提出してください。							
履修上の注意		染色加工学の単位を修得していることが望ましい。欠席しないこと。材料費として 2,000 円程度を徴収します。							
成績評価の方法・基準		提出物(55%)、受講状況(ミニットペーパー 45%)で評価します。							
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	なし								

授業科目	テキスタイルデザインⅠ				担当者	川又 勝子・三浦 輝子			
単位数	1	必・選	選	授業形式	実習	開講期	後期	対象	服専3年
授業の概要									
衣服の計画・設計に不可欠な布地の物性・風合い・色柄について理解するために、手織り機による織布実習とPCによるテキスタイルデザイン実習を指導する。									
授業の目標(到達目標)									
衣服の用途や目的に合った物性・風合い・色柄を備えたテキスタイルを適切に設計・選択するための知識と技術を身に付ける。									
授業計画及び内容									
1. テキスタイルデザインの授業概要について (川又)									
2. 基礎：繊維素材 (川又)									
3. 〃：織編物 (川又)									
4. 基礎：代表的な織物の名称と組織 (川又)									
5. テーブルセンター制作：デザイン・織物計画 (三浦)									
6. プリントによるパターンデザイン：テキスタイルデザインソフトによるデザインの企画 (川又)									
7. 〃：テーブルクロスデザインのデザイン (川又)									
8. 〃：布帛へのプリント (川又)									
9. テーブルセンター制作：糸密度・糸の太さと織物の関係、テーブルセンター製作：糸巻き (三浦)									
10. 〃：糸の種類・組織と風合いの関係、テーブルセンター製作：整経 (三浦)									
11. 〃：箆通し (三浦)									
12. 〃：綜統通し・張力調整 (三浦)									
13. 〃：織り(平織り) (三浦)									
14. 〃：織り(綾織) (三浦)									
15. 〃：仕上げ (三浦)									
事前学習	常に、衣服の素材や模様に興味を持つように心掛けてください。								
事後学習	宿題がある場合や、時間内に進められなかった箇所は必ず次回までに行ってください。								
履修上の注意	受講生の進度によりシラバス内容が前後する事があります。遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけること。実習費として実費(3,000円程度)を徴収します。								
成績評価の方法・基準	提出物(55%)、受講状況(ミニットペーパー 45%)で評価します。								
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	〔テキスタイル用語辞典〕〔成田典子〕〔テキスタイルツリー〕〔3,600円〕								

授業科目		テキスタイルデザインⅡ			担当者		川又 勝子		
単位数	1	必・選	選	授業形式	実習	開講期	前期	対象	服専4年
授業の概要									
主にコンピュータグラフィックスによる手法を取り上げ、使用目的に応じたテキスタイルを企画・制作する方法、デジタルデータを活かした布地の作成方法について指導する。									
授業の目標(到達目標)									
用途に応じたテキスタイルを企画・制作することで、基本柄の作成や柄の展開だけでなく、様々な染色・加工方法、繊維製品の選択と取り扱いについても理解を深める。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：授業の進め方、テキスタイル的制作方法									
2. CGソフトによるテキスタイルデザイン：リピート柄の基本									
3.									

授業科目	ファッションビジネス論				担当者	内海 陽子			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服専２年
授業の概要 アパレルを中心とした、ファッションビジネスシーンで活躍できる基礎知識を教授する。今日の流通業界では、「顧客満足（CS）」に重点をおいた企業経営を行っており、業界において重要な資格である衣料管理士（TA）取得を目指す。									
授業の目標(到達目標) ファッションビジネスの特性と歴史、その構成産業の構造を理解する。アパレルメーカーとアパレル小売業の現状とその問題点を、国内外から分析し、将来の展望を考察する。									
授業計画及び内容									
１．ファッションビジネスの特性（企業戦略編）									
２．　　　　　　　　　　　〃　　　　　　　　　　　（消費行動編）									
３．ファッションの歴史　PART　１（海外）									
４．　　　　　　　　　　　〃　　　　　　　　　　　２（日本）									
５．　　　　　　　　　　　〃　　　　　　　　　　　３（日本）									
６．ファッションビジネスの職種　PART　１　（マーケティング編）									
７．　　　　　　　　　　　〃　　　　　　　　　　　２　（マーチャンダイジング編）									
８．　　　　　　　　　　　〃　　　　　　　　　　　３　（営業・ロジスティック編）									
９．ファッション素材産業の概要									
１０．アパレル産業の概要　PART　１（海外メーカー）									
１１．　　　　　　　　　　　〃　　　　　　　　　　　２（大手アパレルメーカー）									
１２．　　　　　　　　　　　〃　　　　　　　　　　　３（SPA）									
１３．アパレル産業流通の仕組み　PART　　１（生産企業とアパレルメーカー）									
１４．　　　　　　　　　　　〃　　　　　　　　　　　２（アパレルメーカーと小売企業）									
１５．日本のファッションビジネス環境の課題と将来の展望									
事前学習	アパレルメーカーや繊維企業のＨＰなどから、今、企業がどのようなことに重点をおいているか、などを把握しておく。								
事後学習	街中で、ファッションリサーチをすること。ファッションに対するアンテナをさらに磨き続けること。								
履修上の注意	ファッションビジネスは、日々変化し続けています。常に、実社会ですぐに対応でき内容で進めておりますので講義には出席すること。								
成績評価の方法・基準	課題レポート（50％）事前・事後学習を含む授業姿勢（50％）で総合評価								
教科書	〔ファッションビジネス論〕〔日本衣料管理協会〕〔1,300円〕								
参考書	なし								

授業科目	ケーススタディ					担当者	井上 美紀			
単位数	1	必・選	必	授業形式	集中講義	開講期	前期	対象	服専3年	
授業の概要										
繊維製品に関する品質管理と方法について教授する。品質管理の手法の学習や事例研究を行う。また、繊維製品に関連する問題の原因究明やその防止策などについて教授する。										
授業の目標(到達目標)										
本講義を通して品質管理に対する基本的知識を身に付け、品質管理の重要性を認識し、また品質管理のための基本的な手法を理解し応用できるようにする。										
授業計画及び内容										
1. はじめに：本講義の概要、品質とは										
2. 良い商品づくりと品質管理、繊維製品に関連する法令										
3. 品質管理の実際 1. 管理の基本										
4. 品質管理の実際 2. QC の 7 つ道具新 QC の 7 つ道具・										
5. 品質管理の実際 3. 繊維製品に関連する手法										
6. 繊維製品に関連する事例研究										
7. 原因究明、再発防止策、品質保証										
8. 製品設計と品質管理 おわりに：本講義のまとめ										

授業科目	ファッション販売論				担当者	内海 陽子			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専2年
授業の概要 アパレルを中心とした、ファッションビジネスシーンで活躍できる基礎知識を教授する。今日の流通業界では、「顧客満足（CS）」に重点をおいて企業経営を行っており、業界において重要な資格である衣料管理士（TA）取得を目指す。									
授業の目標(到達目標) 前期で学んだ、「ファッションビジネス論」を基本に、応用範囲が広げた、「ファッション販売」に焦点をしぼり、理解する。 「消費者基点＝売場基点」に、商品の仕入れから販売までの流れを学び、ファッション小売業の現状と課題を読み取り、将来の展望を考察する。									
授業計画及び内容									
1. ファッション小売業の役割と歴史									
2. ファッション小売業の構造 PART 1 （百貨店と量販店）									
3. ファッション小売業の構造 PART 2 （ショッピングセンター）									
4. ファッション小売業の構造 PART 3 （SPA、セレクトショップ、アウトレットモール）									
5. ファッション小売業の構造 PART 4 （無店舗販売）									
6. ファッション小売業の職種									
7. ファッション小売業の経営戦略 PART 1 （事業計画と出店戦略）									
8. ファッション小売業の経営戦略 PART 2 （マーケティング）									
9. ファッション小売業の販売 PART 1 （販売の基本について）									
10. ファッション小売業の販売 PART 2 （販売の技術）									
11. ファッション小売業の売場演出 PART 1 （VMD の基礎）									
12. ファッション小売業の売場演出 PART 2 （VMD の基礎）									
13. ファッション小売業の売場演出 PART 3 （VMD の応用）									
14. ファッション小売業の仕入と計数									
15. ファッション小売業の商品開発とプロモーション戦略									
事前学習	小売業における販売は、常に「お客様目線」が基本です。常日頃からショッピングの際に、小売店、売場を観察することが大切。								
事後学習	販売する側の視点で、様々な SHOP をみて、特徴（ディスプレイ、商品内容・接客）をまとめてみる。								
履修上の注意	ファッションビジネスは、日々変化し続けています。常に、実社会ですぐ対応できる内容で進めておりますので、講義には出席すること。								
成績評価の方法・基準	課題レポート（50％）事前・事後学習を含む授業姿勢（50％）で総合評価								
教科書	〔新版ファッション販売論〕〔日本衣料管理協会〕〔1,300 円〕								
参考書	なし								

授業科目		コーディネート論				担当者		内海 陽子	
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服専3年
授業の概要									
アパレルを中心とした、ファッションビジネスシーンで活躍できる基礎知識を教授する。今日の流通業界では、「顧客満足（CS）」に重点をおいて、企業経営を行っており、業界において、重要な資格である衣料管理士（TA）取得を目指す。									
授業の目標(到達目標)									
ファッションコーディネートとはあらゆるモノの組合せに伴う調整・調和などの技術提案である。ファッションコーディネートに必要な基本的な知識と技術を学び、実際にコーディネートプランを作成する。									
授業計画及び内容									
1. ファッションコーディネートとは									
2. ファッションコーディネート スペシャリストの特性									
3. スペシャリストに必要な知識 : ファッションと流行									
4. 〃 : ファッショントレンドサイクル									
5. 〃 : ファッション情報 ①ファッション情報の種類									
6. 〃 : ファッション情報 ②ファッショントレンド情報(時系列フロー)									
7. 〃 : ファッション情報 ③ファッショントレンド情報(発信機関・イベント)									
8. 〃 : ファッション情報 ④20世紀のファッション史									
9. コーディネートの基本的な知識と技術									
10. 〃 ①イメージに視点を置いたコーディネート									
11. 〃 ②素材に視点を置いたコーディネート									
12. 〃 ③ライフスタイルに視点を置いたコーディネート									
13. 〃 ④色彩に視点を置いたコーディネート									
14. 〃 ⑤アクセサリ・体型カバーに視点を置いたコーディネート									
15. ファッションコーディネートのまとめ									
事前学習		目に入るものは、すべてファッションととらえ、まわりを観察すること。							
事後学習		毎日の自分のコーディネートの中に学んだ知識を反映し、日々復習していくこと。スペシャリストの視点で、まわりを観察すること。							
履修上の注意		ファッションビジネスは、日々変化し続けています。常に実社会ですぐ対応できる内容で進めておりますので、講義には出席すること。							
成績評価の方法・基準		課題レポート（50%）事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）の総合評価							
教科書	〔コーディネートテクニック 演出篇〕〔学校法人文化学園文化出版局〕〔2,754 円〕								
参考書									

授業科目	ファッションビジネス実務実習				担当者	井上 美紀・川又 勝子・小野寺 美和			
単位数	1	必・選	選	授業形式	集中講義	開講期	通年	対象	服専1年
授業の概要 実習の事前指導の他に、学外講師による講義、企業見学、インターンシップでの職場体験を通し、ファッションビジネスの実際を教授する。企業での研修を実施する。									
授業の目標(到達目標) アパレル企業において実践的な人材となるように、実習を通じて職場の現状を体得しビジネスの実際を把握できるようにする。									
授業計画及び内容									
1. 事前指導：実習の概要（全時、井上・川又・小野寺の全員で指導）									
2. " ：企業（仙台市内企業予定）での研修1（講義：ファッションビジネスの実際）									
3. " ：企業での研修2（職場見学）									
4. " ：履歴書作成について									
5. " ：企業研究（情報収集、店舗調査）									
6. " ：実習ノートの書き方、実習の心構え									
7. 実 習：									
8. " ： } 企業でのインターンシップ									
9. " ： ○ 実習期間：平成30年2月から3月のうち企業が指定する期間									
10. " ： ○ 企画・設計業務、流通販売業務、品質管理・品質保証業務、									
11. " ： 試験・検査業務、消費者対応・相談業務など、受入先に応じた									
12. " ： 実習内容									
13. " ： ○受け入れ先により面談（受入可否）や事前事後指導が行われる場合もある									
14. 事後指導：礼状作成									
15. " ：実習のまとめ、報告会									
事前学習	事前に、実習先の企業研究を十分に行うこと。								
事後学習	研修のレポート、実習ノートをまとめるなど、内容を振り返ること。								
履修上の注意	実習先では失礼のないように、事故のないように心掛けること。								
成績評価の方法・基準	事前講義30%、実習取り組み状況・実習ノート50%、事後のまとめ20%								
教科書	必要に応じて紹介する								
参考書									

授業科目	マーケティング論				担当者	井上 美紀			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服専3年
授業の概要 マーケティングの基本知識を教授する。講義では、内容に合わせた課題も行い、ファッション産業に焦点を当てたマーケティング活動の具体的な手法を教授する。									
授業の目標(到達目標) マーケティングの基礎知識を身につけることができる。ビジネスにおけるマーケティングの重要性を理解し、具体的な手法を身に付け、応用実践できるようにする。									
授業計画及び内容									
1. はじめに：本講義の概要 マーケティングとは、マーケティングプロセス 1 プロセス									
2. マーケティングプロセス 2 プロセス・マーケティングミックス、演習課題Ⅰの提示									
3. 製品戦略 作業の都合上、一部課題も平行して行う。									
4. 価格戦略、計数管理とマーケティング									
5. 流通戦略・プロモーション戦略									
6. 環境分析・消費者分析 1 3C、調査の手法									
7. 環境分析・消費者分析 2 調査の実践 (図書館で実施)									
8. ファッションリソース (図書館で実施)									
9. マーケティングの手法と実際、演習課題Ⅱの提示									
10. ファッションマーケティング 1 フロアー・ショップ・顧客動向リサーチ (仙台市内店舗)									
11. ファッションマーケティング 2 リサーチデータの整理・分析									
12. ファッションマーケティング 3 リサーチデータの分析・考察									▽
13. ファッションマーケティング 4 マーケティング結果からの立案、プレゼンテーション準備									
14. ファッションマーケティング 5 演習課題Ⅱのプレゼンテーションと検討会									
15. おわりに：本講義のまとめ									
事前学習	ファッション雑誌やコレクション情報、店舗等、より多くの情報を得る事。								
事後学習	授業を振り返り、課題の目的と内容をよく把握し取り組むこと。								
履修上の注意	演習課題を終わらせて講義に臨むこと。リサーチは学外で行う。								
成績評価の方法・基準	課題取り組み状況と受講態度に対し 50%、演習課題・ミニットペーパー 50%								
教科書	繊維製品の基礎知識シリーズ 日本衣料管理協会 入学時に購入済み								
参考書	必要に応じて紹介する								

授業科目	被服心理学				担当者	水野 一枝			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専2年
授業の概要 現在の日本における衣生活は十分に満たされていると思われる。したがって、被服に求められる主な機能である社会的機能について教授する。また被服を用いた自己の表現についても学習させる。									
授業の目標(到達目標) 人間が装うということについて、「規範の存在」と「自由に逸脱」があることを理解する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. 装いの心理 自己									
3. " 身体									
4. " 社会規範									
5. " 服装規範									
6. 調査の方法									
7. 調査の集計方法									
8. 調査の結果、解析方法									
9. 装いとコミュニケーション									
10. 装い行動による情報伝達									
11. 装い行動とジェンダー									
12. 若年者の装い行動									
13. 高齢者の装い行動									
14. 装いの効果									
15. まとめの講義									
事前学習	前回までの講義内容を復習しておく。「装う」ということを様々な角度から観察していること。								
事後学習	講義資料に記載されている用語、内容を講義ノート、教科書、参考書を参照してまとめ、確認する。								
履修上の注意	講義に積極的に参加すること。配布された講義資料を毎回持参すること。								
成績評価の方法・基準	講義中の提出物 10%、課題作成・発表 70% 事前・事後学習を含む授業姿勢 20%で評価する。								
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	〔装いの心理〕〔小林茂雄〕〔(株)アイ・コーポレーション〕〔1,296 円〕								

授業科目	アパレル感性工学				担当者	小野寺 美和			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専3年
授業の概要 感性工学とは「何らかの方法で把握した顧客感性データを多変量解析などの分析を通じて解析し、製品開発へと活用する技術」である。グループごとに演習を行う。本講座では、感性工学ならびに感性製品設計の基礎を説明する。									
授業の目標(到達目標) 心理学と人間工学と観察工学を利用して、顧客の需要を把握する手法を理解する。感性を製品づくりに活かす手法について知識を得る。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション・・・授業の目標・進め方・評価方法									
2. 感性工学とは・・・(定義・歴史・課題),ブラジャーの感性工学									
3. 感性工学手法Ⅰ類 (コンセプトのブレイク・ダウンから設計の物理的特性へ展開)									
4. 感性工学手法Ⅱ類 (製品に対するイメージや感性を,具体的に製品設計要素に翻訳)									
5. 感性工学手法Ⅲ類 (言葉の響きの感性工学:SD 調査) 感性ワードの抽出									
6. 感性製品設計のための統計学(1) SD 尺度構成・評価実験・感性ワード因子分析									
7. 感性製品設計のための統計学(2) SD 評価分析・多変量解析									
8. ハイブリッド感性工学と逆向性感性工学・バーチャル感性工学									
9. 感性品質管理と QC と TQC について									
10. 感性マーケティングの技術紹介 (テイスツスケール座標軸の定義について)									
11. 各チームの課題設定・課題に応じた資料収集									
12. テイスツスケールの(画像収集と SD 調査による)アンケート収集									
13. データの解析									
14. 成果発表のためのパワーポイントと原稿作成									
15. パワーポイントを用いての発表会									
事前学習	ファッション雑誌,インテリア雑誌,建築雑誌などに掲載されている写真の中から,自分でテーマを決めて写真をスケッチブックに貼り付けるなど保存しておくこと。								
事後学習	毎回配布するプリントを十分に学習してくること。								
履修上の注意	本講座ではファッション雑誌,インテリア雑誌,建築雑誌,旅行雑誌など様々な雑誌と,スケッチブックを毎回使用するので各自準備し忘れずに持ってくる。								
成績評価の方法・基準	発表会(60%) レポート(20%) ノート提出(20%) (必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としない。)								
教科書	〔感性工学—感性をデザインに活かすテクノロジー〕〔長町三生〕〔海文堂〕〔価格〕1,728 円								
参考書	使用せず								

授業科目	情報処理 I					担当者	鶴巻 史子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服専3年
授業の概要									
Office ソフト（Word, Excel, PowerPoint）の基礎的な使用方法と一般的な情報処理技術について指導する。									
授業の目標(到達目標)									
Office ソフト（Word, Excel, PowerPoint）を用いて、デジタルデータを活用するための基礎的な情報処理技術を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. Word の基本操作と原理									
3. Word による文書作成									
4. Word による表の作成									
5. Word のグラフィック機能									
6. Word による制作（課題 1）									
7. Excel の基本操作と原理									
8. Excel による表の作成									
9. Excel の関数入力									
10. Excel によるグラフの作成									
11. PowerPoint の基本操作と原理									
12. PowerPoint によるプレゼンテーション									
13. PowerPoint による図の作成									
14. PowerPoint による制作（課題 2）									
15. プレゼンテーション									
事前学習	常日頃より Office ソフトに触れる機会を持つこと。								
事後学習	課題、講義ノート等の復習、まとめ。								
履修上の注意	作成データは USB メモリ等に保存し持参すること。								
成績評価の方法・基準	課題制作 70%、平常点（授業態度、取り組みの姿勢など） 30%								
教科書	適宜指示する								
参考書	適宜指示する								

授業科目	情報処理Ⅱ					担当者	鶴巻 史子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専3年
授業の概要									
グラフィックソフト（Photoshop, Illustrator）の基礎的な使用方法と一般的な情報処理技術について指導する。									
授業の目標(到達目標)									
グラフィックソフト（Photoshop, Illustrator）を用いて、デジタルデータを活用するための基礎的な情報処理技術を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. Photoshop の基本操作と原理									
3. Photoshop による色調補正									
4. Photoshop の選択範囲の作り方									
5. Photoshop のレイヤー操作									
6. Photoshop による画像修正									
7. Photoshop によるテキスト作成									
8. Photoshop による制作（課題 1）									
9. Illustrator の基本操作と原理									
10. Illustrator によるオブジェクト作成									
11. Illustrator によるオブジェクト編集									
12. Illustrator による色と線									
13. Illustrator によるテキスト作成									
14. Illustrator による作成（課題 2）									
15. プレゼンテーション									
事前学習		常日頃よりグラフィックソフトに触れる機会を持つこと。							
事後学習		課題、講義ノート等の復習、まとめ。							
履修上の注意		作成データは USB メモリ等に保存し持参すること。							
成績評価の方法・基準		課題制作 70%、平常点（授業態度、取り組みの姿勢など） 30%							
教科書	適宜指示する								
参考書	適宜指示する								

授業科目	食品学総論					担当者	伊澤 華子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服専2年
授業の概要 化学、生化学、有機化学、基礎栄養学などの知識を基礎として、食品成分についての知識を説明する。食品成分を学ぶことで食品、調理など関連する分野への興味関心も高めてもらいたい。									
授業の目標(到達目標) 食品を構成する各種成分、食品の栄養特性、物性等について知識を身につける。新規食品・食品成分が健康に与える影響、それらの疾病予防に対する役割を理解する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス・官能評価 なんで食べるか考えてみよう。食品を比較してみよう。									
2. 水分 自由水と結合水ってなに？									
3. タンパク質 タンパク質ってどんなもの？アミノ酸とタンパク質の構造									
4. タンパク質 食品の中のタンパク質を調べよう。必須アミノ酸とタンパク質の変性									
5. 脂質 脂質ってどんなもの？ 脂肪酸の構造									
6. 脂質 食用油の種類を調べてみよう。 各油の脂肪酸組成									
7. 脂質 脂質の酸化ってどんな現象？									
8. 炭水化物 炭水化物ってどんなもの？ 炭水化物と糖類									
9. 炭水化物 糖質の種類をまとめてみよう。									
10. 灰分と無機質 無機質の種類を調べてみよう。									
11. ビタミン 脂溶性と水溶性で分けてみよう。脂溶性ビタミン									
12. ビタミン 脂溶性と水溶性で分けてみよう。水溶性ビタミン									
13. 色素 褐変ってなに？酵素的褐変を学んでみよう。									
14. 色素 非酵素的褐変を学んでみよう。									
15. 香気成分・味成分 食品の色んな香りと味を調べてみよう。									
16. 試験									
事前学習	教科書の該当ページを読んでから受講すること。								
事後学習	学んだ知識を整理し、返却されたプリントの内容を復習すること。								
履修上の注意	分からない点は質問し、疑問点は解決するように心がける。								
成績評価の方法・基準	平常点 20%（平常点は、授業への参加態度など総合的に判断する。）と試験・小テスト・提出プリントなど合計点 80%で評価を行う。未提出レポートのある場合は、評価の対象としない場合がある。								
教科書	〔標準食品学総論 第3版〕〔青柳康夫・筒井知己〕〔医歯薬出版〕〔2,808 円〕								
参考書	〔食品成分表〕〔女子栄養大学出版部〕 その他、授業内に適宜紹介								

授業科目	食品学各論					担当者	佐藤 靖子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服専3年
授業の概要									
食品の外観や構造を捉え、種類や性状の特徴と主な成分について学習し、食品の分類および選択能力を身につける。調理、加工による食品の性状変化および健康的な食生活への関連を高める。									
授業の目標(到達目標)									
食品の成分および成分の変化を学び、動・植物食品の特徴を理解して食品を分類する能力を身に着け、選択能力を向上し、食生活と健康との関連を習得できるようにする。									
授業計画及び内容									
1. 食品分類、食品の表示									
2. 植物性食品の特徴									
3. 穀類 米・小麦									
4. 穀類 トウモロコシ・蕎麦									
5. 芋類									
6. 豆類									
7. 野菜類 葉菜									
8. 野菜類 茎菜									
9. 野菜類 根菜									
10. 野菜類 花菜・果菜									
11. 果実類									
12. 類動物性食品の特徴									
13. 魚介類									
14. 畜肉									
15. 海藻、キノコ類									
16. 試験									
事前学習		翌週の内容について調べておく							
事後学習		授業内容について確認する							
履修上の注意		食品学総論など関連科目を復習しておくこと							
成績評価の方法・基準		提出物 15%、学期末試験 85%							
教科書	配布プリント								
参考書	なし								

授業科目	基礎栄養学				担当者	鈴木 裕行			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専2年
授業の概要 栄養の意義、食欲調節のしくみ、栄養素の消化と吸収、各栄養素の構造、性質、体内での機能と欠乏・過剰症、および栄養素同士の関わりについて講義する。									
授業の目標(到達目標) 「栄養とは何か」その意義について理解できるようになる。健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割、ならびに、エネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義を理解できるようになる。									
授業計画及び内容									
1. 栄養の概念：栄養とは、遺伝形質と栄養									
2. 食物の摂取：食欲の調節、食事のタイミング									
3. 栄養素の消化と吸収・体内動態：消化器の構造・機能									
4. 栄養素の消化と吸収・体内動態：消化過程とその調節									
5. 栄養素の消化と吸収・体内動態：栄養素の体内動態、生物学的利用度									
6. たんぱく質の栄養：たんぱく質の消化・吸収、アミノ酸の体内代謝の概要									
7. たんぱく質の栄養：たんぱく質・アミノ酸の体内代謝と臓器間輸送									
8. たんぱく質の栄養：たんぱく質の量と質の評価									
9. 中間試験、糖質の栄養：糖質の消化吸収と体内代謝									
10. 糖質の栄養：血糖の調節									
11. 脂質の栄養：脂質の消化吸収と体内代謝の概要									
12. 脂質の化学：脂質の体内代謝と臓器間輸送									
13. 脂質の栄養：脂質の量と質の評価									
14. ビタミンの栄養：ビタミンの分類・構造、ビタミンの機能・・・脂溶性ビタミン									
15. ビタミンの栄養：ビタミンの機能・・・水溶性ビタミン									
16. 期末試験									
事前学習	教科書・参考書の各時間の授業範囲に該当する部分を熟読すること。								
事後学習	板書ノート・配布資料を見直して復習すること。								
履修上の注意	内容の理解できないところがあれば放置せず、質問したり自分で調べたりして、疑問点の解消に努めること。								
成績評価の方法・基準	中間試験：30%、期末試験：60%、平常点（提出物等）：10%								
教科書	〔基礎栄養学〕〔駒井三千夫他〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2,592円〕								
参考書	〔栄養の生化学 1-2-3 改訂第3版〕〔遠藤克己〕〔南江堂〕〔2,160円〕								

授業科目	栄養生化学				担当者	鈴木 裕行			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専3年
授業の概要 メタボリック・シンドローム関連各疾患の発症・病態の生化学的理解のため、まず、背景となるエネルギー分子の代謝とその調節機構を説明し、それを基礎として関連疾患の分子生物学的・細胞生物学的機構について講義する。									
授業の目標(到達目標) 昨今の健康管理上の重大な課題であるメタボリック・シンドロームをテーマとし、その代謝的な背景の理解を深めることで、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解できるようにする。									
授業計画及び内容									
1. メタボリック・シンドロームとは									
2. さまざまな生理的状态とミネラルの機能①：多量ミネラル									
3. さまざまな生理的状态とミネラルの機能②：微量ミネラル									
4. 肥満症の生化学①：肥満症とは、脂肪細胞の機能									
5. 肥満症の生化学②：肥満遺伝子									
6. 糖尿病の生化学①：血糖調節機構と糖尿病の分類									
7. 糖尿病の生化学②：糖尿病の発症機序と代謝									
8. 糖尿病の生化学③：糖尿病関連遺伝子、糖尿病の食事療法									
9. 中間試験、脂質異常症・動脈硬化症の生化学①：リポタンパク質とその受容体									
10. 脂質異常症・動脈硬化症の生化学②：動脈硬化症の発症機序と治療、関連遺伝子									
11. 高血圧症の生化学①：血圧調節機構									
12. 高血圧症の生化学②：高血圧症の発症機序									
13. 骨粗鬆症の生化学①：骨粗鬆症の発症機序とカルシウム代謝調節機構									
14. 骨粗鬆症の生化学②：骨粗鬆症の治療、がんの生化学①：発がん機構とがん遺伝子									
15. がんの生化学②：食生活とがん、まとめ：メタボリック・シンドロームの分子機構									
16. 期末試験									
事前学習	教科書・参考書の各時間の授業範囲に該当する部分を熟読すること。								
事後学習	板書ノート・配布資料を見直して復習すること。								
履修上の注意	基礎栄養学での学習内容と関連が深いので相互に参照して学習を進める。								
成績評価の方法・基準	中間試験：30%、期末試験：60%、平常点（提出物等）：10%								
教科書	資料を配布する								
参考書	〔栄養の生化学 1-2-3 改訂第3版〕〔遠藤克己〕〔南江堂〕〔2,160円〕								

授業科目		調理科学論				担当者		佐藤 靖子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服専4年	
授業の概要										
食品素材は、調理操作により色調の変化、組織の軟化、香りの発現などその状態が様々な変化して嗜好性や消化性に影響することを学習させる。基本的な調理方法の役割および食品の物理、化学的变化について科学的に理解させる。										
授業の目標(到達目標)										
食品素材を調理特性の面から学び、調理操作の条件による食品素材の様々な現象について科学的視点で理解できる。										
授業計画及び内容										
1. ガイダンス、調理科学の定義										
2. 調理と嗜好性										
3. 調理操作 非加熱調理										
4. 加熱調理 煮る・蒸す										
5. 加熱調理 揚げる・焼く										
6. 調味料										
7. 香辛料										
8. スパイスの体験と調理特性										
9. ハーブの体験と調理特性										
10. 炭水化物・タンパク質性食品の調理特性										
11. 油脂・油脂性食品の調理特性										
12. ビタミン・無機質性食品の調理特性										
13. 成分抽出性食品の調理特性										
14. 嗜好飲料の調理特性										
15. 伝統食品の調理特性										
16. 試験										
事前学習		ガイダンス以降、授業内容の予告に従い予習しておくようにする								
事後学習		ノートを良く整理し、疑問点を解決できるようにする								
履修上の注意		正当な理由のない欠席・遅刻は厳禁								
成績評価の方法・基準		レポートなど平常点 30%、試験 70%								
教科書	〔調理科学〕〔森高初恵、佐藤恵美子〕〔建帛社〕〔2,500 円〕									
参考書	調理のためのベーシックデータ（他の授業で購入済み）									

授業科目	基礎調理学実習Ⅰ					担当者	深澤 律子		
単位数	1	必・選	選	授業形式	実習	開講期	前期	対象	服専1年
授業の概要									
調理学実習を通して、食品衛生の衛生管理全般（食品取扱者の健康管理等）について学び、衛生習慣を身につける。日本・西洋・中国料理の春から夏の日常献立を中心に栄養価計算を行い、食品の選択、食品の調理、盛り付けなどの基本を習得する。									
授業の目標(到達目標)									
① 管理栄養士として美味しく安全で健康的な食事を提供する社会的責任を理解する。									
② 管理栄養士として必要な調理学に関する基礎的な知識と基礎的な技能を習得する。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション・おいしさと健康（身だしなみ・衛生的な手洗い・手指の消毒等）									
2. 講義・調理の基本（計量・調味パーセント、調理器具の衛生的な扱い、ご飯の炊き方等）									
3. 調理の基礎技術1（西洋料理）野菜の切り方、卵料理等									
4. 調理の基礎技術2（日本料理）だしのとり方、汁物の作り方、野菜のゆで方等									
5. 調理の基礎技術3（中国料理）麺のゆで方、煮物の作り方、野菜の切り方等									
6. 講義 おいしさと健康 日本料理、西洋料理、中国料理の基本、郷土料理									
7. 調理の基礎技術4（日本料理）煮物の作り方、揚げ物の作り方、寒天の扱い等									
8. 調理の基礎技術5（西洋料理）肉料理、野菜料理、スープ、ゼラチンの扱い等									
9. 調理の基礎技術6（日本料理）味付け飯の作り方、汁物、焼き物の作り方、浸し物等									
10. 調理の基礎技術7（中国料理）蒸し物、汁物、炒め物等									
11. 調理の基礎技術8（日本料理）汁物、煮物、和え物、白玉粉の扱い方等									
12. 調理の基礎技術9（西洋料理）米料理、スープ、魚介料理等									
13. 調理の基礎技術10（中国料理）炒め物、揚げ物、和え物等									
14. 調理の基礎技術11（郷土料理）乾物の扱い方、もち米、あんかけ料理、葛の扱い方等									
15. 実技試験・基礎技術（切り方、まな板、包丁の扱い等）・衛生管理（身だしなみ等）									
事前学習	教科書の関連頁に付箋を付けて読み重要な文章はアンダーラインを引く。								
事後学習	実習ノートの作成。実習内容の記録と栄養価計算、実習後記をまとめる。								
履修上の注意	栄養価計算のため電卓を用意。前日に爪を切る、清潔な実習着等準備する。調理室内ではボールペン使用。配布資料をファイルに保管する。								
成績評価の方法・基準	実技試験 30%、実習ノート提出 30%、衛生管理点検表の記入 30%、授業態度 10%（早めに集合する、メモを取る、グループでの協調性、熱心さ等）								
教科書	改定新版おいしさと健康調理学実習〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,300 円〕								
参考書	① 7訂食品成分表 2017②調理のためのベーシックデータ〔女子栄養大学出版部〕								

授業科目		基礎調理学実習Ⅱ				担当者		深澤 律子		
単位数	1	必・選	選	授業形式	実習	開講期	後期	対象	服専1年	
授業の概要										
日本・西洋・中国料理の秋から冬の日常献立と行事食を通して、食事の文化的側面についての知識と理解を深める。栄養価計算を行い、食品の選択、食品の調理、盛り付けなどの基本を習得する。										
授業の目標(到達目標)										
① 食べる人の食文化、季節の行事、食環境、栄養、嗜好、食物アレルギー、健康を考えて食事を計画し、栄養価計算をし、調理することができる力を養う。										
② 管理栄養士として必要な調理学に関する基礎的な知識と基礎的な技能を習得する。										
授業計画及び内容										
1. オリエンテーション・夏休みの課題「家族への食事作りのレポート」を発表する。										
2. 講義 食事計画 日常の食事、行事食、アレルギー対応食、アレルギー対応お菓子等										
3. 調理の基礎技術1(西洋料理)卵の起泡性、オーブンの扱い方、卵料理、										
4. 調理の基礎技術2(日本料理)もち米の扱い方、素揚げ、酢の物、煎茶の入れ方										
5. 調理の基礎技術3(中国料理)揚げ物物料理、炒め物、汁物、中国茶										
6. 調理の基礎技術4(西洋料理)ムニエル、グラタン、バターのクリーミング性、紅茶										
7. 調理の基礎技術5(日本料理)味付け飯、煮込み料理、和え物、玄米茶										
8. 調理の基礎技術6(中国料理)あんかけ料理、蒸し物、寄せ物										
9. 調理の基礎技術7(日本料理)揚げ物、煮物、汁物										
10. 調理の基礎技術8(西洋料理)スープ、パスタの扱い、卵の熱凝固性、										
11. 調理の基礎技術9(西洋菓子)焼き菓子、クリームチーズの扱い、コーヒー										
12. 調理の基礎技術10(行事食)クリスマス料理										
13. 調理の基礎技術11(行事食)おせち料理										
14. 実技コンテスト・(行事食)春のお祝いの食事(グループごと自由献立)										
15. 3・1・2弁当箱の献立・栄養価計算・感想										
事前学習		「家族への食事作りのレポート」、「お祝いの食事自由献立」。前期と同様。								
事後学習		実習ノートの作成。実習内容の記録と栄養価計算、実習後記をまとめる。								
履修上の注意		栄養価計算のため電卓を用意。前日に爪を切る、清潔な実習着等準備する。調理室内ではボールペン使用。配布資料をファイルに保管する。								
成績評価の方法・基準		実技試験 30%、実習ノート提出 30%、衛生管理点検表の記入 30%、授業態度 10%(早めに集合する、メモを取る、グループでの協調性、熱心さ等)								
教科書	改定新版美味しさと健康調理学実習〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,300円〕									
参考書	7訂食品成分表 2017②調理のためのベーシックデータ〔女子栄養大学出版部〕									

授業科目	食文化論				担当者		深澤 律子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専4年
授業の概要									
日本人は古代から食物を獲得し、その土地の気候風土に合った農耕や狩りや漁をして、安全でおいしい食物を摂取するための努力を重ねてきた。歴史の中で、外国から来た食材や料理を取り入れ、米と大豆、魚や野菜を中心に発酵食が発達した。食文化の変遷をたどり、現在の日本人の食生活と健康について科学的な根拠をもとに考察する。									
授業の目標(到達目標)									
① べ物と人の関わりを歴史的変遷、食の嗜好性、食文化の観点から説明できる。									
② 在の食生活と健康の問題点を提起し、解決方法を見出し、管理栄養士としての役割を認識できる。									
授業計画及び内容									
1. 日本人の食文化 : 食生活の歴史と食文化									
2. 日本の植物性食材：稲作の伝播と調理									
3. " : 米食と麦食の歴史と文化									
4. " : 麦食文化（小麦の加工）、雑穀食文化									
5. " : 豆食文化（大豆と精進料理）									
6. " : 豆食文化（醤油・味噌などの発酵食品）									
7. " : 芋食文化									
8. " : 野菜類の伝播									
9. " : 果物類・砂糖の伝播									
10. 日本の動物性食材：畜肉食文化（日本の風土と仏教）									
11. " : 魚介類食文化									
12. 食 事 様 式：江戸前料理・茶懷石料理・食卓・郷土料理、									
13. " : 海外から日本への食文化の伝来									
14. " : 世界の料理と文化①									
15. " : 世界の料理と文化②、健康な食事、地中海食等									
16. 試験									
事 前 学 習		教科書の関連頁に付箋を付けて読んでおく。							
事 後 学 習		配布資料をファイルに保管する。重要な語句にアンダーラインを引く。							
履修上の注意		受講時は教科書の関連頁を開く。毎回、講義のまとめレポートを提出。							
成績評価の方法・基準		期末試験 50%、毎時間のレポート提出 40%、授業態度 10%（熱心さ等）							
教科書	〔食文化論（生活科学双書）〕〔吉川 誠次〕〔建帛社〕〔2,160 円〕								
参考書	講義の際に、その都度参考文献を提示する。								

授業科目	食生活論				担当者	伊澤 華子			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専2年
授業の概要 健康や栄養に関わる様々な問題について説明する。健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析、それらを総合的に評価・判定するための基本的な知識を説明する。学生自身の健康や生活の質（QOL）の向上につながる主体的な実践力形成に必要な基礎的スキルを習得させる。									
授業の目標(到達目標) 健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析、それらを総合的に評価・判定するための基本的な能力を身につける。自身の健康や生活の質（QOL）の向上につながる主体的な実践力形成に必要な基礎的スキルを身につける。									
授業計画及び内容									
1. 食と環境、食行動、食品の選び方について									
2. 栄養素、生活習慣病の予防と食事、食事バランスガイドの概要、日本型食生活とは									
3. 健康・栄養状態把握のための基礎 食品の表示（賞味期限・消費期限、アレルギー表示など）									
4. 健康・栄養状態把握のための基礎 食品の表示（遺伝子組換え食品の表示、食品添加物）									
5. 健康・栄養状態把握のための基礎 安全な食事とは？食中毒の予防について									
6. いわゆる健康食品と特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品について									
7. 科学的根拠とは？ 雑誌、論文から勉強してみよう									
8. 科学的根拠とは？ 特定保健用食品の情報をまとめてみよう									
9. 科学的根拠とは？ 各自が調べてきた特定保健用食品の情報を共有しよう									
10. 食事バランスガイドを使用して、普段の食事を評価しよう									
11. 食事バランスガイド等を使用して、自分に合う1日分の食事を考えよう									
12. 食事バランスガイド等を使用して、バランスの良い食事を考えよう									
13. 食環境と食事の関係 大学の周りの食環境と予想される食生活を比較しよう									
14. 食環境と食事の関係 自分の周りの食環境を調べよう									
15. 食環境と食事の関係 みんなの食環境と食生活を比較してみよう									
16. 試験									
事前学習	食に関する情報や表示、新聞記事などを収集しておくこと。								
事後学習	授業内容を見直し、身の周りの健康・栄養に関する情報に興味を持って調べること。								
履修上の注意	実際に情報や表示など収集し、分析・評価を行う。グループワークを行うことがある。								
成績評価の方法・基準	平常点 20%（平常点は、授業への参加態度及びグループワークでの態度を含め総合的な判断）とレポート 30%、試験 50%で評価を行う。 未提出のレポートのある者は評価の対象としない場合がある。								
教科書	〔きほんの献立練習帳〕〔松本伸子〕〔朝日新聞出版〕〔1,404 円〕								
参考書	〔食品成分表〕〔女子栄養大学出版部〕その他、授業内に適宜紹介								

授業科目		住居学（製図を含む）				担当者		永井 康雄			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服専3年		
授業の概要											
住空間の設計方法を理解するとともに、住空間のデザインを通して生活行為を具体的に想定し、経年変化のイメージと人体的感覚を養うことを目的とする。特に住空間のデザイン手法、空間特性、インテリア機能という観点から住空間の在り方を探る。											
授業の目標(到達目標)											
住居は「生活の容器」と言われるように、人間生活の中で最も基本的な役目を果たしている。しかしながら住居は時代とともに、また風土・生活様式・地方性などの文化的要因からも大きな影響を受けながら、絶えず変化している。これらの観点から「住居」「人が住まう」とは何かを考え、自らの住宅を設計・提案する。											
授業計画及び内容											
1. 日本の住まいの特徴											
2. 間取り											
3. 居間											
4. 台所											
5. 個室											
6. 子どもと高齢者と住まい											
7. 住宅の選択（戸建・集合住宅）											
8. 図面による表現技法の習得											
9. 平面計画の検討（必要な室と広さ）											
10. 平面設計の検討（室の配置と動線計画）											
11. 断面計画の検討											
12. 立面計画の検討											
13. 製図（平面図、配置図）											
14. 製図（立面図）											
15. 製図（作品提出）											
事前学習		建築とはどのような様にして成り立っているのかを意識しながら、日々建築を観察する。建築雑誌などを見て、建築への意識を高めること。									
事後学習		毎回の授業のテーマについて、各自で図面や模型の制作を通し、建築空間を練り上げる作業をすすめる。									
履修上の注意		後半の設計・製図では、毎回各自の設計案を持参すること。									
成績評価の方法・基準		事前・事後学習を含む授業姿勢 30%、提出課題 70%									
教科書	授業の都度、資料を配布する										
参考書	特になし										

授業科目	住居デザイン					担当者	山本 佳美		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専4年
授業の概要									
デザインの中のインテリアの基礎を教授する。									
授業の目標(到達目標)									
住居デザインの構成について基礎を学ぶ。内装材、インテリアを構成する照明、窓装飾家具等日常生活に必要なものの基本的な特徴を学び寸法等の基礎学力とインテリアデザインの独創性を身につける。									
授業計画及び内容									
1. インテリアデザインとは インテリアスタイルとは									
2. 建築家のデザイン									
3. インテリアの歴史①西洋のインテリアと家具									
4. 〃 ②日本のインテリアと家具									
5. インテリアの構成要素 ①内装材									
6. 〃 ②窓装飾									
7. 〃 ③照明									
8. 〃 ④家具									
9. 〃 ⑤設備、その他									
10. 部屋別インテリアのポイント①レイアウトとデザイン									
11. 〃 ②カラー									
12. 課題「私の好きなインテリア」(仮名)カラーを意識したコラージュ作成									
13. インテリアコーディネート演習 インテリアイメージボード作成(平面図とコンセプト)									
14. 〃 〃 (内装材と家具)									
15. プレゼンテーション									
事前学習	身の回りの"スケール感"を感覚として覚えてほしい。数回課題有り。								
事後学習	生活の中でのデザインを住空間の中で体感してみよう。								
履修上の注意	インテリアデザインに興味を持とう！								
成績評価の方法・基準	事前・事後学習を含む授業姿勢 50% 課題、作品のクオリティー 50%								
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	なし								

授業科目	住文化論					担当者	永井 康雄		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服専4年
授業の概要									
本講義では、日本の先史時代から近代までの各現代における住宅建築の特徴を理解し、今日の住宅がどの様にして成立したのか考える。									
授業の目標(到達目標)									
日本の古代から近代に至るまでの住宅の歴史的変遷を理解し、過去・現在・未来における住文化を考察するために基礎的な力を養成する。									
授業計画及び内容									
1. 先史時代の住居－縄文・弥生時代									
2. 先史時代の住居－古墳時代									
3. 古代の神社と飛鳥・奈良時代の貴族住宅									
4. 古代の都城と内裏									
5. 平安時代の貴族住宅－寝殿造									
6. 中世の住居－室町将軍邸・武士の屋敷									
7. 中世の住居－座敷飾り									
8. 近世の住居－客殿・広間・書院									
9. 近世の住居－江戸の大名屋敷									
10. 数奇屋と茶室									
11. 城下町									
12. 町屋									
13. 民家									
14. 近代の住居－擬洋風建築									
15. 近代の住居－住居の近代化									
事前学習	身の廻りにはどのような歴史的建築が存在するか少し気に留める。								
事後学習	歴史的建築を見に行ってみる。								
履修上の注意	歴史用語や専門用語が沢山出てくるので、各時間にできるだけ覚えるようにする。								
成績評価の方法・基準	事前・事後学習を含む授業姿勢 30% 提出課題 70%								
教科書	毎時間、資料を配付する。								
参考書	[日本住宅史図集][理工図書][2,100 円]								

授業科目	保育学（実習及び家庭看護を含む）					担当者	鈴木 行子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専3年
授業の概要									
子どもの心身の発達や生活習慣など成長の様子や、子どもの発達についての基本的知識を理解する。また、子どもを取り巻く保育の現状と、今日的な課題の把握、関連する法律等を知り、子どもの成長発達と家庭や社会の役割について理解させる。									
授業の目標(到達目標)									
子どもの心身の発達や生活、現代の子どもや家庭を取り巻く状況、子どもに関する法律や保育の現状などを通して、保育とは何かを理解することを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：オリエンテーション・授業の目的とねらい・授業計画									
2. 保育とは①：保育の意義とその思想									
3. 〃 ②：親になるとは・保育について									
4. 子どもの発達と生活①：乳幼児期の子どもの身体の発達									
5. 〃 ②：幼児期の子どものことばや社会性等こころの発達									
6. 〃 ③：子どもの遊びと発達の関わり									
7. 〃 ④：子どもの健康管理と事故防止及び家庭看護									
8. 子どもの成長と保育環境①：子どもの成長と家庭・社会の関わり									
9. 〃 ②：子どもの人権と福祉									
10. 子どもの人権と福祉：児童福祉に関わる法律・子どもの権利条約等									
11. 保育の展望：これからの保育・保育の歴史と現代の家庭における育児等									
12. 課題発表：課題発表会①「各自のテーマ」に基づいた発表									
13. 〃 ： 〃 ② 〃									
14. 〃 ： 〃 ③ 〃									
15. 「地域子育て支援センター」の見学・体験：子どもの活動観察、子どもとのふれあい									
事前学習	講義に関連する資料となり得るもの等（ニュース、新聞等 他）の収集に心がけること。								
事後学習	毎授業後に課題を出題するので、テーマについて関連する資料などを調べたりしながら自分の考えをまとめ、提出すること。								
履修上の注意	受講は自主的・積極的・意欲的に。 さらに提出物の期限厳守を重視する。								
成績評価の方法・基準	事前・事後学習を含む授業姿勢・レポート・提出物等（30%） 課題発表のレポートの提出・発表内容及び態度（70%）								
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	なし								

授業科目	家庭電気・機械				担当者	草野 清信			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服専3年
授業の概要 日常生活では多種多様な家庭機器が利用されている。これらの機械のしくみを知るとともに合理的、創造的な生活態度を身に付けることが現代人にとって不可欠な条件となっている。本講義では家庭機械の理解に必要な機械工学と、電気工学の基礎的、一般的事項を学ぶ。									
授業の目標(到達目標) 現代家庭生活を家庭機械の分野から捉える。これら家庭機械を適切に導入して、安全かつ効率的に運転し、正しく保守出来ることを目標とする。そのために、機械の原理・構造・動作についての基本的知識を修得して、簡単な修理・改良も行えるようにする。									
授業計画及び内容									
1. エネルギー：力と機械エネルギー									
2. 機械エネルギーと熱エネルギー：熱の仕事当量									
3. 電気エネルギー：オームの法則、電力、電力量									
4. 電気エネルギー：発生と輸送、直流と交流トランス									
5. 電気エネルギーの分配：低圧配電と屋内配電									
6. 安全な電気の取扱い：感電、漏電、ブレーカーと漏電ブレーカー									
7. 身近な家庭電気機器：アイロン、炊飯器、掃除機、電気洗濯機									
8. 身近な家庭電気機器：冷蔵庫、電磁調理器、電子レンジ									
9. 種々の計測器：電流計、分流器と倍率器、電圧計									
10. 種々の計測器：回路計、デジタルマルチメーター、電力計									
11. スイッチ回路：三路スイッチと四路スイッチ、階段スイッチ、極性切り替え回路、正転・反転回路									
12. 機械要素とその働き：機械要素と機構について									
13. 機械要素とその働き：ねじの規格について									
14. エネルギー問題：化石燃料と地球環境、未来社会である水素社会について									
15. まとめの講義									
16. 試験									
事前学習	回目の授業プリントを配布するので、学習して授業に臨むこと。								
事後学習	各回の小テスト結果と授業プリントを突き合わせて復習すること。								
履修上の注意	各回小テスト実施する。								
成績評価の方法・基準	期末試験（60%）、小テスト（20%）、事前・事後学習を含む授業姿勢（20%）								
教科書	授業前にプリントを配布する。								
参考書	なし								

授業科目	衛生学				担当者	土井 豊			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服専2年
授業の概要 本授業では、私たちを取り巻く環境の内、特に空気、気温、気湿、気流、気圧、太陽光線、水、土壌といった項目について教授するが、どの時点においても「私たちの健康を維持増進させるための衛生学」であることを貫く。									
授業の目標(到達目標) 本授業にて、自然あるいは人工的環境がそこに住む私たちの健康や疾病にどのような影響を及ぼしているのかについて学習することによって、そこで得た知識を今後の健康生活の設計及びその実践に役立てていけるような人材になることを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. 「衛生学」概説（ガイダンス）									
2. 空気環境と健康（大気の自浄作用を含む）									
3. 太陽光線と健康									
4. 気圧環境と健康									
5. 水と健康（ミルズ・レインケの現象を含む）									
6. 水系伝染病の特徴（地表水の自浄作用を含む）									
7. 仮想水について									
8. 水俣病をはじめとする公害病について									
9. 季節と健康（気象病）について									
10. 土壌と健康（土壌の自浄作用を含む）									
11. 住居と健康について									
12. 健康住居の原則1：基礎的生理的要求の満足、基礎的生活的要求の満足に関する項目									
13. 健康住居の原則2：伝染病予防、並びに事故防止等に関する項目									
14. 健康を維持増進するための環境に関する身近な改善策等について									
15. まとめ及び総括									
16. 期末試験									
事前学習	教員の指示に従い、授業内容に関する事柄を予習する。								
事後学習	復習を通じて、授業内容の確認、及び不明な点の発見と解決を行う。								
履修上の注意	正当な理由無き「欠席」は厳禁とする。								
成績評価の方法・基準	出席状況と随時課すレポート、及び期末試験の成績を総合的に評価する。 その内訳は、受講態度（熱心さ）50%、レポート10%、期末試験40%。								
教科書	使用しない。授業前に資料を配布する。								
参考書	適宜紹介する。								

授業科目	学校保健(学校安全及び救急処置を含む)					担当者	土井 豊		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服専2年
授業の概要									
学校保健の意義と目的について、現場教師が多々直面・遭遇する各種健康問題や問題事例等を取り上げつつ論述していくが、授業はゼミ形式で行う。また受講者には、毎回の講義終了時に発問をし、各人の回答を「ミニットペーパー」に記述させ提出させることを恒例とする。									
授業の目標(到達目標)									
本授業を通して、現代の学校における子どもたちの各種健康問題の解決は、もはや保健の専門職である養護教諭や保健体育科教員のための責務ではなく、学校全体として取り組んでいかなければならない課題であると認識できるようになることを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. 「学校保健」概説（ガイダンス）									
2. 「学校保健の歴史」及び「現在の学校保健の対象」等について									
3. 「学校保健の構造とその内容」について									
4. 「子ども発育・発達」Ⅰ（スクラムの発育曲線、及び近年の発育促進化現象について）									
5. 「子ども発育・発達」Ⅱ（「どこかおかしい子どもの実態」の今昔）									
6. 「子ども発育・発達」Ⅲ（「どこかおかしい子ども」の背景）									
7. 「児童・生徒の主な疾病異常」Ⅰ（学校保健統計調査の結果から）									
8. 「児童・生徒の主な疾病異常」Ⅱ（疾病異常の予防と指導について）									
9. 「性教育」の現実と課題について									
10. 「児童・生徒の問題行動の特徴とその指導」について									
11. 「学校保健安全対策」Ⅰ（学校における事故・災害の実態について）									
12. 「学校保健安全対策」Ⅱ（安全管理と安全教育・事故防止について）									
13. 「学校安全」及び「救急処置」について									
14. 「学校保健と Ethology」について									
15. まとめ及び総括（学校保健の今後の課題を含む）									
16. 期末試験									
事前学習		教員の指示に従い、授業内容に関する事柄を予習する。							
事後学習		復習を通じて、授業内容の確認、及び不明な点の発見と解決を行う。							
履修上の注意		正当な理由無き「欠席」は厳禁とする。							
成績評価の方法・基準		出席状況と随時課すレポート、及び期末試験の成績を総合的に評価する。 その内訳は、受講態度（熱心さ）50%、レポート10%、期末試験40%。							
教科書	使用しない。授業前に資料を配布する。								
参考書	適宜紹介する。								

授業科目	小児保健				担当者		佐藤 とよ子		
単位数	4	必・選	選	授業形式	講義	開講期	通年	対象	服専3年
授業の概要									
子どもを産み育て健全な人間社会を構築するには、まず健全な母性から始まる。この母性の働きも含めて、乳幼児期から思春期に至るまでの成長発達過程および子どもの事故や病気について映像を交えながら講義する。									
授業の目標(到達目標)									
子どもたちの健康に必要な知識を身につけると共に、今までの自分自身の健康への考え方・取り組み方を見つめ直し、今後の自分の健康生活に留意できるようになる。また、保育や教育者として携わる際に、子どもを心身両面から捉えることができるようになる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス (生きるとは)					16. 小児栄養の特徴				
2. 懸命に生きる子どもたち					17. 母乳栄養と人工栄養				
3. 生命の誕生					18. 離乳食				
4. 出生前の母子の健康 (飲酒)					19. 小児の事故 (溺死、溺水)				
5. 出生前の母子の健康 (薬、その他)					20. 小児の事故 (窒息、誤飲)				
6. 身体発育					21. 応急処置				
7. 身体発育の評価					22. 感染と免疫				
8. 生理機能の発達 (体温、呼吸、脈拍)					23. 性行為感染症				
9. 生理機能の発達 (感覚、排泄、睡眠)					24. HIV 感染症、AIDS				
10. 運動機能の発達					25. 学校伝染病				
11. 運動機能発達の評価					26. 予防接種				
12. 精神発達 (言語)					27. 小児の病気 (呼吸器、循環器)				
13. 精神発達 (情動、社会性)					28. 小児の病気 (消化器、血液)				
14. 精神発達の評価					29. 小児の病気 (皮膚、その他)				
15. 発達障害					30. まとめ				
事前学習		日頃より自分の健康に関心を示し、健康を保持増進するためには何が大切であるか、どう行動すればよいか常に考えるようにすること。							
事後学習		配布資料を整理し、常に自分の健康と結びつけて考えること。							
履修上の注意		配布したプリントはファイルに閉じて毎回持参すること。前期で6回以上欠席した場合、後期は受講できないこととする。							
成績評価の方法・基準		レポート・課題・ミニテスト70%、授業態度(積極性など)30%により総合評価する。							
教科書	〔わかりやすい子どもの保健〕〔西村昂三〕〔同文書院〕〔2,376円〕								
参考書	〔子育ての話〕〔平光雄〕〔致知出版社〕〔1,620円〕								

授業科目	家政特別講義Ⅰ				担当者	服飾文化専攻教員			
単位数	2	必・選	選	授業形式	集中講義	開講期	通年	対象	服専2年
授業の概要									
これまでに履修している家政学部共通科目、同基幹科目、服飾文化専攻科目で習得した知識や技術を活かす事の出来る様々な課題解決に取り組む。									
授業の目標(到達目標)									
家政学や服飾文化に関する学習の成果を活かし、様々な課題に取り組むことで、地域に貢献し、課題を解決する力やチームで取り組む力を身につける。									
授業計画及び内容									
第1回：ガイダンス									
第2回～29回：課題に応じた内容 実施時期は、その都度掲示により指示する。									
第30回：まとめ									
事前学習									
服飾・地域の生活や文化に関する情報を収集すること。									
事後学習									
取り組みの概要や成果を整理すること。									
履修上の注意									
積極的にかつ自主的に課題に向き合うことを望みます。									
成績評価の方法・基準									
事前準備をしているか、協力して取り組んでいるか等、受講態度に対し50%、成果に対し50%									
教科書	テーマに沿って指示する								
参考書	テーマに沿って指示する								

授業科目		家政特別講義Ⅱ（研修旅行）			担当者名		井上 美紀		
単位数	2	必・選	必	授業形式	集中講義	開講期	通年	対象	服専2年
授業の概要									
3泊4日の学術研修を行う。国内の様々な企業・博物館・その他施設での広義の学術研修を行う。									
授業の目標(到達目標)									
企業活動や様々な事柄についての理解を深めるとともに、専門科目の学習や将来の進路決定、さらには各自の研究活動の一助になるようにする。									
授業計画及び内容									
1. はじめに：研修先やテーマの確認									
2. 事前学習：研修先等の調査、調査内容の整理									
3. 研修旅行（3泊4日）									
4. 事後学習：報告書の作成									
5. 研修のまとめ									

授業科目		家政特別講義Ⅲ (ブランドマネジメント演習)				担当者		井上 美紀 ・ 川又 勝子			
単位数	2	必・選	選	授業形式	集中講義	開講期	通年	対象	服専3年		
授業の概要											
「mishima&Co」コーポレートブランドより、学生自身が企画、運営を行って商品の開発販売に至る全過程＝ブランドマネジメントを実践し、ファッションビジネス全般を実際に体験する。このために必要な知識や手法を教授する。外部研修も行う。											
授業の目標(到達目標)											
ファッションビジネスに必要な知識、ブランドマネジメント力を身に付ける。演習を通じて、社会人として必要な基礎力（チームワーク力、発信力、想像力、実行力、主体性、柔軟性、規律性等）を養い、学んだ知識や技術を実践的に応用できるようにする。											
授業計画及び内容 (全時、井上・川又の2人で指導)											
1. はじめに：ブランドマネジメント概論1 概要					16. 製造7 商品製造⑤						
2. ブランドマネジメント概論2 起業の実際					17. 製造8 商品製造⑥						
3. 今年度の連携事業内容、素材の学習					18. 製造9 商品製造⑦						
4. ブランドコンセプトの策定1					19. 製造10 商品製造⑧						
5. ブランドコンセプトの策定2					20. 製造11 商品製造⑨						
6. ブランドマネジメント概論3 ブランドプロモーション					21. 製造12 商品製造⑩						
7. 事業計画の策定、製品計画1 素案					22. 製造13 商品製造⑪						
8. 企業での研修 (山形県内の企業・連携先)					23. 製造14 商品製造⑫と検査 進捗状況により						
9. 製品計画2 決定					24. プロモーション計画 製造を平行						
10. 製造1 仕入れ・検品、サンプル作製①					25. プロモーション試料準備、展示会準備						
11. 製造2 サンプル作製②					26. プロモーション活動、展示会準備						
12. 製造3 商品製造①					27. 展示会1 搬入・展示						
13. 製造4 商品製造②					28. 展示会2						
14. 製造5 商品製造③					29. 展示会3 搬出						
15. 製造6 商品製造④					30. おわりに：検討会、本演習のまとめ						
事前学習		全体の作業計画と自分の役割を確認し、必要な資料を準備する。									
事後学習		作業計画に遅れがないように、次時までの予定を完結させる。									
履修上の注意		全員で協力し合い積極的に取り組む。社会人としてのマナーを心掛ける。									
成績評価の方法・基準		事前準備をし、チームで協力して積極的に課題に取り組んでいるかに対し60%、展示会・成果40%									
教科書	内容に応じて指示する。										
参考書	必要に応じて紹介する										

授業科目	家政特別講義Ⅳ				担当者	服飾文化専攻教員			
単位数	2	必・選	選	授業形式	演習	開講期	通年	対象	服専4年
授業の概要									
これまでに履修している家政学部共通教養科目、同基幹科目、服飾文化専攻科目で習得した知識や技術を活かすことのできる様々な課題解決に取り組ませる。									
授業の目標(到達目標)									
家政学や服飾文化に関する学習の成果を活かし、様々な課題に取り組むことで、地域に貢献し、課題を解決する力やチームで取り組む力を身につける。									
授業計画及び内容									
第1回：ガイダンス									
第2回～第29回：課題に応じた内容 開講日時、課題等については、その都度掲示により指示する									
第30回：まとめ									
事前学習									
日頃から服飾に関する情報や、地域の生活や文化に関する情報を収集するよう心掛けてください。									
事後学習									
今後の学習や課外活動、就職活動等に活かせるように、各自で取り組みの概要や成果についてまとめておくとういと思います。									
履修上の注意									
人頼みではなく、積極的かつ自主的に課題に向き合うことを望みます。									
成績評価の方法・基準									
授業参加状況（60%、積極性・協力して取り組んでいるかなどの総合評価）と成果（40%）で評価します。									
教科書	テーマに沿って指示する								
参考書	テーマに沿って指示する								

授業科目	課題研究Ⅰ					担当者	菅並 茂樹		
単位数	2	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	服専3年
授業の概要									
テーマは学生と話し合って決定し、その後は教員の指導の下に研究を進めていく。									
授業の目標(到達目標)									
設定した課題についての研究活動を通して、課題を解決し、研究結果を論文としてまとめる力を育成し、さらに発表する方法を習得することを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. テーマの決定									
2. 資料収集の方法、読み方、分析の仕方などの指導									
3. 資料収集の方法、読み方、分析の仕方などの指導									
4. 論文の書き方の指導（一般事項に関して）									
5. 論文の書き方の指導（選定したテーマに関して）									
6. 研究指導									
7. 研究指導									
8. 研究指導									
9. 研究指導									
10. 論文の作成									
11. 論文の作成									
12. 論文の作成									
13. 論文の作成									
14. 研究発表の準備									
15. 研究発表									
事前学習		研究テーマに関する資料を収集、分析、整理するよう努め、そのつど資料の概要を把握しておくように。							
事後学習		指導内容を復習し、論文作成に活用できるようにすること。論文作成にあたっては何回も読み返して改善に努めるようにすること。							
履修上の注意		日頃から関心のある分野についての課題意識を持つことが大切。論文作成においてはプロセスが重視されるので、意欲を失わずに持続的に作業を続けるようにすること。							
成績評価の方法・基準		課題に対する取り組み状況、研究の成果（論文の内容等）を総合的に評価する。							
教科書		使用しない。							
参考書		研究テーマにより指示する。							

授業科目	課題研究Ⅰ					担当者	植松 公威		
単位数	2	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	服専3年
授業の概要 教育心理学に関する研究テーマを先行研究から選び、追試研究を行うことを目指す。先行研究をよく理解した上で実験を準備、実施し、データを集計し、論文を作成することを通して研究に必要なリテラシーやプレゼンテーション力を習得させることを目的とする。									
授業の目標(到達目標) 1 ワードやエクセルを用いて、データの集計と図表の作成、読み取りが行えるようになる。 2 教育心理学の研究に必要な基礎的なリテラシー（読み書き能力）を身につける。 3 教育心理学の研究に興味を持ち、今後の課題や新たな仮説を立てられるようになる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス（年間の予定と教育目標）									
2. リレーションづくり（カウンセリングやゲーム）									
3. 過去の研究テーマの調査									
4. 研究テーマの選定									
5. 研究論文の構成について学ぶ									
6. 先行研究の内容についてまとめる									
7. 先行研究の内容について報告し、討論する									
8. 実験の準備（質問紙、教材、課題などの作成）									
9. 実験の準備（実験で配布する冊子の最終チェックと印刷）									
10. 実験の実施									
11. エクセルにデータを入力する									
12. エクセルを使ってデータを分析し、表や図を作成する									
13. ワードによる研究論文の作成									
14. 発表の準備（パワーポイントの画面、口頭発表の原稿を作成）									
15. 研究発表									
事前学習	ワードとエクセルの基本的な操作を習得しておくこと。								
事後学習	次の新たな研究につなげられるように今後の課題や新たな仮説について考えておく。								
履修上の注意	毎回、休まずに出席をすること。やむをえず欠席する場合はあらかじめ連絡を入れること。先行研究を熟読し、自ら積極的に学び、取り組み、進めること。								
成績評価の方法・基準	研究に対する取り組み 40%、論文の内容 40%、研究発表 20%								
教科書	必要に応じてプリントを配布する								
参考書	研究課題に応じて指示する								

授業科目	課題研究Ⅰ					担当者	井上 美紀		
単位数	2	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	服専3年
授業の概要									
被服科学分野では、被服整理・染色加工・被服材料に関連する研究課題を相談して決定し、課題に応じて文献調査と実験を行う。このための手法を教授する。課題に対する成果は論文にまとめ、発表し、課題研究Ⅱへの土台づくりを行う。									
授業の目標(到達目標)									
研究とは何か、研究の進め方の基本、文献調査や実験の計画、成果をまとめて発表するのに必要な基本的な力を身につけ応用できるようにする。									
授業計画及び内容									
1. はじめに：課題研究とは、研究の進め方									
2. 研究課題の選定、文献調査の方法									
3. 研究計画、文献調査									
4. 文献調査のまとめ									
5. 実験計画、試料の準備									
6. 実験1 課題に応じた内容									
7. 実験2 課題に応じた内容									
8. 実験3 課題に応じた内容									
9. 実験データの整理と考察									
10. 論文の書き方、論文の構成									
11. 論文作成①									
12. 論文作成②									
13. プレゼンテーションの方法、資料作成									
14. プレゼンテーション資料作成、発表練習									
15. おわりに：プレゼンテーション、論文提出、課題研究Ⅰのまとめ									
事前学習	速やかに作業や実験を開始できるように、十分に計画を立てて臨むこと。								
事後学習	得られたデータを整理し、しっかりと考察し、まとめること。								
履修上の注意	実験は安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねる。								
成績評価の方法・基準	事前準備をし、実験やディスカッションしデータを適切にまとめている事に対し 50%、論文・プレゼンテーションに対し 50%								
教科書	研究課題に応じて指示する								
参考書	必要に応じて紹介する								

授業科目		課題研究Ⅰ(染色学)				担当者		川又 勝子		
単位数	2	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	服専3年	
授業の概要										
これまでに修得した染色学に関する知識・技術をもとに、各自が設定したテーマの研究 方法とレポート作成を指導する。さらに、その成果のプレゼンテーション法についても指 導する。										
授業の目標(到達目標)										
3 年次前期までに修得した服飾文化に関する知識や技術の中から、特に染色学の分野か ら課題を見つけ研究を行う。この研究を通して、文献調査や論文作成の基本について学ぶ とともに、効果的なプレゼンテーション資料の作成法なども習得する。										
授業計画及び内容										
1. ガイダンス：課題研究Ⅰの進め方										
2. 〃 ：テーマの決定										
3. 文 献 調 査：文献の調べ方について										
4. 〃 ：各自で文献の収集と調査										
5. 〃 ：文献調査の報告と今後の計画										
6. 研 究 指 導：個別に調査等の指導①										
7. 〃 ：個別に調査等の指導②										
8. 〃 ：個別に調査等の指導③										
9. 〃 ：個別に調査等の指導④										
10. レポート指導：レポートのまとめ方										
11. 〃 ：個別にレポート作成の指導										
12. 〃 ：個別にレポート作成抄録原稿作成の指導										
13. 発表資料の作成指導：プレゼンテーション資料の作成について										
14. 〃 ：個別にプレゼンテーション資料の作成の指導と発表練習										
15. 課題研究Ⅰ 発表会										
事 前 学 習		日頃から染色に関しての情報を収集するように心掛けてください。毎回出 される課題は、次回までに必ず行ってください。								
事 後 学 習		文献や資料の調査、レポート作成などについては、各自で積極的に進め、 意欲的に取り組んでください。								
履修上の注意		遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。								
成績評価の 方法・基準		平常の取り組み(50%)、レポートや調査の成果・発表会でのプレゼンテー ション(50%)								
教科書	各自のテーマにそって指示する									
参考書	各自のテーマにそって指示する									

授業科目	課題研究Ⅰ					担当者	小野寺 美和		
単位数	2	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	服専3年
授業の概要 感性ワードの収集方法と選出方法，また評価用紙の作成方法や評価・分析方法について理解させる。									
授業の目標(到達目標) 感性工学の研究手法を習得する.研究テーマを選定する. 研究手順を身につける.論文をまとめる.発表方法を修得する									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション (授業の進め方)									
2. 研究方法① (研究テーマの選定)									
3. 研究方法② (研究計画)									
4. 研究方法③ (国内外の文献調査方法の説明と感性工学についての説明)									
5. 研究方法④ (国内外の文献調査)									
6. 研究方法⑤ (感性工学を用いた評価実験の為の試料作成①感性ワードの収集・選出方法)									
7. 研究方法⑥ (感性工学を用いた評価実験の為の試料作成②評価用紙の作成方法)									
8. 研究方法⑧ (感性工学を用いた評価実験と分析方法)									
9. 研究方法⑦ (感性工学を用いた評価実験)									
10. 研究方法⑨ (論文の作成①緒言・参考文献)									
11. 研究方法⑩ (論文の作成②研究方法)									
12. 研究方法⑪ (論文の作成③結果と考察)									
13. 研究方法⑫ (プレゼンテーション作成)									
14. 研究方法⑬ (プレゼンテーション作成と発表練習)									
15. 研究方法⑭ (課題研究Ⅰ発表会)									
事前学習	感性工学の教科書を熟読しておくこと. A4 サイズの研究ノートを各自準備しておくこと.毎回課題提出(日常生活に関心のある分野の新聞記事をスクラップしまとめておくこと)								
事後学習	毎回課題を与えるので,必ず次回の授業まで準備をしておくこと								
履修上の注意	休まないこと (やむをえず欠席する場合は予め連絡を入れること)								
成績評価の方法・基準	平常点 (50%) 論文作成 (30%) 課題 (20%) [平常点は授業への参加状況および研究内容の進捗状況の結果等で総合的に判断する。]								
教科書	〔感性工学—感性をデザインに活かすテクノロジー〕〔サイエンス・らいぶらり〕〔1,260 円〕								
参考書	感性工学学会誌・日本家政学会誌・日本色彩学会誌など								

授業科目		課題研究Ⅱ				担当者		植松 公威	
単位数	4	必・選	選	授業形式	演習	開講期	通年	対象	服専4年
授業の概要									
課題研究Ⅰで取り組んだ教育心理学に関する研究をさらに発展させることを目指す。先行研究や参考文献をよく理解した上で実験を準備、実施し、データを集計し、論文を作成することを通して研究に必要なリテラシーやプレゼンテーション力を習得させることを目的とする。									
授業の目標(到達目標)									
1 ワードやエクセルを用いて、データの集計と分析が行えるようになる。 2 教育心理学の研究テーマに基づいて学習者を想定した教材を作成し、学習援助のあり方を学ぶ。また、作成した教材の教育効果を検証できるようになる。 3 教育心理学に興味を持ち、今後の課題を見つけ、新たな仮説を立てられるようになる									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス（年間の予定と教育目標）					16. 研究論文の「方法」を作成する				
2. 課題研究Ⅰの課題について検討する					17. 研究論文の「結果」を作成する				
3. 新たな仮説、目標、問題点を明確にする					18. 研究論文の「考察」を作成する				
4. 課題研究Ⅰの概要を文章化する					19. 研究論文の「今後の課題」を作成する				
5. 先行研究について調べる					20. 研究論文の全体について確認する				
6. 先行研究の概要を文章化する					21. パワーポイントを使ってデータを作成				
7. 先行研究の内容について討論する					22. 口頭発表の原稿を作成する				
8. 新たな目標に基づく実験を計画する					23. 研究論文の全体について再度、確認				
9. 質問紙、課題、教材などを作成する					24. パワーポイント、発表原稿の確認				
10. 実験の冊子をチェックし、印刷する					25. 研究論文を修正し、補足を加える				
11. 実験の計画と準備を確認する					26. 研究論文の抄録を作成する				
12. 実験の実施					27. 発表の事前予行練習				
13. 実験のデータを入力する					28. 研究論文、口頭発表の原稿、パワーポイントのデータを確認、修正する				
14. データを分析し、表や図を作成する					29. 研究発表の準備				
15. 研究論文の「問題と目的」を作成する					30. 研究活動を振り返り、今後の課題を文章にまとめ、論文に加える				
事前学習		3年次の課題研究Ⅰの課題や問題点を明らかにしておく。							
事後学習		一年間を通じての感想や反省を記し、後輩へのアドバイスとなる文書を作成し、残すとよい。							
履修上の注意		毎回、休まずに出席をすること。やむをえず欠席する場合はあらかじめ連絡を入れること。先行研究を熟読し、自ら積極的に学び、取り組み、進めること。							
成績評価の方法・基準		研究に対する取り組み 40%、論文の内容 40%、研究発表 20%							
教科書	必要に応じてプリントを配布する								
参考書	研究テーマに応じて指定する								

授業科目		課題研究Ⅱ				担当者		井上 美紀		
単位数	4	必・選	選	授業形式	演習	開講期	通年	対象	服専4年	
授業の概要										
課題研究Ⅰから引き続き、被服整理・染色加工・被服材料に関連する研究課題に対し取り組む。課題に応じて文献調査と実験を行う。課題に対する成果は論文にまとめ、発表（発表、ポスター）する。このための手法を教授する。										
授業の目標(到達目標)										
課題研究Ⅰから引き続き、研究の進め方の基本を修得できるようにする。研究課題を解決するために必要な応用力を養う。										
授業計画及び内容										
1. はじめに：課題研究Ⅱの進め方					16. 実験計画2 試料準備					
2. 研究計画Ⅰでの成果と課題					17. 実験7 課題に応じた内容					
3. 研究計画1 計画案の策定					18. 実験8 課題に応じた内容					
4. 研究計画2 修正・立案					19. 実験データの整理とまとめ					
5. 文献調査1					20. 論文の構成					
6. 文献調査2					21. 論文作成1					
7. 文献調査3 まとめ					22. 論文作成2					
8. 実験計画1 試料準備					23. 論文作成3					
9. 実験1 課題に応じた内容					24. 論文作成4					
10. 実験2 課題に応じた内容					25. 抄録作成、プレゼンテーション資料作成					
11. 実験3 課題に応じた内容					26. プレゼンテーション資料作成、発表練習					
12. 実験4 課題に応じた内容					27. プレゼンテーション					
13. 実験5 課題に応じた内容					28. ポスターセッション資料作成					
14. 実験6 課題に応じた内容					29. ポスターセッション					
15. 実験データの整理、考察					30. おわりに 課題研究のまとめ					
事前学習		速やかに作業や実験を開始できるように、十分に計画を立てて臨むこと。								
事後学習		得られたデータを整理し、しっかりと考察し、まとめること。								
履修上の注意		実験は安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねる。								
成績評価の方法・基準		事前準備をし、実験やディスカッションしデータを適切にまとめている事に対し50%、論文・プレゼンテーションに対し50%								
教科書	研究課題に応じて指示する									
参考書	必要に応じて紹介する									

授業科目		課題研究Ⅱ(染色学)				担当者		川又 勝子	
単位数	4	必・選	選	授業形式	演習	開講期	通年	対象	服専4年
授業の概要									
課題研究Ⅰでまとめたレポートを基に、より詳細な文献や染織品の調査、作品の制作等を行う。調査と制作は、各人の進捗状況をみて個別指導を行う。また、効果的なプレゼンテーション資料作成についても指導する。									
授業の目標(到達目標)									
染色学に関する知見を深めるために、課題研究Ⅰで得られた結果を活かして調査や作品制作を行う。さらに、これらの成果を論文にまとめることで、理論の組み立て方や造形技術を分析する能力を養う。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：課題研究Ⅱの説明					16. 個別に制作・調査等の指導⑩				
2. テーマの確認と今後の進め方					17. " ⑪				
3. 文献・資料等の収集①					18. " ⑫				
4. " ②					19. 論文作成の指導①				
5. 文献・資料等の調査①					20. " ②				
6. " ②					21. " ③				
7. 個別に制作・調査等の指導①					22. " ④				
8. " ②					23. " ⑤				
9. " ③					24. 抄録原稿作成				
10. " ④					25. プレゼンテーション資料作成				
11. " ⑤					26. 発表練習				
12. " ⑥					27. 課題研究発表会				
13. " ⑦					28. ポスター制作①				
14. " ⑧					29. " ②				
15. " ⑨					30. 課題研究展でのポスターセッション				
事前学習		日頃から染色に関しての情報を収集するように心掛けてください。毎回出される課題は、次回までに必ず行ってください。							
事後学習		文献や資料の調査、作品制作、論文作成などについては、各自で積極的に進め、意欲的に取り組んでください。							
履修上の注意		遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。作品制作をする場合には実費を負担していただきます。							
成績評価の方法・基準		平常の取り組み(50%)、レポートや調査の成果・発表会でのプレゼンテーション(50%)							
教科書	各自のテーマにそって指示する								
参考書	各自のテーマにそって指示する								

授業科目		課題研究Ⅱ				担当者		小野寺 美和	
単位数	4	必・選	選	授業形式	演習	開講期	通年	対象	服専4年
授業の概要									
実験の操作，データの取り扱い，論文の書き方などの手法を修得する。									
実験等で得られた結果をもとに，繊維製品の設計指針を提案することができる。									
授業の目標(到達目標)									
感性工学の研究手法を修得する。									
衣・繊維に関する実験手法・評価方法を修得するしそれを応用することができる。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション（課題研究Ⅰの反省）					16. 研究指導⑨（第二次実験の計画と準備）				
2. 研究計画①（テーマの確認）					17. 研究指導⑩（実験の計画と準備と実施）				
3. 研究計画②（文献調査）					18. 研究指導⑪（実験の実施）				
4. 発表会①（研究に関する文献発表会）					19. 発表会⑥（研究内容について中間発表会）				
5. 研究指導③（実験の計画と準備）					20. 発表会⑦（文献発表会）				
6. 研究指導④（実験の計画と準備と実施）					21. 研究指導⑫（実験結果の解析と論文製作）				
7. 研究指導⑤（実験の実施）					22. 研究指導⑬（実験結果の解析と論文作成）				
8. 発表会②（研究内容関する中間発表会）					23. 研究指導⑭（論文作成の指導）				
9. 発表会③（文献発表会）					24. 研究指導⑮（論文作成の指導）				
10. 研究指導⑥（実験の実施と解析）					25. 研究指導⑯（プレゼン試料作成）				
11. 研究指導⑦（実験結果の解析）					26. 研究指導⑰（プレゼン試料作成と発表練習）				
12. 研究指導⑧（実験結果の解析）					27. 課題研究Ⅱ発表会				
13. 発表会④（前期研究内容の発表会）					28. ポスターセッション試料作成				
14. 発表会⑤（文献発表会）					29. ポスターセッション				
15. 実験データの整理					30. 課題研究Ⅱのまとめ				
事前学習		感性工学の教科書を熟読しておくこと。 A4 サイズの研究ノートを各自準備しておくこと。 課題①提出（日常生活に関心のある分野の新聞記事をスクラップしまとめておくこと）							
事後学習		毎回課題②（国内外の論文を調べまとめる）を準備しておくこと。							
履修上の注意		休まないこと（やむをえず欠席する場合は予め連絡を入れること） 欠席が続く場合は不可と致します。							
成績評価の方法・基準		平常点（50％）論文作成（30％）進捗状況（20％）[平常点は授業への参加状況および研究内容の進捗状況の結果等で総合的に判断する。]							
教科書	〔感性工学—感性をデザインに活かすテクノロジー〕〔サイエンス・らいぶらり〕〔1,260 円〕								
参考書	感性工学学会誌・日本家政学会誌・日本色彩学会誌など								

健康栄養学専攻専攻科目

健康栄養学専攻

4. 健康栄養学専攻専攻科目

授業科目		社会福祉論				担当者	伊藤 常久		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専1年
授業の概要 日本や諸外国における社会福祉の歴史や発展について触れながら、少子高齢化の進む日本における高齢者や児童、障害者等に対する社会福祉のあり方と課題について解説する。									
授業の目標(到達目標) 日本における社会福祉の概念や制度、歴史について知ると共に社会福祉と個人並びに社会生活との関連について理解する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：授業の説明、アンケート、社会福祉とは									
2. 日本における社会福祉の歴史と発展									
3. 諸外国における社会福祉の歴史									
4. 社会福祉のニーズとは									
5. 社会福祉に携わる専門職									
6. 社会福祉援助技術									
7. 諸外国における社会福祉の現状とその制度（VTR）									
8. 障害者福祉・身体障害者補助犬法									
9. 高齢者福祉									
10. 児童福祉									
11. 子どもの権利条約									
12. 貧困問題と社会福祉									
13. ボランティア									
14. これからの社会福祉									
15. まとめ									
16. 試験									
事前学習		事前に配布するプリントに目を通し、その中で取り上げるキーワードについては新聞や関連する書籍、資料等を読み、調べておくこと。							
事後学習		講義で扱った内容は必ず復習し、配布プリント中心に理解を深めること。							
履修上の注意		不明な点は質問し、疑問解決に努めること。遅刻・欠席はしないこと。							
成績評価の方法・基準		受講態度：ミニットペーパー等への記入・提出（50%）、筆記試験（50%）。原則として追・再試験は行わない。							
教科書		授業前にプリントを配布する。							
参考書		なし							

授業科目		公衆衛生学Ⅰ				担当者	伊藤 常久		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専3年
授業の概要									
医学や疫学をはじめとする諸科学と公衆衛生学との関係について説明し、公衆衛生の概念や歴史に関しても触れながら制度や法規、公衆衛生活動等について、我が国と海外のデータを示しながら具体的に解説する。									
授業の目標(到達目標)									
個人や集団を対象とする健康の保持増進や疾病予防に関する理論と合わせ、実際に行われる公衆衛生活動及び保健・医療・介護システム等の概要について理解する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス、公衆衛生学とは、健康の概念									
2. 健康指標									
3. 疫学とは									
4. 疫学と公衆衛生									
5. 生活習慣病の現状と対策									
6. 主要疾患と予防対策									
7. 保健行動（理論と枠組み）									
8. ヘルスプロモーションとは									
9. 健康づくり運動と健康日本21（第2次）									
10. 産業保健									
11. 母子保健（健やか親子21）									
12. 高齢者保健、介護保険制度									
13. 環境と健康									
14. 学校保健									
15. まとめ									
16. 試験									
事前学習		教科書の該当する内容を予め読んでおくこと。							
事後学習		講義で扱った内容は必ず復習し、テキスト・配布資料を中心に理解を深めること。							
履修上の注意		不明な点は質問し、疑問解決に努めること。遅刻・欠席はしないこと。							
成績評価の方法・基準		受講態度：ミニットペーパー等への記入・提出（50%）、筆記試験（50%）。原則として追・再試験は行わない。							
教科書	〔衛生・公衆衛生学〕〔山本玲子編〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,024円〕								
参考書	なし								

授業科目		公衆衛生学Ⅱ				担当者	伊藤 常久		
単位数	2	必・選	管栄(必)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専3年
授業の概要									
公衆衛生学Ⅰに続き、疫学、衛生行政、公衆衛生活動、衛生法規、国際保健、医療制度等について保健や福祉との関連にも触れながら解説する。									
授業の目標(到達目標)									
人間集団を対象として、健康の保持増進や疾病予防に必要な基礎的な知識とその応用に関する諸理論について理解し、公衆衛生学的な考え方を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. 疫学と健康・社会政策									
3. 衛生行政									
4. 母子保健（少子化問題とその対策）									
5. 災害の公衆衛生									
6. 高齢者保健（閉じこもり）									
7. 学校保健（子どもの安全安心、ヘルスプロモーションスクール）									
8. 生活習慣病対策									
9. 感染症対策									
10. 精神保健									
11. 国際保健									
12. 医療制度									
13. 衛生法規									
14. これからの公衆衛生活動									
15. まとめ									
16. 試験									
事前学習		教科書の該当する内容を予め読んでおくこと。							
事後学習		講義で扱った内容は必ず復習し、テキスト・配布プリントを中心に理解を深めること。							
履修上の注意		不明な点は質問し、疑問解決に努めること。遅刻・欠席はしないこと。							
成績評価の方法・基準		受講態度：ミニットペーパー等への記入・提出（50%）、筆記試験（50%）。原則として追・再試験は行わない。							
教科書	〔衛生・公衆衛生学〕〔山本玲子編〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,024 円〕								
参考書	なし								

授業科目		健康管理概論				担当者	土井 豊		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専1年
授業の概要									
授業では、日本における疾病構造の今昔（かつての感染症から生活習慣病へ）を踏まえ、今後はいかなる健康対策が必要であるのかについて、栄養・運動・休養を中心に解説する。									
授業の目標(到達目標)									
今や世界的にもトップクラスの長寿国となった我が国において、長寿を真に幸福なものとするためには心身の健康が最も大切であること、また今後の健康の維持増進にとっては健康の3本柱（運動・栄養・休養）が重要であることを理解できるようになる。また、健康情報の利用・管理法等についても学び、専門的職業人になるための能力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 「健康管理概論」概説（ガイダンス）									
2. 「健康的痩身方法についての実証的研究」の説明									
3. 現在の「日本における人口構造」並びに「平均寿命延長の主な要因」等について									
4. 「超少子高齢化の日本」並びに「現代の日本における健康の姿」等について									
5. 国民衛生の動向より、「現代人に多い疾病及び死因」等について									
6. 「ライフスタイル（生活習慣）の現状と課題」について									
7. 「メタボリックシンドロームとその予防」について									
8. 「ロコモティブシンドロームとその予防」について									
9. 「骨粗鬆症とその予防」について									
10. 「骨粗鬆症とその予防」について									
11. 健康の維持増進に欠かせない「栄養・運動・休養の役割」について									
12. 「性と健康」（STD 及び HIV／AIDS 等を含む）について									
13. 「季節と健康」（特に、冬場に多い疾病とその予防等）について									
14. 総復習									
15. まとめ及び総括									
16. 期末試験									
事前学習		教員の指示に従い、授業内容に関する事柄を予習する。							
事後学習		復習を通じて、授業内容の確認、及び不明な点の発見と解決を行う。							
履修上の注意		正当な理由無き「欠席」は厳禁とする。							
成績評価の方法・基準		出席状況と随時課すレポート、及び期末試験の成績を総合的に評価する。 その内訳は、受講態度（熱心さ）50%、レポート10%、期末試験40%。							
教科書	〔衛生・公衆衛生学〕〔山本玲子他〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2,800円〕								
参考書	適宜紹介する。								

授業科目		解剖生理学Ⅰ				担当者	曾根 正彦		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専1年
授業の概要									
人体の構造と機能とは医学の根本を成すものであり、解剖学と生理学を関連付けながら解説する。解剖生理学は領域が広範であるため、1年後期の解剖生理学Ⅰと2年前期の解剖生理学Ⅱに分けてある。解剖生理学Ⅰでは骨格系、筋系、神経系、感覚器系、内分泌系、血液などについて授業を行う。									
授業の目標(到達目標)									
現代は飽食化が進み生活習慣病が社会問題となり、また高齢化社会の到来で疾病が多様化している。栄養学的にこれらの病気を理解するには、健康な人体の構造（解剖学）と機能（生理学）を理解する事が必要である。この授業では医学的な基礎知識である解剖学と生理学を学び身につけることを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション、人体の構造と機能（人体の区分、解剖学用語、生体成分）									
2. 人体の構造と機能（生体の構成器官と組織）、皮膚と膜									
3. 骨格系（骨格系の概略）									
4. 骨格系（主要骨格）									
5. 筋系（筋の種類、骨格筋の形状と構造、骨格筋の補助装置、骨格筋の作用）									
6. 筋系（骨格筋の機能、主要骨格筋）									
7. 神経系（神経系の構成・機能、神経細胞の生理学）									
8. 神経系（中枢神経系、末梢神経系、投射神経路、脳室と脳脊髄液）									
9. 感覚器系（感覚の成立機序、体性感覚器の構造と機能、内臓感覚）									
10. 感覚器系（特殊感覚の構造と機能）									
11. 内分泌系（内分泌系の概略）									
12. 内分泌系（おもな内分泌臓器）									
13. 内分泌系（内分泌系の働き）									
14. 血液（血液の働き、血液の一般的性質、血液成分）									
15. 血液（血球細胞の成熟分化、血液凝固作用、血液型）									
16. 試験									
事前学習		教科書に沿って講義を進めるので事前に教科書を読んで、分からないところがあったら講義中に質問すること。							
事後学習		自分のノートを作り知識を整理して復習すること。講義内容で理解できないところや疑問点があったら講義中に質問するか、講義終了後にミニットペーパー等で質問すること。							
履修上の注意		解剖生理学の学習のためには生物学の知識が重要である。事前に生物学の知識を十分に整理しておくことが望ましい。							
成績評価の方法・基準		期末試験（90％程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10％程度）で評価する。							
教科書	〔解剖生理学〕〔高野康夫 編〕〔化学同人〕〔3,000 円〕								
参考書	使用せず								

授業科目		解剖生理学Ⅱ				担当者	曾根 正彦		
単位数	2	必・選	管栄(必)	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専2年
授業の概要									
人体の構造と機能とは医学の根本を成すものであり、解剖学と生理学を関連付けながら解説する。解剖生理学は領域が広範であるため、1年後期の解剖生理学Ⅰと2年前期の解剖生理学Ⅱに分けてある。解剖生理学Ⅱでは心臓血管系、リンパ系と生体防御、呼吸器系、消化器系、エネルギー代謝と体温調節、泌尿器系、生殖器系、人体の発生などについて授業を行う。									
授業の目標(到達目標)									
現代は飽食化が進み生活習慣病が社会問題となり、また高齢化社会の到来で疾病が多様化している。栄養学的にこれらの病気を理解するには、健康な人体の構造（解剖学）と機能（生理学）を理解する事が必要である。この授業では医学的な基礎知識である解剖学と生理学を学び身につけることを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション、心臓血管系（心臓）									
2. 心臓血管系（血液の循環、胎生期の血液循環、血管の構造、循環系の生理学、循環調節）									
3. リンパ系と生体防御（リンパ系の構成、リンパ系の機能、非特異的生体防御機構）									
4. リンパ系と生体防御（特異的生体防御機構、免疫不全、免疫反応を利用した技術開発）									
5. 呼吸器系（呼吸器系の構成）									
6. 呼吸器系（呼吸生理学）									
7. 化器系（口、咽頭、食道）									
8. 消化器系（胃、小腸、大腸、）									
9. 消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓）									
10. エネルギー代謝と体温調節									
11. 泌尿器系（泌尿器系の構成）									
12. 泌尿器系（腎臓の働き、体液の恒常性）									
13. 生殖器系（男性生殖器の構成、女性生殖器の構成）									
14. 生殖器系（性周期：卵巣周期と月経周期、乳腺）									
15. 人体の発生（生殖細胞、性の決定、受精、卵割と着床）									
16. 試験									
事前学習		教科書に沿って講義を進めるので事前に教科書を読んで、分からないところがあったら講義中に質問すること。							
事後学習		自分のノートを作り知識を整理して復習すること。講義内容で理解できないところや疑問点があったら講義中に質問するか、講義終了後にミニットペーパー等で質問すること。							
履修上の注意		解剖生理学の学習のためには生物学の知識が重要である。事前に生物学の知識を十分に整理しておくことが望ましい。							
成績評価の方法・基準		期末試験（90％程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10％程度）で評価する。							
教科書	〔解剖生理学〕〔高野康夫 編〕〔化学同人〕〔3,000 円〕								
参考書	使用せず								

授業科目		運動生理学				担当者	土井 豊		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専2年
授業の概要									
本授業では、運動に伴う生理的な諸現象を理解し、運動実施者の特性に応じた適切な運動の強度・時間・頻度等の設定を考慮した運動処方作成に必要な内容について解説する。									
授業の目標(到達目標)									
運動は、健康づくりの3本柱として栄養・休養とともに位置づけられている。そこで本授業では、運動時の生理的反応について理解するとともに、生活習慣病予防や要介護予防に必要な運動処方を作成するための知識を習得する。									
授業計画及び内容									
1. 「運動生理学」概説（ガイダンス）									
2. 健康づくりのための「健康運動」の重要性について									
3. 運動と呼吸系の生理学：運動時における呼吸機能のしくみ									
4. 運動と循環系の生理学：運動時における循環機能のしくみ									
5. 運動と筋肉の生理学：筋肉の種類やトレーニングによる筋肉の変化等について									
6. 運動とエネルギー代謝：運動時におけるエネルギー供給系について									
7. 代謝からみた運動能力：有酸素運動と無酸素運動について									
8. 運動と環境について：暑さ寒さと運動、及び気圧と運動等について									
9. 健康・体力づくりのためのトレーニングの基礎について									
10. 運動処方の基礎：運動処方の手順と留意事項について									
11. 生活習慣病と運動処方1：肥満者のための運動処方の実際について									
12. 生活習慣病と運動処方2：メタボリックシンドロームと運動処方の実際について									
13. 生活習慣病と運動処方3：ロコモティブシンドロームと運動処方の実際について									
14. 高齢者のための運動処方：老化による身体機能低下に対する運動処方の実際について									
15. まとめ及び総括									
16. 期末試験									
事前学習		教員の指示に従い、授業内容に関する事柄を予習する。							
事後学習		復習を通じて、授業内容の確認、及び不明な点の発見と解決を行う。							
履修上の注意		正当な理由無き「欠席」は厳禁とする。							
成績評価の方法・基準		出席状況と随時課すレポート、及び期末試験の成績を総合的に評価する。 その内訳は、受講態度（熱心さ）50%、レポート10%、期末試験40%。							
教科書		〔健康のためのスポーツ生理学〕〔池川繁樹編著〕〔光生館〕〔1,800円〕							
参考書		適宜紹介する。							

授業科目		微生物学				担当者	齋藤 紀行		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専2年
授業の概要									
微生物の種類と大きさ・増殖性の違いを学び、それぞれの微生物の特徴を理解させる。 更に、微生物の病原性、人の感染防御機構、微生物の増殖抑制法等について解説する。									
授業の目標(到達目標)									
微生物学は管理栄養士養成課程専門科目の基礎となる。本授業では、微生物には、人の健康を良好にするものと健康を損なうものがあることを学び、それぞれの微生物の特徴の習得と、微生物と人との関わりかたを理解する。									
授業計画及び内容									
1. 微生物の歴史：伝染病と微生物									
2. 微生物の歴史：感染症と治療									
3. 微生物の特徴：微生物の種類と構造									
4. 微生物の特徴：微生物の増殖性									
5. 微生物の特徴：微生物の分類									
6. 有用微生物：微生物を利用した食品									
7. 病原微生物：病原性のある細菌、ウイルス、その他									
8. 病原微生物：病原因子									
9. 病原微生物：発症機構									
10. 感染と免疫：感染について									
11. 感染と免疫：免疫関連細胞と因子									
12. 感染と免疫：免疫機構									
13. 滅菌と消毒：滅菌法と消毒法									
14. 化学療法：抗生物質と化学療法									
15. 微生物を利用したバイオテクノロジー									
16. 試験									
事前学習		講義予定項目について教科書を読んでおくこと							
事後学習		講義ノート、配付資料に沿って復習すること							
履修上の注意		微生物の食品への応用、人への病原性発現を理解するためには細胞代謝の生化学的機構の知識が要求されることから、生物学を復習して授業に臨むこと。							
成績評価の方法・基準		授業への取り組み（50%）、提出課題（10%）、試験（40%）で評価する。							
教科書	〔エキスパート微生物学〕〔小林秀光編〕〔化学同人〕〔2,500 円〕								
参考書	無し								

授業科目		生化学 I				担当者	鈴木 裕行		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専 1 年
授業の概要									
生体を構成する細胞の構造と細胞内小器官の機能およびタンパク質・糖質・脂質の構造と化学的性質について詳説する。また、代謝を司る酵素の種類・性質と機能について説明する。									
授業の目標(到達目標)									
生化学とは生命現象を生体物質の性質・機能の観点から解析する学問である。本授業では人体の構造と機能を系統的に理解する基礎として、以下の各項を理解し説明できるようにすることを目標とする。 ①細胞の構成の概要、②生体中の基本物質であるタンパク質・脂質・糖質等の種類、構造と化学的性質、③代謝の主役である酵素とはどのようなものか、およびその性質									
授業計画及び内容									
1. 生化学とは、細胞の構造									
2. 細胞内小器官の機能、生体構成成分									
3. アミノ酸・タンパク質の化学：アミノ酸とは、アミノ酸の種類									
4. アミノ酸・タンパク質の化学：アミノ酸の性質、タンパク質とは									
5. アミノ酸・タンパク質の化学：タンパク質の高次構造、タンパク質の種類									
6. 糖質の化学：糖質とは									
7. 糖質の化学：単糖類・オリゴ糖類の種類と性質									
8. 糖質の化学：多糖類の種類と性質									
9. 中間試験、脂質の化学：脂質とは、脂質の種類									
10. 脂質の化学：脂肪酸の特徴と種類、単純脂質									
11. 脂質の化学：複合脂質									
12. 脂質の化学：誘導脂質									
13. 酵素：酵素とは									
14. 酵素：分類と性質									
15. 酵素：酵素活性の調節									
16. 期末試験									
事前学習		教科書・参考書の各時間の授業範囲に該当する部分を熟読すること。							
事後学習		板書ノート・配布資料を見直して復習すること。							
履修上の注意		基礎栄養学の内容と関連が深いので、学習内容を対比して理解を深めること。							
成績評価の方法・基準		中間試験：30%、期末試験：60%、平常点（提出物等）：10%							
教科書	〔わかりやすい生化学〕〔林 寛他〕〔三共出版〕〔2,592 円〕								
参考書	〔栄養の生化学 1・2・3 改訂第 3 版〕〔遠藤克己〕〔南江堂〕〔2,160 円〕								

授業科目		生化学Ⅱ				担当者	鈴木 裕行		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専2年
授業の概要 生化学Ⅰに引き続き、生体エネルギー、糖質・脂質の代謝、アミノ酸代謝および情報高分子の構造と機能について説明する。									
授業の目標(到達目標) 生化学とは生命現象を生体物質の性質・機能の観点から解析する学問である。本授業では人体の構造と機能を系統的に理解する基礎として、以下の各項を理解し説明できるようにすることを目標とする。 ①糖質・脂質・タンパク質の代謝および生体エネルギーと酸化還元、②情報高分子の構造と機能、③細胞間・細胞内の情報伝達、④生体の恒常性									
授業計画及び内容									
1. 糖質の代謝：解糖系									
2. 糖質の代謝：クエン酸回路									
3. 糖質の代謝：グリコーゲン合成、ペントースリン酸経路									
4. 生体のエネルギー：生体内の酸化還元反応とエネルギー									
5. 生体のエネルギー：電子伝達系									
6. 脂質の代謝：脂肪酸のβ酸化、ケトン体の生成									
7. 脂質の代謝：脂肪酸生合成、TG・リン脂質の合成									
8. 脂質の代謝：コレステロール代謝、血漿リポタンパク質									
9. 中間試験、タンパク質とアミノ酸の代謝：アミノ酸代謝の概要：尿素サイクル									
10. タンパク質とアミノ酸の代謝：アミノ酸代謝各論									
11. 代謝の相互関係									
12. 情報高分子の構造と機能：核酸と遺伝子									
13. 情報高分子の構造と機能：タンパク質の生合成									
14. 個体の調節機構と恒常性：細胞間・細胞内の情報伝達									
15. 個体の調節機構と恒常性：生体内の恒常性									
16. 期末試験									
事前学習		教科書・参考書の各時間の授業範囲に該当する部分を熟読すること。							
事後学習		板書ノート・配布資料を見直して復習すること。							
履修上の注意		基礎栄養学の内容と関連が深いので、学習内容を対比して理解を深めること。							
成績評価の方法・基準		中間試験：30%、期末試験：60%、平常点（提出物等）：10%							
教科書		〔わかりやすい生化学〕〔林 寛他〕〔三共出版〕〔2,592 円〕							
参考書		〔栄養の生化学 1・2・3 改訂第 3 版〕〔遠藤克己〕〔南江堂〕〔2,160 円〕							

授業科目		病理学				担当者	曾根 正彦		
単位数	2	必・選	管栄・栄 (必)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専2年
授業の概要									
病理学は医学全般を正しく理解するために重要な学問である。現代医療が専門化・細分化する中、大局的に疾病の全体像を把握する必要がある。この授業では主に病理学の総論として、病因、退行性病変と代謝異常、循環障害、進行性病変、炎症、免疫、感染症、腫瘍、先天異常、老化などを講義する。									
授業の目標(到達目標)									
管理栄養士を目指す上で病理学を学ぶ目的は、人体に起こるいろいろな病変や疾患が、どんな原因で起こり（病因）、どんな変化を生じ（病変・疾患）、どのような経過をとり最終的にどうなるか（転帰）、いわゆる病変や疾患の本質を理解することである。栄養学に関連して病気を理解するために、この授業では病理学の基本的知識を学び身につけることを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション、病因（内因、外因）									
2. 退行性病変と代謝異常（退行性病変：萎縮・変性・壊死）									
3. 退行性病変と代謝異常（物質代謝異常）									
4. 循環障害（局所の循環不全）									
5. 循環障害（全身の循環不全）									
6. 進行性病変（細胞の増殖と再生、化生）									
7. 進行性病変（肥大と過形成、創傷治癒）									
8. 炎症（炎症の原因、炎症に関与する細胞と化学伝達物質、炎症局所にみられる基本的変化）									
9. 炎症（炎症の分類、炎症の全身反応）									
10. 免疫（免疫応答のしくみ、免疫担当細胞、液性免疫と細胞性免疫）									
11. 免疫（アレルギーのしくみ、自己免疫疾患、免疫不全）									
12. 感染症（発症とその防御、院内感染、輸入感染症、新興・再興感染症、人畜共通感染症、感染症法）									
13. 腫瘍（種類と名称、腫瘍の形態、腫瘍の発育、腫瘍と宿主）									
14. 腫瘍（悪性度の病期、腫瘍の原因、腫瘍の疫学、腫瘍の分類、上皮性・非上皮性腫瘍、混合腫瘍）									
15. 先天異常と新生児・小児疾患、老化、全身性疾患									
16. 試験									
事前学習		教科書に沿って講義を進めるので事前に教科書を読んで予習し、分からないところがあったら講義中に質問すること。							
事後学習		自分のノートを作り知識を整理して復習すること。講義内容で理解できないところや疑問点があったら講義中に質問するか、講義終了後にミニットペーパー等で質問すること。							
履修上の注意		病理学の学習のためには解剖生理学の知識が重要である。 事前に解剖生理学の知識を十分に整理しておくことが望ましい。							
成績評価の方法・基準		期末試験（90％程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10％程度）で評価する。							
教科書	〔わかりやすい病理学〕〔岩田隆子 監修〕〔南江堂〕〔2,700 円〕								
参考書	使用せず								

授業科目	解剖生理学実験				担当者	後藤 知子・駒井三千夫			
単位数	1	必・選	管栄・栄 (必)	授業形式	実験	開講期	後期	対象	健専3年
授業の概要									
解剖生理学や栄養学で学んだ知識を基に、確認、体験することを目的として、具体的には身体計測、味覚に関する実験、血液検査、尿検査に関する実験を通して、身体とそれを構成している部分の構造と機能について理解させる。また、味の感受性の違いがレセプターの個人差（遺伝子多型）で説明されるようになってきたので、これを体験させる学習も含める。									
授業の目標(到達目標)									
からだのしくみについての理解を深めることを目標とした実習を行い、実験の基本的な手技を習得する。すなわち、尿と血液の健康に関する指標や、栄養素の代謝に関する指標を測定することによって、病態時と健康時の代謝の指標を知ることができる。									
授業計画及び内容									
1. 身体計測および尿実験の概要説明(後藤)									
2. 尿試験紙による健康状態の検査(後藤)									
3. 尿中尿素の定量(後藤)									
4. 尿中クレアチニンの定量(後藤)									
5. 血液実験の説明と、血中ヘモグロビン濃度の定量(後藤)									
6. 血糖値の定量(後藤)									
7. 血中中性脂肪（トリグリセリド＝TG）の定量(後藤)									
8. 解剖1：2班ごとのデモンストレーション見学(後藤・駒井)									
9. 解剖2：班ごとの実習(後藤・駒井)									
10. 血中 HbA1c 濃度の定量（前半の学生）と近赤外光による非侵襲的計測(後藤)									
11. 血中 HbA1c 濃度の定量（後半の学生）とレポート作成自習(後藤)									
12. 味覚生理実習1：濾紙ディスク法による基本味の感受性試験(後藤)									
13. 味覚生理実習2：味のマスキング実習と苦味レセプターの個人差（遺伝子多型）(後藤)									
14. 味覚生理実習3：食品成分の味覚感受性の個人差と味レセプターの関係(後藤)									
15. 血球の光学顕微鏡観察(後藤)									
事前学習		別途の授業で習った事項を簡単に復習してから臨むこと。							
事後学習		実習時にノートに詳細を記録し、考察、関連する課題も含めてレポートに記載し提出する。							
履修上の注意		実習のため、出席して体験し、実験記録(ノート)を取ることを。							
成績評価の方法・基準		各項目のレポートの内容（50%）、実験態度（50%）により判定する。							
教科書		実験プリント配布							
参考書		なし							

授業科目		生化学実験				担当者	鈴木 裕行		
単位数	1	必・選	管栄(必)	授業形式	実験	開講期	前期	対象	健専3年
授業の概要 牛乳の各種タンパク質の分離実験、酵素アミラーゼの諸性質の解析および基礎的な反応速度解析実験、さらに生体試料からの DNA の抽出や基礎的な遺伝子組換え実験に遺伝子増幅：遺伝子多型の解析の原理を説明し、手技を指導する。									
授業の目標(到達目標) 人体の構造と機能を系統的に理解する基礎として、以下の各項の原理を理解できるようにするとともに、それぞれの基本的な実験ができるようにする。 ①タンパク質の精製・電気泳動の基本的な方法、②酵素活性の測定と反応速度の解析法、③生体試料からの DNA の抽出と遺伝子操作の基本手技									
授業計画及び内容									
1. 実験の概要説明									
2. タンパク質実験 (1) 牛乳中のカゼイン・乳清タンパク質の分離：等電点沈殿									
3. タンパク質実験 (2) 牛乳中のカゼイン・乳清タンパク質の分離：硫酸分画									
4. タンパク質実験 (3) SDS ポリアクリルアミドゲル電気泳動：ゲル作製・泳動									
5. タンパク質実験 (4) SDS ポリアクリルアミドゲル電気泳動：電気泳動パターンの解析									
6. 酵素実験 (1) アミラーゼ活性の測定									
7. 酵素実験 (2) 酵素反応の最適 pH の決定									
8. 酵素実験 (3) 基質濃度と反応速度の解析									
9. 遺伝子実験 (1) 遺伝子実験の概要説明・DNA の基本的性質									
10. 遺伝子実験 (2) 生体試料からの DNA の抽出									
11. 遺伝子実験 (3) 遺伝子多型の解析：DNA 試料の調製									
12. 遺伝子実験 (4) 遺伝子多型の解析：PCR での遺伝子増幅									
13. 遺伝子実験 (5) 遺伝子多型の解析：アガロースゲル電気泳動による遺伝子型の判別									
14. 遺伝子実験 (6) 大腸菌への遺伝子導入：プラスミド DNA 導入による形質転換									
15. 遺伝子実験 (7) 大腸菌への遺伝子導入：形質転換の評価									
事前学習		各回の授業内容について事前に配布する資料を熟読しておく。							
事後学習		授業で扱った内容を復習し、関連事項を調査してレポートを作成する。							
履修上の注意		実験レポート作成に備え、実験記録をできるだけ綿密に取ること。							
成績評価の方法・基準		実験レポート・・・80% 平常点（受講状況・実施状況）・・・20%							
教科書		資料を配布する							
参考書		〔わかりやすい生化学〕〔林 寛他〕〔三共出版〕〔2,592 円〕							

授業科目		臨床医学概論Ⅰ				担当者	曾根 正彦		
単位数	2	必・選	管栄(必)	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専3年
授業の概要									
臨床医学は領域が広いため、前期の臨床医学概論Ⅰと後期の臨床医学概論Ⅱに分けてある。臨床医学概論Ⅰでは、総論である疾患の診断・治療や栄養・代謝などに続き、各論として消化器系、循環器系などに関する授業を行なう。									
授業の目標(到達目標)									
現代は飽食化が進み生活習慣病は社会問題となり、また高齢化社会の到来で疾病が多様化している。管理栄養士の役割は患者の栄養管理・治療だけでなく、一次予防を中心とした健康増進・疾病予防まで多岐にわたる。栄養の専門家として種々の患者に対応できるように、この授業では疾患診断・治療などの基礎知識を身につけること、および主要疾患の知識を習得することを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション、疾患診断の概要（一般的診察）									
2. 疾患診断の概要（主な症候）									
3. 疾患診断の概要（臨床検査：種類と特性、血液学的検査、生化学検査など）									
4. 疾患診断の概要（臨床検査：免疫学検査、微生物学検査、生体機能検査、画像検査）									
5. 疾患治療の概要（疾患の経過、治療の種類と特性、治療計画、治療の方法）									
6. 疾患治療の概要（末期患者の治療、救命救急診療など）、疾患による細胞・組織の変化									
7. 栄養と代謝（栄養障害）									
8. 栄養と代謝（代謝疾患：糖尿病とその合併症、低血糖）									
9. 栄養と代謝（脂質異常症、高尿酸血症、痛風、先天性代謝異常）									
10. 消化器系（口内炎、舌炎、胃食道逆流症、胃十二指腸潰瘍、たんぱく漏出喪失性胃腸障害）									
11. 消化器系（クローン病、潰瘍性大腸炎、過敏性腸症候群）									
12. 消化器系（便秘、肝炎、肝硬変）									
13. 消化器系（脂肪肝、胆石・胆嚢炎、膵炎）									
14. 循環器系（高血圧、動脈硬化）									
15. 循環器系（狭心症、心筋梗塞、心不全、不整脈）									
16. 試験									
事前学習		教科書に沿って講義を進めるので事前に教科書を読んで、分からないところがあったら講義中に質問すること。							
事後学習		自分のノートを作り知識を整理して復習すること。講義内容で理解できないところや疑問点があったら講義中に質問するか、講義終了後にミニットペーパー等で質問すること。							
履修上の注意		臨床医学の学習のためには解剖生理学、病理学の知識が重要である。事前にこれらの知識を十分に整理しておくことが望ましい。							
成績評価の方法・基準		期末試験（90％程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10％程度）で評価する。							
教科書	疾病の成因・病態・診断・治療）〔竹中優 編〕〔医歯薬出版株式会社〕〔3,500 円〕								
参考書	使用せず）								

授業科目		臨床医学概論Ⅱ				担当者	曾根 正彦		
単位数	2	必・選	管栄(必)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専3年
授業の概要 後期の臨床医学概論Ⅱでは前期に引き続き、各論である腎・尿路系、内分泌系、神経系、呼吸器系、血液系、運動器系、感染、免疫・アレルギー、悪性腫瘍などに関する授業を行なう。									
授業の目標(到達目標) 管理栄養士の役割は患者の栄養管理・治療だけでなく、一次予防を中心とした健康増進・疾病予防まで多岐にわたる。栄養の専門家として種々の患者に対応できるように、この授業では前期の「疾患の診断・治療」を基本に、引き続き主要各疾患の知識を習得することを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション、腎・尿路系（症候：血清電解質の意義、血清カルシウム濃度、pHの異常）									
2. 腎・尿路系（急性・慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群）									
3. 腎・尿路系（急性腎不全、慢性腎不全、糖尿病性腎症、慢性腎臓病）									
4. 腎・尿路系（尿路結石、透析）									
5. 内分泌系（下垂体ホルモンの産生過剰と欠乏、甲状腺機能低下症・亢進症）									
6. 内分泌系（副甲状腺疾患、副腎疾患、更年期障害）									
7. 神経・精神系（感覚器・神経疾患、摂食障害、精神疾患）									
8. 呼吸器系（慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、気管支炎・肺炎、肺結核）									
9. 血液・造血器・リンパ系（赤血球系疾患）									
10. 血液・造血器・リンパ系（白血球系疾患、悪性リンパ腫、形質細胞系疾患、出血性・血栓性疾患）									
11. 運動器系（骨粗鬆症、骨軟化症・くる病、変形性関節症など）									
12. 感染（感染症の概要、化学療法概要）									
13. 免疫、アレルギー（免疫と生体防御、アレルギー性疾患、自己免疫疾患）									
14. 免疫、アレルギー（後天性免疫不全症候群）、悪性腫瘍（腫瘍総論、腫瘍各論：食道、胃）									
15. 悪性腫瘍（腫瘍各論：結腸・直腸、肝臓、肺、子宮頸部・体部、乳房、前立腺）									
16. 試験									
事前学習		教科書に沿って講義を進めるので事前に教科書を読んで、分からないところがあったら講義中に質問すること。							
事後学習		自分のノートを作り知識を整理して復習すること。講義内容で理解できないところや疑問点があったら講義中に質問するか、講義終了後にミニットペーパー等で質問すること。							
履修上の注意		臨床医学の学習のためには解剖生理学、病理学の知識が重要である。事前にこれらの知識を十分に整理しておくことが望ましい。							
成績評価の方法・基準		期末試験（90%程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10%程度）で評価する。							
教科書		〔疾病の成因・病態・診断・治療〕〔竹中優 編〕〔医歯薬出版株式会社〕〔3,500 円〕							
参考書		使用せず							

授業科目		食品学総論				担当者	伊澤 華子		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専2年
授業の概要									
化学、生化学、有機化学、基礎栄養学などの知識を基礎として、食品成分についての知識を説明する。食品成分を学ぶことで食品、調理など関連する分野への興味関心も高めてもらいたい。									
授業の目標(到達目標)									
食品を構成する各種成分、食品の栄養特性、物性等について知識を身につける。新規食品・食品成分が健康に与える影響、それらの疾病予防に対する役割を理解する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス・官能評価 なんで食べるか考えてみよう。食品を比較してみよう。									
2. 水分 自由水と結合水ってなに？									
3. タンパク質 タンパク質ってどんなもの？アミノ酸とタンパク質の構造									
4. タンパク質 食品の中のタンパク質を調べよう。必須アミノ酸とタンパク質の変性									
5. 脂質 脂質ってどんなもの？ 脂肪酸の構造									
6. 脂質 食用油の種類を調べてみよう。 各油の脂肪酸組成									
7. 脂質 脂質の酸化ってどんな現象？									
8. 炭水化物 炭水化物ってどんなもの？ 炭水化物と糖類									
9. 炭水化物 糖質の種類をまとめてみよう。									
10. 灰分と無機質 無機質の種類を調べてみよう。									
11. ビタミン 脂溶性と水溶性で分けてみよう。脂溶性ビタミン									
12. ビタミン 脂溶性と水溶性で分けてみよう。水溶性ビタミン									
13. 色素 褐変ってなに？酵素的褐変を学んでみよう。									
14. 色素 非酵素的褐変を学んでみよう。									
15. 香気成分・味成分 食品の色んな香りと味を調べてみよう。									
16. 試験									
事前学習		教科書の該当ページを読んでから受講すること。							
事後学習		学んだ知識を整理し、返却されたプリントの内容を復習すること。							
履修上の注意		分からない点は質問し、疑問点は解決するように心がける。							
成績評価の方法・基準		平常点 20%（平常点は、授業への参加態度など総合的に判断する。）と試験・小テスト・提出プリントなどの合計点 80%で評価を行う。未提出レポートがある場合は、評価の対象としない場合がある。							
教科書	〔標準食品学総論 第3版〕〔青柳康夫・筒井知己〕〔医歯薬出版〕〔2,808 円〕 ※1 年次購入済み								
参考書	〔食品成分表〕〔女子栄養大学出版部〕 その他、授業内に適宜紹介								

授業科目		食品学各論				担当者	佐藤 靖子		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専2年
授業の概要									
食品の外観や構造を捉え、種類や性状の特徴と主な成分について学習し、食品の分類および選択能力を身につける。調理、加工による食品の性状変化および健康的な食生活への関連を高める。									
授業の目標(到達目標)									
食品の成分および成分の変化を学び、動・植物食品の特徴を理解して食品を分類する能力を身に着け、選択能力を向上し、食生活と健康との関連を習得できるようにする。									
授業計画及び内容									
1. 食品の分類、食品の表示									
2. 植物性食品の特徴									
3. 穀類米・小麦									
4. 穀類トウモロコシ・蕎麦									
5. 芋類									
6. 豆類									
7. 野菜類葉菜									
8. 野菜類茎菜									
9. 野菜類根菜									
10. 野菜類花菜・果菜									
11. 果実類									
12. 動物性食品の特徴									
13. 魚介類									
14. 畜肉									
15. 海藻・キノコ類									
16. 試験									
事前学習		翌週の予告に従い教科書に目を通しておく							
事後学習		各章の練習問題を解いておく							
履修上の注意		食品学総論、調理実習など関連科目を復習しておくこと							
成績評価の方法・基準		提出物 15%、学期末試験 85%							
教科書	〔食品学各論〕〔瀬口正晴・八田 一〕〔化学同人〕〔2,400 円〕								
参考書	〔原色食品図鑑〕〔井上四郎・菅原龍吉〕〔建帛社〕〔2,900 円〕								

授業科目		食品学実験Ⅰ				担当者	八巻 美智子		
単位数	1	必・選	必	授業形式	実習	開講期	前期	対象	健専1年
授業の概要									
食品学実験では、さまざまな食品からそれぞれの栄養素を分離しその特性を理解するとともに、化学実験を行うにあたっての基本的な態度や基礎的な技術を習得する。すなわち、器具の取り扱い方、測定器具の使用手法、データのまとめ方、レポートの書き方について習得することを目指す。									
授業の目標(到達目標)									
管理栄養士養成課程に設置されている実験科目を習得する上での基礎的な技術と心がまえを身につける。また、実験を通して食物を分子レベルで把握する思考を養い、食生活のさまざまな場面において、定量的な考えが応用できることを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. 実験実施上の注意									
2. じゃがいもからデンプンの分離									
3. 光学顕微鏡によるデンプン粒の観察									
4. 糖質の定性反応1：モーリッシュ反応 他									
5. 糖質の定性反応2：モーリッシュ反応 他									
6. 小麦粉からグルテンの分離									
7. グルテンからダリアジンの分離									
8. 蛋白質の定性反応									
9. 蛋白質の加水分解									
10. アミノ酸の定性反応									
11. 油脂のケン化と脂肪酸とグリセリンの分離									
12. 脂肪酸のエステル化（ガスクロマトの前処理）									
13. ガスクロマトグラフによる脂肪酸の測定									
14. 沈殿滴定1：硝酸銀溶液の力価検定									
15. 沈殿滴定2：各醤油中の塩素の滴定									
事前学習		実験内容や器具の取扱い、濃度の表示などについて予習しておく。							
事後学習		実験内容とデータの整理をしておくこと。							
履修上の注意		白衣を着用し踵の低いスニーカー系を着用。グループで協力し、安全に注意して行うこと（特に薬品や火気の使用）。実験室には不必要なものは持ち込まないこと。長髪の方は髪を束ねること。							
成績評価の方法・基準		授業参加状況（50％、積極性、協力性）とレポート（50％）で総合的に評価する。							
教科書	〔新しい食品学実験〕〔三共出版〕〔2,300円〕								
参考書	随時プリント配布								

授業科目		食品学実験Ⅱ				担当者	八巻 美智子		
単位数	1	必・選	必	授業形式	実習	開講期	後期	対象	健専 1 年
授業の概要									
食品学実験Ⅱでは、さまざまな食品の一般栄養成分についてその測定方法と測定値の見方を理解することによって、食品を分子レベルで把握することについて学ぶ。これによって食品成分表に対する理解を深めることを目指す。									
授業の目標(到達目標)									
管理栄養士養成課程に設置されている実験科目を習得する上での基礎的な技術と心がまえを身につける。また、実験を通して食物を分子レベルで把握する思考を養い、食生活のさまざまな場面において、定量的な考えが応用できることを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. 食品中の一般栄養成分分析の説明と恒量測定									
2. ケルダール分解									
3. 水分の測定と灰分の測定									
4. 原子吸光分析 1：カルシウム測定									
5. 原子吸光分析 2：マグネシウム測定									
6. ソックスレー脂肪抽出器による脂肪の測定									
7. 水蒸気蒸留の説明とブランク値の測定									
8. 水蒸気蒸留（試料中の窒素分析）									
9. 食物繊維の説明とグラスフィルターの恒量測定									
10. 試料のアミラーゼ分解									
11. 試料のプロテアーゼとアミログロシターゼ分解									
12. 酵素分解液のろ過									
13. 残渣の灰分測定									
14. 水蒸気蒸留による残渣の蛋白測定									
15. GC - MS による食品中の臭気物質の検出									
事前学習		実験内容や器具の取扱い、濃度の表示などについて予習しておく。							
事後学習		実験内容とデータの整理をしておくこと。							
履修上の注意		白衣を着用し踵の低いスニーカー系を着用。グループで協力し、安全に注意して行うこと（特に薬品や火気の使用）。実験室には不必要なものは持ち込まないこと。長髪の方は髪を束ねること。							
成績評価の方法・基準		授業参加状況（50%、積極性、協力性）とレポート（50%）で総合的に評価する。							
教科書	〔新しい食品学実験〕〔三共出版〕〔2,300 円〕								
参考書	随時プリント配布								

授業科目		食品機能学				担当者			
単位数	2	必・選	管栄(必)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専3年
授業の概要									
食品の三次機能を中心に、その諸機能について、実際の食品に含まれる成分を取り上げて、その働きと生体機能とのかかわりについて講義する。パワーポイント・プリントを随時使用する。									
授業の目標(到達目標)									
食品の持つ機能のうちで積極的に生体に働きかけ生体を調節する機能は、第三次機能と呼ばれ、食品の利用上重要視されている。食品の第三次機能成分の働きと、それらの成分と健康との関わりを理解し、食生活に活かしていくことができることを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. 食品の機能性：食品とは、食品の特性と機能、食品の三次機能									
2. 保健機能食品制度と特定保健用食品									
3. いわゆる健康食品について、フード・ファディズム									
4. 食品機能の評価、機能評価の疫学的方法、実験的方法									
5. 食品の機能性の評価、バイオマーカー、ニュートリゲノミックス									
6. 植物性食品機能、レジスタントスターチの機能性									
7. 動物性機能食品 コラーゲンの機能性									
8. 消化機能を調節する食品機能成分：ミネラル吸収機能食品									
9. 消化機能を調節する食品機能成分：難消化性成分と腸内細菌の機能									
10. 抗酸化機能、活性酸素とフリーラジカル、生成・作用・抗酸化作用									
11. 食品に含まれる抗酸化性物質、ポリフェノールの分類と機能									
12. 食品による免疫機能の制御：免疫反応の概要、免疫反応の制御機能を持つ成分									
13. 食品による免疫機能の制御、食物アレルギー、食品機能成分による食物アレルギー抑制									
14. 循環器疾患と食品機能、動脈硬化・高血圧を抑制する食品機能成分									
15. 神経機能に及ぼす食品機能成分									
16. 試験									
事前学習		講義予定の項目について、参考書等を読んで予習してから講義に臨むこと。							
事後学習		毎回の講義をノートにまとめるなどして整理・復習してから、次の講義に臨むよう努力すること。							
履修上の注意		単に知識を暗記するのではなく、内容を十分理解することに努める。栄養学・生理学・生化学等で学んだことが土台になるので、それらの科目も復習すること。							
成績評価の方法・基準		期末に行う試験（70%）、毎回実施する小テストの結果（20%）、日常の出席・授業態度の状況（10%）で評価する。							
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	〔改訂食品機能学(第2版)〕〔建帛社〕〔2,310 円〕 〔改訂食品機能学〕〔光生館〕〔2,100 円〕								

授業科目		食品加工学				担当者	佐藤 靖子		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専3年
授業の概要									
食品加工法の原理、食品の保存法および食品材料の加工方法について学ばせ、加工食品の成分変化を学ばせ、食品表示や包装などについて理解させる。									
授業の目標(到達目標)									
食品の加工・貯蔵および包装について学習し、製造工程、加工技術、食品加工による成分変化および加工食品の表示について理解できる。									
授業計画及び内容									
1. 食品加工の目的									
2. 食品加工法 化学的加工									
3. 食品加工法 物理的加工									
4. 食品加工法 生物的加工									
5. 食品加工法 水分活性、浸透圧、温度									
6. 食品保存法 CA 貯蔵、MA 貯蔵									
7. 食品の包装 材料と特徴									
8. 加工食品と食品衛生									
9. 農産食品の加工 穀類、豆類、イモ類									
10. 農産食品の加工 野菜類									
11. 農産食品の加工 果実類、キノコ類									
12. 畜産食品の加工 畜肉類									
13. 畜産食品の加工 卵類、乳類									
14. 水産食品の加工 冷凍、乾燥									
15. 水産食品の加工 練り製品、塩蔵品									
16. 試験									
事前学習		講義予告に従い教科書に目を通す							
事後学習		各章の練習問題を解答する							
履修上の注意		食品学各論の内容を復習しておく							
成績評価の方法・基準		提出物など 20%、学期末試験 80%							
教科書	〔食品加工学〕〔西村公雄・松井徳光〕〔化学同人〕〔2,100 円〕								
参考書	なし								

授業科目		食品加工実習				担当者	佐藤 靖子		
単位数	1	必・選	必	授業形式	実習	開講期	後期	対象	健専3年
授業の概要									
食材を物理的・化学的に変化させて加工食品を作り保存方法を学ばせる。加工による栄養価の向上、嗜好性の向上、安全の確保に理解させる。									
授業の目標(到達目標)									
新鮮で安価な旬の食材を使用して便利で経済的な食品を作るために、加工目的、原理および工程を通して加工技術を習得させる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス 衛生と安全について									
2. 乳類の加工 ヨーグルト									
3. タンパク質の加工 グミ									
4. 食肉の加工 なめ味噌									
5. 小麦粉の加工Ⅰ 生パスタ									
6. 小麦粉の加工Ⅱ ラーメン									
7. イモ類の加工 コンニャク									
8. 大豆の加工Ⅰ きな粉飴									
9. 大豆の加工Ⅱ 豆腐									
10. 穀物の加工 甘酒									
11. 海藻の加工 佃煮									
12. 魚介類の加工 さつま揚げ									
13. 魚介類の加工 塩辛									
14. 果実の加工 マーマレード									
15. チョコレートの加工 トリュフチョコレート									
事前学習		加工品に関して調べておく							
事後学習		製造品に関するレポートを提出する							
履修上の注意		衛生と安全に注意する。容器を用意する。							
成績評価の方法・基準		身支度、安全、衛生 30%、レポート 70%							
教科書	なし（配布プリント）								
参考書	食品加工学・イラスト調理 Book								

授業科目		食品衛生学				担当者	齋藤 紀行		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専3年
授業の概要									
食品の安全性が脅かされた事例をあげ、食品の安全性を脅かす生物学的及び化学的な要因を科学的な面から解説する。また、食品の安全性確保に関する法律と安全性確保するための具体的な方法を解説する。									
授業の目標(到達目標)									
管理栄養士にとって安全な食品の確保に関する知識、技術の習得は重要である。本授業では、食品の安全を脅かすものについて学び、安全な食品の確保の方法と仕組みを習得し、食品の安全確保に関する知識を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 食品衛生学の概要：食品の安全性についての社会的な問題について									
2. 食品衛生法について									
3. 食品と微生物：食品中での微生物の増殖									
4. 食品の変質：科学的変質、微生物学的変質									
5. 食品の変質防止									
6. 食中毒：食中毒と感染症									
7. 細菌性食中毒：サルモネラ属菌、下痢原性大腸菌など									
8. 細菌性食中毒：ボツリヌス菌、ウエルシュ菌など									
9. ウイルス性食中毒、自然毒食中毒									
10. 原虫食中毒、寄生虫食中毒									
11. 有毒物質による食品汚染									
12. 食品添加物									
13. 食品の器具・容器包装									
14. 食品衛生行政									
15. 食品衛生関連法規									
16. 試験									
事前学習		講義予定項目について教科書を読んでおくこと							
事後学習		講義ノート、配付資料に沿って講義内容を復習すること							
履修上の注意		他の食品に関する学科目と関連性が高いので、履修済みの科目をよく理解して講義に臨むこと。また、身近な食品に関する事項が多いので関心と興味を持つことが講義内容の理解につながる。							
成績評価の方法・基準		講義への取り組み（30%）、提出課題（20%）、試験（50%）で評価する							
教科書	〔エキスパート食品衛生学〕〔白石淳編〕〔化学同人〕〔2,700 円〕								
参考書	無し								

授業科目		食品衛生学実験				担当者	鈴木 裕行		
単位数	1	必・選	管栄・栄(必)	授業形式	実験	開講期	後期	対象	健専3年
授業の概要									
基本的な微生物の取り扱い法と各微生物の性質を説明する。それを基にして食品の細菌汚染検査、手指の衛生試験等の手技を指導する。また、各種の食品を試料として、使用されている食品添加物の検出試験の手技を指導する。									
授業の目標(到達目標)									
食品の安全性の重要性の認識と衛生管理方法の理解は管理栄養士の業務において重大な課題である。本授業では食中毒の原因となる細菌の性質を理解しその検査方法を身につけること、食品添加物の役割を理解するとともに、食品中のそれらの定量方法を身につけることを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. 実験の概要説明・微生物実験の基礎知識と基本操作									
2. 微生物の取扱い・植菌操作									
3. グラム染色による菌体観察①：コロニーの観察・グラム染色法									
4. グラム染色による菌体観察②：細菌の顕微鏡観察									
5. グラム染色による菌体観察③：細菌の顕微鏡観察（つづき）									
6. 手洗いの効果、空中落下細菌とふき取りによる衛生試験①：菌の採取									
7. 手洗いの効果、空中落下細菌とふき取りによる衛生試験②：菌数計測・菌体観察									
8. 手洗いの効果、空中落下細菌とふき取りによる衛生試験③：菌体観察									
9. 食品中の生菌数の測定と観察① 段階希釈法での生菌数測定									
10. 食品中の生菌数の測定と観察② 食品中の細菌の観察									
11. 保存料：食品中のソルビン酸の検出① 試料からのソルビン酸の抽出									
12. 保存料：食品中のソルビン酸の検出② ソルビン酸の定量									
13. 着色料：食品中のタール色素の検出									
14. 発色剤：食品中の亜硝酸の検出① 試料からの亜硝酸塩の抽出									
15. 発色剤：食品中の亜硝酸の検出② 亜硝酸の定量									
事前学習		各回の授業内容について事前に配布する資料を熟読しておく。							
事後学習		授業で扱った内容を復習し、関連事項を調査してレポートを作成する。							
履修上の注意		実験レポート作成に備え、実験記録をできるだけ綿密に取ること。							
成績評価の方法・基準		実験レポート・・・80% 平常点（受講状況・実施状況）・・・20%							
教科書	〔新版 明解食品衛生学実験〕〔加納碩雄〕〔三共出版〕〔2,484円〕								
参考書	無し								

授業科目		調理科学論				担当者	佐藤 靖子		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専2年
授業の概要									
食品素材は、調理操作により色調の変化、組織の軟化、香りの発現などその状態が様々な変化して嗜好性や消化性に影響することを学習させる。基本的な調理方法の役割および食品の物理、化学的变化について科学的に理解させる。									
授業の目標(到達目標)									
食品素材を調理特性の面から学び、調理操作の条件による食品素材の様々な現象について科学的視点で理解できる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス、調理科学の定義									
2. 調理と嗜好性									
3. 調理操作 非加熱調理									
4. " 加熱調理 煮る・蒸す									
5. " 加熱調理 揚げる・焼く									
6. 調味料									
7. 香辛料									
8. スパイスの体験と調理特性									
9. ハーブの体験と調理特性									
10. 炭水化物・タンパク質性食品の調理特性									
11. 油脂・油脂性食品の調理特性									
12. ビタミン・無機質性食品の調理特性									
13. 成分抽出性食品の調理特性									
14. 嗜好飲料の調理特性									
15. 伝統食品の調理特性									
16. 試験									
事前学習		ガイダンス以降、授業内容の予告に従い予習する。							
事後学習		ノートを良く整理し、疑問点を解決できるようにする。							
履修上の注意		正当な理由のない欠席・遅刻は厳禁。							
成績評価の方法・基準		レポートなど 30%、試験 70%							
教科書	〔調理科学〕〔森高初恵、佐藤恵美子〕〔建帛社〕〔2,500 円〕								
参考書	調理のためのベーシックデータ（他の授業で購入済み）								

授業科目		調理科学実験				担当者	佐藤 靖子		
単位数	1	必・選	管栄(必)	授業形式	実験	開講期	前期	対象	健専3年
授業の概要									
調理操作により生じる食品材料の物理的・化学的变化を観察し、目的・方法・結果および考察を通して調理方法と技要点を学ばせる。									
授業の目標(到達目標)									
食品の調理による物理的・化学的变化を捉え、材料の特徴を理解するとともに、実験結果に対する考察力を習得できる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス 安全、衛生の注意									
2. 食品の重量と容量および炊飯に関する説明および実験方法									
3. 食品の重量と容量に関する実験									
4. 炊飯に関する実験									
5. 出汁の材料と卵に関する説明および実験方法									
6. 出汁に関する実験									
7. 卵に関する実験									
8. 食肉に関する説明および実験方法									
9. 食肉に関する実験									
10 砂糖と飲み物に関する説明および実験方法									
11. 砂糖に関する実験									
12. 飲み物に関する実験									
13. 小麦と野菜に関する説明および実験方法									
14. 小麦に関する実験									
15. 野菜に関する実験									
事前学習		実験準備の内容について理解しておく							
事後学習		レポートの作成により学習内容の理解を深める							
履修上の注意		衛生的な身支度、安全に留意する、レポートの提出期限を厳守する							
成績評価の方法・基準		身支度、安全、衛生 20%、レポート提出 80%							
教科書	〔イラスト調理 book〕〔安部サト他〕〔実教出版〕〔770 円〕								
参考書	なし								

授業科目		基礎調理学実習 I				担当者	深澤 律子		
単位数	1	必・選	必	授業形式	実習	開講期	前期	対象	健専1年
授業の概要 調理学実習を通して、食品衛生の衛生管理全般（食品取扱者の健康管理等）について学び、衛生習慣を身につける。日本・西洋・中国料理の春から夏の日常献立を中心に栄養価計算を行い、食品の選択、食品の調理、盛り付けなどの基本を習得する。									
授業の目標(到達目標) ① 管理栄養士として美味しく安全で健康的な食事を提供する社会的責任を理解する。 ② 管理栄養士として必要な調理学に関する基礎的な知識と基礎的な技能を習得する。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション・おいしさと健康（身だしなみ・衛生的な手洗い・手指の消毒等）									
2. 講義・調理の基本（計量・調味パーセント、調理器具の衛生的な扱い、ご飯の炊き方等）									
3. 調理の基礎技術 1（西洋料理）野菜の切り方、卵料理等									
4. 調理の基礎技術 2（日本料理）だしのとり方、汁物の作り方、野菜のゆで方等									
5. 調理の基礎技術 3（中国料理）麺のゆで方、煮物の作り方、野菜の切り方等									
6. 講義 おいしさと健康 日本料理、西洋料理、中国料理の基本、郷土料理									
7. 調理の基礎技術 4（日本料理）煮物の作り方、揚げ物の作り方、寒天の扱い等									
8. 調理の基礎技術 5（西洋料理）肉料理、野菜料理、スープ、ゼラチンの扱い等									
9. 調理の基礎技術 6（日本料理）味付け飯の作り方、汁物、焼き物の作り方、浸し物等									
10. 調理の基礎技術 7（中国料理）蒸し物、汁物、炒め物等									
11. 調理の基礎技術 8（日本料理）汁物、煮物、和え物、白玉粉の扱い方等									
12. 調理の基礎技術 9（西洋料理）米料理、スープ、魚介料理等									
13. 調理の基礎技術 10（中国料理）炒め物、揚げ物、和え物等									
14. 調理の基礎技術 11（郷土料理）乾物の扱い方、もち米、あんかけ料理、葛の扱い方等									
15. 実技試験・基礎技術（切り方、まな板、包丁の扱い等）・衛生管理（身だしなみ等）									
16. 筆記試験									
事前学習		教科書の関連頁に付箋を付けて読み重要な文章はアンダーラインを引く。							
事後学習		実習ノートの作成。実習内容の記録と栄養価計算、実習後記をまとめる。							
履修上の注意		栄養価計算のため電卓を用意。前日に爪を切る、清潔な実習着等準備する。調理室内ではボールペン使用。配布資料をファイルに保管する。							
成績評価の方法・基準		実技実習 20%、筆記試験 20%、実習ノート提出 30%、衛生管理点検表の記入 20%、授業態度 10%（早めに集合する、実習時の身だしなみ、メモを取る、グループでの協調性、熱心さ、清掃の取り組み等）							
教科書		〔調理学実習〕〔早坂千枝子監修〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,300 円〕 〔調理・献立作成の基礎〕〔坂本裕子・森美奈子編〕〔化学同人〕〔1,500 円〕							
参考書		〔7 訂食品成分表 2017〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1,400 円〕 〔調理のためのベーシックデータ〕〔松本伸子監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1,800 円〕							

授業科目		基礎調理学実習Ⅱ				担当者	深澤 律子		
単位数	1	必・選	必	授業形式	実習	開講期	後期	対象	健専1年
授業の概要									
日本・西洋・中国料理の秋から冬の日常献立と行事食を通して、食事の文化的側面についての知識と理解を深める。栄養価計算を行い、食品の選択、食品の調理、盛り付けなどの基本を習得する。									
授業の目標(到達目標)									
① 食べる人の食文化、季節の行事、食環境、栄養、嗜好、食物アレルギー、健康を考えて食事を計画し、栄養価計算をし、調理することができる力を養う。									
② 管理栄養士として必要な調理学に関する基礎的な知識と基礎的な技能を習得する。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション・夏休みの課題「家族への食事作りのレポート」を発表する。									
2. 講義 食事計画 日常の食事、行事食、アレルギー対応食、アレルギー対応お菓子等									
3. 調理の基礎技術1(西洋料理)卵の起泡性、オーブンの扱い方、卵料理、									
4. 調理の基礎技術2(日本料理)もち米の扱い方、素揚げ、酢の物、煎茶の入れ方									
5. 調理の基礎技術3(中国料理)揚げ物物料理、炒め物、汁物、中国茶									
6. 調理の基礎技術4(西洋料理)ムニエル、グラタン、バターのクリーミング性、紅茶									
7. 調理の基礎技術5(日本料理)味付け飯、煮込み料理、和え物、玄米茶									
8. 調理の基礎技術6(中国料理)あんかけ料理、蒸し物、寄せ物									
9. 調理の基礎技術7(日本料理)揚げ物、煮物、汁物									
10. 調理の基礎技術8(西洋料理)スープ、パスタの扱い、卵の熱凝固性、									
11. 調理の基礎技術9(西洋菓子)焼き菓子、クリームチーズの扱い、コーヒー									
12. 調理の基礎技術10(行事食)クリスマス料理									
13. 調理の基礎技術11(行事食)おせち料理									
14. 実技コンテスト・(行事食)春のお祝いの食事(グループごと自由献立)									
15. 3・1・2弁当箱の献立・栄養価計算・感想									
16. 筆記試験									
事前学習		「家族への食事作りのレポート」、「お祝いの食事自由献立」。前期と同様。							
事後学習		実習ノートの作成。実習内容の記録と栄養価計算、実習後記をまとめる。							
履修上の注意		栄養価計算のため電卓を用意。前日に爪を切る、清潔な実習着等準備する。調理室内ではボールペン使用。配布資料をファイルに保管する。							
成績評価の方法・基準		実技実習 20%、筆記試験 20%、実習ノート提出 30%、衛生管理点検表の記入 20%、授業態度 10%(早めに集合する、実習時の身だしなみ、メモを取る、グループでの協調性、熱心さ、清掃の取り組み等)							
教科書		〔調理学実習〕〔早坂千枝子監修〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,300円〕 〔調理・献立作成の基礎〕〔坂本裕子・森美奈子編〕〔化学同人〕〔1,500円〕							
参考書		〔7訂食品成分表 2017〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版社〕〔1,400円〕 〔調理のためのベーシックデータ〕〔松本伸子監修〕〔女子栄養大学出版社〕〔1,800円〕							

授業科目		応用調理学実習 I				担当者	深澤 律子		
単位数	1	必・選	管栄(必)	授業形式	実習	開講期	前期	対象	健専2年
授業の概要									
基礎調理学の知識をもとに、食事摂取基準を食品構成に展開できるよう、食事摂取基準を活用し、1食単位および1日単位で食事設計（献立作成、調理操作手順）ができるように具体的な実習献立を通して学ぶ。献立1食あたりの食品の使用量を学び、1食単位および1日単位の食事設計と調理ができるような実践力を養う。									
授業の目標(到達目標)									
食べる人の食文化、季節の行事、食環境、栄養、嗜好、健康を考えて食事を計画し、作ることができる力を養う。日本の伝統的食品の特性に応じた行事食や食文化を踏まえた応用的な調理ができる。西洋料理、中国料理の献立形式を踏まえた応用的な調理ができる。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション 食事摂取基準および食品構成を考えた献立作成について									
2. 応用調理1：(西洋菓子)小麦粉の調理と菓子									
3. 応用調理2：(西洋料理)朝食の春の献立									
4. 応用調理3：(中国料理)昼食の 〃									
5. 応用調理4：(日本料理)夕食の 〃									
6. 応用調理5：(中国料理)飲茶献立のビュッフェパーティー									
7. 応用調理6：(日本料理)朝食の夏の献立									
8. 応用調理7：(西洋料理)昼食の 〃									
9. 応用調理8：(中国料理)夕食の 〃									
10. 講義：食事摂取基準および食品構成を考えた献立作成について①朝食									
11. 応用調理9：グループごと自由献立①朝食									
12. 講義：食事摂取基準および食品構成を考えた献立作成について②昼食									
13. 応用調理10：グループごと自由献立②昼食									
14. 講義：食事摂取基準および食品構成を考えた献立作成について③夕食									
15. 応用調理11：グループごと自由献立③夕食									
16. 筆記試験									
事前学習		前の週に実習プリントを配布、献立の栄養価計算を行う。							
事後学習		実習ノートの作成。実習内容の記録と栄養価計算、実習後記をまとめる。							
履修上の注意		栄養価計算のため電卓を用意。前日に爪を切る、清潔な実習着等準備する。調理室内ではボールペン使用。配布資料をファイルに保管する。							
成績評価の方法・基準		自由献立実技実習 20%、筆記試験 20%、実習ノート提出 30%、衛生管理点検表の記入 20%、授業態度 10%（早めに集合する、実習時の身だしなみ、メモを取る、グループでの協調性、熱心さ、清掃の取り組み等）							
教科書	〔調理学実習〕〔早坂千枝子監修〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3,300円〕 〔調理・献立作成の基礎〕〔坂本裕子・森美奈子編〕〔化学同人〕〔1,500円〕								
参考書	〔7訂食品成分表 2017〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1,400円〕 〔調理のためのベーシックデータ〕〔松本伸子監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1,800円〕								

授業科目		応用調理学実習Ⅱ				担当者	深澤 律子		
単位数	1	必・選	管栄(必)	授業形式	実習	開講期	後期	対象	健専2年
授業の概要 各ライフステージの対象者の特徴を理解し、食事摂取基準を食品構成に展開でき、一食単位および一日単位で食事設計と調理（献立作成、調理操作手順）ができるように具体的な実習を通して学ぶ。対象者の摂食機能に応じた食事の形状を設計し、調理ができるようにする。									
授業の目標(到達目標) 各ライフステージの対象者の特徴を理解し、食事摂取基準を食品構成に展開し、一食単位および一日単位で食事設計と調理（献立作成、調理操作手順）ができる。対象者の摂食機能に応じた食事の形状を理解し、調理ができる。真空調理、クックチル、クックフローズン等の調理システム特性を概説できる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス 応用調理1：乳児期（離乳：生後5～6ヶ月、生後7～8ヶ月）									
2. 応用調理2：乳児期（離乳：生後9～11ヶ月、生後12～18ヶ月）									
3. 応用調理3：幼児期1～2歳（咀嚼を促す食事）									
4. 応用調理4：幼児期3～5歳（食事と間食）									
5. 応用調理5：学童期（成長期の食事）中学生（成長期の食事）高校生（貧血予防）									
6. 講義：食事摂取基準および食品構成を考えた献立作成〔幼児・学童・中学・高校〕									
7. 応用調理6：グループごと自由献立〔幼児期（1～2歳、3～5歳）・学童・中学・高校〕									
8. 応用調理7：成人期（妊娠期・授乳期）									
9. 応用調理8：成人期（生活習慣病予防）									
10. 講義：食事摂取基準および食品構成を考えた献立作成（生活習慣病予防・妊娠・授乳）									
11. 応用調理9：グループごと自由献立 成人期（生活習慣病予防・妊娠期・授乳期）									
12. 応用調理10：高齢期（骨粗しょう症、低栄養予防、咀嚼嚥下困難）									
13. 講義：食事摂取基準および食品構成を考えた献立作成〔高齢期〕									
14. 応用調理11：グループごとの自由献立 高齢期（骨粗しょう症、低栄養、咀嚼困難）									
15. 講義：調理システム特性（真空調理、クックチル、クックフローズン等）									
16. 筆記試験									
事前学習		前の週に実習プリントを配布、献立の栄養価計算を行う。							
事後学習		実習ノートの作成。実習内容の記録と栄養価計算、実習後記をまとめる。							
履修上の注意		栄養価計算のため電卓を用意。前日に爪を切る、清潔な実習着等準備する。調理室内ではボールペン使用。配布資料をファイルに保管する。							
成績評価の方法・基準		自由献立実技実習20%、筆記試験20%、実習ノート提出30%、衛生管理点検表の記入20%、授業態度10%（早めに集合する、実習時の身だしなみ、メモを取る、グループでの協調性、熱心さ、清掃の取り組み等）							
教科書		プリント資料配布							
参考書		〔7訂食品成分表2017〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1,400円〕 〔調理のためのベーシックデータ〕〔松本伸子監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1,800円〕							

授業科目		食文化論				担当者	深澤 律子		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専2年
授業の概要 日本人は古代から食物を獲得し、その土地の気候風土に合った農耕や狩りや漁をして、安全でおいしい食物を摂取するための努力を重ねてきた。歴史の中で、外国から来た食材や料理を取り入れ、米と大豆、魚や野菜を中心に発酵食が発達した。食文化の変遷をたどり、現在の日本人の食生活と健康について科学的な根拠をもとに考察する。									
授業の目標(到達目標) ① 食べ物と人の関わりを歴史の変遷、食の嗜好性、食文化の観点から説明できる。 ② 現在の食生活と健康の問題点を提起し、解決方法を見出し、管理栄養士としての役割を認識できる。									
授業計画及び内容									
1. 日本人の食文化 : 食生活の歴史と食文化									
2. 日本の植物性食材: 稲作の伝播と調理									
3. " : 米食と麦食の歴史と文化									
4. " : 麦食文化 (小麦の加工)、雑穀食文化									
5. " : 豆食文化 (大豆と精進料理)									
6. " : 豆食文化 (醤油・味噌などの発酵食品)									
7. " : 芋食文化									
8. " : 野菜類の伝播									
9. " : 果物類・砂糖の伝播									
10. 日本の動物性食材: 畜肉食文化 (日本の風土と仏教)									
11. " : 魚介類食文化									
12. 食 事 様 式: 江戸前料理・茶懷石料理・食卓・郷土料理、									
13. " : 海外から日本への食文化の伝来									
14. " : 世界の料理と文化①									
15. " : 世界の料理と文化②、健康な食事、地中海食等									
16. 試験									
事前学習		教科書の関連頁に付箋を付けて読んでおく。							
事後学習		配布資料をファイルに保管する。重要な語句にアンダーラインを引く。							
履修上の注意		受講時は教科書の関連頁を開く。毎回、講義のまとめレポートを提出。							
成績評価の方法・基準		期末試験 50%、毎時間のレポート提出 40%、授業態度 10% (熱心さ等)							
教科書		〔食文化論 (生活科学双書)〕〔吉川 誠次〕〔建帛社〕〔2,160 円〕							
参考書		講義の際に、その都度参考文献を提示する。							

授業科目		基礎栄養学				担当者	鈴木 裕行		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専1年
授業の概要									
栄養の意義、食欲調節のしくみ、栄養素の消化と吸収、各栄養素の構造、性質、体内での機能と欠乏・過剰症、および栄養素同士の関わりについて講義する。									
授業の目標(到達目標)									
管理栄養士を目指す学習の中で最も基礎となる科目で、「栄養とは何か」その意義について理解できるようになる。健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割、ならびに、エネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義を理解できるようになる。									
授業計画及び内容									
1. 栄養の概念：栄養とは、遺伝形質と栄養									
2. 食物の摂取：食欲の調節、食事のタイミング									
3. 栄養素の消化と吸収・体内動態：消化器の構造・機能									
4. 栄養素の消化と吸収・体内動態：消化過程とその調節									
5. 栄養素の消化と吸収・体内動態：栄養素の体内動態、生物学的利用度									
6. たんぱく質の栄養：たんぱく質の消化・吸収、アミノ酸の体内代謝の概要									
7. たんぱく質の栄養：たんぱく質・アミノ酸の体内代謝と臓器間輸送									
8. たんぱく質の栄養：たんぱく質の量と質の評価									
9. 中間試験、糖質の栄養：糖質の消化吸収と体内代謝									
10. 糖質の栄養：血糖の調節									
11. 脂質の栄養：脂質の消化吸収と体内代謝の概要									
12. 脂質の化学：脂質の体内代謝と臓器間輸送									
13. 脂質の栄養：脂質の量と質の評価									
14. ビタミンの栄養：ビタミンの分類・構造、ビタミンの機能・・・脂溶性ビタミン									
15. ビタミンの栄養：ビタミンの機能・・・水溶性ビタミン									
16. 期末試験									
事前学習		教科書・参考書の各時間の授業範囲に該当する部分を熟読すること。							
事後学習		板書ノート・配布資料を見直して復習すること。							
履修上の注意		内容の理解できないところがあれば放置せず、質問したり自分で調べたりして、疑問点の解消に努めること。							
成績評価の方法・基準		中間試験：30%、期末試験：60%、平常点（提出物等）：10%							
教科書	〔基礎栄養学〕〔駒井三千夫他〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2,592円〕								
参考書	〔栄養の生化学 1-2-3 改訂第3版〕〔遠藤克己〕〔南江堂〕〔2,160円〕								

授業科目		栄養生化学					担当者	鈴木 裕行	
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専2年
授業の概要									
メタボリック・シンドローム関連各疾患の発症・病態の生化学的理解のため、まず、背景となるエネルギー分子の代謝とその調節機構を説明し、それを基礎として関連疾患の分子生物学的・細胞生物学的機構について講義する。									
授業の目標(到達目標)									
昨今の健康管理上の重大な課題であるメタボリック・シンドロームをテーマとし、その代謝的な背景の理解を深めることで、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解できるようにする。									
授業計画及び内容									
1. メタボリック・シンドロームとは									
2. さまざまな生理的状态とミネラルの機能①：多量ミネラル									
3. さまざまな生理的状态とミネラルの機能②：微量ミネラル									
4. 肥満症の生化学①：肥満症とは、脂肪細胞の機能									
5. 肥満症の生化学②：肥満遺伝子									
6. 糖尿病の生化学①：血糖調節機構と糖尿病の分類									
7. 糖尿病の生化学②：糖尿病の発症機序と代謝									
8. 糖尿病の生化学③：糖尿病関連遺伝子、糖尿病の食事療法脂									
9. 中間試験、脂質異常症・動脈硬化症の生化学①：リポタンパク質とその受容体									
10. 脂質異常症・動脈硬化症の生化学②：動脈硬化症の発症機序と治療、関連遺伝子									
11. 高血圧症の生化学①：血圧調節機構									
12. 高血圧症の生化学②：高血圧症の発症機序									
13. 骨粗鬆症の生化学①：骨粗鬆症の発症機序とカルシウム代謝調節機構									
14. 骨粗鬆症の生化学②：骨粗鬆症の治療、がんの生化学①：発がん機構とがん遺伝子									
15. がんの生化学②：食生活とがん、まとめ：メタボリック・シンドロームの分子機構									
16. 期末試験									
事前学習		教科書・参考書の各時間の授業範囲に該当する部分を熟読すること。							
事後学習		板書ノート・配布資料を見直して復習すること。							
履修上の注意		生化学、基礎栄養学および臨床医学関連科目での学習内容と関連が深いので相互に参照して学習を進める。							
成績評価の方法・基準		中間試験：30%、期末試験：60%、平常点（提出物等）：10%							
教科書		資料を配布する							
参考書		〔栄養の生化学 1-2-3 改訂第3版〕〔遠藤克己〕〔南江堂〕〔2,160円〕							

授業科目		栄養学実験				担当者	鈴木 裕行		
単位数	1	必・選	管栄・栄(必)	授業形式	実験	開講期	前期	対象	健専2年
授業の概要 各種栄養素の消化酵素による分解と分解産物の検出、生体試料・食品からのビタミンの定量、間接法によるエネルギー消費量の測定を実施する。									
授業の目標(到達目標) 各種栄養素の性質・消化のしくみや代謝およびエネルギー代謝の生理的意義について実験を通して学び、栄養の意義について理解できるようにすることを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. 授業の概要説明・実験実施上の注意									
2. 糖質の消化実験①吸光度分析法									
3. 糖質の消化実験②マルトースの定量									
4. 糖質の消化実験③唾液アミラーゼによるデンプンの消化									
5. 糖質の消化実験④酵素活性の求め方（タンパク質定量）									
6. たんぱく質の消化実験①プロテアーゼによるたんぱく質の消化									
7. たんぱく質の消化実験②アミノ酸の検出									
8. 脂肪の消化実験①リパーゼによる脂肪の消化									
9. 脂肪の消化実験②酸度の滴定									
10. ビタミン B1 の定量①：試料調製									
11. ビタミン B1 の定量②：測定									
12. ビタミン C の定量①：試料調製									
13. ビタミン C の定量②：測定									
14. エネルギー消費量の測定①：測定の原理									
15. エネルギー消費量の測定②：測定・計算									
事前学習		各回の授業内容について事前に配布する資料を熟読しておく。							
事後学習		授業で扱った内容を復習し、関連事項を調査してレポートを作成する。							
履修上の注意		実験レポート作成に備え、実験記録をできるだけ綿密に取ること。基礎栄養学・生化学等の科目の内容と関連が深いのでそれぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。							
成績評価の方法・基準		実験レポート・・・80% 平常点（受講状況・実施状況）・・・20%							
教科書		資料を配布する							
参考書		無し							

授業科目		応用栄養学Ⅰ				担当者	川俣 幸一		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専2年
授業の概要									
各ライフステージにおける栄養状態や心身機能に応じた栄養管理の基本的な考え方を基準に、食事摂取基準への当てはめ方や、栄養マネジメントの方法について理解する。									
授業の目標(到達目標)									
1) 各ライフステージの栄養状態や心身機能、ケアすべき問題点を理解することができるようになる。									
2) 栄養マネジメントを各世代ごとに体系的に考えることができるようになる。									
授業計画及び内容									
1. ライフサイクルの概要 / 栄養マネジメントの概要									
2. 成人期①：生理的特徴									
3. 成人期②：栄養アセスメント									
4. 成人期③：栄養ケア									
5. 妊娠期①：生理的特徴									
6. 妊娠期②：栄養アセスメント									
7. 妊娠期③：栄養ケア									
8. 前半のまとめ回									
9. 授乳期①：生理的特徴									
10. 授乳期②：栄養アセスメント									
11. 授乳期③：栄養ケア									
12. 新生児期・乳児期①：生理的特徴									
13. 新生児期・乳児期②：栄養アセスメント									
14. 新生児期・乳児期③：栄養ケア									
15. 後半のまとめ回									
事前学習		教科書の授業範囲を熟読すること							
事後学習		板書やノート、配布資料を見直して復習する事							
履修上の注意		応用栄養学実習・基礎栄養学・栄養教育論・臨床栄養学、公衆栄養学等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。							
成績評価の方法・基準		小テスト・・・90% 受講状況・・・10%							
教科書	[応用栄養 改訂第5版][南江堂][3,456 円]								
参考書	なし								

授業科目		応用栄養学Ⅱ				担当者	川俣 幸一		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専2年
授業の概要									
応用栄養学Ⅰに引き続き、各ライフステージにおける栄養状態や心身機能に応じた栄養管理の基本的な考え方を基準に、食事摂取基準への当てはめ方や、栄養マネジメントの方法について理解する。									
授業の目標(到達目標)									
1) 各ライフステージの栄養状態や心身機能、ケアすべき問題点を理解することができるようになる。									
2) 栄養マネジメントを各世代ごとに体系的に考えることができるようになる。									
授業計画及び内容									
1. 幼児期①：生理的特徴									
2. 幼児期②：栄養アセスメント									
3. 幼児期③：栄養ケア									
4. 学童期・思春期①：生理的特徴									
5. 学童期・思春期②：栄養アセスメント									
6. 学童期・思春期③：栄養ケア									
7. 前半のまとめ回									
8. 高齢期①：生理的特徴									
9. 高齢期②：栄養アセスメント									
10. 高齢期③：栄養ケア									
11. 運動・スポーツ期①：生理的特徴									
12. 運動・スポーツ期②：栄養アセスメント									
13. 運動・スポーツ期③：栄養ケア									
14. ストレス・特殊環境と栄養									
15. 後半のまとめ回									
事前学習		教科書の授業範囲を熟読すること							
事後学習		板書やノート、配布資料を見直して復習する事							
履修上の注意		応用栄養学実習・基礎栄養学・栄養教育論・臨床栄養学、公衆栄養学等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。							
成績評価の方法・基準		小テスト・・・90% 受講状況・・・10%							
教科書	[応用栄養 改訂第5版][南江堂][3,456円]								
参考書	なし								

授業科目		栄養管理論				担当者	川俣 幸一		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専2年
授業の概要									
栄養管理業務において基本となる日本人の食事摂取基準について、その基本的な考え方、科学的根拠ならびに活用の方法を教授する。									
授業の目標(到達目標)									
1) 日本人の食事摂取基準（2015 年版）の数値や科学的根拠を理解できるようになる。 2) 食事摂取基準を用いた栄養管理の考え方と方法を理解できるようになる									
授業計画及び内容									
1. 概論 / 食事摂取基準について									
2. 食事摂取基準の各指標について									
3. エネルギー（算定の科学的根拠・BMI との関係）									
4. たんぱく質（算定の科学的根拠）									
5. 脂質（算定の科学的根拠）									
6. 前半のまとめ回									
7. 水溶性ビタミン（算定の科学的根拠）									
8. 脂溶性ビタミン（算定の科学的根拠）									
9. 多量ミネラル（算定の科学的根拠）									
10. 微量ミネラル（算定の科学的根拠）									
11. ライフステージ別の栄養管理①（妊婦・授乳婦）									
12. ライフステージ別の栄養管理②（乳児・小児）									
13. ライフステージ別の栄養管理③（高齢者）									
14. 生活習慣病とエネルギー・栄養素との関連									
15. 後半のまとめ回									
事前学習		教科書の授業範囲を熟読すること							
事後学習		板書やノート、配布資料を見直して復習する事							
履修上の注意		応用栄養学・基礎栄養学・栄養教育論・臨床栄養学・公衆栄養学等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。							
成績評価の方法・基準		小テスト・・・90% 受講状況・・・10%							
教科書	[日本人の食事摂取基準 [2015 年版]] [第一出版][2,916 円]								
参考書	なし								

授業科目		応用栄養学実習Ⅰ				担当者	川俣 幸一		
単位数	1	必・選	管栄・栄(必)	授業形式	実習	開講期	前期	対象	健専2年
授業の概要									
各自の身体状況、食物摂取状況の調査などを通じて、自分の食生活状況をアセスメントする。アセスメントの結果を基に自分自身に適した推定エネルギー必要量の算出や食事摂取基準の設定を行い、更には食事計画から献立作成までの実践的な栄養管理能力の取得を目指す									
授業の目標(到達目標)									
1) 自分の食生活の現状についてアセスメントを行う能力を身につける 2) 自分の身体に合う食事についての栄養管理法を総合的に理解できるようになる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. 食事調査法①（実施方法の練習）									
3. 食事調査法②（栄養価計算の練習）									
4. 身体活動量を求める実習（24時間タイムスタディ法）									
5. 3日間の食物摂取状況の把握（栄養価計算）									
6. アセスメント（前半まとめ①、説明）									
7. " （前半まとめ②、演習）									
8. 食事計画①（加重平均食品群別栄養成分表の作成、説明）									
9. 食事計画②（加重平均食品群別栄養成分表の作成、演習）									
10. 食事計画③（食品構成表の作成、説明）									
11. 食事計画④（食品構成表の作成、説明）									
12. 食事計画⑤（献立の作成、説明）									
13. 食事計画⑥（献立の作成、演習）									
14. 食事計画⑦（献立の栄養価計算）									
15. まとめ									
事前学習		事前に配布する予習プリントを熟読すること							
事後学習		板書やノート、配布資料を見直して復習する事							
履修上の注意		応用栄養学・基礎栄養学・栄養教育論・臨床栄養学・公衆栄養学等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。							
成績評価の方法・基準		課題レポート・・・90% 受講状況・・・10%							
教科書	[すぐわかる栄養指導実習][萌文書林][1,680円]								
	[エネルギー早わかり][女子栄養大学出版部][1,460円]								
	[調理のためのベーシックデータ][女子栄養大学出版部][1,890円]								
参考書	[食品成分表][女子栄養大学出版部][1,512円]								

授業科目		応用栄養学実習Ⅱ				担当者	川俣 幸一		
単位数	1	必・選	管栄・栄（必）	授業形式	実習	開講期	後期	対象	健専2年
授業の概要									
応用栄養学Ⅰ・Ⅱで学んだ各ライフステージの生理現象や生活をふまえ、より良く生きるための栄養とそれに適した献立について、実際に献立調理、観察、試食を行う。また応用栄養学実習Ⅰで学んだ栄養管理の方法を踏まえて、各ライフステージに適した献立作成などを行いながら、栄養管理の方法を学ばせる。									
授業の目標(到達目標)									
1) 各ライフステージに適している献立がどのように作成されているかを理解できるようになる。 2) 各ライフステージに適した栄養管理の考え方と方法を総合的に理解できるようになる。									
授業計画及び内容									
1. 概論									
2. 新生児期・乳児期栄養①（乳汁栄養）									
3. 新生児期・乳児期栄養②（離乳食前期～中期）									
4. 新生児期・乳児期栄養③（離乳食後期～完了期）									
5. 幼児期・学童期栄養①（お弁当）									
6. 幼児期・学童期栄養②（行事・麺食）									
7. 幼児期・学童期栄養③（アレルギー対応食：主食・主菜）									
8. 幼児期・学童期栄養④（アレルギー対応食：デザート）									
9. 思春期栄養（貧血と高鉄分食）									
10. 妊娠期栄養①（つわりを考えた食事）									
11. 妊娠期栄養②（付加量を考えた食事）									
12. 成人期栄養（更年期と高カルシウム食）									
13. 老年期栄養（低栄養予防の食事）									
14. アセスメントに基づいた調理実習①（食事調査に基づく献立）									
15. アセスメントに基づいた調理実習②（BMI=22 を目指す献立）									
事前学習		事前に配布する予習プリントを熟読すること							
事後学習		板書やノート、配布資料を見直して復習する事							
履修上の注意		身だしなみが整わない学生は実習に参加させず欠席とします（例：爪を短く切る、ピアス・指輪を外す、髪を帽子内に入れるなど）。教員の指示に従わない学生も同様です（調理実習時の危険防止のため）。							
成績評価の方法・基準		課題レポート・・・90% 受講状況・・・10%							
教科書	なし（プリントを配布する）								
参考書	なし								

授業科目		食生活論				担当者	伊澤 華子		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専 1 年
授業の概要									
健康や栄養に関わる様々な問題について説明する。健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析、それらを総合的に評価・判定するための基本的な知識を説明する。学生自身の健康や生活の質（QOL）の向上につながる主体的な実践力形成に必要な基礎的スキルを習得させる。									
授業の目標(到達目標)									
健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析、それらを総合的に評価・判定するための基本的な能力を身につける。自身の健康や生活の質（QOL）の向上につながる主体的な実践力形成に必要な基礎的スキルを身につける。									
授業計画及び内容									
1. 食と環境、食行動、食品の選び方について									
2. 栄養素、生活習慣病の予防と食事、食事バランスガイドの概要、日本型食生活とは									
3. 健康・栄養状態把握のための基礎 食品の表示（賞味期限・消費期限、アレルギー表示など）									
4. 健康・栄養状態把握のための基礎 食品の表示（遺伝子組換え食品の表示、食品添加物）									
5. 健康・栄養状態把握のための基礎 安全な食事とは？食中毒の予防について									
6. いわゆる健康食品と特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品について									
7. 科学的根拠とは？ 雑誌、論文から勉強してみよう									
8. 科学的根拠とは？ 特定保健用食品の情報をまとめてみよう									
9. 科学的根拠とは？ 各自が調べてきた特定保健用食品の情報を共有しよう									
10. 食事バランスガイドを使用して、普段の食事を評価しよう									
11. 食事バランスガイド等を使用して、自分に合う 1 日分の食事を考えよう									
12. 食事バランスガイド等を使用して、バランスの良い食事を考えよう									
13. 食環境と食事の関係 大学の周りの食環境と予想される食生活を比較しよう									
14. 食環境と食事の関係 自分の周りの食環境を調べよう									
15. 食環境と食事の関係 みんなの食環境と食生活を比較してみよう									
16. 試験									
事前学習		食に関する情報や表示、新聞記事などを収集しておくこと。							
事後学習		授業内容を見直し、身の周りの健康・栄養に関する情報に興味を持って調べること。							
履修上の注意		実際に情報や表示など収集し、分析・評価を行う。グループワークを行うことがある。							
成績評価の方法・基準		平常点 20%（平常点は、授業への参加態度及びグループワークでの態度を含め総合的な判断）とレポート 30%、試験 50%で評価を行う。 未提出のレポートのある者は評価の対象としない場合がある。							
教科書	〔きほんの献立練習帳〕〔松本伸子〕〔朝日新聞出版〕〔1,404 円〕								
参考書	〔食品成分表〕〔女子栄養大学出版部〕その他、授業内に適宜紹								

授業科目		栄養教育論				担当者	伊澤 華子		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専2年
授業の概要									
栄養士、管理栄養士がどのような場で活躍しているのか知るとともに、栄養教育の概念、行動科学、行動変容理論を学び、アセスメントから教育計画、方法、実施、評価まで栄養教育マネジメントサイクルの流れを説明する。									
授業の目標(到達目標)									
栄養教育のプログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントするために必要な健康・栄養教育の理論と方法を修得する。特に行動科学、行動変容理論について学習する。									
授業計画及び内容									
1. 栄養教育の概念 栄養教育の定義・目的									
2. 栄養教育のための基礎知識 各種指針									
3. 食行動変容と栄養教育 食行動変容の理論とモデル（ヘルスビリーフモデルなど）									
4. 食行動変容と栄養教育 食行動変容の理論とモデル（社会的認知理論など）									
5. 食行動変容と栄養教育 行動変容技法と概念									
6. 食行動変容と栄養教育 組織づくり、地域づくりへの展開（普及理論など）									
7. 食行動変容と栄養教育 食環境づくり（食物へのアクセス、情報へのアクセス）									
8. 栄養教育マネジメントサイクルの概要 栄養教育アセスメントについて									
9. 栄養教育アセスメントと食事調査方法									
10. 栄養教育の方法 栄養教育の方法と選択と形態									
11. 栄養教育の方法 教材・媒体									
12. 栄養教育の評価 評価の種類									
13. 栄養教育の評価 疫学（症例対照研究・コホート研究）									
14. 栄養教育の評価 エビデンス、バイアス・評価のデザイン									
15. 栄養教育マネジメントサイクルのまとめ 特定保健指導									
16. 試験									
事前学習		当該個所のテキストを読んでくこと。							
事後学習		配布プリント、ノートを整理し講義内容を復習すること。							
履修上の注意		遅刻、欠席せずに、積極的に参加すること。							
成績評価の方法・基準		平常点 30%（平常点は、授業への参加態度及び、レポートの結果などを総合的に評価する。）と試験 70%で評価を行う。							
教科書	〔栄養教育論 栄養の指導〕〔関口紀子・蔵迫栄美子〕〔学建書院〕〔3,240 円〕								
参考書	授業内に適宜紹介								

授業科目		栄養指導論				担当者	伊澤 華子		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専2年
授業の概要 栄養指導、栄養教育について、妊娠期から高齢期（障がい者も含む）までのライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養教育の特徴について説明する。									
授業の目標(到達目標) ライフステージ、ライフスタイルに応じた健康・栄養状態、食行動、食環境などに関する情報を収集・分析する。それらに応じた栄養教育のあり方、方法について修得する。									
授業計画及び内容									
1. 栄養カウンセリングの基礎 話を聴くための基礎知識を学ぼう。									
2. 妊娠・授乳期の栄養 どんな妊婦さんが多いの？統計データを見てみよう。									
3. 妊娠・授乳期の栄養 妊娠中の体の変化を理解しよう。									
4. 妊娠・授乳期の栄養 必要な栄養は？栄養教育のあり方・方法を考えよう。									
5. 乳・幼児期の栄養教育 乳・幼児期はいつまで？子どもの発育状況をつかもう。									
6. 乳・幼児期の栄養教育 生活・食事の特徴、栄養教育のあり方、方法を考えよう。									
7. 学童期・思春期の栄養教育 身体の成長の男女の違いと正しいダイエットとは？									
8. 学童期・思春期の栄養教育 学校給食の実施率は栄養教諭の人数と仕事内容は？									
9. 学童期・思春期の栄養教育 栄養教諭の仕事内容は？									
10. 成人期の栄養教育 成人期の特徴は？統計データを見てみよう。									
11. 成人期の栄養教育 お酒の適量ってどれくらい？特定保健指導の指導を考えよう。									
12. 高齢者の栄養教育 高齢者ってどれくらいいるの？どんな生活をしているの？									
13. 高齢者の栄養教育 身体の変化と栄養を考えてみよう。									
14. 障がい者の栄養教育 ノーマライゼーションとは？									
15. 障がい者の栄養教育 「見えない」を体験してみよう。									
16. 試験									
事前学習		テキストの該当箇所を読んでくること。新聞・雑誌、テレビなどから各ライフステージに関する情報を注意深く見るようにすること。							
事後学習		各ライフステージについて学んだことを応用栄養学・応用栄養学実習などに関連づけて確認すること。							
履修上の注意		講義内でグループワークを行うなど、課題を課すことがあるので、遅刻、欠席しないこと。							
成績評価の方法・基準		平常点 30%（平常点は、授業への参加態度及び、感想、課題の結果などを総合的に評価する。）と試験 70%で評価する。未提出レポートのある場合は、評価の対象としない場合がある。							
教科書		〔栄養教育論 栄養の指導〕〔関口紀子・蔵迫栄美子〕〔学建書院〕〔3,240 円〕							
参考書		授業内に適宜紹介							

授業科目		保健栄養学				担当者	栗山 孝雄		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専3年
授業の概要									
人間の健康・栄養に関する問題について、事例を交えて紹介する。その上で健康・栄養教育を交えた対策について解説する。内容によっては、授業テーマに関する提出課題を出題し、履修者自身の立場で健康・栄養に関する問題について対策を考えさせる。									
授業の目標(到達目標)									
① 授業のテーマに関する現状や問題点を把握することができる。 ② その対策について、様々な視点で考える習慣を身につける。 ③ ①、②に関して、健康面や栄養面に関する教育方法を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 健康・予防・QOLに関する栄養教育と健康教育									
2. わが国の食環境と栄養教育①：食生活の変化と問題点									
3. わが国の食環境と栄養教育②：食生活の改善と行動変容									
4. わが国の食環境と栄養教育③：食に関する情報へのアクセス									
5. わが国の食環境と栄養教育④：食品ロスを減らすための栄養教育									
6. 健康栄養面に関する指針の活用①：食生活指針									
7. 健康・栄養面に関する指針の活用②：身体活動・休養・睡眠指針									
8. わが国の健康・栄養問題と栄養教育①：妊娠・授乳期、乳幼児期									
9. わが国の健康・栄養問題と栄養教育②:学童・思春期									
10. 成人期の健康・栄養面の問題と行動変容①：食生活の乱れと亜鉛欠乏									
11. 成人期の健康・栄養面の問題と行動変容②：ストレスとその対処方法									
12. 成人期の健康・栄養面の問題と行動変容③：飲酒がもたらす問題									
13. 成人期の健康・栄養面の問題と行動変容④：特定保健指導による行動変容									
14. 諸外国の健康・栄養問題①：現状と課題									
15. 諸外国の健康・栄養問題②：対策と栄養教育									
16. 期末試験									
事前学習		授業テーマについて、教員からの情報や教科書などを参考に、内容を把握しておく。							
事後学習		授業内容を見直し、重要箇所や理解不十分の箇所の確認を行う。							
履修上の注意		本講義と関連する内容の食生活論、栄養指導論、健康管理概論、応用栄養学、公衆衛生学、公衆栄養学と併せて、本科目で扱う内容の理解を深めると効果的である。							
成績評価の方法・基準		・期末試験（60%）、提出課題（30%）、受講態度（10%）で成績評価を行う。※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業中に私語や授業と関係ない行為を行うなど、受講態度に問題のある場合、状況に応じて減点する。							
教科書	〔ウエルネス公衆栄養学〕〔前大道教子ほか〕〔医歯薬出版〕〔3,024 円〕								
参考書	〔適時紹介する〕								

授業科目		栄養情報処理演習				担当者	伊澤華子・松尾広		
単位数	1	必・選	必	授業形式	演習	開講期	後期	対象	健専2年
授業の概要									
健康・栄養状態、食行動、食環境等の評価を行うためにはコンピュータを利用した情報処理が不可欠である。本演習では栄養評価ソフトを用い、栄養計算方法及び実践的情報処理について教える。また、表計算ソフトを用いた栄養調査の手順・技法のポイントを教授する。									
授業の目標(到達目標)									
健康・栄養状態、食行動、食環境などに関する情報の収集・整理、また、栄養教育・指導のための道具として情報機器を活用できるようにする。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス 基本的なパソコン操作について (担当：松尾)									
2. 栄養評価ソフトを用いた演習 (1) 1食分の食事を使用して基本操作を学ぶ (担当：伊澤)									
3. (2)1日分の食事を使用して、栄養価計算と評価方法を学ぶ (担当：伊澤)									
4. (3)1日分の食事を使用して、食品群別の分類の方法を学ぶ (担当：伊澤)									
5. (4)栄養評価表の作成方法を学ぶ (担当：伊澤)									
6. 表計算ソフトの活用 (1)Wordを使用したアンケート用紙の作成を学ぶ (担当：伊澤)									
7. (2)Excelを使用したアンケートの集計を学ぶ (担当：伊澤)									
8. (3)分析ツールを使用したヒストグラム作成と基本的なグラフの設定を学ぶ (担当：伊澤)									
9. (4)分析ツールを使用した統計処理を学ぶ (担当：伊澤)									
10. (5)ピボットテーブルを使用したデータの処理を学ぶ (担当：伊澤)									
11. 文書作成ソフトの活用 (1)Wordを使用してレポート作成のための基本操作を学ぶ (担当：伊澤)									
12. (2)基本操作を活用した栄養だよりの作成 (担当：伊澤)									
13. プレゼンテーションソフトの活用 (1)Power Pointの基本操作を学ぶ (担当：伊澤)									
14. (2)プレゼンテーションの方法を学ぶ (担当：伊澤)									
15. 使用したソフトの総復習 (担当：伊澤)									
事前学習		栄養価計算の基本的な知識、統計処理に必要な統計学の知識の復習を行い、授業に臨むこと。							
事後学習		演習で学んだ内容を復習し、他の授業でも活用できるようにする。							
履修上の注意		実際にパソコンの操作を行う授業のため、遅刻、欠席をしないこと。印刷に使用する A4 用紙や USB メモリーなどは各自用意すること。							
成績評価の方法・基準		平常点 20% (平常点は、授業への参加態度などを含め総合的な判断)、提出課題 80%で評価を行う。未提出の課題がある者は評価の対象としない場合がある。							
教科書		テキスト配布							
参考書		〔食品成分表〕〔女子栄養大学出版部〕							

授業科目		栄養指導論実習				担当者	伊澤 華子		
単位数	1	必・選	必	授業形式	実習	開講期	前期	対象	健専3年
授業の概要									
集団を対象とした健康・栄養教育を実施する際に必要な、簡単なアイスブレイクの方法から、個人を対象とした、栄養カウンセリングに必要な傾聴などの技術を実際に体験しながら学んでもらう。後半は、グループで食事の聞き取りや食事調査法を実際に行いながら、食行動に関する情報の収集・分析・評価・健康教育支援を実践する方法を教育する。									
授業の目標(到達目標)									
栄養教育論・栄養指導論で学習した行動科学・カウンセリングの理論・応用について実際に実習を通して修得する。他者の食事調査を実施し、そこから食行動に関する情報の収集・分析・評価を行い、健康教育支援ができる技術を修得する。									
授業計画及び内容									
1. 栄養指導の方法 導入 (アイスブレイク・コンセンサス法)									
2. 栄養カウンセリングの基礎態度(傾聴・話しの伝え方)									
3. 栄養カウンセリングの基礎態度(自己開示 3分間スピーチ) 前半グループ									
4. 栄養カウンセリングの基礎態度(自己開示 3分間スピーチ) 後半グループ									
5. 栄養カウンセリング基礎態度 (対象者の気持ちを受けとめる 開いた質問・閉じた質問)									
6. 栄養カウンセリングの実践 (ロールプレイング 悩みを人に聞いてもらう)									
7. 栄養カウンセリングの実践 (ロールプレイング 悩みを人に聞いてもらう) まとめ									
8. 栄養指導実践 (食事調査の説明 栄養診断のための練習)									
9. 栄養指導実践 (食事調査の説明 コミュニケーションゲーム)									
10. 栄養指導実践 (食事調査①) 対象者1の調査									
11. 栄養指導実践 (食事調査②) 対象者2の調査									
12. 栄養指導実践 (食事調査③) 対象者3の調査									
13. 栄養指導実践 (食事調査④) 対象者4の調査									
14. 栄養指導実践 (食事調査⑤) 対象者5の調査									
15. 食事調査のまとめ メニューを調べる									
事前学習		7回まで、2年生で学習した行動変容理論、技術の復習を行うこと。8回以降、食事調査をするうえで必要な知識を確認してくること。							
事後学習		実習を通して気づいた、不足している知識を各自で学ぶこと。							
履修上の注意		小規模、中規模のグループワークを行うので遅刻、欠席すると授業が行えない。レポートの提出期限は厳守すること。							
成績評価の方法・基準		平常点 30% (平常点は、授業への参加態度及びグループワークでの態度を含め総合的な判断) とレポート 70% で評価を行う。未提出のレポートのある者は評価の対象としない場合がある。							
教科書	〔栄養ケアプロセス用語マニュアル〕〔第一出版〕〔3,400 円〕 〔エネルギー早わかり〕〔女子栄養大学出版部〕〔1,460 円〕 〔調理のためのベーシックデータ〕〔女子栄養大学出版部〕〔1,890 円〕								
参考書	〔食品成分表〕〔女子栄養大学出版部〕 その他、授業中に適宜紹介								

授業科目		臨床栄養学Ⅰ				担当者	福岡 敦子		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専2年
授業の概要									
管理栄養士として臨床栄養学に対する基礎的な知識を習得し、傷病者への適切な栄養療法を選択し、各疾病に対して食事療法や栄養管理を理解できるように指導をする。									
授業の目標(到達目標)									
傷病者への適切な栄養管理を実施するための疾病の基本的な知識を習得し、栄養管理の考え方を理解し、身に着ける。									
授業計画及び内容									
1. 臨床栄養とは									
2. 栄養ケアマネジメント 栄養サポートチーム クリニカルパス									
3. 栄養評価について 栄養アセスメント 栄養スクリーニング									
4. 栄養ケア計画と実施									
5. 栄養補給法について：①経口栄養法									
6. 栄養補給法について：②経腸栄養法									
7. 栄養補給法について：③静脈栄養法									
8. 食物と薬剤の相互関係									
9. 食事療法を必要とする疾患について：①糖尿病									
10. 食事療法を必要とする疾患について：②脂質異常症									
11. 食事療法を必要とする疾患について：③高尿酸血症									
12. 食事療法を必要とする疾患について：④肥満・るいそう									
13. 食事療法を必要とする疾患について：⑤口内炎 胃・食道逆流症									
14. 食事療法を必要とする疾患について：⑥十二指腸潰瘍									
15. 食事療法を必要とする疾患について：⑦下痢、便秘									
16.テスト									
事前学習		2回目以降は、授業で行う項目について教科書を読んでくること							
事後学習		当日の授業で行った項目について教科書とノート（板書した内容）を復習すること							
履修上の注意		健康的な生活を行なうために衛生、疾病などの情報に関心を持ち、調理をする習慣を身に着ける。							
成績評価の方法・基準		定期試験および小テスト						70%	
		受講態度（積極的な態度、目的意識、遅刻）						30%	
教科書		[臨床栄養学][佐藤和人][医歯薬出版] [3,996 円]							
参考書		[糖尿病食事療法のための食品交換表][日本糖尿病協会][文光堂][972 円]							

授業科目		臨床栄養学Ⅱ				担当者	福岡 敦子		
単位数	2	必・選	管栄(必)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専2年
授業の概要									
臨床栄養学Ⅰで学んだ各疾患の病因や病態に加えさらに、それぞれの疾患と治療をおこなうための栄養食事療法の必要性を学び、基礎知識を指導する。									
授業の目標(到達目標)									
臨床栄養学Ⅰからさらに多様な疾患に対し、その病態に対応した適切な食事療法の選択ができること。手術後のケア、また生活習慣の改善などの学習を深め、管理栄養士として必要な病態生理や栄養食事療法を身に着けること。									
授業計画及び内容									
1. 食事療法を必要とする疾患について：臨床栄養学Ⅰの復習									
2. 食事療法を必要とする疾患について：①クローン病・潰瘍性大腸炎									
3. 食事療法を必要とする疾患について：②肝臓疾患									
4. 食事療法を必要とする疾患について：③胆石症 胆のう炎 膵炎									
5. 食事療法を必要とする疾患について：④循環器疾患									
6. 食事療法を必要とする疾患について：⑤腎臓 泌尿器疾患 透析									
7. 食事療法を必要とする疾患について：⑥内分泌疾患									
8. 食事療法を必要とする疾患について：⑦神経疾患 精神疾患									
9. 食事療法を必要とする疾患について：⑧呼吸器疾患 血液系疾患									
10. 食事療法を必要とする疾患について：⑨感染症 免疫 アレルギー疾患									
11. 食事療法を必要とする疾患について：⑩癌 術前・術後									
12. 食事療法を必要とする疾患について：⑪摂食機能障害 身体障害 知的障害									
13. 食事療法を必要とする疾患について：⑫乳幼児・小児疾患									
14. 食事療法を必要とする疾患について：⑬妊産婦・授乳婦の疾患									
15. 食事療法を必要とする疾患について：⑭更年期疾患 高齢者疾患									
16. テスト									
事前学習		『臨床栄養学Ⅰ』の復習をすること。授業で行う項目について教科書を読むこと。特に検査値などは重要。							
事後学習		当日行った授業の項目個所の復習をすること							
履修上の注意		健康的な生活を行なうために衛生、疾病などの情報に関心を持ち、調理をする習慣を身に着ける。							
成績評価の方法・基準		定期試験				70%			
		受講態度 (積極的な態度、目的意識、遅刻)				30%			
教科書	[臨床栄養学][佐藤和人][医歯薬出版] [3,996 円]								
参考書	[糖尿病食事療法のための食品交換表][日本糖尿病協会][文光堂][972 円]								

授業科目		臨床栄養指導論Ⅰ				担当者	福岡 敦子		
単位数	2	必・選	管栄・栄(必)	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専3年
授業の概要									
食事療法を必要とする疾患の特徴をとらえ、集団と個人を対象とした臨床栄養指導ができるように栄養媒体の作成をし、実際に模擬栄養指導などを行うことによって臨床栄養指導を理解させる。									
授業の目標(到達目標)									
臨床栄養指導は、特別食が必要な対象者に、適切な食生活を行うための指導をすることである。したがって、対象者を理解し、科学的根拠に基づいた指導でなければならない。臨床栄養指導を行うための知識及び方法の基礎について理解する。									
授業計画及び内容									
1. 生活習慣病の現状と今後の在り方について 臨床栄養指導とは何か									
2. 医療における管理栄養士の役目									
3. 栄養ケアマネジメント 栄養アセスメント（栄養評価）									
4. カルテ（医師・看護師・患者）からの情報									
5. 生活習慣病と身体計測・血圧・検査値について									
6. 食道・胃・腸などの疾患の栄養指導について									
7. 食道・胃・腸などの疾患模擬栄養指導（栄養指導媒体作成・資料作成を作成し、患者と管理栄養士の役割を演じる）									
8. 高尿酸血症の栄養指導について									
9. 高尿酸血症の模擬栄養指導（栄養指導媒体作成・資料作成を作成し、患者と管理栄養士の役割を演じる）									
10. 食塩制限食（心臓病・高血圧症）の栄養指導について									
11. 食塩制限食の模擬栄養指導（栄養指導媒体作成・資料作成を作成し、患者と管理栄養士の役割を演じる）									
12. 糖尿病の栄養指導について									
13. 糖尿病の模擬栄養指導（栄養指導媒体作成・資料作成を作成し、患者と管理栄養士の役割を演じる）									
14. 糖尿病であるとともに食塩制限が必要な栄養指導について									
15. 糖尿病であり食塩制限のかたの模擬栄養指導（栄養指導媒体作成・資料作成を作成し、患者と管理栄養士の役割を演じる）									
事前学習		1回目～5回目までは特になし 6回目以降は、授業で指示した資料の作成をしてくること							
事後学習		授業で行ったことの復習をすること							
履修上の注意		栄養指導をする際の、多様な場面や背景を考えておくこと							
成績評価の方法・基準		小テスト・演習 40% 受講態度 30%（積極的な態度、目的意識、遅刻） 提出物の内容・提出期限の順守 30%							
教科書	〔エッセンシャル臨床栄養学第8版〕〔伊藤和人〕〔医歯薬出版〕〔3,996円〕								
参考書	なし								

授業科目		臨床栄養指導論Ⅱ				担当者	福岡 敦子		
単位数	2	必・選	管栄(必)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専3年
授業の概要									
臨床栄養指導論Ⅰに加え、対象者の性別、年齢、環境を加味した臨床栄養指導ができるようにし、さらに臨床栄養学実習で学んだ疾病ごとの食事や調理方法を具体的に把握し、対象者の状況に合わせた臨床栄養指導を行うことを学ばせる。									
授業の目標(到達目標)									
臨床栄養指導論Ⅰに加え、疾病を深く理解し、患者の背景や状況を加味し、具体的な説明を行い、対象者が正しく理解し健康を回復させるための行動を起こすための臨床栄養指導の技術・方法を学ぶ。									
授業計画及び内容									
1. 脂質異常症の栄養指導について									
2. 脂質異常症の模擬栄養指導（栄養媒体作成・資料作成し、患者と管理栄養士の役割を演じる）や症例検討を行う。									
3. 腎臓疾患および透析療法の栄養指導について									
4. 腎臓疾患および透析患者の模擬栄養指導（栄養媒体作成・資料作成し、患者と管理栄養士の役割を演じる）や症例検討を行う。									
5. 薬物との関係に注意を要する場合の栄養指導について									
6. 食事に影響のある薬剤の内服をしている患者さんを対象に（栄養媒体作成・資料作成し、患者と管理栄養士の役割を演じる）や症例検討を行う。									
7. 胆嚢・膵臓疾患の栄養指導について									
8. 膵臓疾患の患者さんを対象に（栄養媒体作成・資料作成し、患者と管理栄養士の役割を演じる）や症例検討を行う。									
9. 肝臓疾患の栄養指導について									
10. 肝臓疾患の患者さんを対象に（栄養媒体作成・資料作成し、患者と管理栄養士の役割を演じる）や症例検討を行う。									
11. 内分泌疾患の栄養指導について									
12. 肥満症、小児の肥満症を対象に（栄養媒体作成・資料作成し、患者と管理栄養士の役割を演じる）や症例検討を行う。									
13. 高齢者疾患に対する栄養指導について、									
14. 高齢者の方に対する摂食指導、食事介護などについて栄養媒体作成・資料作成を作成する。									
15. 嚥下・困難食を作成。実際に自分で立てた献立について説明をし、試食した結果などについて発表を行う。									
事前学習		授業の前に必要な疾病について復習をしてくること							
事後学習		食事・栄養の情報、基準値などについて学習した疾病について食事、栄養の情報、基準値などについてまとめること。							
履修上の注意		栄養指導を行う場合の多様な場面や背景を考慮しておくこと							
成績評価の方法・基準		小テスト・演習 40％ 受講態度 30％（積極的な態度、目的意識、遅刻） 提出物の内容・提出期限の順守 30％							
教科書	〔エッセンシャル臨床栄養学第8版〕〔伊藤和人〕〔医歯薬出版〕〔3,996円〕								
参考書	なし								

授業科目		臨床栄養学実習 I				担当者	福岡 敦子		
単位数	1	必・選	管栄・栄(必)	授業形式	実習	開講期	前期	対象	健専3年
授業の概要									
基本的にグループ単位で行う。症例を基に患者に合わせた献立を作成し、特別治療食の調理を指導する。									
授業の目標(到達目標)									
基本的な疾患の概要と治療を認識し、治療食として適切な献立作成の基本を身に付け、治療食を作成・実技ができることを目標とする。									
授業計画及び内容									
1.ガイダンス 臨床栄養学と食事療法について									
2. 一般治療食と特別治療食について 常食・全粥食献立作成									
3. 常食・全粥食献立提出 常食・全粥食実習ミーティング 糖尿病食献立作成									
4. 常食・全粥食 実習 糖尿病食献立提出									
5. 脂質異常症食献立作成 糖尿病食実習ミーティング									
6. 脂質異常症食献立提出 糖尿病食実習									
7. 腎臓病食献立作成 脂質異常症食実習ミーティング									
8. 腎臓病食献立提出 脂質異常症食実習									
9. 摂食・嚥下障害食献立作成 腎臓病食実習ミーティング									
10. 摂食・嚥下障害食献立提出 腎臓病食実習									
11. 胃・十二指腸潰瘍食献立作成 摂食・嚥下障害食実習ミーティング									
12. 胃・十二指腸潰瘍食献立提出 摂食・嚥下障害食実習									
13. 高血圧症・心臓病食献立作成 胃・十二指腸潰瘍食実習ミーティング									
14. 高血圧症・心臓病食献立提出 胃・十二指腸潰瘍食実習									
15. デザート 100Kcal を各々で作る 腎臓病食市販品試食									
事前学習		『臨床栄養学』で学んだ知識は必須。復習を十分に行うこと。							
事後学習		常に新しい情報を受け入れるようにする。							
履修上の注意		洗濯された白衣、白パンツを着用すること。以下の条件で調理実習を行う。 爪を切る、髪の毛を帽子から出さない、化粧をしない。 以下の装着は認めない(マニキュア、ピアス、イヤリング、指輪、腕時計)							
成績評価の方法・基準		提出物の内容・提出期限の順守 50% 受講態度(積極的な態度、作業の進め方、チームへの協力度) 50%							
教科書	〔ビジュアル治療食 300〕〔宗像伸子〕〔医歯薬出版〕〔5,184 円〕								
参考書	なし								

授業科目		臨床栄養学実習Ⅱ				担当者	福岡 敦子		
単位数	1	必・選	管栄・栄(必)	授業形式	実習	開講期	後期	対象	健専3年
授業の概要									
身体計測の目的は、貯蔵エネルギー量を示す体脂肪量と体タンパクならびに身体機能の能力を示す筋肉量を概算し、身体の栄養状態を推定することである。また1日に必要なエネルギーを推定するうえで身長や体重の値が必要となるため、適切な栄養管理を行うためにも身体計測の必要性を学ぶ。									
授業の目標(到達目標)									
・正しい計測の仕方を行うことができるようにする ・計測の目的や意義を明確に覚えること。 ・測定結果からの栄養状態や健康状態の推測する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス 身体の測定実習の説明									
2. インボディの使用説明 インボディを使用した体成分分析① 体成分分析・骨格筋・脂肪・肥満診断									
3. インボディの使用説明 インボディを使用した体成分分析② 筋肉バランス 体重測定・身長測定									
4. インボディを使用した体成分分析③ ECW/TBW/									
5. インボディを使用した体成分分析④ 部位別脂肪バランス・総合評価									
6. インボディを使用した体成分分析⑤ 体成分変化									
7. インボディを使用した体成分分析⑥ インピーダンス									
8. 身体計測実技① 仰臥位身長									
9. 身体計測実技② アームスパン・下腿周囲長									
10. 身体計測実技③ 上腕周囲長									
11. 身体計測実技④ Knee-Height 計測									
12. 身体計測実技⑤ 上腕三頭筋部皮下脂肪厚									
13. 身体計測実技⑥ 肩甲骨下部皮下脂肪									
14. 身体計測実技⑦ 血圧（デジタル・水銀）高齢者体験									
15. 身体計測実技⑧ 血糖値測定 妊婦体験									
事前学習		計測の必要性について調べておくこと							
事後学習		測定方法による違いなどに関心や興味を持ち、日常生活の中で、身近に計測をする習慣を持つこと（例えば体重測定）							
履修上の注意		体育着を着用する。長い髪は結ぶ。							
成績評価の方法・基準		提出物の内容・提出期限の順守					50%		
		受講態度					50%		
教科書	〔エッセンシャル臨床栄養学 第8版〕〔佐藤和人〕〔医歯薬出版〕〔3,996円〕								
参考書	なし								

授業科目		公衆栄養学				担当者	栗山 孝雄		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専3年
授業の概要 集団の健康・栄養に関する問題と政策、公衆栄養プログラムの流れと栄養疫学について解説する。									
授業の目標(到達目標) 公衆栄養学は地域や職域などの様々な集団を対象に、栄養状態、健康の維持・増進、疾病の予防をはかることを目的とする。本科目の学習を通して、公衆栄養活動を展開するために必要な知識や考え方を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 公衆栄養学の概念									
2. わが国の公衆栄養活動の歴史									
3. わが国の栄養行政									
4. 公衆栄養関連法規①：地域保健法、健康増進法									
5. 公衆栄養関連法規②：食育基本法、栄養士法									
6. わが国の管理栄養士・栄養士の養成制度									
7. 国民健康・栄養調査									
8. 中間試験、公衆栄養活動におけるマネジメント・アセスメント									
9. 公衆栄養活動における調査方法									
10. 公衆栄養活動における目標設定									
11. 公衆栄養活動の評価									
12. 都道府県・市町村の健康増進計画									
13. 健康・食生活の危機管理と食支援①：事例と対策									
14. 健康・食生活の危機管理と食支援②：栄養士による震災時の対応									
15. 栄養疫学の指標									
16. 期末試験									
事前学習		授業テーマについて、教員からの情報や教科書などを参考に、内容を把握しておく。							
事後学習		授業内容を見直し、重要箇所や理解不十分の箇所の確認を行う。							
履修上の注意		本講義と関連する内容の健康管理概論、応用栄養学、公衆衛生学、保健栄養学と併せて、本科目で扱う内容の理解を深めると効果的である。							
成績評価の方法・基準		・ 中間試験（40%）、期末試験（50%）、受講態度（10%）で成績評価を行う。※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業中に私語や授業と関係ない行為を行うなど受講態度に問題のある場合、状況に応じて減点する。							
教科書	〔ウエルネス公衆栄養学〕〔前大道教子ほか〕〔医歯薬出版〕〔3,024 円〕								
参考書	〔適時紹介する〕								

授業科目		公衆栄養学実習				担当者	栗山 孝雄		
単位数	1	必・選	管栄・栄(必)	授業形式	実習	開講期	後期	対象	健専3年
授業の概要 保健所や市町村保健センターで扱う健康や栄養に関する事業を中心に、グループ単位で課題に取り組み、結果を報告（発表）する。									
授業の目標(到達目標) 公衆栄養学などで学んだ知識や手技を基本に、本実習ではグループ単位で課題に取り組むことを通じて、公衆栄養活動を行う際に必要な知識、技術を身に着ける。また、本実習の内容は、公衆栄養学実習Ⅱ（臨地実習）での実践活動に結びつくものである。									
授業計画及び内容									
1. 地方自治体の健康増進計画について									
2. 健康問題に関する状況判断の実際									
3. 食生活改善に関する実習①：課題の提示、企画・準備									
4. 食生活改善に関する実習②：課題に対する健康・栄養教育の実施									
5. 食生活改善に関する実習③：健康・栄養教育の評価、改善のための対応									
6. 食生活改善に関する実習④：改善を施した健康・栄養教育の実施									
7. 実習課題に関する評価のまとめ									
8. 健康・栄養活動に関する実習①：ポピュレーションアプローチの実際 ※宮城県栄養士会主催「いい日いい汗 栄養まつり」参加									
9. 健康・栄養活動に関する実習②：活動内容の振り返りと展開									
10. 公衆栄養活動に関する実習①：地域の実態把握、情報収集									
11. 公衆栄養活動に関する実習②：課題の提示、課題の確認									
12. 公衆栄養活動に関する実習③：問題点の決定、目標の確認									
13. 公衆栄養活動に関する実習④：健康事業の計画									
14. 特定健康診査・特定保健指導：管理栄養士による面談方法の実際									
15. 公衆栄養活動に関する情報のとらえ方									
事前学習		実習内容について、教員からの情報や教科書、資料、関連のある他科目の復習などを行い、実習に備えておく。							
事後学習		習得した知識や技術、教員からの助言、実習を通じて気づいたことなどを確認し、専門科目で学習した内容を交えて、理解を深める。							
履修上の注意		・本実習と関連する内容の公衆栄養学、保健栄養学、公衆衛生学、応用栄養学をはじめ、各種専門科目で学習した内容を踏まえて実習することを望む。 ・内容によっては実習時間外に作業を行うこともあるので、自主的に取り組むこと。							
成績評価の方法・基準		・グループワークでの作業状況（40%）、提出物（50%）、受講態度（10%）で成績評価を行う。 ※受講態度については、①遅刻が多い、②実習と関係ない行為を行うなどの問題がある場合、状況に応じて減点する。							
教科書		〔ウエルネス公衆栄養学〕〔前大道教子ほか〕〔医歯薬出版〕〔3,024 円〕							
参考書		〔適時紹介する〕							

授業科目		地域栄養活動演習				担当者	栗山 孝雄		
単位数	2	必・選	管栄(必)	授業形式	演習	開講期	通年	対象	健専4年
授業の概要									
①健康・栄養・食生活に関する課題より、問題点を把握し、その対策について考えさせる。 ②健康・栄養関係の活動に参加し、地域住民を対象とした健康・栄養活動を通じて、地域栄養活動の実際を学ばせる。									
授業の目標(到達目標)									
①地域が抱える健康・栄養に関する課題の対処方法、解決方法を身につける。 ②公衆栄養活動の展開に必要な知識や技術を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 地域社会における健康・栄養に関する現状と問題点の把握					16. 地域栄養に関連するマンパワー				
2. 健康問題への対応①：課題の発見					17. 民間企業による健康・栄養活動				
3. 健康問題への対応②：課題の解決					18. 地域栄養活動①：計画立案				
4. 栄養問題への対応①：課題の発見					19. 地域栄養活動②：準備				
5. 栄養問題への対応②：課題の解決					20. 地域栄養活動③：栄養教育				
6. 特定保健指導① 初回面接の進め方					21. 地域栄養活動④：まとめ				
7. 特定保健指導② 初回面接の実際					22. 諸外国の健康・栄養問題の現状と課題				
8. 公的情報の検索①：国レベル					23. 宮城県内保健所の健康・栄養活動について				
9. 公的情報の検索②：自治体レベル					24. 宮城県内市町村の健康・栄養活動について				
10. 地域栄養活動に関する情報検索					25. 仙台市の健康・栄養活動について				
11. 地域が抱える健康問題					26. 他県の保健所の健康・栄養活動について				
12. 地域が抱える栄養問題					27. 宮城県内医療機関の健康・栄養活動について				
13. 地域栄養活動の事例検索					28. 他県の医療機関の健康・栄養活動について				
14. 地域の社会資源の把握					29. 健康・栄養活動のまとめ				
15. 地域栄養活動に関する情報交換					30. 地域栄養活動の今後について				
事前学習		演習内容について、教員からの情報や教科書、資料などを参考に内容を把握しておく。							
事後学習		習得した知識や技術、教員からの助言、演習を通じて気づいたことなどを確認し、専門科目で学習した内容を交えて、理解を深める。							
履修上の注意		・授業時間以外の空き時間に演習を行うこともある。日程は事前に相談の上、決定する。 ・学外での活動への参加も演習の一環とする。貴重な経験となるので、各自が積極的に現場で学習することを望む。							
成績評価の方法・基準		・提出課題（50%）、受講態度（50%）を総合して、成績評価を行う。 ※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③演習中に演習とは関係ない行為を行うなど、問題のある者は、状況に応じて減点する。							
教科書	〔ウエルネス公衆栄養学〕〔前大道教子ほか〕〔医歯薬出版〕〔3,024 円〕								
参考書	〔適時紹介する〕								

授業科目		給食管理学				担当者	半澤 真喜子		
単位数	2	必・選	必	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専2年
授業の概要									
特定多数人に継続的に食事を提供する特定給食施設では、給食運営を計画から評価まで総合的に判断し、栄養面、安全面、経営面全般をマネジメントする能力が必要となる。本授業では給食の意義、目的と管理栄養士・栄養士の役割と給食運営における各管理について述べる。									
授業の目標(到達目標)									
・ 特定給食施設の定義、給食の目的や特徴を理解し、対象者に応じた給食の立案を習得すること。 ・ 給食を運営する上で必要な各管理業務の目的や方法、評価などについて理解すること。									
授業計画及び内容									
1. 給食の意義・目的・特定給食施設について									
2. 給食の関連法規と行政指導、給食施設における栄養士・管理栄養士の役割									
3. 経営管理の意義と目的									
4. 栄養・食事管理①対象者の把握、給与栄養目標量の設定									
5. 栄養・食事管理②食事計画									
6. 栄養・食事管理③献立作成の実際									
7. 給食の品質管理									
8. 給食の生産管理①原価、食材									
9. 給食の生産管理②大量調理と提供									
10. 給食の安全・衛生									
11. 施設・設備管理									
12. 給食の人事・事務管理									
13. 災害時対策									
14. 施設別給食管理①病院、高齢者介護保険施設、児童福祉施設									
15. 施設別給食管理②障害者福祉施設、学校給食、事業所給食、外食・中食・配食									
16. 期末試験									
事前学習		授業で指示された教科書の該当ページを熟読し、給食関係用語の理解に努めてくること。							
事後学習		2～15回の授業開始時に前回の授業の理解度を確認するためにミニテストを実施する。授業内容を復習し、知識を確実に身につけてくること。							
履修上の注意		授業で関わった給食関連法規の理解を確実にすること。							
成績評価の方法・基準		・ ミニテスト・期末試験（80％） ・ 課題提出：（時間厳守）（10％） ・ 授業態度：（遅刻、私語、途中退場、他の受講者の迷惑になる行為 等）（10％）							
教科書	〔給食経営と管理の科学〕〔理工図書〕〔3,000 円〕								
教科書	適時紹介する								

授業科目		給食経営学				担当者	半澤 真喜子		
単位数	2	必・選	管栄(必)	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専4年
授業の概要 給食に関連するビジネスの動向や、マーケティングの原理や応用、システム構築などの手法を取り入れたマネジメントを、より具体的に給食施設の経営管理のあり方を理論と事例をもとに述べる。									
授業の目標(到達目標) ・給食の栄養・食事管理を効率的、かつ効果的に継続して実施していくためのシステムおよびマネジメントについて経営管理の理念に基づき理解すること。 ・実際の給食施設の給食実務、経営管理、給食計画について理解すること。									
授業計画及び内容									
1. 特定給食施設の意義・役割・栄養管理と経営管理の関連・管理栄養士の役割									
2. 給食の経営とフードビジネス									
3. 給食の経営管理の基本									
4. 給食の人事管理									
5. 給食経営のアウトソーシング									
6. 給食におけるマーケティング情報の活用									
7. 給食における顧客情報の管理									
8. 給食のメニューの商品化計画									
9. 給食における危機管理									
10. 給食のシステム化と施設・設備									
11. 栄養・食事計画と生産管理									
12. 給食経営計画と品質管理の評価									
13. 給食経営の実際（病院給食）									
14. 給食経営の実際（学校給食、保育所給食）									
15. 給食経営の実際（高齢者福祉施設給食、事業所給食）									
16. 期末試験									
事前学習		授業で指示された教科書の該当ページを熟読し、経営用語の理解に努めてくること。							
事後学習		2～15 回の授業開始時に前回の授業の理解度を確認するためにミニテストを実施する。授業内容を復習し、知識を確実に身につけてくること。							
履修上の注意		今まで学習した給食関連法規を確実に理解してから授業に臨むこと。							
成績評価の方法・基準		ミニテスト・期末試験(90%) 受講態度（遅刻、講義中の私語、途中退出、他の受講者の迷惑になる行為等）(10%)							
教科書		[給食マネジメント論] [第一出版] [3,000 円] 2 年次購入済み [給食経営と管理の科学] [理工図書] [3,000 円] 2 年次購入済み							
参考書		給食の関連法規（授業で指示、ホームページから印刷して持参すること）							

授業科目		給食管理実習Ⅰ				担当者	半澤 真喜子		
単位数	1	必・選	必	授業形式	実習	開講期	後期	対象	健専2年
授業の概要									
・給食の運営方法、計画のたて方、栄養・食事管理、作業管理、衛生管理、品質管理、事務管理の方法や大量調理、評価までを行う。 ・学生が役割分担して自主的に実習を行うことにより、給食運営の栄養士・管理栄養士の実践力を習得する。									
授業の目標(到達目標)									
・特定給食施設における給食の運営・給食経営管理能力を身に付けること。 ・食事提供を通じて適切な栄養管理を実施するために、対象者および対象集団の栄養アセスメント結果に応じた品質の食事の計画と提供のための技術を習得すること。 ・給食運営のPDCAサイクルを理解すること。 ・給食運営や関連の資源を総合的に判断し栄養面・安全面・経済面を統合したマネジメントを理解すること。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション：実習の意義、目的、内容、日程、役割分担、給食業務の流れ、栄養管理									
2. 食事計画：対象集団の栄養アセスメント、給与栄養目標量・食品群別荷重平均成分表の作成									
3. 献立計画：栄養食事計画に基づいた献立作成									
4. 作業計画：調理行程・調理作業計画の作成									
5. 衛生管理・品質管理計画：試作、検討、各種書類作成									
6. 材料管理：食材料の購入計画書作成									
7. 食事提供サービス①：栄養士役・調理師役に役割を分担し、給食運営業務を交代で体験する。									
8. 食事提供サービス②：(栄養士役→掲示用献立表作成、アンケート用紙作成、調理指導、									
9. 食事提供サービス③：味付け決定、盛り付け指導、点検表の記録、残食・残菜調査、									
10. 食事提供サービス④：アンケート集計、材料費の算出、帳票整理などを行う)									
11. 食事提供サービス⑤：(調理師役→栄養士役の指示に従い、調理、供食サービス、後片付け、									
12. 食事提供サービス⑥：食器洗浄作業を行う。終了後、実際に調理作業従事した立場から、									
13. 食事提供サービス⑦：評価を行う)									
14. 施設・機器管理									
15. 評価・まとめ									
16. 期末試験									
事前学習		授業時配布の資料、教科書の内容、「大量調理施設衛生管理マニュアル」を完全に習得してくること。							
事後学習		実習ノートのまとめをしっかりと行い、実習内容の理解を深めること。							
履修上の注意		実習はグループで行うため、遅刻・無断欠席不可。授業計画の準備時は、グループごとに実習時間外に行なうこともあるので、必ず確認して出席すること。							
成績評価の方法・基準		大量調理マニュアル小テスト・期末試験（25%）、学習意欲及び積極的な態度（25%）、課題提出（25%）実習ノート完成度（25%）提出物は時間厳守とし、未提出の場合は評価の対象としない。							
教科書	[給食管理・経営管理実習の手引き4版] [医歯薬出版] [1,900円] [衛生管理&調理技術マニュアル] [学建書院] [1,000円] 大学オリジナル「給食管理実習ノート」（授業開始後購入）[500円]								
参考書	[給食経営と管理の科学] [理工図書] [3,000円] 2年前期購入済み 日本人の食事摂取基準（2015年版）・食品成分表 1年次購入済み								

授業科目		給食管理実習Ⅱ				担当者	半澤 真喜子		
単位数	1	必・選	管栄・栄(必)	授業形式	実習	開講期	後期	対象	健専2年
授業の概要 学内における給食経営管理実習室において、特定給食施設の給食経営管理の手順に従って学生が役割分担して自主的に実習を行う。									
授業の目標(到達目標) ・栄養士・管理栄養士として基本的な給食運営のための知識・技術を習得すること。 ・給食施設の種類の給食経営管理の特徴を理解して、食事提供を計画・実施・評価できるようになること。 ・HACCP の概念を基に調理作業の温度・時間を科学的に管理しながら調理する力を身に付けること。									
授業計画及び内容									
1. 食事計画：対象者・喫食者数の把握									
2. 食事計画：食品構成表の作成、予定献立表の作成									
3. 栄養教育計画：栄養教育媒体・アンケート調査内容計画の作成									
4. 衛生管理計画：各種帳票作成									
5. 品質管理計画：各種帳票作成									
6. 食材料の発注、計画内容の確認、計画発表 [調理供食サービス] 調理・供食計画に基づきグループごとに各管理業務、調理業務、実験調査、品質評価、情報処理と実務管理を行い、課題について検討する。									
7. 調理供食サービス①：和食									
8. 調理供食サービス②：洋食									
9. 調理供食サービス③：中華									
10. 調理供食サービス④：郷土料理									
11. 調理供食サービス⑤：弁当食									
12. 調理供食サービス⑥：行事食									
13. 調理供食サービス⑦：選択食									
14. 給食の情報処理と事務管理（災害時の給食、冷凍食品の流通）									
15. 評価・まとめ									
16. 期末試験									
事前学習		授業時の資料、教科書の内容、関係法規をすべて理解してから実習に臨むこと。							
事後学習		実習ノートのまとめをしっかりと行い、実習内容の理解を深めること。							
履修上の注意		・原則的に全出席（遅刻・無断欠席は認めない）・検便検査は決められた日時まで提出すること（未提出の場合は実習はできません）・調理時は実習専用の調理服、帽子、エプロン、シューズを着用すること・体調管理には十分留意すること。							
成績評価の方法・基準		大量調理マニュアル小テスト・期末試験（25%）、学習意欲及び積極的な態度（25%）、課題提出（25%）実習ノート完成度（25%）提出物は時間厳守とし、未提出の場合は評価の対象としない。授業態度不良、課題及びノート未提出、期末試験欠席の場合、単位は認めない。							
教科書		〔大量調理〕〔学建書院〕〔2,700 円〕							
参考書		大量調理施設衛生管理マニュアル、授業前に実習ノート・プリントを配布する							

授業科目		健康栄養学総合演習Ⅰ				担当者	栗山 孝雄・半澤 真喜子・福岡 敦子		
単位数	1	必・選	管栄・栄 (必)	授業形式	演習	開講期	前期	対象	健専3年
授業の概要									
・臨地実習や校外実習の目的や目標、実習にあたっての心構えを教授する。 ・実習施設の栄養士・管理栄養士による講義では、各施設の概略や実習に必要な知識などを説明する。 ・実習後の報告会では、実習の内容や課題などの報告を通じて、実習内容を整理させ、給食の実際と管理栄養士・栄養士の職務について確認させる。									
授業の目標(到達目標)									
・本科目は、給食管理臨地実習Ⅰ・Ⅱの事前学習、事後学習の役割も担う。授業を通じて、実習に必要な知識や技術を身につける。 ・事前学習では、各実習の実習目的・目標と関連法規を理解するとともに、施設の概略や知識の整理、研究課題の検討を行う。 ・事後学習では、学内で学習したことと、臨地実習で実際に経験したことを結びつけ、管理栄養士・栄養士となるために必要な専門的知識と技術を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 臨地実習と校外実習の目的・目標・実習内容・準備・心得・態度（栗山、半澤、福岡）									
2. 会話表現①：話し方の基本、あいさつの基本、敬語の使い方、自己紹介の仕方（福岡）									
3. 会話表現②：社会人としての話し方、栄養指導での話し方、電話のマナー（福岡）									
4. 文章表現①：文章作成上の留意事項点、文章の基本的な書き方（栗山）									
5. 文章表現②：実習日誌の書き方、礼状の書き方、レポートの書き方、給食だよりの書き方（栗山）									
6. 施設事例①：学校給食の実際と栄養士の職務（学外講師）（栗山、半澤、福岡）									
7. 施設事例②：陸上自衛隊給食の実際と栄養士の職務（半澤）									
8. 施設事例③：高齢者施設給食の実際と栄養士の職務（学外講師）（栗山、半澤、福岡）									
9. 施設事例④：児童福祉施設給食の実際と栄養士の職務（学外講師）（栗山、半澤、福岡、）									
10. 施設事例⑤：事業所給食の実際と栄養士の職務（学外講師）（栗山、半澤、福岡）									
11. 施設事例⑥：委託給食の実際と栄養士の職務（学外講師）（栗山、半澤、福岡）									
12. 実習施設の概要、実習内容の確認（栗山、半澤、福岡）									
13. 実習のねらいや課題、疑問等の事前準備（栗山、半澤、福岡）									
14. 実習のまとめと資料作成（栗山、半澤、福岡）									
15. 報告会準備（半澤）									
16. 試験									
事前学習		授業内容について、教科書や教員からの情報をもとに予習を行う。							
事後学習		学習した内容を施設ごとに整理し、まとめる。							
履修上の注意		臨地実習の事前準備、事後のまとめに重要な演習であるため、真剣に取り組むこと。遅刻・無断欠席不可。							
成績評価の方法・基準		ミニテスト・試験 30%、出欠状況・受講態度 40%、提出物（決められた日時まで必ず提出すること。未提出の場合は、評価の対象としない。）30%などにより総合的に評価する。							
教科書	〔管理栄養士・栄養士になるための 国語表現〕〔萌文書林〕〔1,944 円〕								
参考書	〔給食経営と管理の科学〕〔理工図書〕〔3,240 円〕〔給食関連法規〕								

授業科目		健康栄養学総合演習Ⅱ			担当者		栗山孝雄・半澤真喜子・福岡敦子 ・伊澤華子・川俣幸一			
単位数	1	必・選	管栄（必）	授業形式	演習	開講期	後期	対象	健専3年	
授業の概要										
2人または3人組で実施し、お互いを対象者、教育者役となり、実際に健康面や栄養面に関する測定、調査などを行う。お互いに栄養評価や管理を行いながら栄養士として必要な能力・技術を獲得することを目指す。 集中講義のため、1～4、5～8、9～12、13～15回と連続した演習となる。										
授業の目標(到達目標)										
健康面や栄養面に関する測定や調査などを通じて、栄養士として必要とされる栄養評価や管理が行うことができる総合的な能力を身につける。										
授業計画及び内容										
1. ガイダンス：演習内容の説明（全教員）										
2. 健康面や栄養面に関する調査実践①食事調査・身体計測（全教員）										
3. 健康面や栄養面に関する調査実践②食事調査・身体計測（全教員）										
4. 健康面や栄養面に関する調査実践③食事調査・身体計測（全教員）										
5. 健康面や栄養面に関する調査実践④調査結果の判定評価、介入プランの検討（全教員）										
6. 健康面や栄養面に関する調査実践⑤調査結果の判定評価、介入プランの検討（全教員）										
7. 健康面や栄養面に関する調査実践⑥対象者への教育介入・教育プラン確認（全教員）										
8. 健康面や栄養面に関する調査実践⑦対象者への教育介入・教育プラン確認（全教員）										
9. 健康面や栄養面に関する調査実践⑧対象者への教育介入・媒体作成（全教員）										
10. 健康面や栄養面に関する調査実践⑨対象者への教育介入・媒体作成（全教員）										
11. 健康面や栄養面に関する調査実践⑩対象者への教育介入・行動プラン提案（全教員）										
12. 健康面や栄養面に関する調査実践⑪対象者への教育介入・行動プラン提案（全教員）										
13. 健康面や栄養面に関する調査実践⑫対象者への教育介入・行動プラン実施状況の確認（全教員）										
14. 健康面や栄養面に関する調査実践⑬対象者への教育介入・行動プラン実施状況の確認（全教員）										
15. まとめ、発表（全教員）										
事前学習		演習内容について、教員からの情報や教科書、資料などを参考に内容を把握しておく。								
事後学習		収集した情報、習得した知識や技術、教員からの助言、演習を通じて気づいたことなどを確認し、専門科目で学習した内容を交えて、理解を深める。								
履修上の注意		お互いが対象者、教育者役となるため、欠席不可。守秘義務を守ること。 提出物は、決められた日時まで提出すること。								
成績評価の方法・基準		授業態度 20%、プレゼンテーション 30%、提出物 50%等により総合的に評価する。								
教科書		授業内に指示する。								
参考書		授業内に適宜紹介する。								

授業科目		給食管理臨地実習Ⅰ（給食の運営 校外実習）			担当者	半澤 真喜子			
単位数	1	必・選	管栄・栄（必）	授業形式	実習	開講期	前期	対象	健専3年
授業の概要 ・実習施設の栄養士・管理栄養士と事前の打ち合わせを行い協議の上、可能な範囲で栄養士・管理栄養士について給食経営管理に関する実習を行う。 ・自主研究を設定し、問題意識を持ち研究的態度で実習を行う。 ・課題に取り組み実習日誌に成果をまとめて記入し、提出する。									
授業の目標(到達目標) ・実践活動の場である特定給食施設において、課題発見、問題解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の統合を図ること。 ・栄養士・管理栄養士として具備すべき知識および技能を修得すること。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス 2. 実習施設：下記の特定給食施設のうちから1か所を選択する。 ・学校・児童福祉施設・障害者福祉施設・給食センター・事業所 3. 実習 事前訪問：事前に施設を訪問し、実習施設の概要を知る 実習内容：給食全般のマネジメントの理解と特定の業務を深く探求する。喫食者訪問、調理作業の分析、食材料の重点管理、栄養士業務の分析、衛生管理、従業員への衛生教育、食事のオーダーリングシステム、経営分析等を通して課題を発見し、問題解決策を検討する。なお具体的な内容は各施設の実習計画に沿って実施する。 4. 実習のまとめと自己評価および報告：日々のねらいや学んだこと、課題、疑問などを実習記録に記入し、考察するとともに評価表で自己評価する。									
事前学習		・関連分野の教科書および臨地実習マニュアルを熟読すること。 ・実習施設の特徴を把握したうえで、実習施設の栄養士・管理栄養士の指導のもと、十分な準備を行うこと。							
事後学習		・実習を振り返り、実習で学んだことを通し、これからの課題をまとめること。							
履修上の注意		・給食管理学、給食管理実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。 ・目的意識をもって実習に臨むこと。 ・自ら相手に伝わる挨拶・返事ができること。 ・栄養士・管理栄養士の免許取得のための必須科目である。定められた時間数（45時間）を実習しなければ単位は取れない。実習期間中は遅刻、早退、無断欠席は不可。 ・臨地栄養学演習は校外実習・臨地実習の事前・事後指導であるので必ず出席すること。							
成績評価の方法・基準		・実習先からの評価（30%）、実習記録・報告会の内容（40%）、実習態度（30%）により総合的に評価する。 ・実習態度には、事前・事後の教育も含む。 ・実習課題により、授業外に行うこともあるので、自主的に取り組むこと。							
教科書		[管理栄養士、栄養士になるための国語表現] [萌文書林] [1,890円]							
参考書		[給食経営と管理の科学] [理工図書] [3,000円] 2年次購入済み 大量調理施設衛生管理マニュアル、健康増進法 大学オリジナル [臨地実習マニュアル]（臨地栄養学演習授業時に配布済み）							

授業科目		給食管理臨地実習Ⅱ				担当者	半澤 真喜子		
単位数	1	必・選	管栄（選択必）	授業形式	実習	開講期	後期	対象	健専3年
授業の概要									
・実習施設の栄養士・管理栄養士と事前の打ち合わせを行い協議の上、可能な範囲で栄養士・管理栄養士について給食経営管理に関する実習を行う。 ・自主研究を設定し、問題意識を持ち研究的態度で実習を行う。 ・課題に取り組み実習日誌に成果をまとめて記入し、提出する									
授業の目標(到達目標)									
・実践活動の場である特定給食施設において、課題発見、問題解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の統合を図ること。 ・管理栄養士として具備すべき知識および技能を修得すること。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. 実習施設：下記の特定制食施設のうちから1か所を選択する。 ・陸上自衛隊・高齢者施設・病院・介護保険施設・院外調理施設									
3. 実習									
事前訪問：事前に施設を訪問し、実習施設の概要を知る									
実習内容：給食全般のマネジメントの理解と特定の業務を深く探求する。喫食者訪問、調理作業の分析、食材料の重点管理、栄養士業務の分析、衛生管理、従業員への衛生教育、食事のオーダーリングシステム、経営分析等を通して課題を発見し、問題解決策を検討する。なお具体的な内容は各施設の実習計画に沿って実施する。									
4. 実習のまとめと自己評価および報告：日々のねらいや学んだこと、課題、疑問などを実習記録に記入し、考察するとともに評価表で自己評価する。									
事前学習		・関連分野の教科書および臨地実習マニュアルを熟読すること。 ・実習施設の特徴を把握したうえで、実習施設の管理栄養士の指導のもと、十分な準備を行うこと。							
事後学習		実習を振り返り、実習で学んだことを通し、これからの課題をまとめること。							
履修上の注意		・給食管理学、給食管理実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。 ・目的意識をもって実習に臨むこと。 ・自ら相手に伝わる挨拶・返事ができること。 ・栄養士・管理栄養士の免許取得のための必須科目である。定められた時間数（45時間）を実習しなければ単位は取れない。実習期間中は遅刻、早退、無断欠席は不可。 ・臨地栄養学演習は臨地実習の事前・事後指導であるので必ず出席すること。							
成績評価の方法・基準		・実習先からの評価（30%）、実習記録・報告会の内容・報告（40%）、実習態度（30%）により総合的に評価する。 ・実習態度には、事前・事後の教育も含む。 ・実習課題により、授業外に行うこともあるので、自主的に取り組むこと。							
教科書		[管理栄養士、栄養士になるための国語表現] [萌文書林] [1,890 円]							
参考書		[給食経営と管理の科学] [理工図書] [3,000 円] 2年次購入済み 大量調理施設衛生管理マニュアル、健康増進法、 大学オリジナル「臨地実習マニュアル」臨地栄養学演習授業時に配布済み							

授業科目		臨床栄養学実習Ⅱ（臨地実習）				担当者	福岡 敦子		
単位数	1	必・選	管栄(必)	授業形式	実習	開講期	通年	対象	健専4年
授業の概要									
事前教育において、実習に関する準備や学習を行い医療施設（施設によって実習時期は異なる）にて臨地実習を経験させる。実習終了後に事後教育として実習で学んだことをまとめさせ、報告会の準備を行わせる。									
授業の目標(到達目標)									
学内で臨床栄養学、臨床栄養学指導論、臨床栄養学実習などで学んだ知識・技術を生かし、実際の臨床の場における一端の実務体験により、将来の医療人として必要な知識や技能を身に着ける。									
授業計画及び内容									
1.ガイダンス									
2. 実習配属先との事前の打ち合わせ									
3. 実習：病院または老人保健施設で行う									
・施設における食事療法、運営管理業務について									
・栄養管理全般について									
・傷病者の栄養指導・教育について									
・チーム医療における管理栄養士の役割や活動について									
・衛生管理、危機管理の実際について									
4.実習後のまとめと報告									
事前学習		・実習施設の特徴を調べておく ・実習先からの事前課題に取り組む							
事後学習		・実習を振り返り、実習で学んだこと、これからの課題をまとめる。							
履修上の注意		・臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学指導論Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること ・家政特別講義Ⅲを履修すること ・実習先では施設スタッフとして、施設職員や患者・入居者に接すること。							
成績評価の方法・基準		実習態度（50%）、提出物の内容（30%）、実習報告（20%）などを総合的に評価する。 ※実習態度とは欠席・遅刻・早退の状況、巡回担当者の報告、配属先の担当者からの報告を指す。							
教科書	〔管理栄養士、栄養士になるための国語表現〕〔萌文書林〕〔1,890円〕								
参考書	〔適時紹介する〕								

授業科目		公衆栄養学実習Ⅱ（臨地実習）				担当者	栗山 孝雄		
単位数	1	必・選	管栄(必)	授業形式	実習	開講期	通年	対象	健専4年
授業の概要 保健所や市町村保健センターにおいて、実習施設の行政栄養士やスタッフが、地域住民の適正な栄養管理と健康実現を目指すための政策や手法を教授する。									
授業の目標(到達目標) ①保健所や市町村保健センターの行政栄養士の役割について、理解を深める。 ②地域住民への栄養や健康に関する情報発信の方法を修得する。 ③公衆栄養活動を行う上で必要な知識や技能を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. 実習配属先との事前の打合せ									
3. 実習：保健所または市町村で行う									
【1 保健所で実習を行う場合】									
(1) 保健所スタッフによる講話：保健所の業務、役割について									
(2) 保健所栄養士による講話：保健所栄養士の業務、役割について									
(3) 保健所活動の実際：保健所栄養士に係る広域的・専門的な業務の体験、理解									
【2 市町村で実習を行う場合】									
(1) 市町村スタッフによる講話：市町村の業務、役割について									
(2) 市町村栄養士による講話：市町村栄養士の業務、役割について									
(3) 市町村活動の実際：市町村栄養士に係る地域的・一般的な業務の体験、理解									
4. 実習後のまとめと報告									
事前学習		・実習施設の特徴、施設のある自治体の健康に関する政策や問題を調べておく。 ・実習先からの事前課題に取り組む。							
事後学習		・実習を振り返り、実習で学んだこと、これからの課題をまとめる。							
履修上の注意		① 公衆栄養学、公衆栄養学実習Ⅰの単位を取得していること。 ② 家政特別講義Ⅳを履修すること。 ③ 実習の配属先ならびに実習の時期は、他の実習の実施時期、履修者の学習状況を参考に、担当教員が決定する。 ④ 日常生活での態度や学習態度が指導しても良くならない場合は、実習を取り止めることもあるので、十分注意すること。 ⑤ 実習先では学生ではなく、施設のスタッフとして、施設職員や地域住民に接することになるので、その点を自覚すること。							
成績評価の方法・基準		実習態度（50%）、提出物の内容（30%）、実習報告（20%）などを総合的に評価する。 ※実習態度とは遅刻・早退の状況、巡回担当者の報告、配属先の担当者からの報告などを指す。							
教科書		〔ウエルネス公衆栄養学〕〔前大道教子ほか〕〔医歯薬出版〕〔3,024 円〕 〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔田中貞一郎ほか〕〔萌文書林〕〔1,944 円〕							
参考書		適時紹介する							

授業科目	被服学					担当者	小野寺 美和		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専1年
授業の概要 我々にとって日常生活で着用する衣服は,最も身近な環境であり,人間の「第二の皮膚」とも言われている。衣服の着心地や快適性は,着衣したときにはじめて評価される。環境に配慮した望ましい衣生活の在り方について説明する。									
授業の目標(到達目標) 衣服の構造原理を学び,衣服の機能・素材・管理・消費などについて理解する。 本授業で習得した知識について実践する力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション・・・人はなぜ衣服を着用するのか									
2. 衣服と生活の関係・・・被服の起源,着装の形態									
3. 衣服の素材・・・天然繊維									
4. 衣服の素材・・・化学繊維									
5. 衣服の素材・・・新素材の性能・繊維の加工技術									
6. 着衣する人体①・・・着心地と快適性									
7. 着衣する人体②・・・衣服による皮膚障害と安全性									
8. 衣服の管理①・・・洗濯と洗剤・漂白剤									
9. 衣服の管理②・・・衣類の整理・保管									
10. 衣服と消費①・・・アパレル製品の選択と表示									
11. 衣服と消費②・・・衣服製造・消費行動の実態									
12. 衣服と環境①・・・衣生活の現状と環境保全									
13. 衣服と環境②・・・ユニバーサルデザイン・省エネ・災害への対策									
14. 被服の生産・・・衣服のリユースとリサイクル									
15. 最新の技術・・・衣服における最先端の技術の紹介									
事前学習	予め教科書を読んでおくこと。								
事後学習	学んだことを日常生活の中で生かし実践する。								
履修上の注意	講義には教科書を使用する他、適宜プリントを配布する。 理解を深めるため,レポートを課す。								
成績評価の方法・基準	小テスト（60％）レポート（20％）ノート提出（20％） （必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としない。）								
教科書	〔消費者の視点からの衣生活概論〕〔井上書院〕〔1,800 円〕								
参考書	使用せず								

授業科目	被服造形実習Ⅰ					担当者	藤川 幸子		
単位数	1	必・選	選	授業形式	実習	開講期	前期	対象	健専2年
授業の概要 平面による作図、縫製の実習を通して衣服製作をし、副素材の扱い方を教授し、立体的に作り出す、総合的な知識と縫製技術の扱い方を習得させる。									
授業の目標(目標) 衣服を製作する上で、技術の習得を目的とし、立体的に作り出す技術を深く理解し、製作出来る基礎を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ブラウスアイテム（講義）ブラウスパターンの書き方									
2. 原型のダーツ操作により展開									
3. パターン作図 前身頃・後身頃作図									
4. 〃 袖作図 布地の見積もり説明									
5. 裁断 地直し・パターンの配列・裁断(裁ち合わせ)・縫い代の付け方(実習と共に講義)									
6. 付属の説明及び扱い方 接着芯の扱い									
7. 印付き説明・組み立て・補正									
8. 縫製工程 ダーツを縫う・ポケット作る・(ポケットを付ける)肩縫い合わせ									
9. 衿作る									
10. 衿付け									
11. 左・右・脇を縫い合わせ									
12. 裾上げ									
13. 袖作り・袖付け									
14. ボタンホール部分縫い ボタンホール・ボタン付け									
15. 仕上げ、提出									
事前学習	日頃から服装に関する身近な作品に関心を持つ。								
事後学習	配布された資料を理解し、次回の授業に役立つように目を通しておく。								
履修上の注意	積極的に質問し、疑問点は解決するよう心がける。								
成績評価の方法・基準	課題作品（70％） 日常の課題に対する取り組み方（30％）								
教科書	〔文化ファッション大系改訂版・服飾造形講座③ブラウス・ワンピース〕 〔文化服装学院編〕〔学校法人文化学園 文化出版局〕〔1,362 円〕								
参考書	プリント参考								

授業科目		被服造形実習Ⅱ				担当者	藤川 幸子		
単位数	1	必・選	選	授業形式	実習	開講期	後期	対象	健専2年
授業の概要									
被服製作をする上で、副素材（裏地）の扱い方を教授する。また、パンツとスカートの作図の違いを学び、割り出し方、作図法が異なる学習させる。									
授業の目標(到達目標)									
縫製の実習と被服に関する総合的な知識向上を目的とする。より良い製作を目的とし、自ら正しい衣服を選ぶことが出来るようにする。									
授業計画及び内容									
1. スカート		各自パターン作図・用布の見積もり方							
2. 裁断		地直し・パターンの配列・縫い代の説明							
3. 組立		印付け・組立・補正							
4. //		仮縫い・試着・（補正）							
5. 本縫い		ダーツ・パーツの縫い合わせ・ロックミシン							
6.		右脇ミシン・ファスナー付け・左脇ミシン・裾上げ							
7. 裏地の裁断		地直し・パターンの配列・縫い代の説明・印付け							
8.		ダーツ・パーツの縫い合わせる、両脇ロックミシン・裾上げ							
9.		表地・裏地を合わせる、ファスナー部分の始末							
10.		ベルト付け(ウェスト。裾の始末)							
11. 仕上げ、提出		スナップ(板金製ホック)付け							
12.		パンツのパターン作図の説明							
13. パンツの作図		パンツのパターンの引き方講義							
14.		前身頃パターン作図							
15.		後ろ身頃パターン作図・ベルトの作図							
事前学習		日頃から服装に関する身近な作品に関心を持つ。							
事後学習		配布された資料を理解し、次回の授業に役立つように目を通しておく。							
履修上の注意		積極的に質問し、疑問点は解決するよう心がける。							
成績評価の方法・基準		課題作品（70%） 日常の課題に対する取り組み方（30%）							
教科書	〔文化ファッション大系改訂版・服飾造形講座②スカート・パンツ〕 〔文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔1,362 円〕								
参考書	プリント参考								

授業科目		住居学（製図を含む）				担当者	永井 康雄		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専3年
授業の概要									
住空間の設計方法を理解するとともに、住空間のデザインを通して生活行為を具体的に想定し、経年変化のイメージと人体的感覚を養うことを目的とする。特に住空間のデザイン手法、空間特性、インテリア機能という観点から住空間の在り方を探る。									
授業の目標(到達目標)									
住居は「生活の容器」と言われるように、人間生活の中で最も基本的な役目を果たしている。しかしながら住居は時代とともに、また風土・生活様式・地方性などの文化的要因からも大きな影響を受けながら、絶えず変化している。これらの観点から「住居」「人が住まう」とは何かを考え、自らの住宅を設計・提案する。									
授業計画及び内容									
1. 日本の住まいの特徴									
2. 間取り									
3. 居 間									
4. 台 所									
5. 個 室									
6. 子どもと高齢者と住まい									
7. 住宅の選択（戸建・集合住宅）									
8. 図面による表現方法の習得									
9. 平面計画の検討（必要な室と広さ）									
10. 平面設計の検討（室の配置と動線計画）									
11. 断面計画の検討									
12. 立面計画の検討									
13. 製図（平面図、配置図）									
14. 製図（立体図）									
15. 製図（作品提出）									
事前学習		建築とはどのような様にして成り立っているのかを意識しながら、日々建築を観察する。建築雑誌などを見て、建築への意識を高めること。							
事後学習		毎回の授業のテーマについて、各自で図面や模型の制作を通し、建築空間を練り上げる作業をすすめる。							
履修上の注意		後半の設計・製図では、毎回各自の設計案を持参すること。							
成績評価の方法・基準		事前・事後学習を含む授業姿勢 30%、提出課題 70%							
教科書	毎時間、資料を配布する								
参考書	特になし								

授業科目	保育学（実習及び家庭看護を含む）				担当者	鈴木 行子			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専3年
授業の概要 子どもの心身の発達や生活習慣など成長の様子や、子どもの発達についての基本的知識を理解する。また、子どもを取り巻く保育の現状と、今日的な課題の把握、関連する法律等を知り、子どもの成長発達と家庭や社会の役割について理解させる。									
授業の目標(到達目標) 子どもの心身の発達や生活、現代の子どもや家庭を取り巻く状況、子どもに関する法律や保育の現状などを通して、保育とは何かを理解することを目標とする。									
授業計画及び内容 1. ガイダンス：オリエンテーション・授業の目的とねらい・授業計画 2. 保育とは①：保育の意義とその思想 3. 〃 ②：親になるとは・保育について 4. 子どもの発達と生活①：乳幼児期の子どもの身体の発達 5. 〃 ②：幼児期の子どものことばや社会性等こころの発達 6. 〃 ③：子どもの遊びと発達の関わり 7. 〃 ④：子どもの健康管理と事故防止及び家庭看護 8. 子どもの成長と保育環境①：子どもの成長と家庭・社会の関わり 9. 〃 ②：子どもの人権と福祉 10. 子どもの人権と福祉：児童福祉に関わる法律・子どもの権利条約等 11. 保育の展望：これからの保育・保育の歴史と現代の家庭における育児等 12. 課題発表：課題発表会①「各自のテーマ」に基づいた発表 13. 〃 ： 〃 ② 〃 14. 〃 ： 〃 ③ 〃 15. 「地域子育て支援センター」の見学・体験：子どもの活動観察、子どもとのふれあい									
事前学習	講義に関連する資料となり得るもの等（ニュース、新聞等 他）の収集に心がけること。								
事後学習	毎授業後に課題を出題するので、テーマについて関連する資料などを調べたりしながら自分の考えをまとめ、提出すること。								
履修上の注意	受講は自主的・積極的・意欲的に。 さらに提出物の期限厳守を重視する。								
成績評価の方法・基準	事前・事後学習を含む授業姿勢・レポート・提出物等（30%） 課題発表のレポート提出・発表内容及び態度（70%）								
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	なし								

授業科目	家庭電気・機械					担当者	草野 清信		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専1年
授業の概要 日常生活では多種多様な家庭機器が利用されている。これらの機械のしくみを知るとともに合理的、創造的な生活態度を身に付けることが現代人にとって不可欠な条件となっている。本講義では家庭機械の理解に必要な機械工学と、電気工学の基礎的、一般的事項を学ぶ。									
授業の目標(到達目標) 現代家庭生活を家庭機械の分野から捉える。これら家庭機械を適切に導入して、安全かつ効率的に運転し、正しく保守出来ることを目標とする。そのために、機械の原理・構造・動作についての基本的知識を修得して、簡単な修理・改良も行えるようにする。									
授業計画及び内容									
1. エネルギー：力と機械エネルギー									
2. 機械エネルギーと熱エネルギー：熱の仕事当量									
3. 電気エネルギー：オームの法則、電力、電力量									
4. 電気エネルギー：発生と輸送、直流と交流トランス									
5. 電気エネルギーの分配：低圧配電と屋内配電									
6. 安全な電気の取扱い：感電、漏電、ブレーカーと漏電ブレーカー									
7. 身近な家庭電気機器：アイロン、炊飯器、掃除機、電気洗濯機									
8. 身近な家庭電気機器：冷蔵庫、電磁調理器、電子レンジ									
9. 種々の計測器：電流計、分流器と倍率器、電圧計									
10. 種々の計測器：回路計、デジタルマルチメーター、電力計									
11. スイッチ回路：三路スイッチと四路スイッチ、階段スイッチ、極性切り替え回路、正転・反転回路									
12. 機械要素とその働き：機械要素と機構について									
13. 機械要素とその働き：ねじの規格について									
14. エネルギー問題：化石燃料と地球環境、未来社会である水素社会について									
15. まとめの講義									
16. 試験									
事前学習	次回の授業プリントを配布するので、学習して授業に臨むこと。								
事後学習	各回の小テスト結果と授業プリントを突き合わせて復習すること。								
履修上の注意	各回小テスト実施する。								
成績評価の方法・基準	期末試験（60%）、小テスト（20%）、事前・事後学習を含む授業姿勢（20%）								
教科書	授業前にプリントを配布する								
参考書	なし								

授業科目		情報処理 I				担当者	鶴巻 史子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	演習	開講期	前期	対象	健専3年
授業の概要									
Office ソフト（Word, Excel, PowerPoint）とグラフィックソフト（Photoshop, Illustrator）の基礎的な使用方法と一般的な情報処理技術について指導する。									
授業の目標(到達目標)									
Office ソフト（Word, Excel, PowerPoint）とグラフィックソフト（Photoshop, Illustrator）を用いて、デジタルデータを活用するための基礎的な情報処理技術を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. Word の基本操作と原理									
3. Word による文書作成									
4. Excel の基本操作と原理									
5. Excel によるデータ処理									
6. PowerPoint の基本操作と原理									
7. PowerPoint によるスライド作成									
8. プレゼンテーション									
9. Photoshop の基本操作と原理									
10. Photoshop による画像処理、編集、加工									
11. Photoshop による制作（課題 1）									
12. Illustrator の基本操作と原理									
13. Illustrator による画像処理、テキスト、図形									
14. Illustrator による制作（課題 2）									
15. プレゼンテーション、講評									
事前学習		常日頃より Office、グラフィックソフトに触れる機会を持つこと。							
事後学習		課題、講義ノート等の復習、まとめ。							
履修上の注意		制作データは USB メモリ等に保存し持参すること。なお、受講人数等の状況によりシラバスの内容を変更することがある。							
成績評価の方法・基準		課題制作 70%、出席を含む平常点（授業態度、取り組みの姿勢など） 30%							
教科書	適宜指示する								
参考書	適宜指示する								

授業科目		消費生活論				担当者	舩谷 謙二		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専2年
授業の概要									
経済活動の変化とともに消費生活は大きく変容してきたが、安全・安心でゆたかな消費生活を脅かす消費者問題もまた様々な様相を呈してきた。この講義では消費者問題の歴史の変遷に留意しつつ、消費者・行政・事業者それぞれの対応の理念と現実とを教授する。									
授業の目標(到達目標)									
(1) 消費生活の原理を理解できる。									
(2) 自分自身の消費生活を顧みて、その中で具体的な課題を見つけ出し、その課題を客観的に把握できる。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス									
2. 消費生活論の範囲と方法（概要）									
3. 経済学における消費論の位置（経済秩序と経済問題）									
4. 経済学における消費者の位置（消費者概念の理論と現実）									
5. 消費者問題の変遷（1960年代～1980年代）									
6. 消費者問題の変遷（1990年代～2000年代）									
7. 消費者問題と消費者政策（理念の変容）									
8. 消費者問題と消費者政策（消費者行政組織）									
9. 消費者政策の展開（消費者基本法・消費者契約法・被害救済）									
10. 企業の消費者対応（コンプライアンス経営）									
11. 企業の消費者対応（企業の社会的責任）									
12. 消費者教育（消費者の権利・環境問題）									
13. 消費生活情報（広告・宣伝）									
14. 最近の消費者問題（事例研究）									
15. まとめ									
事前学習		テレビや新聞等で経済問題や消費者問題に関するニュースを継続的にチェックしておくこと。							
事後学習		授業で学習した事項や用語について、事典（辞典）等で確認し整理しておくこと。							
履修上の注意		特になし。							
成績評価の方法・基準		授業中の小テスト（75％）提出課題（25％）で評価します。							
教科書	『消費生活論』（社）日本衣料管理協会（1,600円）								
参考書	適宜指示する。								

授業科目		学校栄養指導論				担当者	伊澤 華子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専3年
授業の概要 栄養教諭としての対象者に合わせた指導を行うための、より広い知識と教養を実際に指導を行いながら学んでもらう。小学生、中学生の発達段階を踏まえた上での教材づくりや各教科との食に関する指導の関わり方を考え、実践する方法を解説する。									
授業の目標(到達目標) 栄養教諭の役割や食育について理解する。指導案について既存の指導案から学び、実際に作成、指導を実施し、食育の授業ができる力を身につける。栄養だよりの作成、指導後の発表、レポート作成によって学んだことを確認する。									
授業計画及び内容									
1. 栄養教諭の配置・身分・職務 学校給食の教育的な意義と役割 学校組織と栄養教諭									
2. 食に関する指導の展開 1 既存の指導案を基に指導を行おう 発表準備、シラバスの検討									
3. 食に関する指導の展開 1 既存の指導案を基に指導を行おう 発表準備、教育媒体の作成・練習									
4. 食に関する指導の展開 1 発表・見学 グループ①									
5. 食に関する指導の展開 1 発表・見学 グループ②									
6. 食に関する指導の展開 1 発表・見学 グループ③									
7. 食に関する指導の展開 2 指導案を考え指導を行おう シラバス検討、練習など									
8. 食に関する指導の展開 2 発表・見学 グループ①									
9. 食に関する指導の展開 2 発表・見学 グループ②									
10. 食に関する指導の展開 2 発表・見学 グループ③									
11. 食に関する指導の展開 3 指導案を考え指導を行おう シラバス検討、練習など									
12. 食に関する指導の展開 3 発表・見学 ソロ①									
13. 食に関する指導の展開 3 発表・見学 ソロ②									
14. 食に関する指導の展開 3 発表・見学 ソロ③									
15. 給食だよりの発表 まとめ									
事前学習		テキストをしっかりと読んでくること。必要に応じて小学校の学習指導要領解説も読んでくること。発表に向けて、各自準備、練習をすること。							
事後学習		発表・見学後は改善点をまとめておき、学外実習で生かせるように準備すること。							
履修上の注意		栄養教諭免許取得希望者は必ず受講すること。来年度の栄養教育実習に向けて、発表や模擬授業など実践を主体とした授業とする。受講人数によって授業計画が変更される場合がある。							
成績評価の方法・基準		授業態度 40%、レポートなど 60% 模擬授業の未実施、未提出レポートがある場合は評価しないことがある。							
教科書		〔栄養教育論Ⅱ実践研究〕〔金田雅代〕〔建帛社〕〔2,592 円〕 〔食に関する指導の手引〕〔東山書房〕〔1,296 円〕 〔小学校学習指導要領〕〔東京書籍〕〔245 円〕							
参考書		授業内に適宜紹介							

授業科目		学校食育概論				担当者	大槻 友子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専3年
授業の概要									
栄養教諭には、国民的課題である食育の推進が求められている。児童・生徒の食に関する指導をどのように進めるかについて、食に関する現代的課題及び具体的な指導の展開を中心に解説する。									
授業の目標(到達目標)									
栄養教諭として、学校の食に関する指導の基礎的事項を習得すると共に、教育実習に必要な指導の実践力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス 食に関する現代的課題									
2. 食育基本法・食育推進計画と栄養教諭の役割									
3. 学校における食育推進の必要性									
4. 食育推進と学校・家庭・地域の連携									
5. 食に関する指導の目標・考え方									
6. 学校給食を活用した食育の推進									
7. 学校給食の役割と給食の時間における食に関する指導									
8. 食に関する指導の全体計画・年間指導計画									
9. 各教科等における食に関する指導の展開									
10. 小学校特別活動における食に関する指導の展開									
11. 中学校特別活動における食に関する指導の展開									
12. 体育・保健体育における食に関する指導の展開									
13. 家庭・技術家庭における食に関する指導の展開									
14. 授業展開の留意点									
15. 個別的な食に関する相談指導・まとめの講義									
事前学習		学校給食や児童生徒の食に関する情報を収集する。							
事後学習		栄養教諭として必要な知識を他科目と関連させるようにする。							
履修上の注意		講義記録ノートを準備し、配布プリントは整理しファイルする。							
成績評価の方法・基準		受講態度、授業への参加状況30% レポート等70%							
教科書	〔食に関する指導の手引き(第一次改訂版)〕〔文部科学省〕〔東山書房〕〔1,200円〕								
参考書	なし								

授業科目		セミナーⅠ				担当者	健康栄養学専攻教員 6 名		
単位数	1	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専 3 年
授業の概要									
管理栄養士国家試験の問題を解きながら、国家試験に向けて修得しておかなければならない事柄を中心に講義を行う。出題範囲の理解、頻出事項を理解できるようにする。									
授業の目標(到達目標)									
管理栄養士の国家試験の問題を解きながら、国家試験受験に向けて必要な知識を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 社会・環境と健康（担当：土井・栗山）									
2. 社会・環境と健康（担当：土井・栗山）									
3. 応用栄養学（担当：川俣）									
4. 応用栄養学（担当：川俣）									
5. 応用栄養学（担当：川俣）									
6. 臨床栄養学（担当：福岡）									
7. 臨床栄養学（担当：福岡）									
8. 臨床栄養学（担当：福岡）									
9. 公衆栄養学（担当：栗山）									
10. 公衆栄養学（担当：栗山）									
11. 公衆栄養学（担当：栗山）									
12. 給食経営管理論（担当：半澤）									
13. 給食経営健康論（担当：半澤）									
14. 給食経営管理論（担当：半澤）									
15. ミニテスト・ミニテスト返却とガイダンス（担当：伊澤）									
事前学習		該当科目受講前に、配布された問題集の問題を解いてくること。事前学習のチェックも行う。							
事後学習		解説をもとに、テキストを見ながら復習し、知識をまとめておくこと。2 月の模擬試験に向けて勉強を行うこと。							
履修上の注意		管理栄養士国家試験受験希望者は履修すること。遅刻、欠席をしない。各教員から使用するテキストについて指示が出るので注意すること。2 月に模擬試験を行うので参加すること。							
成績評価の方法・基準		平常点 80%（平常点は、感想用紙の提出および問題集の進行度合いなどを総合的に判断する。）と模擬試験 120%の結果で評価する。							
教科書		〔問題集 2017 年版〕〔大学作成〕 〔クエスチョンバンク 2018〕〔クイックメディア〕〔未定〕							
参考書		各授業で使用したテキスト、プリントなど							

授業科目		セミナーⅡ				担当者	健康栄養学専攻教員 11 名		
単位数	1	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専 4 年
授業の概要									
管理栄養士国家試験の問題や模擬試験を解きながら、国家試験に向けて修得しておかなければならない事柄を中心に講義を行う。模擬試験を中心に頻出事項、法改正等の講義を行う。									
授業の目標(到達目標)									
管理栄養士の国家試験の模擬試験を解き、各自の勉強の進行度合い、苦手分野を確認する。また、問題を解きながら、必要な知識を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス					16. 問題解説				
2. 模擬試験 5					17. 問題解説				
3. 問題解説					18. 模擬試験 8				
4. 問題解説					19. 問題解説				
5. 問題解説					20. 問題解説				
6. 問題解説					21. 問題解説				
7. 模擬試験 6					22. 問題解説				
8. 問題解説					23. 問題解説 9				
9. 問題解説					24. 問題解説				
10. 問題解説					25. 問題解説				
11. 問題解説					26. 問題解説				
12. 模擬試験 7					27. 問題解説				
13. 問題解説					28. 模擬試験 10				
14. 問題解説					29. 問題解説				
15. 問題解説					30. 問題解説				
事前学習		苦手分野は配布された問題集の問題を復習すること。模擬試験終了後は、模擬試験直しを毎回見直すこと。							
事後学習		解説をもとに、テキストを見ながら復習し、知識をまとめておくこと。模擬試験の直しを行うこと。							
履修上の注意		管理栄養士国家試験受験希望者は履修すること。遅刻、欠席をしない。各教員から使用するテキストについて指示が出るので注意すること。問題集は各自で行うこと。							
成績評価の方法・基準		平常点 80%（平常点は、感想用紙のおよび問題集の進行度合いなどを総合的に判断する。）と模擬試験 20%の結果で評価する。							
教科書	〔問題集 2017 年版〕〔大学作成〕 〔クエスチョンバンク 2017〕〔クイックメディア〕								
参考書	各授業で使用したテキスト、プリントなど								

授業科目	家政特別講義Ⅰ				担当者	伊澤 華子・深澤 律子			
単位数	2	必・選	選	授業形式	集中講義	開講期	前期・後期	対象	健専1年
授業の概要 社会における管理栄養士の使命や役割および活動分野を教授する。さらに、そこで求められる、管理栄養士としての基本的な態度やスキルについて教授する。									
授業の目標(到達目標) 管理栄養士の使命や役割および活動分野がわかる。 管理栄養士に求められる基本的な態度やスキルを身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス (伊澤、深澤)									
2. 栄養士・管理栄養士の使命および役割とは？ (伊澤、深澤)									
3. 栄養士・管理栄養士の活動分野は？ (伊澤、深澤)									
4. 調理における衛生観念とは？ (伊澤、深澤)									
5. 栄養士・管理栄養士として人前に立つためには？①挨拶や身だしなみ (伊澤、深澤)									
6. " ②板書や媒体 (伊澤、深澤)									
7. 他者との協働のためのコミュニケーションの取り方 ①自己紹介 (伊澤、深澤)									
8. " ②報告、連絡 (伊澤、深澤)									
9. " ③質問 (伊澤、深澤)									
10. 先輩の栄養士・管理栄養士に質問してみよう (伊澤、深澤)									
11. 食育セミナー (伊澤、深澤)									
12. 食育セミナーまとめ (伊澤、深澤)									
13. 家政特別講義を聞いて、自分の将来をイメージしよう (伊澤、深澤)									
14. 課題研究発表会をみて、研究のまとめ方、発表の仕方を学ぼう (伊澤、深澤)									
15. ガイダンス 1年間の振り返りと次年度に向けての目標の確認 (伊澤、深澤)									
事前学習	授業テーマに関して、教員からの情報を参考に、内容を把握しておく。								
事後学習	授業内容を見直し、重要箇所を確認する。								
履修上の注意	外部講師が担当する場合もある。								
成績評価の方法・基準	受講態度 50%、提出物 50% (提出期日を厳守すること。未提出の場合は、評価の対象としない) を総合的に評価する。								
教科書	後日指示								
参考書	適宜紹介								

授業科目		家政特別講義Ⅱ				担当者	川俣幸一・福岡敦子・伊澤華子・深澤律子		
単位数	2	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	健専2年
授業の概要									
学外研修や学内で開催される臨地実習報告会、家政特別セミナー、課題研究発表会を通じて、栄養士や管理栄養士を目指すために必要な知識や情報、技術を教授する。									
授業の目標(到達目標)									
栄養士や管理栄養士をはじめ、将来食と健康の専門家として働くために必要な知識や情報、技術や能力の習得を目指す。本科目の学習を通じて、①栄養士や管理栄養士の業務内容について、②自分の将来に必要な知識や情報、技術について理解できるようになる									
授業計画及び内容									
1. 学外研修：食と健康に関する現場での体験学習・施設見学（川俣、福岡、伊澤、深澤）									
2. 臨地実習における外部講話①：保健所（川俣、福岡）									
3. 臨地実習における外部講話②：保健センター（川俣、福岡）									
4. 臨地実習における外部講話③：病院（川俣、福岡）									
5. 臨地実習における外部講話④：病院（川俣、福岡）									
6. 臨地実習における外部講話⑤：給食管理（川俣、福岡）									
7. 臨地実習報告会聴講①：学校（川俣、福岡）									
8. 臨地実習報告会聴講②：事業所（川俣、福岡）									
9. 臨地実習報告会聴講③：介護・福祉施設（川俣、福岡）									
10. 臨地実習報告会聴講④：病院（川俣、福岡）									
11. 臨地実習報告会聴講⑤：医療機関（川俣、福岡）									
12. 臨地実習報告会聴講⑥：保健所（川俣、福岡）									
13. 臨地実習報告会聴講⑦：市町村保健センター（川俣、福岡）									
14. 家政特別セミナー聴講（川俣、福岡）									
15. 課題研究発表会聴講（川俣、福岡）									
事前学習		講話や報告会の内容に関する事柄を予習する。							
事後学習		講話や報告会の内容を復習し、将来の自分の姿へと結び付ける							
履修上の注意		外部講師や先輩の話が中心となるので、失礼の無いよう積極的な姿勢で授業に臨むようにすること。開講日程についてはホームルーム、掲示等で連絡する。							
成績評価の方法・基準		受講態度 50%＋提出物 50%（決められた日時までに必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としない）にて評価する。							
教科書	適宜プリント配布								
参考書	随時紹介する								

授業科目	家政特別講義Ⅲ（臨地栄養学演習）				担当者	栗山孝雄・半澤真紀子・福岡敦子			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	健専3年
授業の概要									
・給食管理実習Ⅲにおいて各実習施設で学んだことをまとめ、報告を行い、4年次における公衆栄養学実習Ⅱおよび臨床栄養学実習Ⅱを実践するための準備とする授業である。 ・管理栄養士としての職域を広げ、仕事の内容についても自ら調べる授業でもある。									
授業の目標(到達目標)									
・実習内容や研究課題の報告を実施し、それぞれ学生が経験したことを持ち寄り、実習内容を整理することで、お互いの経験を共有する。 ・報告検討することにより、今後の取り組むべき課題を意識し、自ら解決方法を立案できる管理栄養士・栄養士となるため必要な知識と技術を身に着ける。									
授業計画及び内容									
1. 報告会①：学校・給食センター（半澤）									
2. 報告会②：福祉施設（半澤）									
3. 報告会③：障害者福祉説・介護福祉施設（半澤）									
4. 報告会④：事業所・陸上自衛隊（半澤）									
5. 報告会⑤：課題研究紹介（半澤）									
6. 公衆栄養学・臨床栄養学について（配属先の希望調査を含む）（栗山・福岡）									
7. 報告会聴講①：病院（福岡）									
8. 報告会聴講②：病院（福岡）									
9. 報告会聴講③：病院（福岡）									
10. 報告会聴講④：保健所、保健センター（栗山）									
11. 報告会聴講⑤：保健所、保健センター（栗山）									
12. 報告会聴講⑥：保健所、保健センター（栗山）									
13. 臨地実習関連事項の説明（栗山）									
14. 臨地実習関連事項の説明（福岡）									
15.4年時の臨地実習に向けて（栗山・福岡）									
事前学習		・実習を振り返り、報告の準備、練習を行う。 ・保健所、保健センター、病院など、実習施設の特徴を調べておく。							
事後学習		・聴講した内容を施設ごとに整理し、まとめる。 ・今後の実習における目標を考えておく。							
履修上の注意		施設ごとの特色や特徴をよく調べておくこと							
成績評価の方法・基準		・受講態度（積極的な態度、目的意識、授業に遅刻しない、授業中に居眠りをしない等）50% ・提出物の内容・提出期限の順守50%							
教科書	〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔萌文書林〕〔1,944円〕								
参考書	適時紹介する。								

授業科目	家政特別講義Ⅳ（臨地栄養学演習）				担当者	栗山 孝雄・福岡 敦子			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専４年
授業の概要									
公衆栄養学と臨床栄養学の臨地実習の実習前、ならびに実習後に必要な事項を教授する。内容は、（１）実習施設の管理栄養士・栄養士の業務や役割の解説、（２）実習前の授業：実習先の特徴の理解、事前課題等の対処と検討、（３）実習後の授業：実習のまとめ、実習報告、である。									
授業の目標(到達目標)									
実習前の授業では、実習先の施設の特徴を理解する。さらに、事前課題を通じて指導すべき内容を把握する。実習後の授業では、臨地実習で学んだことをまとめる。まとめたことに学内で学習した内容を結びつき管理栄養士の業務と役割の理解を深める。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：実習の目的・目標の説明、実習先の決定（栗山、福岡）									
2. 保健所栄養士の業務と役割（栗山、保健所栄養士（外部講師））									
3. 市町村栄養士の業務と役割（栗山、市町村栄養士（外部講師））									
4. 病院栄養士の業務と役割（福岡、病院栄養士（外部講師））									
5. 実習の実施に関する注意事項の説明（栗山、福岡）									
6. 実習で使用する書類等の記入方法の説明（栗山、福岡）									
7. 実習施設の特徴の把握（栗山、福岡）									
8. 施設ごとの事前課題の確認（栗山、福岡）									
9. 事前課題の作業（栗山、福岡）									
10. 事前課題の進行状況の確認、作業（栗山、福岡）									
11. 事前課題の発表練習（栗山、福岡）									
12. 事前課題のまとめ（栗山、福岡）									
13. 臨地実習のまとめ（栗山、福岡）									
14. 実習報告の内容確認（栗山・福岡）									
15.実習報告の準備（栗山・福岡）									
事前学習	各施設で働く管理栄養士、栄養士の業務について調べる。								
事後学習	本科目で学習した内容と、これまでに学習した専門科目の内容をもとに、両者の関連や関わりから、各施設で働く管理栄養士、栄養士の業務について理解を深める。								
履修上の注意	・積極的な姿勢で学習に取り組むこと。 ・実習課題によっては、授業時間外に作業を行うこともある。								
成績評価の方法・基準	・受講態度（積極的な態度、目的意識、遅刻） 50% ・提出物の内容・提出期限の順守 50%								
教科書	資料使用のときは、そのときに指示する。								
参考書	なし								

授業科目		課題研究				担当者	鈴木 裕行		
単位数	6	必・選	選	授業形式	演習	開講期	3年後期 ～4通年	対象	健専3年
授業の概要									
食品・栄養分野での課題発見、資料・文献調査、研究方針の立案、実験技術の習得、実験実施、データ解析と整理・図表化、論文執筆さらにスライドプレゼンテーション作成を行い、最終的に発表会でのプレゼンテーションを実施する。									
授業の目標(到達目標)									
課題研究実施の一連の過程において、将来の実務に応用可能な一般的な問題発見と探究の方法論を理解できるようにする。さらに資料調査、報告書・プレゼンテーション作成の方法・手技を身に付けることを目標とする。									
授業計画及び内容									
1. テーマ選定			16. 研究指導			31. 研究指導			
2. テーマ選定			17. 研究指導			32. 研究指導			
3. テーマ選定			18. 研究指導			33. 研究指導			
4. テーマ選定			19. 研究指導			34. 研究指導			
5. テーマ選定			20. 研究指導			35. 研究指導			
6. 研究指導			21. 研究指導			36. 研究指導			
7. 研究指導			22. 研究指導			37. 研究指導			
8. 研究指導			23. 研究指導			38. 課題研究発表プレゼンテーション作成			
9. 研究指導			24. 研究指導			39. 課題研究発表プレゼンテーション作成			
10. 研究指導			25. 研究指導			40. 課題研究発表			
11. 研究指導			26. 研究指導			41. 課題研究論文作成			
12. 研究指導			27. 研究指導			42. 課題研究論文作成			
13. 研究指導			28. 研究指導			43. 課題研究論文作成			
14. 研究指導			29. 研究指導			44. 課題研究発表ポスター作成			
15. 研究指導			30. 研究指導			45. 課題研究発表ポスター作成			
事前学習		事前に配布する講義資料を熟読しておく。							
事後学習		授業で扱った内容を復習してよく理解し、関連事項を自分でも調査してみる。							
履修上の注意		研究テーマに関連する文献を数多く熟読して研究方針の立案、論文作成の参考にする。(2単位分を3年次後期・4単位分を4年次通年で実施する)							
成績評価の方法・基準		論文・・・60%				プレゼンテーション・・・30%			
		研究への取り組み・・・10%				※評価は研究終了後に実施する			
教科書		資料を配布する							
参考書		〔これから研究を始める高校生と指導教員のために〕〔酒井聡樹〕 〔共立出版〕〔2,808円〕							

授業科目		課題研究				担当者	土井 豊		
単位数	6	必・選	選	授業形式	演習	開講期	3年後期 ～4通年	対象	健専3年
授業の概要									
今後、栄養士や管理栄養士として働いていく上で、食（栄養）と健康との関連、あるいは各種生活活動と健康・体力との関連性等に関する知見を持っていることは重要である。そこで本授業では、個々の研究テーマについての研鑽を重ねつつ、実際のアンケート調査や測定実験の結果を基に研究論文として纏め上げられるよう指導する。									
授業の目標(到達目標)									
研究課題についての研鑽を通して問題解決能力を養うと共に、実際のアンケート調査や測定実験から得られるデータに考察を加え、論文としてまとめることができる。また、その成果を発表することなどを通して基礎的なプレゼンテーション力を習得すること。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス16. 4年次ガイダンス31. 関連学会に参加									
2. テーマ選定指導17. 最終的テーマ模索32. 論文下書（緒言）									
3. 文献検索Ⅰ（書籍）18. 最終的テーマ決定33. 論文下書（方法）									
4. 文献検索Ⅱ（雑誌）19. 今後の研究計画34. 論文下書（結果）									
5. 文献検索Ⅲ（Web）20. 研究企画（調査票等作成）35. 論文下書（要約）									
6. 研究テーマ模索Ⅰ21. 研究指導（プレテストⅠ）36. 論文下書（文献）									
7. 研究指導（研究の種類）22. 研究指導（プレテストⅡ）37. 仮論文作成Ⅰ									
8. 研究テーマ模索Ⅱ23. 研究指導（本調査Ⅰ）38. 仮論文作成Ⅱ									
9. 研究指導（研究方法）24. 研究指導（本調査Ⅱ）39. 仮論文提出									
10. 研究指導（データ収集方法Ⅰ）25. 研究指導（本調査Ⅲ）40. 論文修正									
11. 研究指導（データ収集方法Ⅱ）26. 研究指導（データ分析Ⅰ）41. 発表資料作成									
12. 研究指導（データ収集方法Ⅰ）27. 研究指導（データ分析Ⅱ）42. 発表原稿作成									
13. 研究指導（データ収集方法Ⅱ）28. 研究指導（結果の吟味Ⅰ）43. 最終発表会									
14. 研究指導（文献の整理）29. 研究指導（結果の吟味Ⅱ）44. 正論文提出									
15. 小括（反省・評価・展望）30. 中間発表45. 総括（評価）									
事前学習		教員の指示に従い、研究内容・項目に関する事柄を予習する。							
事後学習		復習を通じて、学習内容の確認、不明な点の発見と解決を行う。							
履修上の注意		正当な理由無き「欠席」（無断欠席）は厳禁とする。							
成績評価の方法・基準		研究課題に臨む姿勢や、研究成果のまとめ方（論文提出、及び研究発表）などにより総合評価する。内訳は、研究姿勢 25%、発表 25%、論文 50%。							
教科書	なし								
参考書	適宜紹介する。								

授業科目		課題研究				担当者	佐藤 靖子		
単位数	6	必・選	選	授業形式	演習	開講期	3年後期 ～4通年	対象	健専3年
授業の概要									
3年次では文献検索および基礎実験を通して研究テーマを決定する（1～15）。 4年次では研究テーマに沿って実験計画、実験、結果発表と討論を繰り返し行い考察力を向上させる（16～45）。									
授業の目標(到達目標)									
研究テーマについて計画、実験、結果、考察を構築できる能力を習得する。あわせてプレゼンテーション力をつける。									
授業計画及び内容									
1. 研究ガイダンス									
2～3. 文献検索									
4～5. 実験計画									
6～15. 基礎実験									
16～40. 研究指導									
41～44. 論文指導									
45. 研究発表									
事前学習		研究課題に対して調査する							
事後学習		研究課題に対して評価する							
履修上の注意		課題に対して熱心に取り組むこと							
成績評価の方法・基準		研究に対する取り組み 50%、研究発表 50%							
教科書	なし								
参考書	なし								

授業科目		課題研究				担当者	伊澤 華子		
単位数	6	必・選	選	授業形式	演習	開講期	3年後期 ～4通年	対象	健専3年
授業の概要									
各自が研究したいテーマについて、文献検索、調査、分析を行う。指導を行いながら、論文をまとめる方法やプレゼンテーションの方法について学習する。									
授業の目標(到達目標)									
各自が研究したいテーマについて、文献検索、調査、分析、問題発見、解決能力を身につける。また、調査・研究に必要とされるプレゼンテーション力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス				16. 指導研究			31. 論文作成		
2. テーマ決定				17. 指導研究			32. 論文作成		
3. 指導研究				18. 指導研究			33. 論文作成		
4. 指導研究				19. 指導研究			34. 論文作成		
5. 指導研究				20. 指導研究			35. 論文作成		
6. 指導研究				21. 指導研究			36. 論文作成		
7. 指導研究				22. 指導研究			37. 論文作成		
8. 指導研究				23. 指導研究			38. 論文作成		
9. 指導研究				24. 指導研究			39. パワーポイント作成		
10. 指導研究				25. 指導研究			40. パワーポイント作成		
11. 指導研究				26. 指導研究			41. パワーポイント作成		
12. 指導研究				27. 指導研究			42. パワーポイント作成		
13. 指導研究				28. 指導研究			43. 課題研究発表会		
14. 指導研究				29. 指導研究			44. 論文修正		
15. 指導研究				30. 指導研究			45. ポスター作製		
事前学習		調査に必要な知識を確認してくること。類似の研究を扱った論文や必要な資料を読んでくこと。							
事後学習		類似の研究を扱った論文と調査結果を比較検討すること。							
履修上の注意		自ら問題発見、解決に取り組む姿勢で臨むこと。他の人の研究にも興味を持つこと。							
成績評価の方法・基準		課題に取り組む姿勢 30%と課題研究発表会、ポスター作製、論文を 70%とし総合的に評価を行う。							
教科書	なし								
参考書	テーマによって適宜紹介								

授業科目		課題研究				担当者	福岡 敦子		
単位数	6	必・選	選	授業形式	演習	開講期	3年後期 ～4通年	対象	健専3年
授業の概要									
テーマの決定に従い、文献検索、調査を行う。論文のまとめ方や、書き方等から論文作成の基礎を指導する。									
授業の目標(到達目標)									
研究テーマを考え、テーマの決定をする。文献検索、調査を行う。論文のまとめ方や、まとめる内容についての推測の仕方、書き方、およびプレゼンについて基礎を身に着ける。									
授業計画及び内容									
第1回 研究ガイダンス									
第2回～ 第5回 テーマの決定									
第6回～ 第35回 研究指導									
第36回～第40回 課題研究発表プレゼンテーション作成									
第41回～第43回 論文作成									
第44回～第45回 課題研究発表ポスター作成									

授業科目		課題研究				担当者	栗山 孝雄		
単位数	6	必・選	選	授業形式	演習	開講期	3年後期 ～4通年	対象	健専3年
授業の概要									
主に公衆衛生学、公衆栄養学分野に関連する研究テーマを設定し、その内容に関する研究方法を教授する。研究成果は、課題研究発表会と課題研究展で報告する。									
授業の目標(到達目標)									
①研究テーマを設定し、研究を展開する能力を身につける。 ②研究に関する情報や文献を収集し、内容を吟味する力を身につける。 ③論文をまとめ、研究発表する力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 研究テーマの検討				16. データの確認		31. スライド作成			
2. 研究テーマに関する情報収集				17. データ入力		32. スライド作成			
3. 研究テーマの決定				18. データ入力		33. スライド作成			
4. 研究内容の検討				19. データ入力		34. スライド作成			
5. 調査の検討				20. データ入力		35. 抄録作成			
6. 調査の企画				21. データ入力		36. 抄録作成			
7. 調査票の作成				22. 集計作業		37. 発表原稿作成			
8. 調査票の内容確認				23. 図表作成		38. 発表原稿作成			
9. 4年生の課題研究発表会聴講				24. 論文作成		39. 研究発表：練習			
10. 調査実施の準備				25. 論文作成		40. スライド・発表原稿修正			
11. 調査実施の準備				26. 図表作成		41. 研究発表：会場予行			
12. 調査実施（データ収集）				27. 論文作成		42. 課題研究発表会：研究発表			
13. 調査実施（データ収集）				28. 論文作成		43. 論文修正			
14. 調査実施（データ収集）				29. 論文作成		44. ポスター作製			
15. 調査実施（データ収集）				30. 論文作成		45. 課題研究展			
事前学習		設定した研究テーマについて、教員からの情報や文献、資料などを参考に解明すべき課題を考える。							
事後学習		習得した知識や技術、教員からの助言、研究を通じて気づいたことなどを確認し、今後の研究にどのように活かすのかを考える。							
履修上の注意		研究テーマに関する情報や論文などを積極的に収集する意欲が必要である。また、データを集計、処理するためのパソコン操作能力が必要である。研究テーマの設定と研究発表、論文やポスターの作成は個人ごとに行う。状況によっては、時間割の時間外で行う場合もある。							
成績評価の方法・基準		・研究態度（30%）、研究発表（20%）論文の内容（50%）を総合して、成績評価を行う。							
教科書	〔無し〕								
参考書	〔適時紹介する〕								

授業科目		課題研究				担当者	半澤 真喜子		
単位数	6	必・選	選	授業形式	演習	開講期	3年後期 ～4通年	対象	健専3年
授業の概要									
課題研究の授業を通して、各自が主体性を持って研究テーマの内容を追求し、論文として論理的に展開し、書き上げることを学習するのが主な狙いである。									
授業の目標(到達目標)									
専門分野にかかわる具体的テーマについて、各自が調査、研究を行い、その結果に基づいて論文をまとめ上げ、これによりその能力が養われるようになること。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス				16. 研究指導		31. 研究指導			
2. テーマの設定				17. 研究指導		32. 研究指導			
3. 資料の収集				18. 研究指導		33. 研究指導			
4. 資料の収集				19. 研究指導		34. 研究指導			
5. 資料の収集				20. 研究指導		35. 成果、結果のまとめ、考察			
6. 研究計画の立案				21. 研究指導		36. 成果、結果のまとめ、考察			
7. 調査票の立案				22. 研究指導		37. 成果、結果のまとめ、考察			
8. 調査票の作成				23. 研究指導		38. 成果、結果のまとめ、考察			
9. 調査票の作成				24. 研究指導		39. 課題研究論文作成			
10. 調査の実施				25. 研究指導		40. 課題研究論文作成			
11. 調査の実施				26. 研究指導		41. 課題研究論文作成			
12. 調査の実施				27. 研究指導		42. 課題研究論文作成			
13. データ入力				28. 研究指導		43. 課題研究発表準備			
14. データ入力				29. 研究指導		44. 課題研究発表準備			
15. データ入力				30. 研究指導		45. 課題研究発表			
事前学習		研究テーマに関連した論文を収集し、熟読しておくこと。							
事後学習		今後の研究にどのように活かしていくか考える。							
履修上の注意		大学における研究活動の成果を集大成し、総括する科目である認識をもって、積極的な取り組みをすること。							
成績評価の方法・基準		学習態度や研究活動(30%)、中間報告(20%)、提出した論文の内容(50%)について総合的に評価する。							
教科書	〔初めての栄養学研究論文〕〔稲山貴代他〕〔第一出版〕〔2,000円〕								
参考書	適宜紹介する								

授業科目		課題研究				担当者	川俣 幸一		
単位数	6	必・選	選	授業形式	演習	開講期	3年後期 ～4通年	対象	健専3年
授業の概要									
スポーツ栄養学分野または応用栄養学分野において自ら学び、そこから湧き出たリサーチクエスションの解決を目指す。									
授業の目標(到達目標)									
1) 課題発見、研究計画の立案・実施、集計作業などを通じて情報処理能力を高める									
2) 発表会でのプレゼンテーション、課題研究の論文提出を通じて総合能力を高める									
授業計画及び内容									
第1回～3回 テーマの選定									
第4回～38回 研究指導									
第39回～44回 課題研究論文の作成									
第45回 課題研究発表準備									

教 職 に 関 す る 科 目

5. 教職に関する科目

授業科目		教職概論				担当者	佐々木 晃		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	家・美1年
授業の概要									
学校教育のねらいと教員の役割・使命を理解するとともに、現在の教員に何が求められているかを考える。加えて、教育実践に必要な基礎的知識・技能を身に付け、教員としての適格性を持つためにどのような努力が必要かを学ぶ。									
授業の目標(到達目標)									
教員を目指すにあたり、学校教育の概要と教育活動の基礎・基本を修得し、教員としての資質を身につける。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション（教職を志す者の心構えとしての知見・実践的指導力・使命感）									
2. 教職の意義及び教員の役割									
3. 学校の目的・学校の教育目標									
4. 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等）									
5. 教員養成・教員任用の仕組み									
6. 教員の資質向上と関係法規									
7. 生徒との関わり方、ほめ方、叱り方									
8. 新たな学びを展開できる学習活動と評価（情報機器の活用等）									
9. 学習指導案の基本									
10. 学習指導案の作成									
11. 道徳・特別活動の基本									
12. 進路指導・キャリア教育									
13. 生徒指導・教育相談									
14. 進路選択に資する各種の機会の提供等									
15. 教育改革の中の教師（近年の教育改革の動向について）									
事前学習		教育や子育てに関する新聞記事に目を通しておくこと							
事後学習		講義記録をとり、スクラップする							
履修上の注意		教師の社会的役割を意識して受講すること							
成績評価の方法・基準		授業への参加状況、レポート（70％）提出物（30％）							
教科書	〔これからの学校教育と教師〕〔佐々木 司他〕〔ミネルヴァ書房〕〔2,376 円〕								
参考書	〔中学校学習指導要領〕〔文科省〕〔東山書房〕〔244 円〕								

授業科目		教育原理				担当者	菅並 茂樹		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	家・美2年
授業の概要									
授業では、一人一人が「教育とは何か」について考え、教育問題に対応していくための基礎的な知識を供することをねらいとして、教育の本質と意義、発達と教育、教育の場と内容、欧米の教育思想・教育目的、学校制度などについて概説する。									
授業の目標(到達目標)									
発達段階の特徴とそれに応じた教育のあり方、欧米の教育思想の概要、教育の場とその内容・特質を把握、理解することを通して、「教育とは何か」について様々な視点から各自考察する。									
授業計画及び内容									
1. 授業全般に関する説明、履修上の諸注意									
2. 教育の本質と意義（教育とは何か、教育の意義）									
3. 発達と教育（1）発達とは何か、発達の原理、発達の要因									
4. 発達と教育（2）発達段階（乳幼児期～児童期）									
5. 発達と教育（3）発達段階（青年期～老年期）									
6. 発達課題（ハヴィガーストによる発達課題、エリクソンによる発達論）									
7. 教育の場と内容（1）（家庭教育の内容と特徴）									
8. 教育の場と内容（2）（学校教育の内容と特徴）									
9. 教育の場と内容（3）（社会での教育の内容と特徴、生涯学習）									
10. 欧米の教育思想、教育目的（1）（18～19世紀）									
11. 欧米の教育思想、教育目的（2）（19～20世紀）									
12. 欧米の教育思想、教育目的（3）（20世紀）									
13. 日本の学校制度									
14. 学校教育の課題									
15. 授業のまとめと補足									
16. 試験									
事前学習		授業計画を見て、他の科目（哲学、社会学、心理学など）で関連する内容を学習したときはその部分を復習すること。また、配布資料を読んでおくこと。							
事後学習		ノートと資料を読み返し、学習した事柄を復習しまとめておくこと。							
履修上の注意		第1回目の授業で履修上の注意と授業の進め方について話す。現在の教育問題を参考に「教育とは何か」について自分なりに考えておくように。							
成績評価の方法・基準		学期末試験（60%）、提出課題（40%）で評価する。							
教科書		授業前に資料を配布する。							
参考書		授業で紹介する。							

授業科目	教育心理学					担当者	植松 公威		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	家・美2年
授業の概要 「発達と教育」では虐待によって心身に発達の遅れが生じても教育によって遅れを取り戻すことが可能であること、人間は他者の援助によって発達が促進されることなどについて解説する。「授業と学習」では学習の転移と記憶を高める指導法や有意味学習の効果について、教授者が実際に模擬授業をしながら理解の促進を図る。									
授業の目標(到達目標) 1 虐待によって心身に深刻な発達の遅れが生じても教育によって遅れを取り戻せることを理解する。 2 教育には社会的活動として「発達の最近接領域」を開き、子どもの発達を促す働きがあることを学ぶ。 3 学習の転移と記憶を高めるには、ルールと事例をどのように関連づけて学ぶのがよいか、理解する。 4 有意味学習を実際に体験し、機械的暗記学習の学習観・知識観を批判できるようになる。									
授業計画及び内容 1. ガイダンス（教授内容と教育目的） 2. 「赤ちゃんー成長の不思議な道のりー」（NHKスペシャル）の視聴 3. 虐待における発達の遅れの障害と補償教育の事例 4. 人間における臨界期、敏感期の問題 5. 障害の理解 障害のある子どもの発達と教育 6. 発達障害ー学習障害、高機能自閉症、注意欠陥多動性障害、アスペルガー症候群の理解と支援ー 7. 発達の成熟優位説とそれに反する事例 8. I Q の遺伝決定論ー人間の測り間違いー 9. ヴィゴツキーの「発達の最近接領域説」 10. ルール（法則）学習の事例とその長所 11. 学習の転移と記憶を促すための指導法ー小学3年、「金属ならば電気を通す」の授業ー 12. 学習の転移と記憶を促すための指導法ー帰納法、演繹法に対する検証法の効果ー 13. 有意味学習と機械的暗記学習ーシグナリング・スキーマ・先行オーガナイザーなどー 14. ルールによって意味を理解するー「砂漠は地球のどこにあるか」の模擬授業を通してー 15. まとめと復習 16. 学期末試験									
事前学習	シラバスをよく読み、キーワードの意味を事前に調べ、疑問をあらかじめ明らかにしておくことよい。								
事後学習	作成したノート、配られたプリントをもう一度見直し、わかったところ、わからなかったところを明らかにしておく。ノートは後で見えてわかるように補足のコメントなどを加筆しておくことよい。								
履修上の注意	毎回コメントペーパーに感想などを書いて提出すること。								
成績評価の方法・基準	試験の成績 90%、受講態度 10%								
教科書	授業の前にプリントを配布する								
参考書	授業の中で適宜、紹介する								

授業科目		教育制度論				担当者	菅並 茂樹		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	家・美3年
授業の概要 近代国家の発展に伴って、私的な営みであった教育活動は国家によって組織的、体系的に整備され、制度化されていく。授業では、学校制度を中心とした教育制度の発展と制度の基本的な部分を占める教育法規に関する基礎的な知識を概説する。									
授業の目標(到達目標) 近代以降の教育制度(学校制度)の構造及び「公教育」の発展とその原理を把握したうえで、憲法の教育を受ける権利の保障を基盤とした、教育基本法他主な教育法規の重要な条文の内容、意義、解釈上の問題点について理解する。									
授業計画及び内容									
1. 授業内容全般に関する説明、履修上の諸注意									
2. 欧米の教育制度の発展（学校の成立～産業革命期）									
3. 欧米の教育制度の発展（産業革命期以後～現代）									
4. 日本の教育制度の発展（明治期）									
5. 日本の教育制度の発展（大正期～戦後教育改革）、現在の教育制度									
6. 公教育の概念、組織原理									
7. 憲法の人権条項と教育規定（教育を受ける権利）									
8. 教育基本法（法の概要、成立過程、前文）									
9. 教育基本法（1～4条）									
10. 教育基本法（5～9条）									
11. 教育基本法（10～15条）									
12. 教育基本法（16、17条、まとめ）									
13. 教育委員会制度									
14. 教員に関する法規									
15. 授業のまとめと補足									
16. 試験									
事前学習		日本の戦後の歴史をおおまかに把握しておくこと。法規に関する学習では次回に学習する法規の条文をよく読んでおくこと。							
事後学習		ノートと授業で配布した資料（法規集等）を読み返し、学習した事柄を復習すること。							
履修上の注意		第1回目の授業で履修上の注意と授業の進め方について話す。現在の教育問題に関心を持つようにする。							
成績評価の方法・基準		定期試験（80％）、提出課題（20％）で評価する。							
教科書		授業前に資料を配布する。							
参考書		〔教育小六法（平成29年版）〕〔市川須美子他〕〔学陽書房〕〔2,700円〕							

授業科目		教育課程論				担当者	菅並 茂樹		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	家・美2年
授業の概要									
教育課程と学習指導に関する基礎的な知識について概説する。特に審議会の答申内容を踏まえて学習指導要領の変遷を見ることによって、戦後の教育課程編成に関する諸問題を考察していく。									
授業の目標(到達目標)									
教育課程の意義、編成の方法、種類とその特徴について把握したうえで、わが国の教育課程の要となる学習指導要領について、改訂の背景や経緯、その特徴、課題となった事柄について把握、理解する。									
授業計画及び内容									
1. 授業内容全般に関する説明、履修上の諸注意									
2. 教育課程の意義、編成の基本的な考え方、教育課程法制									
3. 教育課程編成の方法									
4. 教育課程の類型 (1) (教科教育課程)									
5. 教育課程の類型 (2) (経験教育課程)									
6. 学習指導要領の変遷 (1) (昭和 22、26 年版の特徴)									
7. 学習指導要領の変遷 (2) (昭和 33 年版 改訂の経緯と特徴)									
8. 学習指導要領の変遷 (3) (学問中心のカリキュラム、昭和 43 年版 改訂の経緯と特徴)									
9. 学習指導要領の変遷 (4) (人間中心の教育、昭和 52 年版 改訂の経緯と特徴)									
10. 学習指導要領の変遷 (5) (平成元年版 改訂の経緯と特徴、学力のとらえ方)									
11. 学習指導要領の変遷 (6) (平成 10 年版、20 年版 改訂の経緯と特徴)									
12. 平成 28 年度改訂の学習指導要領の概要と特徴									
13. 系統学習									
14. 問題解決学習									
15. 授業のまとめと補足									
16. 試験									
事前学習		日本の戦後の歴史をおおまかに把握しておくこと。また、配布した資料を読んでおくこと。							
事後学習		ノートと授業で配布した資料を読み返し、学習した事柄を復習すること。							
履修上の注意		第 1 回目の授業で履修上の注意と授業の進め方について話す。							
成績評価の方法・基準		学期末試験 (80%)、提出課題(20%)による。							
教科書		授業前に資料を配布する。							
参考書		〔小学校、中学校、高等学校学習指導要領〕〔文部科学省〕〔各 238 円、244 円、588 円〕							

授業科目		家庭科教育法Ⅰ				担当者		鈴木 行子	
単位数	4	必・選	選	授業形式	講義	開講期	通年	対象	家3年
授業の概要									
家庭科教育の変遷、目標・内容、小・中・高校の家庭科相互及び他教科との関連、指導計画、指導法、評価法などについての理解を深めさせる。さらに模擬授業による実践的・体験的学習を通して、家庭科教育の望ましいあり方や指導技術の基礎・基本を習得させる。									
授業の目標(到達目標)									
家庭科教育の意義及び内容、指導法など家庭科教育に必要な知識と技術について理解を深め、これからの家庭科教育のあり方を模索する。また、学習指導計画案の作成のしかたを習得し、模擬授業を体験しながら、実践的な学習指導法の基礎を養う。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス：家庭科教師の資質・資格・研修					16. 学習指導計画：教材研究 模擬授業指導案作成				
2. 家庭科教育の歴史：家庭科教育の歴史と変遷					17. 学習指導法①：原理 類型 形態				
3. 家庭科教育の意義：家庭科と家庭科教育、生涯学習					18. " ②：実験・実習の指導 家庭科学習指導の特質				
4. 指導上の留意点：学習に影響する要件 社会の変化と家庭科教育					19. 評価法①：目的と対象 手順（時期・用具）・演習				
5. 家庭科教育の目標と 21 世紀の家庭科					20. " ②：資料の解釈と結果の利用 記録と通知				
6. 小・中・高の家庭科の内容① 小学校の家庭科					21. 教材研究①：分野の研究要点・教材作成上の留意点				
7. " ② 中学校の技術・家庭科					22. " ②：模擬授業指導案作成（教材研究）				
8. " ③ 高等学校の家庭科					23. 模擬授業①：中・高に関する模擬授業実践（導入の工夫）				
9. H・Pと家庭クラブ 技術検定 小・中・高の関連					24. " ②： " （展開のヤマ場）				
10. 他教科、道徳及び総合的な学習などとの関連・教育課程					25. " ③： " （板書・学習カード）				
11. 学習指導計画①：作成の意義 配慮すべき事項 種類と形式					26. " ④： " （教材・教具作成）				
12. " ②：年間指導計画案 題材指導計画案（形式と留意点）					27. " ⑤： " （まとめの工夫）				
13. " ③：指導案作成（その他の諸形式と留意点）					28. 施設・設備：施設設備の必要性和管理運営				
14. 模擬授業実践（導入・展開の進め方）					29. 今後の課題：社会情勢の変化への対応・世界の家庭科教育				
15. まとめ（試験を含む）と評価					30. まとめ：模擬授業の反省 教育実習に向けて 31. 試験				
事前学習		家庭科の教科書（中・高）・指導要領の精読を心がけること。 家庭科の指導上の資料となり得るもの等（ニュース、新聞等 他）の収集に努めること。							
事後学習		模擬授業後の反省（指導案や指導内容等）を十分に振り返りに生かせるようにしておくこと。							
履修上の注意		実践的・体験的学習に対する真摯な取り組みと協力的な姿勢の保持。 受講は自主的・積極的に、さらに提出物の期日厳守に留意すること。							
成績評価の方法・基準		定期試験 50%、 レポート・提出物等 25% 模擬授業実践 25%（学習指導計画案、指導技術・態度等）							
教科書		[中学校「技術・家庭」（家庭）][開隆堂][624 円] [高等学校「家庭総合」][美教出版][685 円] [中学校学習指導要領][文部科学省][80 円] [高等学校学習指導要領][文部科学省][280 円]							
参考書		[教育実践力をつける家庭科教育法（第3版）][多々納道子・福田公子] [大学教育出版][2400 円]							

授業科目		家庭科教育法Ⅱ				担当者	鈴木 行子		
単位数	4	必・選	選	授業形式	講義	開講期	通年	対象	家4年
授業の概要									
学習指導計画・指導法・評価・教材研究の進め方・教材教具の作成等演習を重視して、総合的・実践的な学習を深め、教育実習をより効果的に行う能力と態度を育成する。あわせて新しい世紀を生きる力を養成するための家庭科教育の望ましい指導のあり方についての理解を深める。									
授業の目標(到達目標)									
学習指導法、教材研究、教材教具の作成の総合的・実践的な学習を深め、教育実習を効果的に行う能力と態度の育成。さらに男女共同参画、少子高齢化等の今日的課題に対応すべく、生活の自立に配慮し、家庭科教育の内容を重視した学習指導のあり方に迫る。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス:教育実習について 模擬授業計画					16. 学習指導計画:体験・実習・実験学習実践指導方法				
2. 教育実習:教育実習事前指導 教材研究・指導案					17. 実践学習指導:実践学習の進め方(シニア体験学習)				
3. 教員採用試験に向けて・指導案作成方法					18. : (家庭看護)				
4. 学習指導:模擬授業実践に向けて(教材研究の要点)					19. 実験・実習学習指導の進め方(例①)(食物分野)				
5. 模擬授業Ⅰ:模擬授業実践① (導入の工夫・展開のヤマ場)					20. : (例②)(衣生活分野)				
6. :模擬授業実践②(まとめの工夫)					21. 模擬授業の計画:模擬授業指導案作成(食物分野)				
7. :模擬授業実践③(板書の工夫)					22. 模擬授業Ⅱ:食物分野実験学習指導①(導入の工夫)				
8. :模擬授業実践④(評価の研究)					23. : ②(展開のヤマ場)				
9. :模擬授業実践⑤ (教材教具の工夫と掲示)					24. : ③(板書・学習プリント)				
10. 教育実習のまとめ:教育実習の反省・評価・まとめ					25. : ④(教材教具の工夫)				
11. 教育実習研究授業実践発表会・評価①					26. 模擬授業Ⅲ:衣生活分野実習学習指導①(導入の工夫)				
12. ②					27. : ②(展開のヤマ場)				
13. ③					28. : ③(板書・学習プリント)				
14. ④					29. : ④(教材教具の工夫)				
15. 模擬授業実践の反省・評価 教員採用試験に向けて					30. まとめ:模擬授業のまとめと評価、反省 31. 試験				
事前学習		家庭科の教科書(中・高)・指導要領の精読を心がけること。模擬授業の教材研究、事前準備及び家庭科の指導上の資料となり得るもの等(ニュース、新聞等、他)の収集を努めること。							
事後学習		模擬授業後の反省(指導案や指導技術等)を十分に振り返り、活かせるようにしておくこと。							
履修上の注意		受講は自主的・積極的に、実践的・体験的学習に対する真摯な取り組みを望む。さらに授業態度、提出物の期限厳守に留意のこと。 家族・家庭生活・衣・食・住・環境・福祉・消費者教育などについて自分の生活と関わりを持ち、教養を深めると共に実践力を高める姿勢の保持。							
成績評価の方法・基準		定期試験 50%, レポート・提出物 25% 模擬授業実践 25%(学習指導計画案、指導技術・態度等)							
教科書	家庭科教育法Ⅰで使用したものを継続使用する。								
参考書	無し								

授業科目		美術科教育法Ⅰ				担当者	加美山 裕子		
単位数	4	必・選	選	授業形式	講義	開講期	通年	対象	美3年
授業の概要 中学校美術科・高等学校美術科の教員に必要とされる基礎的な知識の習得を図る。美術教育の時代的変遷を学ぶことを通して、学習指導要領の理解を図るとともに、基礎的な指導方法や造形的表現技術の指導方法について習得させる。中学校美術科の教科書を参考にした教材研究や模擬授業を行い、4年次の教育実習に向けての準備としていきたい。									
授業の目標(到達目標) 一つ一つの題材に含まれる教材としての価値を把握し、学習を分析して、創造的・造形的な視点での授業が展開できるような力を身につけ、学習指導案の作成がスムーズにできるようにする。4年次の教育実習での基本的・実践的な教授方法の基礎を養う。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション、美術教育とは何か	16. 美術教育での評価Ⅰ①（評価の種類）								
2. 学びの基礎とはⅠ（学校教育の意義）	17. " ②（評価の観点）								
3. 学びの基礎とはⅡ（学びと評価 指導の手だて）	18. 美術指導での改革 （美術指導を改革していく7つのポイント）								
4. 美術教育の確立Ⅰ（教科としての美術教育）	19. 学習指導案の作成について								
5. 美術教育の確立Ⅱ①（美術教育の目指すもの）	20. 指導内容や題材の分析、指導案作成①								
6. " ② （基礎・基本の指導の重要性について）	21. 指導案作成②								
7. 美術教育の確立Ⅲ① （発達課題と美術教育とのかかわり）	22. 指導案作成③								
8. " ② （パートナーシップを生かした美術学習）	23. 模擬授業発表①								
9. 学校の役割と美術教育Ⅰ①（学校のエデュケーション）	24. 模擬授業発表②								
10. " ②（美術における発展的学習について）	25. 模擬授業発表③								
11. " ③（表現の学習に関する指導）	26. 模擬授業のまとめと講評								
12. 学校の役割と美術教育Ⅱ（教員養成から 考察した造形教育指導上の課題）	27. 年間指導計画について								
13. 学習指導要領の研究①（学習指導要領について）	28. 年間指導計画の作成①								
14. " ②（指導計画の作成と内容の取扱い）	29. 年間指導計画の作成②と計画案の発表								
15. 美術教育の指導（指導と評価の一体化）	30. 講評とまとめ								
事前学習	・前時の講義内容の把握と確認をしておくこと。 ・指導要領の精読に努めること								
事後学習	・講義で配布したレジメについて、よく復習をしておくこと。								
履修上の注意	・講義時に配布するレジメをファイリングし、受講の際は持参すること。 ・自主的・意欲的に受講し、進んでメモを取るなど自己の学習の積み重ねに努め、提出物は期限厳守で必ず提出すること。								
成績評価の方法・基準	レポート、提出物（年間指導計画案、学習指導案など） 60%， 模擬授業 30%，受講態度 10%								
教科書	[中学校学習指導要領解説美術編] [文科省] [96 円] ※授業前にプリントも配布する [高等学校学習指導要領解説芸術編] [文科省] [305 円]								
参考書	[中学校美術教科書] [日文] [1000 円以内] [美術資料集] [秀学社] [780 円]								

授業科目		美術科教育法Ⅱ			担当者		加美山 裕子		
単位数	4	必・選	選	授業形式	講義	開講期	通年	対象	美４年
授業の概要									
教育実習の意義等について理解を深め、授業実践への意欲を高める。模擬授業の展開にあたり、教材の分析や指導案作成の手順を具体例にそくして把握させ美術指導の実践力を養う。題材の展開や授業の進め方などを模擬授業の中で理解させるとともに、美術指導における指導と評価のあり方や美術教育のねらいについての考えをしっかりと持つことができるようにしていきたい。									
授業の目標(到達目標)									
美術科での効果的な指導力の向上を目指し、美術教員としての資質や力量形成の基礎を培う。美術教育の意義を理解・把握し、そこから学校現場での実践感覚を育み、自己の指導力向上に努めていけるようにする。									
授業計画及び内容									
１．オリエンテーション、美術教育について					16. 教育実習の反省とまとめ				
２．教育実習での留意事項と心得①					17. 美術の授業の特色（授業づくりの基本的留意点）				
３．〃 ②					18. 美術教育の評価と指導①（学びと評価）				
４．学習指導案の書き方〈確認〉					19. 〃 ②（絶対評価と指導の実際）				
５．美術教育の確立①（義務教育の目指すもの）					20. 授業の実際（学習指導案に基づいて）				
６．〃 ②（美術教育の持つ教育力）					21. 学習指導案の作成について（題材分析）、作成①				
７．中学校での美術の授業①（美術教育の特色）					22. 学習指導案の作成 ②				
８．〃 ②（題材について）					23. 〃 ③				
９．年間指導計画の実際について					24. 模擬授業，講評 ①				
10. 年間指導計画作成①					25. 〃 ②				
11. 〃 ②					26. 〃 ③				
12. 教育実習感想発表、まとめ					27. 評価をふまえた学習指導案について				
13. 教員採用試験に向けて・諸注意					28. 評価をふまえた指導案（略案）作成①				
14. 教育実習の指導案の発表、講評①					29. 評価をふまえた指導案（略案）作成，発表 ②				
15. 〃 ②					30. 講評とまとめ				
事前学習		・前時の講義内容の把握と確認をしておくこと。 ・指導要領の精読に努めること							
事後学習		・講義で配布したレジメについて，よく復習しておくこと。							
履修上の注意		・講義時に配布するレジメをファイリングし、受講の際に持参すること。 ・自主的、意欲的に受講し、提出物の期限を厳守すること。							
成績評価の方法・基準		レポート，提出物（年間指導計画案、学習指導案） 50%， 模擬授業 40%，受講態度 10%							
教科書	[中学校学習指導要領解説美術編] [文科省] [96 円] ＊3 年次に購入済 [高等学校学習指導要領解説芸術編] [文科省] [305 円] ※授業前にプリントも配布								
参考書	[中学校美術科教科書] [日文] [1000 円以内、] [美術資料集] [秀学社] [780 円] ＊3 年次に購入済								

授業科目		工芸科教育法				担当者		瀬戸 典彦	
単位数	4	必・選	選	授業形式	講義	開講期	通年	対象	美3年
授業の概要									
・工芸科学習指導要領に関する理解を促す。 ・教育現場における工芸科教育の可能性について示唆を与える。 ・教材開発能力を育成する。 ・模擬授業をととして、授業実践力を高める。									
授業の目標(到達目標)									
・学校教育における工芸科の意味と重要性について説明できる。 ・教材を開発できる。 ・授業（工芸科）の実践力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 1. エンゲージメント「表現教育としての工芸科のあり方について」					16. 機能とは				
2. 2. 工芸と工芸科教育について					17. 機工からの教材開発（事例研究）				
3. 3. 林竹二の教育論と工芸科の役割について					18. 機工からの教材開発（実践）				
4. 4. 美術科の役割と工芸科の役割について					19. 機工からの教材開発（発表）				
5. 5. 工芸科教育の歴史について					20. 機能からの教材開発（事例研究）				
6. 6. 構成学及び構成教育について					21. 機能からの教材開発（実践）				
7. 7. 構成教育の実践例について					22. 機能からの教材開発（発表）				
8. 8. バウハウスまでの工芸・デザイン					23. 工芸科教育における情意の意味について				
9. 9. バウハウス（起源）					24. 工芸科学習指導要領について				
10. 10. バウハウス（ワイマール）					25. 学習指導案の作成方法（概要）				
11. 11. バウハウス（ワイマール以降）					26. 学習指導案の作成方法（実践）				
12. 12. 素材からの教材開発（事例研究）					27. 模擬授業（教材開発）				
13. 13. 素材からの教材開発（実践）					28. 模擬授業（指導案作成）				
14. 14. 素材からの教材開発（発表）					29. 模擬授業（実践）				
15. 15. フィールドトリップ					30. まとめ				
事前学習		配布資料に目を通し、内容を理解する。（理解できなかった部分については、質問項目表にまとめる）							
事後学習		その都度、配布されるワークシートの内容に沿ってレポートを作成する。							
履修上の注意		積極性／主体性を有する学生を対象とする。							
成績評価の方法・基準		レポート：60％ 指導案：20％ 模擬授業：20％							
教科書	〔高等学校学習指導要領解説 芸術編〕〔文部科学省〕〔305 円〕								
参考書	その都度、参考資料を配布する。								

授業科目	道徳教育の指導法				担当者	加美山 裕子			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	家・美3年
授業の概要									
道徳性の涵養は、人間性発達の根幹をなすものである。道徳性を養い道徳的実践力の育成のためには、学校における「道徳」の時間だけでなく教育活動全体を通して行われる必要がある。その基盤となるのはしっかりとした指導計画に沿った計画的な指導の実践である。ここでは道徳教育の歴史の把握や道徳教材の分析などを通して、学校における「道徳」の指導方法を模索していく。									
授業の目標(到達目標)									
人間の道徳性の発達やその育成の重要性について理解を深め、児童・生徒を、人格を持った一人の人間として尊重していく姿勢を身につける。教職を目指す者としての資質や道徳の指導案の作成方法、授業の実際について学んでいく。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション、道徳の定義									
2. 道徳教育の基礎Ⅰ（学校における道徳教育の充実）									
3. 道徳教育の基礎Ⅱ（学習指導要領改訂の歩みから見る道徳教育の歴史・道徳教育の目標）									
4. 道徳教育の基礎Ⅲ（生き方教育としての道徳教育）									
5. 道徳教育の基本的あり方 ①（内容項目と主題について）									
6. 〃 ②（道徳教育の基本的あり方）									
7. 〃 ③（道徳性の発達と道徳教育）									
8. 道徳性の具体的把握 ①（道徳的判断力とは）									
9. 〃 ②（ピアジェ・コールバーグ等の理論）									
10. 〃 ③（道徳的实践意欲とは）									
11. 〃 ④（道徳性を育む家庭教育の役割）									
12. 学習指導案の内容と作成（教材分析と学習指導案の作成について）									
13. 学習指導案の作成									
14. 道徳の授業の実際（模擬授業①）									
15. 道徳の授業の実際（模擬授業②）、講評とまとめ									
16. 試験									
事前学習		・前時の講義内容の把握と確認をしておくこと。							
事後学習		・講義で配布したレジメについて、よく復習をしておくこと。							
履修上の注意		・講義時に配布するレジメをファイリングし、受講の際は持参すること。 ・自主的、意欲的に受講し、進んでメモを取るなど、自己の学習の積み重ねに努めること。							
成績評価の方法・基準		レポート、提出物（学習指導案）、模擬授業など 40%、期末試験 50%、授業態度 10%							
教科書	〔中学校学習指導要領解説道徳編〕〔文科省〕〔139円〕 ※授業前にプリントも配布する								
参考書	無し								

授業科目	特別活動の指導法				担当者	大山 芳宏			
単位数	1	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	家・美2年
授業の概要 文献資料や VTR 資料を活用して理解を図るとともに、特別活動の活動内容について、実際の指導計画の検討や各種活動計画の作成を行うなど、実践的に学べるようにする。また、特別活動における具体的な課題を取りあげ、グループワークなどをおして意見交換を行い考察させる。									
授業の目標(到達目標) 学校教育における特別活動のねらいや意義・役割・内容について理解し、よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治能力など、特別活動が生徒の人間形成にとって大切な領域であることを認識し、教職を担うための基礎的な資質・能力を修得する。									
授業計画及び内容									
1. 特別活動の基本的性格と意義									
2. 特別活動の歴史									
3. 特別活動の目標									
4. 学級活動・ホームルーム活動（1）学級や学校の生活づくり（生徒指導との関連）									
5. 学級活動・ホームルーム活動（2）適応と成長及び健康安全・学業と進路									
6. 生徒会活動（1）目標と内容									
7. 生徒会活動（2）生徒会活動の諸問題									
8. 学校行事（1）意義と目標 ①儀式的行事									
9. 学校行事（2）②文化的行事 ③体育的行事									
10. 学校行事（3）④旅行・集団宿泊的行事 ⑤勤労生産・奉仕的行事									
11. 特別活動の指導計画の作成と内容の取扱い									
12. 学級活動指導案の作成									
13. 生徒会活動計画の作成									
14. 学校行事・大会等の計画案の作成									
15. 特別活動研究のまとめ									
16. 試験									
事前学習	次回のテーマについて、文献等で調べ考察する。								
事後学習	課題について考察し、まとめ提出する。								
履修上の注意	教員免許取得に関わる科目であり、必ず初回から授業に出席すること。特に毎回の課題作成は、授業内容を身につける上で重要であり、評価の割合が大きい。								
成績評価の方法・基準	毎回の課題（60％）と試験（40％）による総合評価（100点）								
教科書	毎回レジュメプリントを配布する								
参考書	[中学校学習指導要領解説特別活動編] [文部科学省] [118 円] [高等学校学習指導要領解説特別活動編] [文部科学省] [216 円]								

授業科目	教育方法論				担当者	植松 公威・松尾 広			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	家・美2年
授業の概要 学習者がもつ「誤った、または不完全な知識」の修正を促すためには、どのような教授ストラテジーが有効であるかを検討するとともに、学習評価と教育評価の概念と方法について解説する。また、視聴覚機器の効果的な利用法についても考察する。									
授業の目標(到達目標) 1. 学習者がもつ「誤った、または不完全な知識」の修正に有効な教授ストラテジーの種類と問題点を知り、教授ストラテジーを有効に用いるための工夫（技術）を理解する。 2. 「到達度・自己評価」が内発的動機づけの向上に有効であることを理解する。 3. 教育活動の効果の検証方法（比較法、相関法、構成法）の特徴や問題点を理解する。									
授業計画及び内容 1. ガイダンス（教授内容と教育目標） 2. 学習者の過去経験と「誤った、または不完全な知識」（ル・バー）の形成について 3. 「ル・バー対決型ストラテジー」の授業例（仮説実験授業など）と問題点 4. 詩の読みとりに及ぼす「矛盾を喚起する発問」の効果 5. 「ル・バー懐柔型ストラテジー」の効果と問題点 6. 教授ストラテジーを有効に用いるための工夫（技術）について 7. 一般化のしすぎのル・バー修正に及ぼす「範囲画定型ルール」提示の効果 8. 適性処遇交互作用（ATI について） 9. 学習評価としての到達度自己評価が内発的動機づけに及ぼす効果、教育評価活動の定義 10. 教育活動の効果の検証方法－比較法と倫理的問題－ 11. 教育活動の効果の検証方法－相関法と構成法－ 12. 比較法、相関法、構成法のそれぞれの長所と短所（問題点） 13. まとめの講義（以上1回目から13回目は植松が担当） 14. 視聴覚機器の特性（松尾） 15. コンピューターと教育方法（松尾） 16. 学期末試験									
事前学習	シラバスをよく読み、キーワードの意味やテーマについて事前に調べ、疑問をあらかじめ明らかにしておくことよ。								
事後学習	作成したノート、配られたプリントをもう一度見直し、わかったところ、わからなかったところを明らかにしておく。ノートは後でわかるように補足のコメントなどを加筆しておくことよ。								
履修上の注意	毎回コメントペーパーに感想などを書いて提出すること。								
成績評価の方法・基準	試験の成績 90%、受講態度 10%								
教科書	授業の前にプリントを配布する								
参考書	授業の中で適宜、紹介する								

授業科目	生徒指導の理論と方法 A				担当者	大山 芳宏			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美3年
授業の概要 生徒指導の意義や役割・児童生徒理解、教育相談、いじめや不登校等の個別課題への対応等について、文献や具体的な実践事例をもとに理解を図る。事例の考察等については、グループワークを活用した意見交換を取り入れるなど、主体的に学べるようにする。 進路指導の理論や方法については、特にキャリア教育と関連づけながら理解を図る。									
授業の目標(到達目標) 学校教育における生徒指導の意義と役割、理論と考え方、指導方法など生徒指導を行う上で必要とする知識や理解を深め、教職を担うための基礎的な資質・能力を修得する。									
授業計画及び内容									
1. 生徒指導の意義と課題と役割									
2. 生徒指導の前提となる生徒理解（発達観と指導観）									
3. 教育課程における生徒指導の位置付け									
4. 教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動と生徒指導									
5. 集団指導と個別指導の方法原理									
6. 教育相談と児童生徒理解									
7. 学校における生徒指導体制									
8. 学級経営と生徒指導									
9. 人権教育と生徒指導									
10. 特別支援教育と生徒指導									
11. 進路指導・キャリア教育と生徒指導									
12. 個別の課題を抱える児童生徒への指導（1）…問題行動・非行・暴力行為への対応									
13. 個別の課題を抱える児童生徒への指導（2）…いじめ・不登校等への対応									
14. 個別の課題を抱える児童生徒への指導（3）…生命・自殺・児童虐待・家出への対応									
15. 生徒指導に関する法令等及び学校と地域の連携									
16. 試験									
事前学習	次のテーマについて、文献等で調べ考察する。								
事後学習	課題について考察し、まとめ提出する。								
履修上の注意	教員免許取得に関わる科目であり、必ず初回から授業に出席すること。特に毎回の課題作成は、授業内容を身につける上で重要であり、評価の割合が大きい。								
成績評価の方法・基準	毎回の課題（60点）と試験（40点）による総合評価（100点）								
教科書	毎回レジュメプリントを配布する								
参考書	〔生徒指導提要〕〔文部科学省〕〔298円〕								

授業科目		生徒指導の理論と方法 B			担当者		大山 芳宏		
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	前期	対象	健専3年
授業の概要									
生徒指導の意義や役割、児童生徒理解、教育相談、いじめや不登校等の個別課題への対応について、文献や具体的な実践事例をもとに理解を図る。事例の考察等については、グループワークを活用した意見交換を取り入れるなど、主体的に学べるようにする。									
授業の目標(到達目標)									
学校教育における生徒指導の意義と役割、理論と考え方、指導方法など生徒指導を行う上で必要とする知識や理解を深め、教職を担うための基礎的な資質・能力を習得する。									
授業計画及び内容									
1. 生徒指導の意義と役割									
2. 生徒指導の前提となる生徒理解（発達観と指導観）									
3. 教育課程における生徒指導の位置づけ									
4. 教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動と生徒指導									
5. 集団指導と個別指導の方法原理									
6. 教育相談と児童生徒理解									
7. 学校における生徒指導体制									
8. 学級経営と生徒指導談									
9. 人権教育と生徒指導									
10. 特別支援教育と生徒指導									
11. キャリア教育と生徒指導									
12. 個別の課題を抱える児童生徒への指導（1）・・問題行動・非行・暴力行為への対応									
13. 個別の課題を抱える児童生徒への指導（2）・・いじめ・不登校への対応									
14. 個別の課題を抱える児童生徒への指導（3）・・生命・自殺・児童虐待・家出への対応									
15. 生徒指導に関する法令等及び学校と地域の連携									
16. 試験									
事前学習		次回のテーマについて、文献等で調べ考察する。							
事後学習		課題について考察し、まとめ提出する。							
履修上の注意		教員免許取得に関わる科目であり、必ず初回から授業に出席すること。特に毎回の課題作成は、授業内容を身につける上で重要であり、評価の割合が大きい。							
成績評価の方法・基準		毎回の課題（60点）と試験（40点）による総合評価（100点）							
教科書	毎回レジュメプリントを配布する								
参考書	[生徒指導提要][文部科学省][298円]								

授業科目	教育相談				担当者	植松 公威			
単位数	2	必・選	選	授業形式	講義	開講期	後期	対象	家・美3年
授業の概要 現在、学校では、多くの教員がいじめ、不登校、薬物乱用など、児童・生徒の生命や健康にかかわる問題に直面し、それらへの対処方法に苦慮している。講義では、これらの諸問題について概説するとともに、対応についても検討する。とりわけカウンセリングの基礎的な理論や技法について学べるように演習を行う。									
授業の目標(到達目標) 1 不登校の問題において、初期の対応と長期化した場合の対応を理解する。 2 いじめの問題において、個へのアプローチと集団へのアプローチを理解する。 3 カウンセリングにおいて受容と共感は何故必要か、カールロジャースの理論を学ぶ。 4 カウンセリングの初期と中期では目標や技法がどのように異なるか、理解する。 5 カウンセリングの基本的な技法をいじめや不登校の相談場面で使えるようになる。									
授業計画及び内容 1. ガイダンス（教授内容と教育目標） 2. 青年期と自我同一性の確立について 3. 生徒理解の方法－心理テスト法、観察法、面接法－ 4. 不登校－現状と学校での取り組みについてビデオ視聴－ 5. 不登校－初期の対応と長期化した場合の対応について－ 6. いじめ－集団構造とピアプレッシャー－ 7. いじめ－個へのアプローチと集団へのアプローチ（サイコドラマなど）について－ 8. 薬物非行－非行少年とは、DARC を紹介したビデオ視聴－ 9. 薬物非行－対応のあり方について－ 10. カウンセリング－受容と共感は何故必要か、カールロジャースの理論－ 11. カウンセリング－基本法な技法についてのビデオ視聴と解説－ 12. カウンセリング－不登校やいじめの相談場面を想定した演習－ 13. カウンセリング－初期の目標と有効な技法－ 14. カウンセリング－中期の目標と有効な技法－ 15. カウンセラーとクライアントに分かれて実践的な練習（ロールプレイング） 16. 学期末試験									
事前学習	テーマやキーワードの意味を調べ、疑問を明らかにしておくこと。								
事後学習	作成したノート、配られたプリントをもう一度見直し、わかったところ、わからなかったところを明らかにしておく。ノートは後で見えてわかるように補足のコメントなどを加筆しておくことよい。								
履修上の注意	毎回コメントペーパーに感想などを書いて提出すること。								
成績評価の方法・基準	試験の成績 90%、受講態度 10%								
教科書	授業の前にプリントを配布する								
参考書	講義の中で適宜、紹介する								

授業科目	教職実践演習（中・高）				担当者	菅並 茂樹・植松 公威			
単位数	2	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	家・美4年
授業の概要 教職課程履修の総まとめとして、教育実習をはじめ教職課程履修の成果を踏まえて、教科指導、生徒指導、教育方法、学級経営に関する諸問題の講義と討議を行い、また、教育実習での授業の検討や作成した学習指導案の検討等を行うことにより、教員として必要とされる資質・能力の基礎が育成されるようにする。									
授業の目標(到達目標) ①教育に対する使命感、責任観、規範意識、教育的愛情を持ち、職務を遂行することができる。②教員組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる。③生徒理解を基盤として適切な生徒指導や学級経営ができる。④学習指導の基礎的・基本的事項を習得している。これら4点の基礎を養うことを目標とする。									
授業計画及び内容 各回末尾のSは菅並、Uは植松、Gはゲストスピーカー担当を示す									
1. 授業内容全般に関する説明、履修上の諸注意 S, U									
2. 教職課程履修の振り返り(学習履歴の確認、省察) S, U									
3. 教職の意義、教員の使命、職務等について(講義－討議を交える－) S									
4. 教科内容と教科指導の諸問題について(講義－討議を交える－) U									
5. 教育方法(学習指導)の諸問題について(講義－討議を交える－) U									
6. 生徒理解、生徒指導に関する諸問題について(講義－討議を交える－) S									
7. 学級経営の諸問題について、学級経営案について (講義－討議を交える－) S									
8. 教職経験者による講義(主として教科指導、道徳教育についての講義と討議) G									
9. 教職経験者による講義(主として生徒指導、学級経営についての講義と討議) G									
10. 学習指導案の作成法、それを踏まえた研究授業指導案の検討(講義と討議) S, U									
11. 研究授業指導案の検討(前回の続き) S, U									
12. 教育実習での授業の反省(討議) S									
13. 教職員間の関係、チーム学校、保護者や地域の人々との関係について(講義) S									
14. レポートなど提出物に対する教員による概評等 S, U									
15. 授業の補足 S, U									
事前学習	教職課程履修の成果を踏まえて、各回の授業に関する資料を読み、分析、考察を行うこと。								
事後学習	授業の内容をまとめ、考察し、教師としての資質・能力の基礎を築くよう努めること。								
履修上の注意	第1回目の授業で履修上の注意と授業の進め方について説明する。教職課程履修のまとめ、反省、自己評価を行っておくこと。								
成績評価の方法・基準	授業への参加状況（発表、討議など）（40%）、レポート等の課題の内容（60%）によって総合的に評価する。								
教科書	授業前に資料を配付する。								
参考書	〔中学校、高等学校学習指導要領〕〔文部科学省〕〔各 244 円、588 円〕他								

授業科目		教職実践演習（栄養教諭）				担当者	菅並 茂樹・植松 公威		
単位数	2	必・選	選	授業形式	演習	開講期	後期	対象	健4年
授業の概要									
教職課程履修の総まとめとして、教職課程履修の成果を踏まえて、給食をはじめとした食育に関する諸問題の講義と討議、生徒理解や生徒指導に関する講義と討議、教育実習での授業や作成した学習指導案の検討等を行うことにより、栄養教諭に必要とされる資質・能力の基礎が育成されるようにする。									
授業の目標(到達目標)									
①教育に対する使命感、責任感、規範意識、児童生徒への教育的愛情を持ち、職務を遂行することができる。②教員組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる。③学校給食の管理に関する職務内容を理解し、学校での食育に必要な基礎的・基本的知識と指導方法を習得している。これら3点の基礎を養うことを目標とする。									
授業計画及び内容 各回末尾のSは菅並、Uは植松、Gはゲストスピーカー担当を示す									
1. 授業内容全般に関する説明、履修上の諸注意 S, U									
2. 教職課程履修の振り返り(学習履歴の確認、省察) S, U									
3. 栄養教諭の意義、使命、職務について(講義－討議を交える－) S									
4. 食育に関わる諸問題について(学校での食育の計画、展開等についての講義) G									
5. 食育に関わる諸問題について(食物アレルギー等子どもの食に関する諸問題の講義) G									
6. 学校給食の歴史と実情、給食の指導について(講義) S									
7. 生徒指導、生徒理解に関する諸問題について(講義－討議を交える－) S									
8. 教職経験者による講義(主として教科指導、道徳教育についての講義と討議) G									
9. 教職経験者による講義(主として生徒指導、学級経営についての講義と討議) G									
10. 学習指導案の作成法、それを踏まえた研究授業指導案の検討(講義と討議) S, U									
11. 研究授業指導案の検討(前回の続き) S, U									
12. 子どもの「食」に関する諸問題の討議(各自課題を設定して対応策を発表) S									
13. 教職員間の関係・連携、チーム学校、保護者や地域の人々との関係について(講義) S									
14. レポートなどの提出物に対する教員による概評等 S, U									
15. 授業の補足 S, U									
事前学習		教職課程履修の成果を踏まえて、各回の授業に関する資料を読み、分析、考察を行うこと。							
事後学習		授業の内容をまとめ、考察し、栄養教諭としての資質・能力の基礎を築くよう努めること。							
履修上の注意		第1回目の授業で履修上の注意と授業の進め方について説明する。教職課程履修のまとめ、反省、自己評価を行っておくこと。							
成績評価の方法・基準		授業への参加状況（発表、討議など）（40%）、レポート等の課題の内容（60%）によって総合的に評価する。							
教科書	授業前に資料を配付する。								
参考書	[食に関する指導の手引][文部科学省][東山書房][1,260円]他								

博物館に関する科目

6. 博物館に関する科目

授業科目	生涯学習概論				担当者	大山 芳宏			
単位数	2	必・選	学(必)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美1年
授業の概要 生涯学習の意義や課題、取り込みについて、具体的な資料やデータにもとづいて理解させるとともに、歴史的背景や社会的背景を踏まえ、体系的に学ばせる。 双方向の授業や各回の課題をとおして、自分の意見や感想を述べさせ、主体的な学びが身につくようにする。									
授業の目標(到達目標) 生涯学習についての基本的な考え方やあゆみ、生涯発達の課題について理解し、生涯学習が家庭教育・学校教育・成人教育・社会教育・まちづくりなどと相互に関連しあっていることや、生涯発達の各時期における意義や課題があることにより、自己の生き方に反映できる生涯学習を修得する。									
授業計画及び内容									
1. 生涯学習とは									
2. 生涯学習と世界のあゆみ									
3. 生涯学習と日本のあゆみ									
4. 生涯学習と生涯発達									
5. 幼児期と生涯学習									
6. 少年期と生涯学習									
7. キャリア教育と生涯学習									
8. 学校教育と生涯学習									
9. 青年期と生涯学習									
10. 男女共同参画社会の形成と生涯学習									
11. 成人期と生涯学習									
12. 高齢化社会と生涯学習									
13. 社会教育と生涯学習									
14. まちづくりと生涯学習									
15. 生涯学習の今後の動向と課題									
16. 試験									
事前学習		次回のテーマについて、事前に文献等で調べ考察する。							
事後学習		課題について考察し、自分の意見や感想をまとめ提出する。							
履修上の注意		毎回の課題が成績評価に大きく影響するので、欠席をしないように。							
成績評価の方法・基準		毎回の課題（60点）と試験（40点）による総合評価（100点）							
教科書		毎回レジュメプリントを配布する							
参考書		必要に応じ資料プリントを配布する							

授業科目	博物館概論				担当者	近江 恵美子			
単位数	2	必・選	学(必)	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・美1年
授業の概要 博物館の目的・機能・歴史等、博物館に関する基礎的知識の習得を図り、社会的役割への理解を深め、学芸員の任務について解説する。									
授業の目標(到達目標) 博物館に関する基礎的知識である博物館の目的・機能を学んだ上で、博物館の歴史や種類を理解し、学芸員の仕事の全体像を把握する。									
授業計画及び内容									
1. 概	要：講義計画について、学芸員資格について								
2. 博物館の目的	博物館学史								
3. 博物館の定義	博物館とは何か、定義・目的								
4. 博物館の種類	館種・設置者別等 博物館の分類								
5. 博物館の機能	資料の収集								
6. 〃	：資料の保管・保存								
7. 〃	：資料の調査研究								
8. 〃	：展示・教育普及								
9. 博物館の歴史	博物館の起源と歴史								
10. 〃	：近代における博物館								
11. 〃	：日本における博物館の歴史								
12. 〃	：博物館の現状								
13. 博物館関係法令	博物館法								
14. 〃	：文化財法・その他の法令								
15. ま と め	：博物館の未来像								
16. 試験									
事前学習	授業計画に基づき、与えられたテーマについて事前に調べ学習を行う。								
事後学習	授業内容を補足するため指示された項目について調べまとめる。								
履修上の注意	資格取得科目のため出席を重視する。自主的学習を望む。								
成績評価の方法・基準	期末試験成績 70%、平常点（調べ学習を含む）30%の総合点で評価する。								
教科書	使用しない。資料（プリント等）を配布する								
参考書	〔博物館概論〕〔鈴木真理編集〕〔樹村房〕〔1,900 円〕								

授業科目	博物館教育論					担当者	伊藤 優		
単位数	2	必・選	学(必)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美1年
授業の概要 「博物館教育」という営みを、これまでの研究成果をもとに客観的に示し、どのように立案・実施されるかを具体的な事例を通して解説する。									
授業の目標(到達目標) 博物館教育の理論と実践、多様な形態や手法の意味を理解し、博物館教育プログラムを自分自身で創造する基礎的能力を習得する。									
授業計画及び内容									
1. ガイダンス（講義の進め方・評価方法等・博物館の役割）＊小レポート課題提示									
2. 博物館教育の目的と方法									
3. 博物館教育の基礎理論①（市民と博物館・学校と博物館）									
4. 博物館教育と基礎理論②（「分かる」・「知る」・「学ぶ」ことの意義）									
5. 博物館の教育活動①（教育活動の諸形態）									
6. 博物館の教育活動②（教育プログラムの立案と実施プロセス）									
7. 博物館の教育活動③（教材の作成・ユニバーサルデザイン）									
8. 博物館利用実態と博物館教育									
9. 博物館教育プログラムの評価									
10. 博物館教育と学芸員の役割									
11. 博物館教育とボランティア活動									
12. 美術館・歴史系博物館の教育活動									
13. 自然科学系博物館・文学館の教育活動									
14. 野外博物館・大学博物館の教育活動									
15. 講義の総括・最終レポート課題提示 ＊小レポート提出									
事前学習	博物館施設の多様な事業等に積極的に参加すること。								
事後学習	「博物館教育論」に関して、講義以外の多彩な情報を収集しておくこと。								
履修上の注意	資格取得科目のため、出席、意欲的な学習姿勢を重視する。								
成績評価の方法・基準	最終レポート 50%、小レポート 30%（これからの未提出者は評価の対象としないことがある）、平常点（小テスト含む） 20%								
教科書	なし 必要に応じて講義前に資料を配布								
参考書	必要に応じて講義中に紹介する								

授業科目		博物館資料論				担当者		近江 恵美子	
単位数	2	必・選	学(必)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美2年
授業の概要									
博物館資料とは何か、また人文科学資料と自然科学系資料のそれぞれについて資料の収集、整理保管、調査研究に関する理論や方法、知識、技術について解説する。									
授業の目標(到達目標)									
博物館資料の分類や収集方式、整理保管に関する知識と方法論を身につけ、博物館資料の取扱い方法や活用について理解する。									
授業計画及び内容									
1. 概 要 ・博物館資料とは「モノ」から「資料」へ									
2. 博 物 館 資 料 の 概 念 ・資料の意義									
3. 〃 ・資料の種類、一次資料と二次資料									
4. 〃 ・資料化の過程									
5. 博物館資料の収集、整理、活用 ・収集理念と方法									
6. 〃 ・収集の倫理、法規									
7. 〃 ・受入手続、登録									
8. 〃 ・資料の分類、整理									
9. 〃 ・資料公開の理念と方法									
10. 博物館における調査研究活動 ・調査研究活動の意義と内容									
11. 〃 ・博物館資料に関する研究									
12. 〃 ・資料保存に関する研究									
13. 〃 ・博物館に関する研究									
14. 〃 ・調査研究成果の還元									
15. ま と め ・博物館資料と情報化社会									
16. 試験									
事前学習		授業で指示された資料の事前調査及びテーマの検索							
事後学習		各自が任意に用意した資料の資料カード作成							
履修上の注意		資格取得科目のため出席を重視する。事前事後学習に重点を置く。							
成績評価の方法・基準		期末試験成績 50%、事前事後学習 30%、平常点 20%の総合点で評価する。							
教科書	使用しない 資料（プリント等）を配布する								
参考書	〔博物館資料論〕〔有本修一編集〕〔樹村房〕〔1,900 円〕								

授業科目	博物館資料保存論				担当者	手塚 均			
単位数	2	必・選	学(必)	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・美2年
授業の概要									
資料保存に関する基礎的な知識として、資料劣化の要因とその対策、収蔵および展示環境のあり方、保存と活用などについて解説する。また、東日本大震災以降に展開された全国的な規模のレスキュー活動の実際についても詳述する。座学のみならず実際の施設での研修も予定。									
授業の目標(到達目標)									
博物館・美術館資料を後世に伝えるためには、日々進行する資料の劣化を抑えるための環境設定と資料を大切に扱う意識が重要であることが理解できるようになる。									
授業計画及び内容									
1. 博物館における資料保存の意義									
2. 資料保存の歴史									
3. 資料劣化の要因とその対策 ①温度と湿度									
4. 資料劣化の要因とその対策 ②光と空気汚染									
5. 資料劣化の要因とその対策 ③虫・カビなど生物被害と I P M									
6. 収蔵庫と展示室の環境									
7. 東日本大震災における資料の救出（レスキュー活動）									
8. 救出された資料の管理・修復から公開まで									
9. 伝統的な修理と修復（映像）									
10. 有機質資料（紙・木製品など）の科学的保存処理									
11. 無機質資料（金属製品など）の科学的保存処理									
12. 資料の梱包と運搬									
13. 資料の保存と活用－校外研修－ ①博物館バックヤード									
14. 資料の保存と活用－校外研修－ ①展示室など公開ゾーン									
15. 資料の保存と活用まとめ									
事前学習	規模の異なる博物館・美術館などの施設を実際に訪れてほしい。物理・化学・生物など自然科学系の基礎知識（中学校程度）の復習。								
事後学習	博物館概論、博物館実習などと重複する部分もあるので相互に学習してほしい。								
履修上の注意	学芸員としての実務において必須の基礎知識であることを念頭に受講してください。								
成績評価の方法・基準	学習意欲（授業態度）ミニテスト 50%、課題レポート 50%（未提出は評価 0 とする。）								
教科書	使用せず。講義前に A4 用紙 6～10 頁のプリントを配布する								
参考書	〔博物館資料保存論〕〔石崎武志〕〔講談社〕〔2,376 円〕								

授業科目	博物館情報・メディア論				担当者	佐藤 泰			
単位数	2	必・選	学(必)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美2年
授業の概要 教育・コミュニケーションツールとして情報・メディアの基本特性を概観しつつ、博物館における情報の種類や意義、メディアの活用方法や情報発信の手法について、具体的事例を参照し、一部体験を交えながら学ぶ。									
授業の目標(到達目標) 博物館における情報・メディアの活用についての基礎的能力とあわせ、情報コミュニケーションの基本原則を習得することで、様々な場面での情報発信力や応用力を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 博物館における情報・メディアとはなにか									
2. 教育・コミュニケーションツールとしての情報メディアの理論									
3. 教育・コミュニケーションツールとしての情報メディアの歴史									
4. 教育・コミュニケーションツールとしての博物館									
5. 展示のなかの情報・メディアの活用									
6. 教育、普及のなかの情報・メディアの活用									
7. 研究、保存その他における情報・メディアの活用									
8. メディアテークにおける情報・メディアの活用の実際									
9. アーカイブの作成と運用、デジタルアーカイブの課題									
10. 視覚など、障がいのある利用者のための情報・メディアの可能性									
11. 地域の文化資源をつなぎ街をミュージアム化するための情報・メディアの活用									
12. 仙台宮城ミュージアムアライアンス（SMMA）の取り組みの実際									
13. 情報リテラシーと博物館（知的財産、個人情報保護）									
14. 博物館の魅力を発信するための提案書制作実習									
15. 博物館の魅力を発信するための提案の評価									
事前学習	博物館等を利用する際は、情報・メディアの活用についても観察すること。								
事後学習	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ、発信できるかを考えること。								
履修上の注意	各自、博物館や美術館での見学とレポート提出が必要です								
成績評価の方法・基準	学習意欲を含む授業態度 50%、課題レポート 50%								
教科書	講義のなかで資料を配付します								
参考書	講義のなかで資料を配付します								

授業科目	博物館経営論					担当者	笠原 信男		
単位数	2	必・選	学(必)	授業形式	講義	開講期	前期	対象	服・美3年
授業の概要									
博物館経営についての基本的な考え方・知識・動向を、時に図・表・写真等の資料・データを用いて解説する。また、博物館を訪れて、経営論の観点から実地の学習も行う。									
授業の目標(到達目標)									
博物館経営についての基本的な考え方・知識・動向を習得し、博物館学を学ぶ学生、博物館学芸員をめざす学生として博物館を多角的な視点で観覧・考察する姿勢を身につける。									
授業計画及び内容									
1. 博物館と博物館学及び博物館経営論									
2. 博物館の設置と使命									
3. 博物館経営の考え方									
4. 博物館の経営手法									
5. 博物館の運営方針									
6. 博物館の組織									
7. 博物館の中長期計画と予算									
8. 博物館の広報活動と来館者サービス									
9. 博物館の危機管理									
10. 博物館経営の実際 (1) 現地学習									
11. 博物館経営の実際 (2) 現地学習									
12. 経営論から見た博物館の展示活動									
13. 経営論から見た博物館の教育普及活動									
14. 経営論から見た博物館の資料収集・管理、調査研究活動									
15. 経営論から見た市民参画と地域社会との連携									
事前学習	ガイダンスで示す授業計画をもとにして、各回の内容について博物館学の文献等を用いて、確認しておく。								
事後学習	配布するプリント等で復習し、博物館経営の基本的な考え方を着実に身につける。								
履修上の注意	積極的、意欲的な姿勢で受講すること。								
成績評価の方法・基準	事前事後学習を含む授業姿勢 40%、レポート 60%、を目安として評価する。								
教科書	使用しない								
参考書	[新時代の博物館学][全国大学博物館学協会西日本部会][芙蓉書房出版][2,052 円]								

授業科目		博物館展示論			担当者		田中 則和		
単位数	2	必・選	学(必)	授業形式	講義	開講期	後期	対象	服・美3年
授業の概要									
博物館における展示に関する基礎的能力を養うことを目的として、その意義、構成する要素とプロセス及び解説活動に関する理論と方法・技術について解説する。									
授業の目標(到達目標)									
博物館展示についての基礎的な知識を習得し、学芸員として実際に基本的な展示活動ができるようになることを目的とする。									
授業計画及び内容									
1. 展示総論					: 博物館における展示の役割・社会性・制約				
2. 展示の理論1—歴史					: 展示の歴史（世界・日本）				
3. 展示の理論2—諸類型					: 展示の諸類型（視点と運用）				
4. 展示の理論3—教育					: 展示と教育（生涯学習・学校教育）				
5. 展示の理論4—展示評価					: 展示の評価法と手順				
6. 展示の技術1—地域社会					: 「溶け込む」「とびだす」「つながる」				
7. 展示の技術2—プロセス					: 企画・実施・終了				
8. 展示の技術3—動線計画					: 動線・ゾーニング計画				
9. 展示の技術4—展示環境					: 予防・リスクマネジメント				
10. 展示の技術5—照明					: 器具・照明計画				
11. 展示の技術6—展示ケース					: 役割・種類・メンテナンス				
12. 展示の技術7—グラフィック					: 種類・制作				
13. 展示の技術8—レプリカとジオラマ					: 種類・組合せ				
14. 展示の技術9—広報のデザイン					: ホームページ・ポータルサイト・プレリリース				
15. ユニバーサル・ミュージアム					: 触文化・体験プログラム				
事前学習		近くの博物館的施設を見学しておくこと							
事後学習		授業で学んだ視点で再び博物館的施設を見学し、所感をメモしておくこと。							
履修上の注意		博物館概論、博物館資料論、博物館教育論、博物館実習など博物館学芸員に関わる科目を受講すること。							
成績評価の方法・基準		事前事後学習を含む授業姿勢50%、レポート50%で評価します。							
教科書	[博物館展示論][黒澤 浩][講談社][2,592 円]								
参考書	[博物館展示論][佐々木利和 他][NHK出版][3,132 円]								

授業科目	博物館実習Ⅰ(学内・見学実習を含む)					担当者	小谷 竜介		
単位数	2	必・選	学(必)	授業形式	講義	開講期	通年(前)	対象	服・美3年
授業の概要									
本実習では、仮想企画展の企画書作成を通じて、学芸員として求められる思考、技能を解説し、実践する。なお、企画書作成に当たっては講義とともに、2つのグループに分かれ、個別面談形式を採用し進めていく。									
授業の目標(到達目標)									
博物館学芸員として必要な技能の獲得を目指す。特に学芸員として一番必要なモノを展示資料として評価し、展示を構成するまでの一連の流れを学ぶことで、学芸員としての思考法を身に付ける。									
授業計画及び内容									
1. オリエンテーション									
2. 学芸員の思考を考える									
3. 対象資料の選定についてのスクリーニンググループ①									
4. 対象資料の選定についてのスクリーニンググループ②									
5. 展示の方向性と目的について									
6. 展示方針についてのスクーリンググループ①									
7. 展示方針についてのスクーリンググループ②									
8. 展示目的についてのスクーリンググループ①									
9. 展示目的についてのスクーリンググループ②									
10. 展示平面を作成する									
11. 展示平面についてのスクーリンググループ①									
12. 展示平面についてのスクーリンググループ②									
13. 企画書を整える									
14. プレゼンテーショングループ①									
15. プレゼンテーショングループ②									
事前学習		展示対象となるモノ資料を考えておくこと。自分の興味のある展覧会を見学すること。							
事後学習		図書館、インターネット等を通しての資料調査を行うこと。							
履修上の注意		講義時間外での資料調査が必要となるので、熱意を持って取り組むこと。							
成績評価の方法・基準		完成した企画書 70% 受講態度（アドバイスに応えられたか等） 30%							
教科書	必要な資料を配付する								
参考書	なし								

授業科目		博物館実習Ⅰ（学内・見学実習を含む）				担当者		三上 秀夫		
単位数	1	必・選	学(必)	授業形式	講義	開講期	通年(後)	対象	服・美3年	
授業の概要										
博物館における学芸員の実務に関する実習。博物館資料の収集、整理、保管、調査研究、取り扱い方法、展示などの基本事項の理解と実務実習。学外の博物館等の施設における見学旅行もあわせて行う。										
授業の目標(到達目標)										
博物館における学芸員の仕事を、実習を通して体験し理解を深めることを目標とする。学外での実務実習に向けた基本事項を身につけることができる。										
授業計画及び内容										
1. ガイダンス 授業の概要説明										
2. 学外実務実習のための説明会 1 実習先希望調査										
3. 収集、整理、保管、調査の対象となる資料について 顕彰館、短大資料室見学										
4. 資料の取り扱い 1 短大資料の取り扱い（着物その他）										
5. 外部講師 掛軸の歴史										
6. 外部講師 表具の取り扱い 屏風 刷毛 道具										
7. 外部講師 学芸員の仕事										
8. 資料の取り扱い 2 顕彰館 資料の取り扱い（掛軸）グループで記録・調査										
9. 資料の取り扱い 3 顕彰館 資料の取り扱い（掛軸）グループで記録・調査										
10. 資料の取り扱い 4 顕彰館 資料の取り扱い（掛軸）グループで記録・調査										
11. 資料の取り扱い 5 顕彰館 資料の取り扱い（掛軸）グループで記録・調査										
12. 展示計画 1（概要説明）学外実務実習のための説明会 2 実習先希望調査結果調整／実習記録下書き										
13. 展示計画 2（動線計画）実習先希望調査結果調整／実習記録下書き										
14. 展示計画 3（展示器具）実習先希望調査結果調整／実習記録下書き										
15. 展示計画 4（発表）学外実務実習にあたっての諸注意 清書 写真準備										
事前学習		毎回の授業で指示する。								
事後学習		毎回の授業で指示する。								
履修上の注意		資格科目のため欠席のないよう望む。								
成績評価の方法・基準		授業の取り組みに対する意欲と姿勢（40%）、見学レポート（30%）、実務実習評価（30%）で評価する。								
教科書	授業時にプリントを配布する。									
参考書	こちらで授業時に参考図書を用意する。									